

令和5年度

東京医療保健大学

点検・評価報告書

# 目 次

はじめに	1
第1章 理念・目的	2
第2章 内部質保証	4
第3章 教育研究組織	6
第4章 教育課程・学習成果	9
第5章 学生の受け入れ	5 3
第6章 教員・教員組織	5 8
第7章 学生支援	6 8
第8章 教育研究等環境	7 1
第9章 社会連携・社会貢献	7 7
第10章 大学運営・財務	9 8
第1節 大学運営	9 8
第2節 財務	1 0 6

## はじめに

東京医療保健大学は、平成17(2005)年4月に建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」に則り、医療分野において特色ある教育研究を実践することで、時代の求める高い専門性、豊かな人間性及び教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することができる人材の育成を理念・目的として、1学部3学科、入学定員280名(学生定員1,120名)により開学しました。

その後、社会のニーズに応じて教育研究組織の整備充実を図り、令和5(2023)年4月現在では、5学部7学科・4研究科・2専攻科、入学定員784名(収容定員2,889名)となり、これまで社会に有意な多くの医療人材を輩出しております。特に、大学における看護師の養成数においては入学定員490名(収容定員1,960名)となり我が国最大規模となっております。

本学の特色は、医療人材の養成において、我が国の中核医療機関との連携・協力のもとに、最先端の高度医療を臨地実習で学べることにあります。具体的には、NTT東日本関東病院、国立病院機構東京医療センター・災害医療センター・村山医療センター、地域医療機能推進機構(JCHO)船橋中央病院、日赤和歌山医療センターと連携協定を締結し、各医療機関の医師や看護師等に臨床教員としてご就任いただき、充実した実習教育が展開されております。

また、大学院においても本学の理念・目的のもとに教育・研究を推進するとともに、連携する医療機関の協力により診療看護師(NP)等高度医療人材の育成に取り組んでおります。

令和5(2023)年度の点検・評価報告書については、社会への説明責任を果たすため、本学が策定した「今後10年間の教育研究活動に関する取組内容について(平成28(2016)年3月策定)」、「第2期中期目標・計画(平成29(2017)年3月策定)」、「東京医療保健大学ビジョン(平成29(2017)年10月策定)」及びその実現のための「アクションプラン(平成30(2018)年9月策定)」等のこれまでの取組を継続しつつ、ポストコロナ対応等の今後新たに取り組むべき課題を加えた「第3期中期目標・計画(令和4(2022)年度～令和8(2026)年度までの5か年計画)」の2年目の進捗状況について点検し、客観的な評価指標(KPI)に基づき各計画の達成状況を4段階にて評価しております。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響から概ね脱却し、従来のキャンパス生活を取り戻しつつも、引き続きDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、ICTを活用した遠隔授業(オンデマンド方式・リアルタイム方式)や対面授業との併用によるハイブリッド型授業の実施などの取組も最大限活用しつつ、本学の教育理念・目的を念頭とした教育、研究及び社会貢献活動に取り組んでまいりました。

本学は、毎年公表する点検・評価報告書については、「(全学)自己点検・評価委員会」において取りまとめの上、「外部評価委員会」による検証・評価をいただき、学長に報告され、さらに「内部質保証推進会議」、「大学経営会議」、「理事会・評議員会」での審議・承認を経た上でウェブサイトにて速やかに公表し、社会への説明責任を果たすとともに、社会からの評価を真摯に受け止め、その改善充実を図っております。

今後も、本学の建学の精神及び教育理念・目的に基づき、学部・学科(各キャンパス)、大学院研究科、専攻科がそれぞれの特色・強みをより発揮し社会のニーズに応え、教育、研究及び社会貢献活動に戦略的かつ機動的に取り組んでまいります。

東京医療保健大学長  
亀山周二

## 令和5年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	評価区分	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議																																																																																				
<p><b>1. 理念・目的</b></p> <p><b>【計画1】(企画部)</b>            大学・学部・研究科等の理念・目的については、学則、履修案内等に明記した上で構成員に対し説明するとともに、本学のウェブサイト等を活用し、大学構成員及び広く社会にも公表する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            学生に対しては、新入生及び各学年のガイダンスにおける履修説明等において周知を図る。また教職員に対しては採用時のオリエンテーション等や学内LAN、デスクネット等で周知を図る。社会に対しては、ホームページにおいて公表する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・新入生及び各学年のガイダンスの参加者数、アンケートの実施状況            ・各部局毎のオリエンテーションの教職員参加者数、アンケートの実施状況            ・ホームページにおける公表状況</p>	Ⅲ	<p>・学生に対する新入生及び各学年のガイダンスについては、各キャンパス毎に以下のとおり、計画的に実施したところである。</p> <p>・教職員に対するオリエンテーションについては、全学の新採用オリエンテーションの実施のほか、各キャンパスにおいて、教職員オリエンテーションを実施したところである。</p> <p>・令和4年5月5日及び6日において、他のキャンパスの新入生と一堂に会し、東京医療保健大学の学生としての自覚を持つ機会とする等の目的により、「令和4年度新入生合同研修」を国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として開催した。なお、和歌山看護学部生は、コロナウイルス感染症対策上東京の会場に集合することが困難であったため、残念ながら和歌山キャンパスでの開催となった。</p> <p>・当日は、田村理事長、亀山学長からの講話や学部混合でのグループワークとしてのコミュニケーション研修や、学友会の活動紹介なども含め、有意義な研修会となった。</p> <p>・各キャンパスには、デジタルサイネージを設置しており、学生に関する各種情報のほか、大学の校歌が流れるなど、建学の精神や大学の理念の涵養等を図っている。</p> <p>・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学HPに公開している。</p>	Ⅲ	<p><b>【年度計画1】</b>            学生に対しては、新入生及び各学年のガイダンスにおける履修説明等において周知を図る。また教職員に対しては採用時のオリエンテーション等や学内LAN、デスクネット等で周知を図る。社会に対しては、ホームページにおいて公表する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・新入生及び各学年のガイダンスの参加者数、アンケートの実施状況            ・各部局毎のオリエンテーションの教職員参加者数、アンケートの実施状況            ・ホームページにおける公表状況</p>	Ⅲ	<p>・学生に対する新入生及び各学年のガイダンスについては、各キャンパス毎に以下のとおり、計画的に実施したところである。</p> <p>・教職員に対するオリエンテーションについては、全学の新採用オリエンテーションの実施のほか、各キャンパスにおいて、教職員オリエンテーションを実施したところである。</p> <p>・令和5年4月27日及び28日において、他のキャンパスの新入生と一堂に会し、東京医療保健大学の学生としての自覚を持つ機会とする等の目的により、「令和5年度新入生合同研修」を国立オリンピック記念青少年総合センターを会場として、学生を半分ずつに分けて開催した。なお、和歌山看護学部生は、会場確保等の都合により、27日にオンライン視聴と独自プログラムによる和歌山キャンパスでの開催となった。</p> <p>・当日は、田村理事長、亀山学長からの講話や学部混合でのグループワークとしてのコミュニケーション研修や、学友会の活動紹介なども含め、有意義な研修会となった。</p> <p>・各キャンパスには、デジタルサイネージを設置しており、学生に関する各種情報のほか、大学の校歌が流れるなど、建学の精神や大学の理念の涵養等を図っている。</p> <p>・大学・学部・研究科等の理念・目的については、毎年度最新の教育情報を大学HPに公開している。</p> <p>○学生ガイダンス実施状況(単位:人)※0は新入生数であり内数</p> <p><b>【学部学生】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>医看</th> <th>栄養</th> <th>情報</th> <th>東が丘</th> <th>立川</th> <th>千葉</th> <th>和歌山</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期</td> <td>(115)</td> <td>(54)</td> <td>(47)</td> <td>(110)</td> <td>(117)</td> <td>(136)</td> <td>(99)</td> <td>(678)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>427</td> <td>250</td> <td>206</td> <td>446</td> <td>446</td> <td>447</td> <td>410</td> <td>2632</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>(41)</td> <td>(118)</td> <td>—</td> <td>(128)</td> <td>(99)</td> <td>(386)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>172</td> <td>229</td> <td>—</td> <td>315</td> <td>410</td> <td>1126</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【大学院学生】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>医療保健学</th> <th>看護学</th> <th>千葉看護学</th> <th>和歌山看護学</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期</td> <td>(35)</td> <td>(35)</td> <td>(10)</td> <td>(8)</td> <td>(88)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>35</td> <td>70</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>(8)</td> <td>(8)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【専攻科学生】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>助産学</th> <th>和歌山助産学</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前期</td> <td>20</td> <td>7</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>後期</td> <td>—</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>		医看	栄養	情報	東が丘	立川	千葉	和歌山	合計	前期	(115)	(54)	(47)	(110)	(117)	(136)	(99)	(678)		427	250	206	446	446	447	410	2632	後期	—	—	(41)	(118)	—	(128)	(99)	(386)		—	—	172	229	—	315	410	1126		医療保健学	看護学	千葉看護学	和歌山看護学	合計	前期	(35)	(35)	(10)	(8)	(88)		35	70	10	18	133	後期	—	—	—	(8)	(8)		—	—	—	18	18		助産学	和歌山助産学	合計	前期	20	7	27	後期	—	7	7	<p>評価指標の「新入生及び各学年のガイダンスの参加者数、アンケートの実施状況」は人数や%等、具体的な数値を踏まえて達成状況を評価すべきである。</p>
	医看	栄養	情報	東が丘	立川	千葉	和歌山	合計																																																																																						
前期	(115)	(54)	(47)	(110)	(117)	(136)	(99)	(678)																																																																																						
	427	250	206	446	446	447	410	2632																																																																																						
後期	—	—	(41)	(118)	—	(128)	(99)	(386)																																																																																						
	—	—	172	229	—	315	410	1126																																																																																						
	医療保健学	看護学	千葉看護学	和歌山看護学	合計																																																																																									
前期	(35)	(35)	(10)	(8)	(88)																																																																																									
	35	70	10	18	133																																																																																									
後期	—	—	—	(8)	(8)																																																																																									
	—	—	—	18	18																																																																																									
	助産学	和歌山助産学	合計																																																																																											
前期	20	7	27																																																																																											
後期	—	7	7																																																																																											

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画2】(学長戦略本部・企画部)</b> 教育の質保証の観点から、毎年度定期的に自己点検・評価及び検証を行い、その結果について外部評価を実施し公表する。また、学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、より適切なものとなるよう外部評価結果等を踏まえ、教育研究活動等の改善・充実を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのPDCAサイクルを構築する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況</p>	<p>IV ・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、政府の「教学マネジメント指針」等を踏まえ、「学修者本位の教育の実現」のため、「教学マネジメント」が適切に機能しているかを各階層ごとに、恒常的・総合的に点検・評価を実施し、適切に教育改善が図られるよう、「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」を検討・準備した結果、令和5年1月11日開催の内部質保証推進会議にて正式に策定した。</p> <p>・同年2月27日には、各部署代表者等に対する説明会を開催し、趣旨や内容等の説明を行ったほか、同説明会資料等は学内デスクネット内に収納し、いつでも資料や動画、Q&amp;Aを確認できるよう情報共有に努めるとともに、本年度内の試行的な運用についても依頼したところであり、全て年度計画通り実施した。</p>	<p><b>【年度計画2】</b> 学長直轄の「学長戦略本部」を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を完成させ、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に活用し、自己点検・評価及び検証を開始する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況</p>	<p>○教職員オリエンテーション実施状況 ・4月3日 五反田キャンパスにて実施 五反田 世田谷 東が丘 立川 千葉 合計 参加者 6 1 5 8 3 23 ・4月3日 11月1日 和歌山キャンパスにて実施 参加者 4</p> <p>○新入生合同研修実施状況(東京会場は4月27日・4月28日に実施、和歌山会場は4月28日に実施) 医看 栄養 情報 東が丘 立川 千葉 和歌山 合計 参加者 113 48 43 108 117 135 99 663 (参加率:97.5%)</p> <p>IV ・入学受入れの方針に基づく大学入学受入れの実施に関する「教学マネジメント指針(追補)(令和5年2月24日)」が文部科学省から発出されたことを踏まえ、学長戦略本部の担当プロジェクトチームにおいて、「教学マネジメントチェックリスト【Ver.2】」の改正案を策定し、令和5年7月12日開催の内部質保証推進会議において審議・承認されたので、改正版を7月13日付で学内関係者に周知した。</p> <p>・また、「アセスメントプラン」についても、日本私立学校振興・共済事業団からの指導等も踏まえ、評価指標を追加する等のために担当プロジェクトチームにおいて改正案を策定し、令和5年10月18日開催の内部質保証推進会議において審議・承認されたので、改正版を10月23日付で学内関係者に周知した。</p> <p>・令和5年度から「教学マネジメントチェックリスト」に基づく点検・評価を本格実施することから、教員のFD・SD活動及び事務職員のSD活動の一環として、全教職員が参加する「東京医療保健大学を語る会」を令和5年10月25日に開催し、「教学マネジメントチェックリストに基づく点検・評価の実施に向けて～具体的な取組の視点について～」をテーマとし、医療保健学部看護学科 西村礼子准教授及び東が丘看護学部看護学科竹内朋子教授より発表をいただき、「教学マネジメントチェックリスト」の取組について活発な意見交換を行い、教職員の理解を深めることができた。</p> <p>・「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価報告書作成要領」及び「令和5年度教学マネジメントチェックリスト作成要領」について、担当プロジェクトチームにおいて要領案を策定し、令和5年12月6日開催の内部質保証推進会議において審議・承認されたので、同要領及び報告書様式等を12月19日付で学内関係者に周知した。</p> <p>・「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価」については、部局内で3月末までに実施し報告書を作成し、また「令和5年度教学マネジメントチェックリストに基づく自己点検・評価」については、部局内で「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」ごとに令和5年5月末までに実施し、「学位プログラムレベル」について報告書を作成した上で、それぞれ企画部宛提出することとした。</p> <p>・これらの取組は、全て計画通り実施することができた。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>2. 内部質保証</b></p> <p><b>【計画3】(企画部)</b> 内部質保証の方針に基づき、本学における内部質保証システムを構築するため、「内部質保証推進会議」の機能強化を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 「内部質保証推進会議」が、全学的な内部質保証システムの要として機能するためにその権限と責任を明確化し、継続的にその機能強化を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・IR機能強化の状況、各種データの分析状況</p>	Ⅲ	<p>・IR機能の強化を図るため、IR推進室においては次のような取り組みを行ったところである。</p> <p>1) 学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートには重要な定点調査であるところ、令和4年度は、分析結果を学生に還元する「IRNews学生版」の刊行ができなかったため、このデータに対する意見収集を行っていない。令和5年5月までに「学生版」を公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）59.2% ・授業評価アンケートの回答率（継続）62.7%</p> <p>2) ディプロマ・ポリシーの運用状況等について、IR推進室運営会議等の関係会議で報告した。</p> <p>・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。令和5年度から段階的に運用予定である。</p> <p>・九州大学で開催されたIR担当者会議に室員2名が出席し、情報交換を行った。その後、近隣大学と連携し、IR推進室同士の情報交換会を実施した。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）年1回 ・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年1回</p>	Ⅲ	<p><b>【年度計画3】</b> 「内部質保証推進会議」の権限と責任を明確化し、その機能強化を図るため、部局の現状等を更にエビデンスに基づき分析・評価できるよう、「学長戦略本部」と連携しIR機能の強化を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・IR機能強化の状況、各種データの分析状況</p>	Ⅲ	<p>・IR機能を強化するため、各学部・学会の教員から構成している「IR推進室運営会議」のメンバーについても、他大学IR推進室との交流の場に出席できるようにした。具体的には9月下旬に他大学のIR推進室に本学向け研修会を開催いただき、同メンバーの希望者に出席いただいた。</p> <p>・2023年度に大学ビジョンにDX推進が位置づけられたことを受けて、学修基盤推進室及びDXマネージャーの主導により「ICTスキルチェックリスト」が策定された。同室とも連携し、教員のICTスキルもストラクチャー指標の一つとして有効活用していくこととした。</p> <p>・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率（継続）69.9% ・授業評価アンケートの回答率（継続）70.3%</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画4】(学長戦略本部・企画部)</b> 教育の質保証の観点から、年度計画を着実に推進するとともに、自己点検・評価及び外部有識者による評価を行い、その結果を改善・充実に反映させる。また令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 年度計画を着実に推進するとともに、令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める。 「評価指標」 ・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果</p> <p><b>【計画5】(企画部)</b> 内部質保証の状況を、所要の学内会議に報告した上で、外部有識者等の意見を踏まえ、本学の教育研究活動等の改善・向上を継続して推進するとともに、内部質保証に関する情報を学内外に公表し、大学としての説明責任を果たす。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 毎年度、内部質保証の状況を、外部有識者等が委員を務める外部評価委員会、大学経営会議、理事会・評議員会等の学内会議に報告し、会議での意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等の改善・向上を継続して推進する。また、点検・評価の結果等を含め、内部質保証に関する情報をホームページにおいて公表する。 「評価指標」 ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況</p>	<p>III</p> <p>・平成30年度に大学基準協会による認証評価を受審した結果、是正勧告2件、改善課題5件の提言を受けたところであるが、内部質保証に責任を負う全学組織である「内部質保証推進会議」において、提言の内容等を精査し改善を図ることとし、その改善結果を「改善報告書」として令和4年7月末に大学基準協会に提出した。 ・令和5年1月20日付で、大学基準協会から提出済みの「改善報告書」に対し、「改善報告書検討結果(委員会案)」が示され、概ね大学の取組は評価されたが、 1. 是正勧告では、医療保健学部医療栄養学科、医療情報学科における学生受け入れに関する定員管理の問題は、今後も更なる改善に努めること 2. 改善課題については、医療保健学研究科における学位授与方針の問題の改善や、財務についての財政基盤の確保に努めることとの評価を受けたところであり、令和7年度の認証評価の中で今回の評価分も含め、さらなる改善に努める必要がある。</p> <p>III</p> <p>・令和3年度に係る自己点検・評価については、「令和3年度点検・評価報告書」として取りまとめた上で、令和4年5月10日開催の内部質保証推進会議及び大学経営会議及び5月22日開催の理事会・評議員会において審議・承認された後、9月28日開催の「外部評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究活動等の継続的な改善等を図ることとした。 ・「令和3年度点検・評価報告書」は大学HPに公開している。</p> <p>「評価指標」 ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況</p>	<p><b>【年度計画4】</b> 年度計画を着実に推進するとともに、令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、計画的に準備作業を進める。 「評価指標」 ・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価の準備、評価結果</p> <p><b>【年度計画5】</b> 内部質保証の状況を、外部有識者等が委員を務める外部評価委員会、大学経営会議、理事会・評議員会等の学内会議に報告し、会議での意見・提言等を踏まえて、本学の管理運営及び教育研究活動等の改善・向上を継続して推進する。また、点検・評価の結果等を含め、内部質保証に関する情報をホームページにおいて公表する。</p> <p>「評価指標」 ・外部評価委員会等の開催状況及びホームページにおける公表状況</p>	<p>III</p> <p>・令和7年度に受審する大学基準協会の認証評価に適切に対応するため、令和5年度から「教学マネジメントチェックリスト」に基づく点検・評価を本格実施することとして、令和5年10月25日に開催した「東京医療保健大学を語る会」において、「教学マネジメントチェックリストに基づく点検・評価の実施に向けて～具体的な取組の視点について～」をテーマとし、活発な意見交換を行った上で、「令和5年度教学マネジメントチェックリストに基づく自己点検・評価」については、部局内で「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」ごとに令和6年5月末までに実施し、「学位プログラムレベル」について報告書を作成した上で、企画部宛提出することとした。【詳細は、計画2を参照】 ・令和5年11月20日に大学基準協会がWEBにて開催した「第4期機関別認証評価に関する説明会」に、亀山学長、松浦事務局長他企画部職員が参加し、次期認証評価に関する方向性等について学ぶ機会を得た。この内容については、令和6年1月17日開催の内部質保証推進会議において報告した上で、1月18日付で学内関係者に周知し情報共有を行うこととした。</p> <p>IV</p> <p>・令和4年度に係る自己点検・評価については、「令和4年度点検・評価報告書」として取りまとめた上で、令和5年5月10日開催の内部質保証推進会議及び大学経営会議及び5月24日開催の理事会・評議員会において審議・承認された後、令和5年10月20日開催の「外部評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究活動等の継続的な改善等を図ることとした。 ・「令和4年度点検・評価報告書」は大学HPに公開している。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>3. 教育研究組織</b></p> <p><b>【計画6】 ㉞(大学院医療保健学研究科)</b>            大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況(令和7・8年度)            ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況</p> <p><b>【計画7】 (東が丘看護学部・看護学研究科)</b>            独立行政法人国立病院機構との連携協力により東が丘看護学部及び大学院看護学研究科修士課程・博士課程において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、国立病院機構との連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 令和5年度に看護学研究科に認定看護管理者養成コース、放射線看護専門看護師コースを設置する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・認定看護管理者養成コース、放射線看護専門看護師コースの設置状況</p>	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>①から⑬について、計画通り全て完了した。</li> <li>入学試験結果11名が合格した。準備状況においては、非常勤講師77名、実習施設の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、教材作成を進めている。</li> <li>⑦演習教室の確保、⑧シミュレータの検討については、令和5年前期に改修工事等を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を継続する。</li> <li>また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時行っていく。</li> </ul>	III	<p><b>【年度計画6】</b>            1. 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講する。            ①4月開講            ②カリキュラムの進捗管理            ③科目試験の管理            ④入学合格者の実習病院決定と厚生局修正申請            ⑤放送大学(特定行為共通科目)学習の進捗および評価管理            ⑥オンライン科目の授業資料の作成(令和6年度分)管理            ⑦演習(OSCE)物品・シミュレータの搬入と管理            ⑧実習施設、実習指導医、実習指導NP(病院・施設・在宅)との打ち合わせ            ⑨特定行為管理委員会開催            ⑩令和6年学生募集と入試</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況</p>	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>①から⑩について、計画通り全て完了した。</li> <li>講義・演習では、学外講師77名(内訳：医師58名、看護師16名、その他専門家3名)学内講師8名の協力を得ることができ、計画通り、2023年4月に開講できた。</li> <li>開講後は、カリキュラムの進捗管理、放送大学(特定行為共通科目)学習の進捗および評価管理、科目試験の管理により、設定期間内にすべての院生が履修合格ができた。</li> <li>実習施設、実習指導医、実習指導NP(病院・施設・在宅)との打ち合わせを実施し、実習施設4施設、NP9名の協力を得ることができ、全員履修合格となった。また、令和6年に向けて実習病院14施設の確保ができ、厚生局修正申請を提出予定である。</li> <li>演習室の確保と修繕を完了し、令和6年の授業に向けて演習(OSCE)物品・シミュレータの搬入を行う予定である。</li> <li>特定行為管理委員会は2023年10月に第1回の会議を実施した。</li> <li>令和6年度学生募集と入試により、計16名が入学した。</li> <li>予定8名を超える入学生にともない、令和6年度に教員(診療看護師)1名を学部兼任担当として採用できた。</li> </ul>		
	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学研究科に認定看護管理者養成コースは計画通り設置した。</li> </ul>	III	<p><b>【年度計画7】</b>            1. 設置承認取得後、学生募集を開始及び、大学院修士課程定員を現行の30名から40名程度に増員する。  <b>「評価指標」</b>            ・新体制での定員確保状況</p>	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学研究科に「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」を設置するとともに、大学院修士課程定員を40名程度に増員した。そして、学則変更・文科省への届出等諸手続きを完了した。</li> <li>令和6年度入学生は、博士課程を含めて44名と定員を確保した。</li> </ul>		



第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>2. 放射線看護研修センターで行っているがん放射線療法看護認定看護師養成課程は、発展的に終了し、上記看護学研究科における大学院教育に注力する。</p> <p>「評価指標」 ・放射線看護研修センターの円滑な終了手続き状況</p> <p>【計画8】(千葉看護学部) 独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)との連携協力により、千葉看護学部において設置の趣旨を十分活かして教育研究を着実に履行するとともに、JCHOとの連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続(1回/年)</p> <p>2. JCHOとの人事交流を継続する。 「評価指標」 ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年)</p> <p>3. JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 「評価指標」 ・JCHOとの共同活動状況(運営協議会1回/年、未来を語る検討会4回/年、JCHO学会発表1回/年)</p> <p>4. カリキュラム改定準備を進める。 「評価指標」 ・カリキュラム改定の準備状況 ・DPと一貫したAPを実現するための検討状況</p>	IV	<p>2. がん放射線療法看護認定看護師養成課程については閉じることでし、大学院のコースとして検討することとした。理由は、①コロナ禍で一カ所に研修会のために集合できない。②コロナの影響もあり年月を待っても研修希望者は定員まで集まらない。③専任の認定を取得している指導教員が不在である。以上のような施設の条件が整わず、日看協の協力を得て数カ月努力をしたが、不採算のコースとなるため、大学院で専門看護師コース開設の方が現場のニーズはあると考え、認定コースの中止閉校を決定した。</p>	2. 一	<p>「評価指標」</p>	<p>2. 大学院としてがん放射線療法看護のコース設置を検討したが、全国でのニーズが極めて乏しく、大学院としての新たなコース設置は断念した。</p>			
<p>「計画達成のための方策」 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続(1回/年)</p> <p>2. JCHOとの人事交流を継続する。 「評価指標」 ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年)</p> <p>3. JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 「評価指標」 ・JCHOとの共同活動状況(運営協議会1回/年、未来を語る検討会4回/年、JCHO学会発表1回/年)</p> <p>4. カリキュラム改定準備を進める。 「評価指標」 ・カリキュラム改定の準備状況 ・DPと一貫したAPを実現するための検討状況</p>	IV	<p>1. 全学様式で、教員自己評価を7月に実施した。</p>	IV	<p>1. 全学様式による教員自己評価を継続する。 「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続(1回/年)</p>	IV	<p>1. 全学様式による教員自己評価を5月に実施し、学部長による総括を8月に公開した。</p>		
	IV	<p>2. 1名の助手の人事交流を継続している。</p>	IV	<p>2. JCHOとの人事交流を継続する。 「評価指標」 ・JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年)</p>	IV	<p>2. JCHO船橋中央病院看護師1名を助手として人事交流した(2022～2023年度)。2024年度については適切な人材が選出できず、本制度の評価と見直しを要すると評価している。</p>		
	II	<p>3. JCHOとの運営協議会を8月3日に開催した。人材育成に関しては、新人研修への参加、看護研究に関する共同活動は実施したが、JCHO学会には準備不足のため演題応募を行わなかった。新人研修、学生実習を含め将来に向けた検討は継続的に実施しているが、「未来を語る検討会」としては実施しておらず、次年度以降の課題である。</p>	II	<p>3. JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 「評価指標」 ・JCHOとの共同活動状況(運営協議会1回/年、未来を語る検討会1回/年、JCHO学会発表1回/年)</p>	III	<p>3. JCHOとの運営協議会を8月17日に開催した。人材育成に関しては、船橋中央病院での新人研修への参加、船橋中央病院・東京山手メディカルセンター・埼玉メディカルセンターでの看護研究に関する共同活動、公開講座における講師依頼、JCHO学会でのポスター発表を行った。「未来を語る検討会」としては開催をしていらず、船橋中央病院の移転対策も控えて、次年度はグランドデザインとして包括的な視点から評価・対策することが課題である。</p>		
	III	<p>4. 4月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロジェクトを立ち上げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、①DPとのシラバス照合 ②全科目の授業評価アンケートの分析、③4年生卒業時カリキュラム評価アンケート、④現行カリキュラムの看護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検(全教員参加)を行い、3月にFD報告会を開催した。令和5年度は、令和6年度からの新カリキュラムを構想する予定。</p>	III	<p>4. カリキュラム改定準備を進める。 「評価指標」 ・カリキュラム改定の準備状況 ・DPと一貫したAPを実現するための検討状況</p>	IV	<p>4. 2022年度より将来構想委員会の下部組織として立ち上げたカリキュラム評価プロジェクトを、カリキュラムプロジェクトとして発展的に再構成し、文部科学省の看護学モデルコアカリキュラム改訂の動向を注視しながら、改定に向け活動を継続した。具体的には、①実習前CBT・OSCEの導入検討、②「育てたい人材像」の検討、③文科省モデルコアカリキュラム改訂の主旨・方向性・内容に関する情報収集、等である。8月17日および3月14日には学部全体での検討会を行い、方向性を確認するとともに、今後の課題と進め方について検討を行った。令和6年度も活動を継続し、新カリキュラム(案)を構想していく予定とする。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画9】㊦(和歌山看護学部・看護学研究所・和歌山看護実践研究センター)</b> 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 日赤和歌山医療センターとの協議のもとに、ニーズの高いものから研修を計画・実施を行い、更に和歌山県下のニーズに対応する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況</p>	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療職を対象に精神疾患を持つ対象者の地域移行をテーマにした基本的な内容の学習会を計5回オンライン開催した。本学部の卒業生を対象に交流会を開催し、前向きに取り組めるよう支援した。2023年度日赤和歌山医療センターに就職予定学生を対象に基本的技術を復習する研修を企画した。</li> <li>・生涯を通じて自己研鑽ということから、大学院進学について連携病院には複数回、地域の医療機関には出向いて説明を行った。</li> <li>・学習会は5回とも概ね満足の評価を得、さらに経験者対象の学習会の希望も出された。さらに他のテーマについての希望をもとに次年度の研修計画を検討している。卒業生の交流会には数10名の参加があり、前向きになれたとの感想が聞かれた。基本的技術研修の参加は50名程度を予定している。</li> <li>・大学院令和5年度入学予定者は8名で内日赤和歌山医療センターからは1名であった。今後入学生の確保を検討する。</li> </ul>	III	<p><b>【年度計画9】</b> 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院和歌山看護学研究所での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。</li> </ul> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況 ・大学院入学生数（日赤から2名以上）</p>	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会「臨床実践を科学的に意味づける-文献検索の意義と方法を知らう-」を4回にわたって実施した。参加者に本研究科についての案内及び大学院生体験談を話して頂いた。</li> <li>・大学院進学については連携病院には複数回説明会を開催し、実習施設への案内、及び和歌山県看護協会長の協力により県下の医療施設看護管理者に大学院進学の説明と学ぶことを進めていただいた。学部生向けの大学院進学についても説明も行き、興味のある学生の声も聴いている。</li> <li>・学部卒業生を対象に日赤和歌山医療センターとの連携により、院内ラボにおいて就職前の看護技術研修（基礎トレーニング）を行った。今年度は和歌山県下の新就職者を対象とする前段階として、まずは県下の施設管理者における見学希望の周知を行い、施設管理者から複数名の見学希望があった。研修参加者の満足度は高かった。</li> <li>・秋季と春季の2回の入学試験を実施したが、大学院入学生数は8名（日赤からは1名）になり、定員を充足できなかった。</li> </ul>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<b>4. 教育課程・学習成果</b>									
<p><b>○医療保健学部看護学科</b>  <b>【計画10-1】</b>  医療保健学部看護学科の新カリキュラムの運用と評価を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  1. 学年別目標の周知と評価の実施。  2. eポートフォリオの運用。  3. 新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備・改善・評価の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・学年別目標の自己評価実施学生数：90%以上  ・eポートフォリオの実施学生数：80%  ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年2回以上  ・カリキュラム評価に関する会議の開催：年1回以上（令和5年度）</p>									
	III	1. 学年目標（旧：学年別目標）は5月に教授会で承認された。そのため令和4年度入学生への説明は、7月に行った。卒業時到達目標（3・4年生）・学年目標（1・2年生）の自己評価は、4年生は2月13日に実施し、96名が回答した（回答率92.3%）。1～3年生は3月28日に説明し、4月10日までの回答期間を設定した。3月29日現在、1年生88.2%、2年生85.6%、3年生87%と前年度の53.6～59.6%から大幅に上昇した。 2. WebClassの修学カルテを利用し、eポートフォリオを実装し、3月末の卒業時到達目標・学年別目標自己評価から運用を開始する。 3. 夏季および春季看護学科FD研修会で、当学科におけるポートフォリオの説明を行った。関連事項として、全教員に対し、各科目のDP重みづけワークを行い、担当科目の本学科カリキュラムにおける位置づけを確認する機会とした。2月各科目のDP重みづけがほぼ確定し、その結果を受けて、履修系統図を修正、2023年度以降のディプロマ・サブメントに適用を開始する。	<b>【年度計画10-1】</b> 1. 学年別目標の周知と評価：4月履修ガイダンスで説明、2～3月学年別目標に沿った学生自己評価の実施。 2. 学修ポートフォリオの運用改善。 3. 新カリキュラムのモニタリング・新規科目の準備・改善。 4. 社会からの要請への対応した学士課程教育（今年度より追加）：大学での学び方支援プログラムの導入、ヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）の普及、教学マネジメントの理解とカリキュラム・教育体制への導入準備。 <b>「評価指標」</b> ・学年別目標の自己評価実施学生数：全学年80%以上 ・学修ポートフォリオの実施学生数：80%（1・2年生） ・カリキュラム・教育に関する企画の実施：年2回以上 ・カリキュラム評価に関する会議の開催：年1回以上 ・大学での学び方支援プログラムの出席率、アンケート結果 ・ヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）修了学生数 ・教学マネジメント導入に関するプロジェクト会議：年2回以上 ・教学マネジメントに関する企画の実施：年2回以上 ※2学年別目標、学年目標が混在しており、学年目標で統一		IV	1. 4月履修ガイダンスでDPと学年目標（旧：学年別目標）を説明した。次に、2～3月に改めて説明し、学年目標達成度の自己評価を実施した。実施率は、全学年目標だった80%を上回った（1年次88.7%、2年次88.1%、3年次83.7%、4年次87.5%）。 2. WebClassを用いた学修ポートフォリオの1・2年生実施率は、80%以上だった。運用について教員にも調査を行い、一部仕様を修正した。 3. カリキュラム・教育に関する企画は、2回実施した（9/29教学マネジメント企画を兼ねた、3/15カリキュラム企画）。また、カリキュラム評価に関する会議は、4回実施した（2/27、9/7、11/14、3/4）。 4. 大学での学び方支援プログラムは4月から5月まで計3回開催した。出席率は第1回88.7%、第2回93.1%、第3回69.6%と、60%以上で推移した。次にヘルスデータサイエンスプログラム（保健看護データコース）の修了者（2023年度）は20名だった。教学マネジメントの理解とカリキュラム・教育体制への導入準備として、7回会議を開催し（4/27、6/6、7/31、11/14、12/22、1/16、2/16）、学科教員に対してはFDを2回実施した（9/29、3/15）。			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【計画10-2】 グローバル人材の育成のための取組みを推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の検討・実装・評価・改善の実施。</li> <li>外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラムの実施。</li> <li>レニック先生の英語クリニックの継続実施と評価の実施。</li> </ol> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラム10名以上、アンケート回収率90%以上</li> <li>レニック先生の英語クリニックの参加者数10名以上（年）、アンケート回収率90%以上</li> <li>グローバル会議回数10回/年</li> <li>活動実績広報件数3件以上</li> </ul>	III	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護学科が目指すグローバル人材とは、必要とされる資質/関連する科目について検討した。学科教員の意見聴取を経て資料を作成した。学生向けの紹介動画も作成し、当初ガイダンスにおける説明準備をすすめた。</li> <li>令和5年3月3日、6日、7日に実施。参加学生数15名（1～4年次）だった（アンケート回収率50%）。</li> <li>レニック・ニコラス先生がNTT東日本関東病院から移籍されたことにより、レニック先生の時間の確保、謝礼の支払いなどが必要となったことから今後の活動継続については検討している。</li> </ol> <p>【その他の活動実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル会議 11回/年。</li> <li>活動実績広報件数4件（内訳：リレー講演各回計3回、学科報告会1回）。</li> <li>育成したい人材像を踏まえた「国際看護論（選択）」科目構成（担当者含む）を検討し、次年度開講準備。</li> <li>リレー講演「世界の医療ケアを知ってみよう」の開催（第1回12月22日レニック・ニコラス先生、第2回1月12日MICHIKO先生、第3回2月10日佐々江龍一郎先生）。申し込み者総数（オンデマンド視聴者含む）1回目202名、2回目202名、3回目227名（リアルタイムオンライン参加者第1回86名/第2回61名、第3回73名）。</li> </ul>	<p>【年度計10-2】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>看護学科グローバル人材育成に向けた全体構想の実装。</li> <li>外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラムの実施。</li> <li>レニック・ニコラス氏の職場異動に伴い停止中。再開の可能性を検討する。</li> </ol> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人模擬患者を対象としたシミュレーションプログラム10名以上、アンケート回収率90%以上</li> <li>レニック先生の英語クリニックの参加者数10名以上（年）、アンケート回収率 90%以上</li> <li>グローバル会議回数10回/年</li> <li>活動実績広報件数3件以上</li> </ul> <p>*レニック先生の英語クリニックは実施する場合のみ評価を行う。</p>	III	<ol style="list-style-type: none"> <li>学生の関心を高めるための戦略と成果（推進担当：中山、山崎） <ul style="list-style-type: none"> <li>ガイダンスの充実（各学年年度当初ガイダンス、動画作成、医愛祭での紹介、ウエブクラス活用、国際交流委員会と連携した情報提供等、メンバーにより授業後等を活用した広報活動）など、学生に情報が行き届くようこまやかに広報活動を行った。今年度は、昨年度に対して国際看護論受講生（4名→23名、外国人模擬患者演習参加者（12名→16名）と増加した。</li> <li>令和6年3月7、8日実施。参加学生数16名（内訳 1年生7名、2年生1名、3年生8名）外国人模擬患者6名（ベトナム、ミャンマー、台湾、シンガポール、モンゴル）、アンケート回収率63%。（推進担当：大堀）</li> </ul> </li> <li>プログラム終了時にアンケート依頼を依頼したことにより回収率は上昇した。今後のプログラム改善に役立てたい。</li> <li>レニックニコラス先生の異動により停止中。看護学科連携施設のNTT病院における英語学習会参加機会など、別の方法での英語学習機会について情報収集を行った。連携病院と連携可能な様々な教育機会を発掘し、臨床とのコラボレーションを図ることを検討していく。</li> </ol> <p>【その他の活動実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●グローバル会議開催 10回（令和5年度）</li> <li>●看護学科新規プログラムの立ち上げ 令和6年度からの看護学科独自プログラム「グローバル看護人材育成プログラム—調和のとれた社会に向けて—」英語標記：Globally Competent Nursing Program (GCNP): Embracing Diversity for a Harmonious Society-」の設置準備（要項の作成、学生向け履修案内の作成、関連科目に周知）。</li> <li>補足：GCNPは、看護学科独自プログラムとして、関連科目と活動をポイント評価し、学科長による認証を行うもの。</li> <li>●グローバル業績の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年外国人患者模擬演習参加者を対象にインタビューして得た学びのデータを、紀要に投稿・採択決定（筆頭 山崎）</li> <li>・第43回日本看護科学学会において交流集会の実施（国際看護論設置と、グローバル人材の育成に関する交流セッションの企画運営（筆頭 松尾）</li> </ul> </li> </ul>				


第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画10-3】 学生サポートによるへこたれない心の育成を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <p>1. 新生ガイダンスにて、学生生活ガイダンス及びアドバイザー活動を実施する。</p> <p>2. 新生ガイダンス実施後に、Formsを用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザー教員の連絡先・学生相談室・障がい学生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価する。</p> <p>3. この評価をもとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにする。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新生ガイダンス実施後アンケートの実施状況</li> <li>アドバイザー制度、アドバイザー教員の連絡先の認知度100%</li> <li>学生相談室の認知度100%</li> <li>障がい学生支援制度の認知度100%</li> <li>新生ガイダンス時のアドバイザー活動の満足度（満足している人）80%</li> </ul>	III	<p>1. 2. 看護学科学学生委員会では、学生自身の援助希求育成に寄与するために、新生ガイダンスにて、学生生活ガイダンスおよびアドバイザー活動を実施している。その満足度を評価し、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにするため、令和4年度の5月～6月に任意のwebアンケートを実施した（回答率約82%）。</p> <p>・質問項目の構成は「大学全体の各種相談窓口について」「看護学科のアドバイザー制度について」「キャンパスライフフリーフレット」について」「学生生活サポート制度に対する受け止めについて」「4月5日に実施した新生への“学生生活ガイダンス”について」である。</p> <p>・結果として、全体の理解度の平均は79%で、満足度はとても満足、まあ満足を含めて約83%（n=95）と高い満足度であった。自由記述では「相談ができる場所があると知って気持ちが楽になりました、サポートが手厚くてありがたいと感じた、高校生の時とは違い、自分から積極的に行動していく必要があると思いました」など前向きなコメントがみられた。</p> <p>・次年度のガイダンスは、現時点では従来通りの実施で問題はないと判断し計画することとした。</p>	<p>【年度計画10-3】</p> <p>1. 新生ガイダンスにて、学生生活ガイダンス及びアドバイザー活動を実施する。</p> <p>2. 新生ガイダンス実施後に、Formsを用いたアンケートを実施し、アドバイザー制度・アドバイザー教員の連絡先・学生相談室・障がい学生支援制度の認知度、及びアドバイザー活動の満足度を評価する。</p> <p>3. この評価をもとに、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにする。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新生ガイダンス実施後アンケートの実施状況</li> <li>アドバイザー制度、アドバイザー教員の連絡先の認知度100%</li> <li>学生相談室の認知度100%</li> <li>障がい学生支援制度の認知度100%</li> <li>新生ガイダンス時のアドバイザー活動の満足度（満足している人）80%</li> </ul>	III	<p>1. 2. 看護学科学学生委員会では、学生自身の援助希求育成に寄与するために、新生ガイダンスにて、学生生活ガイダンスおよびアドバイザー活動を実施している。昨年度アンケートでは従来通りの高い満足感が確認されたものの、依然感染に伴う人との交流機会の減少がある中で、上位学年からの効果的な情報提供や交流機会が少ないと想定された。そこで、先輩学生がガイダンスに参加する計画を立案した。具体的には、学生生活経験を新生に伝えたり、質問に答えるなど、具体的な体験を知る機会設けた、である。令和5年度では、これらを踏まえたガイダンスの満足度を評価し、次年度のガイダンスに向けて成果と改善点を明らかにするため、令和5年度の6月～7月に任意のwebアンケートを実施した（回答率約77%）。</p> <p>・新生ガイダンスでは、新生が空き時間に先輩に交流を図る場面を見ることができた。</p> <p>・質問項目の構成は「大学全体の各種相談窓口について」「看護学科のアドバイザー制度について」「キャンパスライフフリーフレット」について」「学生生活サポート制度に対する受け止めについて」「4月5日に実施した新生への“学生生活ガイダンス”について（先輩との交流について）」である。</p> <p>・新生ガイダンス実施後アンケートの結果、全体の理解度は85%で、ガイダンス全体の満足度はとても満足、まあ満足を含めて95%（n=86）で、昨年度より高い満足度となった。一方で、大学の支援制度について、「障がい学生支援制度があることが分かった」（69%）や「障がい学生支援制度の窓口が分かった（42%）」と学生の理解度が低いものもあった。自由記述では先輩との交流に関する内容が多く、「より多くの先輩方からご意見を聞きたいと感じました」など前向きなコメントが見られた。次いで、大学の授業や勉強について、「テスト勉強の仕方」、「勉強相談ができればいいと思います」など要望も多くみられた。</p> <p>3. 次年度ガイダンスでは、アンケート結果や自由記述より見えてきた課題から、より効果的なガイダンスの方法を検討し、計画することとした。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画10-4】</b> 臨地実習指導者講習会を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科実習委員会の担当メンバーを中心として実施する。 2. 研修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9月に2日間の基本知識の講義・演習を実施することとし、講師は学内教員から募集する。 3. 対象者の看護師に10月～12月の実習指導のリフレクションシート記載を課し、1月に各参加者の実習指導体験のリフレクション演習を行う。 4. 令和3年度から5年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・実習病院・施設の参加者 看護師30名、教員15名</p>	III	<p>1. 看護学科実習委員会の担当者3名を中心に企画・運営・評価を実施できた。 2. 9月に2日間の基本知識の講義・演習については、学内教員5名の協力を得て実施できた。 3. 10月から12月に本学の実習を担当していただき、実践を踏まえて実習指導者として各自2事例を提出し、1月にグループリフレクションを実施することができた。 4. 感染対策により、リモート研修としたことで、訪問看護ステーションや老健・特養施設の指導者は参加しやすい環境があった。一方、全体の参加人数が予定より少なく留まったことに関しては、本学のプログラム以外の外部研修を利用した方や感染状況の中で指導者役割の方の勤務調整などが影響したと推測できた。予定人数には満たなかったものの、研修アンケートでは、理解できた、役立つという回答であり、他の人にも勧めたいということで参加者の満足度は高かったため、次年度は評価指標を人数ではなく研修評価内容も加味し、同内容で引き続き開催をする予定とした。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・病院・クリニック：5施設 7名 ・特養・老健：2施設 2名 ・学内教員1名（講師や運営を除く） 計10名</p>	<p><b>【年度計画10-4】</b> 1. 臨地実習指導者講習会を、看護学科実習委員会の担当メンバーを中心として実施する。 2. 研修会プログラムは令和元年度の内容を踏襲し、9月に2日間の基本知識の講義・演習を実施することとし、講師は学内教員から募集する。 3. 対象者の看護師に10月～12月の実習指導のリフレクションシート記載を課し、1月に各参加者の実習指導体験のリフレクション演習を行う。 4. 令和3年度から5年間実施し、評価、その後の継続について委員会内で検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修後アンケート評価 ・実習病院・施設の参加者人数</p>	III	<p>1. 看護学科実習委員会の担当者3名を中心に企画・運営・評価を実施できた。 2. 9月に2日間の基本知識の講義・演習については、学内教員5名の協力を得て実施できた。特に前年度からニーズの高かった参加者同士のディスカッションの時間を多くとった。 3. 10月から12月に本学の実習を担当していただき、実践を踏まえて実習指導者として各自2事例を提出し、1月にグループリフレクションを実施することができた。 4. リモート研修としたことで、訪問看護ステーションや老健・特養施設の指導者は参加しやすい環境があった。一方で勤務をしながら研修参加をしている状況もあり、ワーク時の入室遅れの参加者も多数いた。しかし、各グループにファシリテーター（教員）を配置することで、入室遅れの参加者へのサポートを行うことができた。授業期間中のため、学内教員の参加人数には限界があった。</p> <p><b>「評価指標達成状況」</b> ①研修後アンケート評価 講義内容について、理解できた、役立つという回答が主であり、他の人にも勧めたいということで満足度は高かった。 ②実習病院・施設の参加者人数 ・参加者20名（病院：6施設 16名、特養・老健・訪看：3施設 4名） ・学内教員9名 計29名</p>			
<p><b>【計画10-5】</b> 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施することとし、卒業生によるパネルディスカッション及び運営を教員（看護学科就職対策委員会）と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマは目的に合わせて年度毎に検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ホームカミングデイの参加状況卒業生30名、教員20名、在校生10名</p>	III	<p>1. ホームカミングデイを令和5年1月13日に開催し、卒業生5名、在学生等5名、教職員27名が参加した。 2. 今年度は令和5年4月より本学大学院にプライマリケア看護学領域が開設されること併せ「高度な看護実践能力」をテーマに企画した。また本学の卒業生支援に関する訴求力向上を目的として今年度はマギーズ東京の秋山正子氏を講師に迎え講演会と交流会を実施した。開催に係る費用は看護学科特別研究費を申請し運営に充てた。参加した卒業生からは「著名な講師の講演がありがたかった」、「看護職が何ができるか考える機会になった」などの感想もあり卒業生のキャリアを考える一助となっていると考えられるが、卒業生の参加が少ないため周知方法等開催方法等について今後も評価検討を行ってきたい。</p>	<p><b>【年度計画10-5】</b> 1. 医療保健学部看護学科卒業生を対象としたホームカミングデイを実施することとし、卒業生によるパネルディスカッション及び運営を教員（看護学科就職対策委員会）と協働して行う。 2. パネルディスカッションのテーマは目的に合わせて年度毎に検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ホームカミングデイの参加状況卒業生30名、教員20名、在校生10名</p>	III	<p>1. 令和6年1月12日に、対面とリアルタイム配信のハイブリッド形式で開催した。就職対策委員を加えた参加者は、69名。卒業生26名、在学生8名、教職員33名、元教職員2名であった。 2. 今年度は、新人看護師の離職率が10%を超えたことを受け「看護実践家としての壁を乗り越えよう！」をテーマに、第一部 を卒業生スピーカーによるトークセッション、第二部を参加者の交流会として実施した。スピーカーは、①小児専門病院で働く3年目看護師、②3次救急病棟の集中治療センターで働く7年目の看護師、③病院勤務、海外青年協力隊等を経て23区役所で勤務する保健師の3名とした。スピーカーの発表後には、卒業生を中心に活発な意見交換も行われた。終了後のアンケートは、回答数：50名（回収率80.6%）。全体の満足度では、満足とまあ満足が98.0%であった。交流会では、予定時間を超過して教員や同級生と会話をする卒業生の姿がみられ、HCDを開催する意義は達成されたと考えられる。また、在校生も積極的にスピーカーに質問したりオンラインで交流したりすることができた。今回の3人のスピーカーの選定は妥当であったと評価している。次年度は、医愛祭が五反田キャンパス開催になることを受けその期間中に開催することを検討している。さらに参加者増を目指し、今年度卒業生全員にHCD実施案内の送信を実施。今後も会の活性化を目指して、企画検討を重ねていきたい。</p>			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>○医療保健学部医療栄養学科</b> 【計画11-1】 専門性の高い心温かい医療人の育成の観点から、ボランティア活動を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1.主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供や食育媒体の提供を行う。 <b>「評価指標」</b> ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ焼き菓子等の提供を実施：3回/年 ※COVID-19感染拡大状況により、「せたがやハウス」での食事支援活動が可能になれば、食事提供を実施：1~2回/年 ・主に「せたがやハウス」を利用し、国立成育医療研究センター病院にて付き添い入院している家族へ食育媒体の提供：3回/年 ・ボランティア学生：4名程度×3回=12名</p> <p><b>【計画11-2】</b> 幅広い分野で活動している管理栄養士として、必要な知識及びスキルを日々更新していくことが重要であることから、「卒後教育」として知識・スキルアップのための研修会を開催する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 本学教員及び卒業生が講師となり、各分野での事例・症例紹介や情報共有など、講義、演習、ワークショップを含む様々な学習形態で開催する。 <b>「評価指標」</b> 研修会の実施回数：年3回以上かつ年間参加者数を卒業生・一般で100名以上</p>	IV III	<p>1.4回の実施を計画し、ボランティア学生を募り、延べ7名がボランティア活動を行った。</p> <p>2.焼き菓子および食育カードを作成し、計3回の提供を実施した。 ・上記の通り、ほぼ予定通りの進捗であったが、本活動は社会貢献の側面が強く、医療栄養学科では本計画以外にも同様の社会貢献活動を複数実施している。そこで、次年度から、第9章に新たな計画として「地域への社会貢献活動の推進」を設定し、本活動もその中で進めていく。 ・一方、医療栄養学科では、過去から教育の改善活動を継続的に進めている。そこで、次年度の計画に「教育の質の向上」、「リメディアル教育の改善」を追加し、それらの活動を見える化する。</p>	【年度計画11-1】  <b>「評価指標」</b>	— —	— —	— —	— —	— —	
	I	<p>・東京医療保健大学医療栄養学科令和4年度年度卒後教育を対面にて開催し、16名の卒業生が参加した（令和5年3月18日）。 ・今年度は今後の実施方法の見直しを図るための調査に重点を置いたため、年度計画を達成できていない。 ・卒業生のニーズ把握を目的に、9月に卒後教育に関するWEBアンケートを医療栄養学科卒業生に実施し、148名から回答を得た。その結果、医療分野に限らず幅広い分野の情報提供を求めていること、卒業生同士の情報交換の場が必要であることが明らかとなった。 ・そこで、次年度以降は病院の管理栄養士だけを対象とするのではなく、対象を広げて「卒後教育の拡充」を計画として掲げ、講義内容および運営方法を改善する。</p>	【年度計画11-2】 医療を含めた複数の分野に関する研修会を、講義、演習、ワークショップなど様々な学習形態で実施し、卒業生に向けて参加を募集する。また、企業の協力と卒業生に講師の依頼をする。 <b>「評価指標」</b> 研修会の実施回数：年3回以上かつ年間の参加者数を卒業生・一般で100名以上	IV	<p>・令和5年度は3回開催し、延べ95名が参加した 第1回「ケア環境研究所の夏野菜を活用した料理教室」令和5年8月19日 参加者32名 第2回「臨床現場の研究報告会」令和5年9月30日 参加者22名 第3回「旭松食品共催こうや豆腐を活用した料理教室」令和5年3月9日 参加者41名 ・今年度は昨年度のWEBアンケート結果をもとに企画した。臨床現場での研究報告会では、研究に興味があるが実施できていない卒業生を中心に参加があり、実施後アンケートでは、満足度100%、次回の参加希望100%であった。 ・今年度は卒業生だけでなくその家族や職場の同僚等も参加可能としたが、今後も引き続き卒業生以外の参加も受け付ける。 ・今後希望する内容として、「食育分野の報告会」「異業種交流会（病院、会社、学校等）」などが多かつたため計画に組み込んでいく。 ・今年度は1名の学科内教員、3名の卒業生・修了生、1名の管理栄養士に講師依頼したが、次年度は学科内教員への依頼を増やしていく。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画11-3】</b></p> <p>卒業時に管理栄養士国家試験合格が叶わなかった卒業生に対し卒業後に管理栄養士免許を取得できるように支援する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. 卒業生向け管理栄養士国家試験対策講座を在校生の特別講義と同時開催する。</p> <p>2. 卒業後にガイドラインの改訂などがあった場合は、卒業生対象に講座を開講する。この場合、日常業務と並行しての講座は日程調整で困難があるため、講座は動画配信で開講する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・参加者の合格率50%以上</p> <p><b>【計画11-4】</b></p> <p>既卒であっても本学で栄養教諭一種免許を取得可能とし、学校栄養職員から栄養教諭への任用替えを目指す卒業生への支援策を検討する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>本学科栄養教諭委員が担当し、科目等履修にて栄養教諭一種に必要な科目（栄養教育実習を含む）を修得できる時間割・組織を構築することが将来的に可能か調査を行う。</p> <p>1. 他大学の取組状況から本学で教職科目履修可能な状況を見出し、今後の生涯学習支援がどこまで実施可能か調査研究する。</p> <p>2. 時間割作成について、重点として取り組む。</p> <p>3. 本校勤務者並びに非常勤講師招聘が可能か調査研究する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・調査研究の実施状況等</p>	IV	<p>1. 卒業生向けの対策講座を開催したが、参加者はいなかった。</p> <p>2. ガイドライン改訂などの情報提供を希望した卒業生にメールで情報提供を継続した。また、一部の科目について対策講座の動画配信を始め、卒業生に動画配信の案内メールを配信したが、視聴希望者はほぼいなかった。</p> <p>・上記の通り、講座の希望者がほぼいなかったため、本計画は一旦中断する。一方、次年度から対象を広げる予定の計画11-2「卒後教育の拡充」の中で、本活動も含め卒業生に対し何に注力すべきかについて、再検討する。</p>	IV	<p><b>【年度計画11-3】</b></p> <p><b>「評価指標」</b></p>				
	III	<p>・本大学における科目等履修に対する規定に従い、医療栄養学科において、卒業生の教職科目履修の支援がどこまで実施可能か調査した。組織については、学科内の教職課程委員会が対応するだけでなく、全学的な組織である教職課程委員会が対応することも必須であると判明した。また、時間割内の受講は可能であると判明した。</p> <p>・一方、本学卒業生の希望者がほぼいなかったことから、本計画を単独で進めることは一旦中断することにした。その上で、今後は、次年度から対象を広げる予定の計画11-2「卒後教育の拡充」の中で、本計画も含め、何に注力すべきか、改めて検討していく。</p>	III	<p><b>【年度計画11-4】</b></p> <p><b>「評価指標」</b></p>				



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画11-5】</b> </p> <p>古代食の再現研究について、独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館との共同研究を引き続き実施し、研究成果を学術雑誌やシンポジウムの開催を通じ、成果発表を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所・国立歴史民俗博物館との共同研究(令和5年度)と科学研究費助成金基盤研究A「東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病」(令和6年度まで)の研究を通して、古代食研究の成果を今後学術雑誌やシンポジウムなどで報告する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・共同研究等の取組状況と成果報告</p> <p><b>【計画11-6】 (令和5年度より新規)</b> 学生の主体的な学びを推進するため、学修者の支援体制を構築するとともに教員の教育力を高度化して教育の質の向上を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> ・学修ポートフォリオを用いることで、卒業時に目指すべき能力等をどこまで習熟したか、学生自身に振り返りと自己評価を促す。 ・管理栄養士国家試験合格に向け、自身の能力を客観的に分析し計画的に学修できるよう、ガイダンス・学修環境整備・学修指導を行う。 ・教員にアクティブ・ラーニング等の能動的授業の実施を促す。 ・教育内容の充実や教授方法の高度化のため、教員にFD研修会への参加を促す。</p>	III	<p>・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から海外調査は出来なかったが、国内調査に変更して古代の食品の再現実験を行った。国立歴史民俗博物館に加え新たに独立行政法人文化財機構奈良文化財研究所とも共同研究を行い、西大寺食堂院跡出土の遺物について土器の化学分析も加えて共同研究を行った。それに関して令和5年3月に「西大寺食堂院シンポジウム」を開催して、全国に成果報告を公表した。 令和5年3月に吉川弘文館からその成果報告書として、『古代寺院の食事を再現する』を刊行した。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・共同研究等の取組状況と成果報告</p>	<p><b>【年度計画11-5】</b> 科研費基盤Aの国内での古代食研究国内調査の実施。 ①奈良を中心として発酵食品の研究 ②静岡県沼津市・西伊豆町を中心とする遺跡・遺物の調査と古代堅魚製品の再現</p> <p><b>【年度計画11-6】</b> ・各セメスターの終了時に、学修ポートフォリオを用いた振り返りと自己評価を学生に指導する。 ・能動的・計画的に国家試験対策を実行できるよう、自習室の確保、ガイダンスや模擬試験の実施、ICT活用による個別最適化された教材や対策講座の提供などを行う。 ・教員にアクティブ・ラーニング等の能動的授業の実施を促す。 ・教育内容や教授方法の高度化のため、教員にFD研修会への参加を促す。</p>	IV	<p>・奈良文化財研究所と本学で再現実験を行い、試料についても調理学・食品衛生学・栄養学などの分析を行い、成果を出した。またその成果についてシンポジウムを行い、『カツオの古代学』として公開する予定である。 ①今年度の研究計画であった発酵食品の再現実験であるが、奈良県御所市の油長酒造の協力の下、古代米と復元須恵器を用いた古代酒の再現実験を行い、『長屋王の酒を醸す』(庄田慎矢編吉川弘文館2024年刊行予定)に「古代史料に見える壺酒づくり」として発表する予定。 ②静岡県西伊豆町において地元の企業と協力して、古代の堅魚製品の再現実験を行った。この成果は『カツオの古代学』(三舟隆之・馬場基編吉川弘文館2024年刊行予定)で発表する。</p>	III	<p>・新年度ガイダンスで学生に学修ポートフォリオについて説明を行った。また、教員へは教授会で、学生に学修ポートフォリオの作成と提出を促し、学修ポートフォリオをもとに指導することを依頼した。学生にはWebClassで提示されるディプロマサプリメントからfGPA値を読み取り学修ポートフォリオに記入させたのち、自己分析と次期セメスターの目標を記載させ、WebClassで提出させた。アドバイザーは提出された学修ポートフォリオを学生指導で利用した。学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合は、89.1%であった。(1年生：90.3%、2年生：83.5%、3年生：94.7%)</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合95%（令和8年度）</li> <li>・管理栄養士国家試験合格率 全国平均以上</li> <li>・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合 55%（令和8年度）</li> <li>・FD研修会に参加した教員の割合96%（令和8年度）、授業評価アンケート学科平均値が前年比で2%増</li> </ul> <p><b>【計画11-7】（令和5年度より新規）</b> 専門性を高めるための基盤となる基礎学力を向上させるため、リメディアル教育を充実させ、その教育を継続する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生の学力把握とその結果に基づくリメディアル教育の実施</li> <li>・リメディアル教育の継続的な改善</li> </ul> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リメディアル関連科目受講推奨者の履修率100%</li> <li>・令和5年度リメディアル国語開設</li> <li>・リメディアル教育の改善実施</li> </ul>		<p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修ポートフォリオにより学修の振り返りと自己評価を行った学生の割合80%</li> <li>・管理栄養士国家試験合格率 全国平均以上</li> <li>・アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合 45%</li> <li>・FD研修会に参加した教員の割合90%、授業評価アンケート 学科平均値が前年比で2%増</li> </ul> <p><b>【年度計画11-7】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生の学力把握とその結果に基づくリメディアル教育の実施</li> <li>・リメディアル国語開設に向けた準備と教育実施</li> </ul> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リメディアル関連科目受講推奨者の履修率100%</li> <li>・リメディアル国語開設</li> </ul>		<p>Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的及び計画的に国家試験対策ができるよう、国家試験対策委員や外部講師によるガイダンスを実施した。試験問題への挑戦、教員による授業、外部講師を招いての対策講座を、1回2時間を目標に、45回実施した。模擬試験は5回実施した。また、WebClassで国家試験の過去問を、オンラインで受講できる駿台グループの管理栄養士教育支援システムを提供した。また、事務部と協力して学生が自習できる教室やスペースを確保した。第38回管理栄養士国家試験の合格率は、本学：64.6%、全国：80.4%（前年 本学：60.6%、全国：87.2%）であった。</li> <li>・外部講師を招き、「医療系カリキュラムにおける知識教授を目的としたアクティブ・ラーニング」のFD研修会を実施した。アクティブ・ラーニングを取り入れている講義・演習の割合は、60.4%であった。</li> <li>・教授会及び電子メールで、学科内教員及び全学教員へFD研修会への参加を呼び掛けた。FD研修会に参加した教員の割合は、75.0%であった。授業評価アンケートでは、学科平均値が前年比で8.7%減少した。ICTの活用やアクティブラーニングの取り入れなど、学修の充実に関する情報提供を継続し、授業評価アンケート結果の改善を図る。</li> <li>・入学時の化学・数学・英語テストの平均点は前年度新生とほぼ同等であり、入学区分別では、例年通り総合選抜・推薦の方が一般・共通テストよりも低い傾向。一方、今年度開始の国語のテストに入学区分別の差はなかったが、大学生としては不十分な得点。</li> <li>・テストの低得点者に対し、オリエンテーション時、授業後の対面、メールを利用し、リメディアル関連科目の受講を推奨。結果として、低得点者の受講率は、基礎数学84%、化学I 100%、リメディアル国語32%。リメディアル国語は今年度から開始した科目であるが、単位認定のない科目であることが低受講率の原因と推測。</li> <li>・リメディアル国語受講者のアンケートによる満足度は高く、科目として必要と考えられたため、次年度から選択科目として「実用国語」を開設することに決め、開設の準備を実施。</li> </ul>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>○医療保健学部医療情報学科</b>  <b>【計画12-1】</b>            Society5.0に基づくヘルスケア情報人材像を確立し、高等学校、実習先、就職先・進学先など社会におけるステークホルダーからの信頼を勝ち取る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            Society5.0におけるヘルスケア人材像やその背景の書籍化及びカリキュラムの見直し・実装等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学定員に占める学生の割合100%            ・実習先の実習系科目における肯定的な指導者評価75%超            ・就職先における肯定的な上司評価75%超</p> <p><b>【計画12-2】</b>            卒業生への生涯学習支援として、卒業後の資格試験取得に向けた学習サポートを実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            卒業生向けの医療情報技師等の資格試験講座を開講する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・卒業後3年以内の推奨資格（医療情報技師等）取得者15名以上</p> <p><b>【計画12-3】</b>            紀要・学会誌への投稿を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            紀要・学会誌への投稿がスムーズにできるための問題点を抽出し、今後のアクションとスケジュールを決定する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・学科全体として、英語論文を3本/年以上公表</p>	III	<p>1. 学科教員および有識者に執筆を依頼し、原稿の収集は9割程度終了した。校正作業を進めており、令和5年度前期中に出版予定である。</p> <p>2. カリキュラムの見直しを行い、学生の多様性に対応できるように選択科目を多く配置する。令和5年度年度入学生より、新カリキュラムを実施する。</p> <p>・令和5年度の入学定員に占める学生の割合は60%で、目標不達となった。学生募集部主体から、学科教員、世田谷事務部が一体となって、募集活動に取り組む体制に再構築を行っている。</p> <p>・病院実習における肯定的な指導者評価は100%であり、今後もこれを継続したい。</p> <p>就職先における上司評価は、新型コロナウイルス感染症による面会制限もあり、令和4年度は調査が行えていない。令和5年度中に実施できるよう検討したい。</p>	III	<p><b>【年度計画12-1】</b>            1. アドミッションポリシーの見直し・実装。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学定員に占める学生の割合100%            ・実習先の実習系科目における肯定的な指導者評価75%超            ・就職先における肯定的な上司評価75%超</p>	III	<p>・2023年度入学者から新カリキュラムを適用し、その新DP/CPに基づくアドミッションポリシーの適用を行っている。</p> <p>・入学定員に占める学生の割合は60%を下回っており、入試広報部、世田谷事務部とも連携して抜本的な対策が急務である。</p> <p>・新カリキュラムに基づく人材像を取りまとめた書籍を刊行したため、これを配布するとともに実習先や就職先からの評価を定期的に調査しはじめている。現時点では肯定的な評価が多いので、その調査結果を2024年度に取りまとめたい。</p>		
	II	<p>・卒業生の就職先企業における資格取得講座を継続し、12名の若手社員（本学以外の卒業生も含む）は受験し、6名が合格または科目合格した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり対象拡大できていないが、より多くの卒業生に還元できるよう方法等の見直しを行っていききたい。</p>	II	<p><b>【年度計画12-2】</b>            前年度計画記載以外の卒業生にも資格取得ニーズがないか把握する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・卒業後3年以内の推奨資格（医療情報技師等）取得者15名以上</p>	II	<p>・卒業生の就職先企業における資格取得講座を継続し、3名が合格した。新型コロナウイルス感染症の影響もあり対象拡大できていないが、より多くの卒業生に還元できるよう方法等の見直しを行っていききたい。</p>		
	II	<p>・国際会議抄録(Proceedings)の掲載実績はあったものの、英語論文(Paper)の掲載実績はみられなかった。なお、医学中央雑誌における令和4年度の一人あたり記事数は0.81本/人であり、大学全体の0.77本/人よりは若干高いものの、十分とはいえないので改善を図っていく。</p>	II	<p><b>【年度計画12-3】</b>            英語論文を2本以上投稿する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・英語論文の投稿状況</p>	IV	<p>・英語論文の掲載が1件及び掲載決定が1件あり、目標を達成した。このほか国際学会発表が4件あった。徐々に国際学会での発表が復調し始めているので、その成果を学科のブランディングにもつなげていきたい。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>○東が丘看護学部</b> 【計画13-1】⑦</p> <p>全領域で「自ら考え判断し行動できる自律した看護師」の育成を目指し、学生が主体性を発揮できる学習活動（アクティブラーニング）を取り入れた授業（講義・演習）を実施（導入・継続）する。</p> <p>また、“tomorrow's Nurse”が目指す看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得に向けて、毎年20%ずつの演習科目の内容・方法を検討し、令和8年度には全ての演習科目の見直しを行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1.各領域で新たに取り組むテーマを1つ以上決定し、それに対する行動計画および実施・評価を報告する。令和8年度までには全領域、全科目において検討する。</p> <p>2.領域間で情報を共有し、看護過程展開の事例や看護技術項目等の効果的かつ効率的な配置に関する検討を毎年1回ずつ行い、令和8年度の完了を目指す。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況</p> <p><b>【計画13-2】⑦</b></p> <p>ボランティア活動やボランティアサークルが定着し、4年間を通じて学生一人が最低1回はボランティア活動に参加する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. 学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。</p> <p>2. コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。</p> <p>3. 学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。</p> <p>4. ボランティア活動・ボランティアサークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・各種ボランティア活動の参加状況</p>	IV	<p>1. 全領域でアクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）に取り組み、その達成状況はほぼ100%であった。また、全領域の計画・実施・評価に関する資料（全4ページ）を作成し、全領域で共有した。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。</p> <p>2. 全領域で演習科目および技術項目を決定し、方法・内容を見直しに取り組み、その達成状況はほぼ100%であった。また、全領域の計画・実施・評価に関する資料（全4ページ）を作成し、全領域で共有した。今年度は看護過程の展開事例について情報交換を行った。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。</p>	IV	<p><b>【年度計13-1】</b></p> <p>1.各領域の特性や各科目の学習目標に合わせ、アクティブラーニングを取り入れた効果的な授業計画・展開する。また、各領域で実施しているアクティブラーニングに関する情報を共有する。</p> <p>2. 看護実践能力の基盤となる知識・技術の修得に向け、各領域で年度内で検討する演習科目および技術項目を決定し、演習内容・方法を見直す。また、各領域での検討内容をカリキュラム委員会で共有し、全体での調整を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・アクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）の実施状況及び演習科目の見直し状況</p>	IV	<p>1. 全領域でテーマや計画に沿ってアクティブラーニングを取り入れた授業（講義・演習）に取り組んだ（100%）。それぞれのKPI・計画・実施状況および評価（達成度を含む）に関する資料（全4ページ）を作成し、全領域で共有した。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。</p> <p>2. 全領域で演習科目および技術項目を決定し、方法・内容を見直しに取り組んだ（100%）。それぞれのKPI・計画・実施状況および評価（達成度を含む）に関する資料（全4ページ）を作成し、全領域で共有した。以上2点から、今年度の取り組みは達成率100%とした。</p>		
		IV	<p>1. 2. 3. 4. コロナ禍の影響を引き続き受けており、登校制限や学生サークルの活動の自粛がみられた。また、コンタクトグループの活動もICTによるミーティングのため、参加率も低下していた。</p> <p>しかし、今年度より、目黒区との地域連携を推進するため10月9日（日）に開催された「第46回目黒区民まつり」に学生ボランティアを10名派遣した。</p> <p>また、東京医療センター主催の災害訓練に80名のボランティア学生を派遣し、さらに目黒区消防団に135名登録しており、約450名の東が丘看護学部の学生が4年間で最低1回のボランティア活動に参加するという目標は達成できていると考えられる。</p> <p>今後は年度計画を遂行していくと共に、新規で参加する学生やボランティア活動を増やしていきたい。</p>	IV	<p><b>【年度計画13-2】</b></p> <p>1. 学友会や学生サークルと連携し、学生のリクルートを積極的に行う。</p> <p>2. コンタクトグループの前後に学生に連絡を行い、情報を周知する。</p> <p>3. 学生サークルの活動が円滑に行えるようにサポートする。</p> <p>4. ボランティア活動・ボランティアサークルの推進について、学友会と連携を取り支援していく。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・各種ボランティア活動の参加状況</p>	IV	<p>・コロナ禍も落ち着いてきており、多少の活動制限はみられたが平時の活動に戻りつつある。その一環として、コンタクトグループも対面での活動に移行した。</p> <p>・目黒区との地域連携を推進するため10月8日（日）に開催された「第47回目黒区民まつり」に学生ボランティア5名及び教職員3名を派遣した。</p> <p>・東京医療センター主催の災害訓練に約110名のボランティア学生を派遣した。また、目黒区消防団に173名登録しており、約450名の東が丘看護学部の学生が4年間で最低1回のボランティア活動に参加するという目標は達成できていると考えられる。</p> <p>今後は年度計画を遂行していくと共に、新規で参加する学生やボランティア活動を増やしていきたい。</p>	

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>○立川看護学部</b> 【計画14-1】⑦</p> <p>立川看護学部の「地域から信頼される看護師の育成」を基本とし、新カリキュラムの導入により、高い実践力と判断力を身に着けた看護師の育成を目指し、学生が主体的に学ぶことができるよう、講義・演習・実習を連動させ、これまでの学修成果を見直し、新たな教育手法の導入と改善および教育環境を整備する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1.新カリキュラムの導入、及び各領域の特性や学習目標に合わせた教育手法を用い、学生が主体的に学ぶことができる教育環境を整え、効果的な授業を展開する。また、学習成果を可視化し、授業内容の改善を図る。</p> <p>2.看護技術項目（令和4年度から導入）の各演習・実習での修得度を評価し、卒業時点での看護技術の修得度を高める。</p> <p>3.副専攻「災害看護学コース」の教育を1年次から4年次まで系統的に実施、また、災害医療センターと連携し教育内容の充実を図る。さらに、地域と協働した避難訓練参加などの学習の機会（地域貢献・ボランティア）をもつ。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの導入状況</li> <li>・看護技術項目の習得状況</li> <li>・災害看護学コースの教育内容充実状況</li> </ul>	<p>III</p> <p>1.全科目についてアクティブラーニング（AL）の実施状況について調査を行い、実施率は95%で、82%の科目で複数のALが実施されていた。これらの結果を踏まえ、全教員参加によるFDを開催、ALに関する情報共有とディスカッションを行った。ALに関しては、現状の把握と課題抽出ができたことから評価する。</p> <p>IV</p> <p>2.卒業時の看護技術の到達度については、実習検討委員会で分析を行っており、習得状況については情報を共有した。また、各領域で技術経歴表にある技術項目を学習するかの確認を行った。講義・演習・実習により、項目ごとの到達度を評価する時期と、技術項目の表記が新カリから変更しており、到達度の評価が適切かどうかを確認することも今後の課題である。</p> <p>III</p> <p>3.令和2年カリキュラムから、災害看護学に関し、必修科目5科目・8単位となっている。災害看護学の科目担当者と、これまでの学修成果について検討を行った。学年進行に伴い、災害看護学Ⅰ～Ⅲで段階的に実践力を高めるものとなっているが、授業内容に重なりがあること、また、総合的な災害に対応する実践力の強化のための知識・技術および地域を見据えた防災・減災の学習が必要であるとの課題が明らかになった。</p>	<p><b>【年度計画14-1】</b></p> <p>1.アクティブラーニングの導入・ICTの活用等について、全科目の20～25%の見直しを行う。</p> <p>2.前年度より達成度の割合の増減を評価する。令和8年度の目標値の達成を目指す。</p> <p>3.新カリキュラムの進捗状況とともに、災害看護学コースに関連する全ての科目の学修評価・改善に取り組む。毎年、2～3科目の見直しを行う。また、副専攻災害看護学コースに規定された単位数を修了した場合は、修了書を渡す。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの導入状況</li> <li>・看護技術項目の習得状況</li> <li>・災害看護学コースの教育内容充実状況</li> </ul>	<p>III</p> <p>1.新カリキュラムの進捗状況：新カリキュラムは1・2年次の学生に提供している。今年度は科目ナンバリング、新カリキュラムのマップとツリーの作成、科目ナンバリング表の作成を行い、カリキュラム全体の総確認をした。結果、新カリキュラムのDPに向けた学習の積み重ね状況を確認・整理し、学修の基盤強化を図る内容を取り入れ、授業ガイダンスにおいて学年進行に伴う学修の積み重ねや科目のつながりについて説明を取り入れた。学生が学習において困難に感じる科目等については2024年度より、初年次教育を開講し、学習のサポートを実施していくこととした。今年度より、学内教員による講義では、ほぼすべての講義でPCを用いた試験を取り入れた。</p> <p>III</p> <p>2.看護技術項目に関しては、全ての実習が終了した4年次生に調査したところ、到達度60%以上の項目が95%であり、到達していない項目は、178項目中9項目（5%）しかなかった。コロナの影響で病棟にいる時間が制限された学年であったものの、その中でも十分修得できたと考えられる。</p> <p>III</p> <p>3.副専攻・災害看護学コースでは113名が必要な単位数を獲得し、修了証を授与する。講義内容の重複を解消すること、より総合的な災害に対応する実践力を強化すること、科目間のつながりを重視し学生の学習の進捗を素早く把握してフィードバックすること、振り返りによる学習の積み上げ効果を図るために副専攻の科目運営を看護基盤学が担当することとした。また、DXの推進の一環で災害看護学の演習においてVR教材の開発を行い、災害時特有のリアリティさを伴う状況判断力を養う教授方法の特徴を出し、さらに、産学連携並びに災害拠点病院や立川防災基地（防衛省、警察庁、消防庁、立川市）との連携により効果的な授業を展開していくこととした。</p>						

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画14-2】</b>            学生の国家試験対策や就職支援を強化するとともに、卒業後の支援体制を構築する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 看護師国家試験合格100%をめざす。            2. 8月末までに就職内定90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率100%をめざす。            3. 卒業後の支援体制を構築する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・ 看護師国家試験合格状況            ・ 就職内定状況            ・ 卒業後の支援体制の構築状況</p>	III	<p>1. 自己採点結果での判断ではあるが、必須問題はクリアしているが、一般状況設定問題の合格ラインが64%以上なら1名不合格となる。受験勉強していない学生が親の勧めで受験をし、56%しか取れていない。</p> <p>2. 100%就職の内定は頂いたが、卒業前に看護師以外の道を選ぶ学生が出てきたため評価を引き下げた。</p> <p>III</p> <p>3. 卒業生のメールアドレスを作成中であるがまだ、3割程度である。更に、就職先も変更している状況であり。連絡先の確保ができていないが、卒業生に演習指導の協力が得られ、本人たちからも「今後も協力したい」という要望が聞かれた。</p> <p>I</p> <p>・ 次年度は、連絡先が分かる学生からホームカミングを実施しているように計画立案する。</p>	<p><b>【年度計画14-2】</b>            1. 看護師国家試験合格100%をめざす。            2. 8月末までに就職内定90%以上（進学希望者を除く）、卒業時就職・進学率100%をめざす。            3. 卒業後の支援体制を構築する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・ 看護師国家試験合格状況            ・ 就職内定状況            ・ 卒業後の支援体制の構築状況</p>	III	<p>1. 本年度は成績不振者の下位20名に対し、業者の講義を入れ、全員合格対策の一つとした。自己採点結果では、受講した学生は全員ではないが合格ラインに入ってきており、受講を進めたが、金銭的理由から受講しなかった学生は、合格点に達していない結果であった。最終的な合格者は110名（97.3%）であり、全国の大卒平均93.5%より高いものの、目標の全員合格には届かなかった。</p> <p>IV</p> <p>2. 就職に関しては、8月末の時点で内定率78%だったが、報告が遅れている学生に再確認したところ内定率は90%に達し、10月10日時点では94%であった。最終的に1名は看護師に向かないと判断し病院ではなく一般企業に就職したが、他の学生は希望施設へ就職や進学ができたため、目標の100%を達成したと判断した。</p> <p>II</p> <p>3. 卒業生支援体制として、3月6日にホームカミングディを初めて実施した。卒業生のメールアドレスが分かる342名に連絡したが、アドレス変更などのためにうまくメールが届かない状況が多く見られた。把握できる卒業生のLINE等も駆使したところ84名から連絡があり、1期生を中心に14名の参加があった（連絡が2月でと遅かったのので、参加したいがシフトが調整できないという意見が多く寄せられた）。1期生はちょうどステップアップや転職等を考える時期であり、特定行為研修を受講した1期生に受講までの経緯を報告してもらったのを始め、転職した人には転職前後の経緯を報告してもらったり、結婚した人や子供がいる人にはワークライフバランスに関する状況を報告してもらうなど、各自が近況報告をし、その内容についてディスカッションすることで様々な環境とその対処方法について考える機会になり好評であった。終了後アンケートでも、参加者の満足度が高かったため、来年度は12月に案内を出し、3月に開催することとしたい。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画14-3】 立川看護学部の学生支援を充実させる。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年80%以上に維持する。</li> <li>2. 新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を80%以上にする。</li> <li>3. 医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日80名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア10名以上を確保する。</li> <li>4. ボランティア活動参加の活性化を図る。</li> </ol> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンタクト・グループミーティングの出席状況</li> <li>・新入生合宿研修の満足度</li> <li>・医愛祭での来場者、学生ボランティア数</li> <li>・ボランティア活動の参加状況</li> </ul>	III	1. 前期は全学年80%以上の参加率であったが、後期は4年生の参加率が低下していたため評価を引き下げた。	III	1. コンタクト・グループミーティングの出席率を各学年80%以上に維持する。	III	1. コンタクト・グループミーティングの出席状況は、前期開催80.5%、後期開催62.2%であった。		
	II	2. 3年ぶりに新入生研修が行われたが、今回は学生支援センターが企画運営し、学部（学科）では企画運営に関与していない。	II	2. 新入生合宿研修での学科プログラムの企画運営を効果的に行い、参加学生の満足度を80%以上にする。	II	2. 新入生合宿研修の形態およびプログラムが変更となり、学科プログラムが無くなったため、評価不能である。		
	IV	3. 3年ぶりに令和4年11月5日、6日に医愛祭が行われ、学部（学科）企画を行った。両日とも80名以上の来場者があり、災害に関する認識ができた等の意見が多かった。	IV	3. 3年ぶりに令和4年11月5日、6日に医愛祭が行われ、学部（学科）企画を行った。両日とも80名以上の来場者があり、災害に関する認識ができた等の意見が多かった。	IV	3. 医愛祭での立川看護学部の企画イベントで地域に貢献する。両日80名以上の来場者を確保するとともに、学生ボランティア10名以上を確保する。		
	IV	4. 事務部を通して、立川市、立川警察署、日赤等のボランティア募集のアナウンスができた。	IV	4. 事務部を通して、立川市、立川警察署、日赤等のボランティア募集のアナウンスができた。	IV	4. ボランティア活動参加の活性化を図る。		
		・学生の各種ボランティアへの参加は増加しているが、個別には現状が把握しきれないため、今後は学生のボランティア参加経験についての現状把握を行う。		・学生の各種ボランティアへの参加は増加しているが、個別には現状が把握しきれないため、今後は学生のボランティア参加経験についての現状把握を行う。		4. 学生ボランティア活動は、立川消防団、赤十字奉仕団、立川シテイマラソンなどへの学生の主体的な参加と活発な活動があり、ボランティア活動の活性化が図れた。情報提供は3回以上実施できた。医療機関や老人保健施設などへのボランティアは、コロナ等の関係でまだ控えることにした。		
		・老人保健施設でのボランティア募集に際し、学生のボランティアの参加応募があった。		・老人保健施設でのボランティア募集に際し、学生のボランティアの参加応募があった。				
				・ボランティア活動に関する情報提供を年3回以上行う。				
				・4年間を通じて学生一人が最低1回はボランティア活動に参加する。				
				・医療機関や老人保健施設などにおける学生ボランティアの参加や病院でのコンサートへの参加協力などを、年に1回以上行う。				
				【評価指標】				
				・コンタクト・グループミーティングの出席状況				
				・新入生合宿研修の満足度				
				・医愛祭での来場者、学生ボランティア数				
				・ボランティア活動の参加状況				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画14-4】</b> 実習施設と大学の連携を図り、より良い実習環境を整備した上で、看護師教育の技術項目に対する卒業時の到達度の達成に向けた指導の実施や、質の高い看護教育の実現に向けて大学・実習施設で共同研究を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 実習施設と大学で実習に関する情報や課題を共有し、課題解決や教育効果向上に向けた検討の機会を持つ。 2. 臨床指導者と大学教員とさらなる連携を図り、看護学実習の目的・目標に沿った教育効果の高い実習を行えるよう実習環境や指導体制について検討する。 3. 看護技術経験表の集計、到達度が未達成(60%未満)の項目について委員会対策を検討する。また、学生の到達度評価について教員間で共有し、実習指導に活かす。 4. 大学・実習施設で看護教育に関する共同研究を実施し、学術集会で成果発表を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・看護学実習施設に対する説明会の実施状況 ・看護学実習連携会議の実施状況 ・技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討状況 ・大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究状況</p>	IV	1. 6月23日(木)に各実習施設と立川キャンパスで対面・オンラインのハイブリッド形式にて開催した。全体会として2021年度の実習実施報告、臨地実習実施上の工夫や課題について説明し、20施設(来校5施設)から48名の実習担当者が出席した。	IV	1. 看護学実習施設に対する説明会の実施。(1回/年) 2. 看護学実習連携会議の実施。(1回/年) 3. 技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース4年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。(1回/年) 4. 大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1回以上/年)	IV	1. 6月22日(木)にハイブリッド形式にて開催した。実習施設数19施設(対面:6施設、オンライン13施設)実習担当者48名、教員25名が出席した。 2. 12月11日(月)に災害医療センター、村山医療センター、共済立川病院看護部との共催で、ハイブリッド形式にて開催した。 3. 4年次生に調査した。回収率100%。到達度60%未満の項目は、178項目中9項目(5.1%)。コロナの影響で実施できてなかった技術がモデル人形で実施できたことと転じた項目があった一方で、対人関係やコミュニケーション、家族の状況に関するアセスメントの実施が低い状況があった。コロナの影響で病棟にいる時間が短いなどの実習制限がかかった学年でもあることが影響していると推察された。本結果を実習指導や新人教育等に活かせるよう実習施設に情報共有することも検討する。 4. 第43回日本看護科学学会学術集会にて「看護系大学と実習施設のシームレスな教育連携の検討—実践的な看護師教育体制の構築に向けた取り組み—」について実習施設と交流集会を企画・実施した。看護技術教育に関する研究に組み込み「COVID-19下の多様な実習を経験した新卒看護師の実習形態による看護実践能力の違い」について口演にて成果発表を行った。 5. 今年度より全領域で実習記録を電子化し、看護技術到達度ポートフォリオもF.OESSで一元化した。また、実習記録の標準化を図った。		
	IV	2. 12月12日(月)に主たる実習施設と連携会議をハイブリッド形式で実施した。教員と実習施設の実習担当者や実習指導に関するディスカッションを行い、交流も図ることができた。	IV	2. 看護学実習連携会議の実施。(1回/年)	IV			
	IV	3. 4年次生に調査を実施した。到達度60%未満の項目は、178項目中8項目(4.5%)。感染対策上、留意が必要な技術項目(食事、排泄等)の到達は前年度と同様に到達度が低かった。到達度の低い項目について各領域で到達に向けて検討することになった。	IV	3. 技術経験表の学生の到達度調査及び内容の検討。 ・東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コース4年次生の看護技術卒業時到達度達成の到達度60%以上の項目が90%以上。 ・到達度未達成(60%未満)項目の共有及び対策の検討。(1回/年) 4. 大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1回以上/年)	IV			
	IV	4. 第42回日本看護科学学会学術集会にて「看護系大学と連携実習施設との看護実践力を育むシームレスな教育のあり方」について実習施設と共同で交流集会を開催した。シームレスな卒業教育を見据えた看護技術教育に関する基礎的研究について成果発表(口演・示説)を行った。	IV	4. 大学・実習施設と実習指導に関連する共同研究。 ・大学と実習施設による共同研究の実施。(1回以上/年) ・学術集会での成果発表。(1回以上/年)	IV			
	I	5. 今年度は臨地での実習ができたため、学内実習のための教材作成には至らなかった。来年度以降に臨地実習が可能になれば、学内実習のための教材作成に取り組みたい。また、VRを利用した教材作りも行う予定である。	IV	5. 今年度は臨地での実習ができたため、学内実習のための教材作成には至らなかった。来年度以降に臨地実習が可能になれば、学内実習のための教材作成に取り組みたい。また、VRを利用した教材作りも行う予定である。	IV			



第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画14-5】</b></p> <p>立川市消防団機能別分団(立川市学生消防団)活動の活性化を図ることにより、立川市民の安全・安心を護るとともに学生団員自らの災害医療に対する知識と技能、意欲を育成する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. 新入生オリエンテーション等の機会を利用して、大学の社会貢献活動の重要性を丁寧かつ適切に伝え、学生が主体性を持って入団することを第一とする。また、活動の様子を広くPRし、社会的に認知されていることを入団の意識付け材料とする。</p> <p>2. 訓練・行事への出席率向上について、消防団員は『公務員』であるという自覚と責任感を入念するとともに、地域の担い手として地域住民と接することを説明して出席に対するモチベーションアップに繋げる。また、各種訓練等の日程を予め立川市と調整し、学業に支障のないスケジュールを設定する。</p> <p>3. 上級救命講習の受講について、上級救命講習の概要及び学生消防団にとっての必要性と有効性を説明する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立川市学生消防団に所属する学生数</li> <li>立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席状況</li> <li>上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の状況</li> </ul>	IV	<p>1. 471名の内、151名(32.1%)が消防団に所属していることから全学部生の30%以上の加入を満たしている。</p> <p>2. 概ね各訓練・行事への出席率は30%以上を満たしているが、今年度の出初式(1月8日開催)については、成人式に出席する団員が複数いたことから出席率が30%未達だった。</p> <p>3. 応募期間内に立川市が設けている規定参加枠(60名程度)の人数を満たした。</p>	IV	<p><b>【年度計画14-5】</b></p> <p>立川市消防団機能別分団(立川市学生消防団)活動の活性化。</p> <p>1. 立川市学生消防団に所属する学生数。全学部生の30%以上加入</p> <p>2. 立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席。平均出席率コロナ禍：約30%以上、ポストコロナ：約50%以上</p> <p>3. 上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける。学生消防団員の10%以上(新設)</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立川市学生消防団に所属する学生数</li> <li>立川市学生消防団における主な訓練・行事への出席状況</li> <li>上級救命講習を受講し上級救命技能認定証の交付を受ける学生消防団員の状況</li> </ul>	IV	<p>1. 立川市学生消防団に所属する学生数は、各学年 32名、39名、34名、37名の計142名であり、全学生数456名の31.1%であった。</p> <p>2. 1年の任命式は30名(21%)であったが、11月の総合防災訓練は17名(12%) 1月の出初式は20名(19%、4年生は除く)であり、年間の出席率は15%に留まった。ポストコロナに向け、消防団員としての自覚を促し、出席率の向上を図りたい。</p> <p>3. 上級救命講習の受講者は10名(31%)であり、全団員の資格取得者は67名(47%)となっている。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【計画14-6】 立川看護学部が目指す看護師像を情報発信するとともに、立川看護学部の人的リソースによる魅力あるオープンキャンパス、個別見学会等を企画・運営し、参加高校生の満足度を向上させる。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生募集部と協働し、広報企画参加者の満足度とニーズに関する量的、質的データを収集できるアンケートを作成し、実施する。 2. 広報企画参加者アンケートの結果を検討して次のオープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、個別見学会、入試説明会、大学案内パンフレットなどの内容を検討する。 3. 在校生、教員、事務部職員などの人的リソースを活用した、参加者に近い感覚の学生メッセージ、学生と両親が関心を持てる学部紹介とキャンパスツアー、大学の授業内容に触れる学科企画プログラム、模擬講義、学生や教員によるフランクで楽しい各種プレゼンテーションなどを企画運営する。</p> <p>「評価指標」 ・来校型・WEB型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催状況 ・来校型による、個別見学会の開催状況 ・来校型・WEB型による入試説明会の実施状況 ・出張講座の実施状況</p>	IV	<p>1. オープン・ミニオープンキャンパスを合わせて3回開催した。そのうち2回が来校型とWEB型のハイブリッド、1回が来校型単独であった。来校型の参加者は年間計約700人であった。実施後参加者アンケートには回答者のほとんどが満足と答えた。</p> <p>2. 個別見学会を来校型学科説明会に機能拡大して開催し、これを含めて学科説明会を計5回、入試説明会を1回開催した。これらへの参加者は年間約300人であった。参加者アンケートには回答者のほとんどが実施後アンケートには回答者のほとんどが満足と答えた。</p> <p>3. 来校型学校推薦型入試説明会1回、WEB型の高校教員対象大学説明会1回、全学部対象一般選抜入試説明会1回を開催した。参加者アンケートには回答者のほとんどが実施後アンケートには回答者のほとんどが満足と答えた。</p> <p>4. 出張講座を計5回行った。対象高校の希望で実施後アンケートは行わなかった。しかし、どの回も受講高校生の反応はとても良く、毎回の質問なども活発で、拍手なども盛んに受けた。これらのことから参加者満足度は70%以上と判断した。</p>	IV	<p>【年度計画14-6】 1. 来校型・WEB型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催。 ・オープン・ミニオープンキャンパスの開催数。3回 ・オープン・ミニオープンキャンパス参加者。満足度70%以上 2. 来校型による、個別見学会の開催。 ・個別見学会の開催数。3回以上 ・個別見学会の参加者。満足度70%以上 3. 来校型・WEB型による、入試説明会の実施。 ・入試説明会開催数3回以上 ・入試説明会参加者。満足度70%以上 4. 出張講座の実施。 ・出張講座開催数。1回以上 ・出張講座参加者。満足度70%</p> <p>「評価指標」 ・来校型・WEB型による、オープン・ミニオープンキャンパスの開催状況 ・来校型による、個別見学会の開催状況 ・来校型・WEB型による入試説明会の実施状況 ・出張講座の実施状況</p>	IV	<p>1. 広報イベントの実施状況 全広報イベント参加者合計：753組（約1520名） 1) 参加者授業体験型オープンキャンパス 目的：参加者が在校生、教員、授業などに直接触れ、本学部を良く知るための学部紹介 計3回 609組（約1220名） 参加者満足度 80% ①3月115組 ②6月189組 ③8月307組 2) 入試説明会 目的：詳しい入試情報を得たい高校生への情報の提供 計2回130組（約260名） 参加者満足度 80% ① 9月 総合型選抜対象 84組 ②10月 学校推薦型選抜対象 46組 3) WEB入試説明会 全学合同の学部紹介 参加者満足度 未調査 ①2023年12月18日～2024年2月28日 約190名閲覧 4) 学科説明会の回数と参加組数 0Cを要約した形の短時間の学部紹介で、個別見学会の規模を拡大して開催。 参加者満足度 80% ① 6月 教員対象 16名 ②11月 一般公募受験者対象 15組（約30名） ③12月 一般公募受験者対象 15組（約30名） 5) 出張講座（高校からの要請に基づく看護職と学部の紹介）の実施校 ただし、参加者満足度は未調査 ①埼玉県立松山女子高等学校（7/13） ②東京都立松が谷高等学校（10/26） ③都立府中高校（12/19）</p> <p>2. 広報イベントへの在学生の年間協力数 1年生：8名、2年生：8名、3年生：21名、4年生：27名</p> <p>3. 広報イベントの成果 参加者アンケートから満足度は非常に高いことが把握された。特に本学部の状況を在校生から直接説明を受け、相談できたことが本学部の状況を把握するうえで、大変良かったという意見が多かった。これらのことから広報イベントは大きな成果を上げ、下記の結果を得ていると判断する。 1) 総合型選抜の受験者の広報事業参加率 2023年 受験者数88名中86名参加 98% 2) 学校推薦型推薦選抜の受験者の広報事業参加率 ①公募制 2023年 受験者数50名中48名参加 96% 2022年 受験者数50名中43名参加 86% ②指定校 2023年 受験者数25名中23名参加 92% 2022年 受験者数23名中22名参加 96%</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画14-7】 学生・教職員の研究推進のため、図書室の利用促進を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 図書室の申し込みの手続きを利用者の利便性に配慮して、簡便な方法に改善するとともに、文献利用を促すためのPRを定期的に発信する。また積極的な利用を推進するため、利用者の関心が高まるような新刊図書のPRを行うとともに、文献貸出を促すためのPRを定期的に発信する。</p> <p>「評価指標」 ・ ILL申し込み人数の状況 ・ 立川図書館の貸し出し状況</p> <p>○千葉看護学部 【計画15-1】 未来に向けた主体性を涵養する教育を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 (1) 学生がビジョンに照らして自己評価できるプログラムとしてポートフォリオを導入し、効果的に運用されるよう仕組みを整備する。</p> <p>「評価指標」 ・ ポートフォリオシステムの整備状況、学年別ガイダンスの実施状況、ビジョンについてのポートフォリオの記録回数・実施人数</p>	III	1. 図書館月次報告では達成率が76%であった。昨今は無料PDF公開も多くなっていることも要因である。さらに学生は、図書館から文献依頼ができることを知らない学生もいるため、文献依頼の方法を周知していくことが課題である。	III	1. ILL申し込み人数が令和3年度前期は67件（2～29件/月）を1.25倍の83件を目指し、年間166件をめざす。	I	1. ILL申込人数は、3月～2月で52件であった。文献のオンライン化（無料PDF公開を含む）が進んでいるため、ILLの申し込みが減少していることが考えられる。実際に、申し込みのあった約半数の文献が無料PDF公開で入手可能であったためキャンセル扱いになっている。よって、年度計画を一度見直す必要があるかもしれない。		
	IV	2. 2月末の時点で19%増の4195冊を達成した。図書の貸し出し数は増加しており、講義や演習、その他国家試験対策等で図書館の利用を促していることが要因と考える。	III	2. 立川図書館の貸し出し冊数（図書および雑誌）は令和2年度3,523冊であり、令和5年度もコロナ禍が継続していることから昨年度より2%増の3,594冊（7増）をめざす。	III	2. 貸し出し冊数は、4月～2月で3567件であり、ほぼ目標数に達していた。		
	III	1. (1) ・ 令和5年度からのLMSを用いた学修ポートフォリオの導入に向け、検討を行った。また、学生に対して具体的な履修につながる学年別ガイダンスを定期的実施した。ポートフォリオの試行とガイダンスについては新年度に年2回程度行う計画とした。	III	1. 主体的に学修できる仕組みと環境を整備する。 (1)①LMSを用いた学修ポートフォリオの利用を拡大する。 ②学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。	III	1. (1) ・ 学修ポートフォリオの運用に関して教務委員会で検討後、申し合わせについて学修支援委員会でも検討を行った。両委員会が共同し、運用申し合わせを作成した（運用検討会議各委員会が1回ずつ開催）。ポートフォリオに関する学年別ガイダンスを2024年2月および3月に計2回行い、1～3年生の各学年複数名の学生が入力を試みた（正確な人数は、システム上教員が把握できず）。令和6年度は評価指標を再検討し、活用を促進する。		
				「評価指標」 ・ ポートフォリオシステムのトライアル運用に関する評価改善会議（2回）、ポートフォリオに関する学年別ガイダンスの実施（2回）トライアルへの参加人数（20人/学年）				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		III	IV		III		IV		
<p>(2) 早期から看護職としての意識を高めるため、1年前期から看護の現場での演習を実施すると共に、授業内外で、看護職や人々の健康に関する講演会・イベント等の参加機会を提供するなど、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。</p> <p>「評価指標」 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数、看護学概論の授業評価、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数、参加人数、学生ボランティアの割合、情報提供の頻度</p>	III	<p>1. (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からの講演会やイベントの案内は9回（学内1、学外8）であり、その他学会やイベント等のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数については、学内の地域交流イベントに20名、大学で取りまとめた災害訓練は32名であったが、それ以外は任意参加としておりの把握はできていない。</li> <li>・学部の保健医療福祉関係者の授業は1年生14回、2年生8回、3年生4回、4年生1回の計27回、加えてJCHO船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義が上記分を除き67回実施されており、十分に行われている。</li> <li>・令和4年度は、4年間のカリキュラム全体を通して、4年次生にDPに照らした評価調査と学習環境に関する評価調査を行ったが、1、2、3年次生や教員への評価調査は行っていない。</li> <li>・次年度以降は、評価調査を実施する予定である。</li> </ul>	<p>②①講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。</p> <p>②外部の保健医療福祉関係者の授業の実施状況（特に低学年）を確認し、次年度に反映させる。</p> <p>③前年度の評価を受け、①を活用しながら、改善計画を立案する。評価調査の対象として学外の授業関係者からも聴取を行う。</p> <p>「評価指標」 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（1回/各学年）、看護学概論の授業評価（肯定的評価が7割以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1回）・参加人数（5人/回）、学生ボランティアの割合（5人/回）、情報提供の頻度（3回） ・学外の授業関係者からの聴取（1回）</p>	IV	<p>1. (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業は、各学年複数回行われた。</li> <li>・看護学概論の授業評価は、肯定的評価が7割以上であった。</li> <li>・授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等は、1回以上行われた。本学非常勤教員の看護倫理に関するトークイベントには、1年生が複数名参加した。また、3月24日に開催した地域交流イベントにおける船橋中央病院の医療従事者による講演会には、5名以上の学生が参加し、学生ボランティアは40名以上が参加した。</li> </ul>				
	<p>(3) 自ら学修に取り組む意義と方法との獲得をめざして、主体的な学修資源としての、図書館利用の促進、スタディスキルズに関する教材の提供、国家試験合格に向けて計画的・主体的に取り組むことが出来るような低学年時からのガイダンスや学修環境整備を行う。</p> <p>「評価指標」 ・図書館入館数、貸出数、スタディスキルズに関する教材の視聴率、国家試験合格への取り組みの実施状況及び対策参加状況</p>	III	<p>1. (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入館延べ人数は前年比122%、学部学生、大学院生の資料貸出延べ数は前年比161%であった（令和5年2月末時点）。</li> <li>・学部4年生科目「看護研究」の希望領域を対象に、文献検索ガイダンスを実施した。</li> <li>・スタディスキルズ動画4本を作成・配信したが、アクセス数100にとどまった。また、1年生科目担当者からは、スタディスキルズに関する質問への個別対応件数が多いという情報もあった。次年度は、学生が当該スキルを要すタイミングで、科目担当者より動画視聴を促して頂くよう、FD報告会で教員に向けて動画内容を紹介した。</li> <li>・4年生には国家試験関連ガイダンス等6回、模試6回、有料講座1、II、講座等を実施した。任意有料講座受講者103人/104人（昨年81人/105人）となった。自己学習室も105学生ホールを開放し、感染予防を行いながら、毎日複数の学生が利用していた。3、2年生は任意受験模試を実施したが、2年生は100%受験、3年生は1人のぞき全員が受験した。</li> </ul>	<p>③①～④前年度の点検評価を行い主体的な学修を支援する環境整備の視点から改善点を提案する。</p> <p>「評価指標」 ・附属船橋図書館の入館数、貸出件数が、前年度より増加する ・国家試験対策支援への参加者数増加状況</p>	IV	<p>1. (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入館延べ人数は前年比130%、学部学生・大学院生の資料貸出延べ数は前年比110%であった。（2月末時点の比較）</li> <li>・学部4年生科目「看護研究」の希望領域を対象に、図書館司書の協力により、文献検索ガイダンスを実施、大学院生向けにも同様の動画視聴の機会を設けた。</li> <li>・国家試験対策支援として、模試、ガイダンス、有料講座等を実施した。</li> </ul> <p>【模試】 ・2年生：2回実施し、全学生102人が受験した。 ・3年生：2回実施し、全学生115人が受験した。 ・4年生：保健師模試も含め8回実施し、対象学生全員105人、20人が受験した。</p> <p>【ガイダンス】 ・2年生：3回実施した。学修方法や国家試験理解の促進、模試の振り返りを行った ・3年生：3回実施した。模試の振り返りや学修方法を行った。 ・4年生は、6回実施した。 ・模試、ガイダンスの他に、4年生には有料講座を実施し、105人が受講した。</p>			
<p>2. 入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。</p> <p>入学前からの学修に対する主体性涵養をめざし、主として推薦試験による入学生を対象に、入学前準備プログラムを構築・実施する。</p> <p>「評価指標」 ・入学前準備プロジェクトの参加者数、参加者への入学後アンケート調査結果、入学後の学業成績の分析結果状況</p>	III	<p>2. 総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学予定者63人を対象とした入学前準備プログラムを継続実施した。「大学での学修を知ろうpart2（対面）」は、53人が参加した。協力学生からは入学予定者の質問に応えることができたという評価ももらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度入学生の入学後のアンケート結果では、対象者60人おなかで、不参加者38名。不参加理由は日時が合わなかった（28名）であった。</li> </ul> <p>「評価指標」 ・令和5年度入学生対象の日程は、卒業式が3月を避け、祭日としたところ53名/63名の参加となった。令和5年度入学予定者対象アンケートは令和5年度4月に行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、総合型選抜による入学予定者17人の内、地域交流イベントに11人が参加した。</li> <li>・入学前準備プログラム受講者への入学後の主体性獲得状況調査は行うことができなかった実施についての検討を継続する。</li> </ul>	<p>2. 入学試験合格者に対する学修支援を入学前に開始する。</p> <p>①～③前年度と同様</p> <p>④一般入学試験合格者に対する入学前プログラム実施についての検討を行う。</p> <p>「評価指標」 ・令和3年度比、入学前準備プロジェクトの参加者数10%増加 ・前年度比、プログラムに対する肯定的な評価の割合増加</p>	IV	<p>2. 11月25日（土）に総合型選抜地域指定（千葉）の入学予定者向けに「千葉での実習を知ろう」をテーマに、本学部で行われる千葉県内フィールドに焦点をあてた4年生4名との交流会を実施し、対象者16名中14名の参加を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月23日（金）に総合型選抜地域指定（千葉）および学校推薦型の入学予定者向けに、「大学での学修を知ろう：計画的な学習と学生交流」を開催した。対象者54名中参加希望者47人で、参加者は44人であった。</li> <li>・3月24日（日）千葉看護学部の地域交流イベント企画として、総合型選抜地域指定（千葉）、学校推薦型、一般入試の入学予定者100人を対象に「大学での学修を知ろう 地域交流イベント」への参加と学生交流」を実施した。参加希望者53人で、参加者は49人であった。</li> </ul>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>3. 学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外の学修機会の提供や学修活動を支援する。</p> <p>医療・福祉の現場に関わる機会、健康関連イベントへの参加機会、ボランティア情報の周知及び活動発表やフィードバックを受ける機会の設定を行い、それぞれの学修機会と参加学生を増加させる。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>提供された学修機会の数、学生の参加人数、参加学生からのフィードバックの状況</li> </ul> <p>【計画15-2】</p> <p>学生主体の教育における多様性に対応した教育を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 多様な教育ニーズに対応する。学生の能動的な学修を促すために必要な資機材の整備を行うとともに、教育内容や方法を教員間で共有しアクティブラーニングを推進する。その場合、fGPAなども活用し常勤教員が担当する講義・演習科目を中心に、基礎及び発展的な内容の提示や習熟度別クラスの導入等を行うことにより、授業形態に関わらず、全科目で双方向性の担保と学生の授業参加を促す。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用科目数、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目数、各科目での成績評価結果、各科目での学生からのフィードバック、授業評価アンケート結果、教員間での情報共有機会の数</li> </ul> <p>2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。</p> <p>(1) 教職員の多様性への理解を向上させ、多様性に配慮した授業運営を行う。</p> <p>(2) 教職員に対し、多様性に関する研修や情報共有の機会を定期的に設ける。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様性に関する研修・情報共有機会の数、教員へのフィードバック調査の結果、授業評価アンケート結果</li> </ul>	III	<p>3. 学生を対象とした調査は実施しなかった。学部が提供した学生の課外活動の機会は、医愛祭と地域交流イベントだった。医愛祭には2日半で述べ29名、地域交流イベントには1日で64名の学生が参加した。課題は、コロナ禍における活動や参加の制約（実習による）が最も大きいと考えられた。②地域交流イベントの参加学生数は昨年度より減少したが、子どもを対象とした2つの新企画に学年を超えて学生が参加し、縦の交流を促進できた。参加学生による評価は、項目を含め次年度検討する。</p>	<p>3. 学生の主体的に学ぶ意欲と方法の獲得を支援する機会として、授業以外の学修機会の提供や学修活動を支援する。</p> <p>①授業以外の学修機会に関する情報提供と参加支援を行う（医療・福祉現場での活動、健康関連イベント、ボランティア活動、等）</p> <p>②上記参加後の活動発表やフィードバックを提供する機会を設定する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度比、提供された学修機会と参加学生の数5%増加</li> <li>前年度比、活動参加に対する肯定的な評価の割合増加</li> </ul> <p>【年度計画15-2】</p> <p>1. 多様な教育ニーズに対応する。</p> <p>①授業の目標を達成できる各種の授業方法を取り入れ、学生の理解を把握し成果を評価する。</p> <p>②学生の反応を確認しながら、DXを活用したアクティブラーニングを積極的に導入する。</p> <p>③上記の他、各科目において、学生のニーズを把握し可能な範囲で対応する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度比、ICT活用科目数、アクティブ・ラーニングや習熟度別クラス等の工夫を取り入れた科目数4%増加</li> <li>教員向けに関連する研修の開催状況</li> </ul> <p>2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。</p> <p>学生等の多様性をテーマとした教職員研修、カリキュラム評価・授業評価報告において学生の多様性への対応を視点とした評価を実施する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度から継続して多様性に関する研修・情報共有機会の提供状況</li> </ul>	IV	<p>3. 学生を対象とする調査は実施しなかったが、課外活動の機会として、①医愛祭は2日間で17人、②地域交流イベントへの参加者は74人、③ふなばし健康まつりボランティアでの参加は32人、「からだのお話し会企画」運営は7人、④市川市マナフェスへのボランティア参加は40人、「からだのお話し会企画」は7人、⑤認知症サポーター養成講座学内開催の参加者は14人であった。</p>	III	<p>1. 常勤教員の担当科目では、ほぼ全科目ICTを活用している。全開講科目のうち93科目（75.7%）でアクティブラーニングを取り入れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手教員が大阪大学の授業設計に関するオンデマンド研修を受講したり、関心のある所属領域以外の授業を見学し、その成果を発表会で共有した。</li> </ul>		
		IV	<p>1. COVID-19への対応の継続及びDX化が推進され、ほぼすべての科目でLMSが利用されるなど学部内でのICTの利活用等はほぼ浸透したといえる。また、「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業（令和3年度補正）」により多目的DXルームを整備し、これらの設備の説明会、勉強会も各1回開催されるなど、アクティブラーニング環境の整備も進んだ。</p>	<p>2. 学生等の多様性に対する教職員の理解を促進する。</p> <p>2. FD委員会と共催で、「学生の個別ニーズに応じた相談支援研修」を8月24日に開催した。</p>	IV	<p>2. カリキュラムプロジェクトとFD担当の共催によるFD研修会を8月17日および3月14日に実施し、カリキュラム改正について検討するとともに、学生の多様性への理解を深めるとともに情報を共有した。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画15-3】</b> 第2期中期目標・計画における教育の評価を行い、DP及び社会ニーズの変化に応じたカリキュラムへの改定を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院DPに照らした点検評価を行い、CP、APおよびDPの改定に向けた準備を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容</p> <p><b>【計画15-4】</b> 学生の主体性を涵養する教育を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 教育DX化と並行して、学生が自己の学修活動を記録し振り返ることが可能な仕組みを準備し、年に1回以上、学生自身が学修活動について振り返り、その後の自らの目標について考えることができるよう指導する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する（1回/年）</p>	III	<p>1. 4月に将来構想委員会の下部組織として、カリキュラム評価プロジェクトを立ち上げ、カリキュラム評価に関する拡大会議の後、①DPとのシラバス照合、②全科目の授業評価アンケートの分析、③4年生卒業時カリキュラム評価アンケート、④現行カリキュラムの看護学教育モデルコアカリキュラムとの照合点検（全教員参加）を行い、3月にFD報告会を開催した。また、プロジェクトメンバーで、現行カリキュラムにおいて改善が急がれる事項を全領域から聞き取り、教務委員会に①4年次4月の時間割の過密の緩和、②統合実習の運営方法の改善（教務委員会着手中）、③精神医学の学修を組み入れる必要性などについて申し入れ、教務委員会により対応が始められている。 ・令和5年度は、カリキュラム改定に向けたワーキングに発展させていくことが課題である。</p>	III	<p><b>【年度計画15-3】</b> 1. 教育活動と成果の点検評価及び改善活動を行う。 ①前年度までの評価をもとに、令和8年度（開設9年目）からの新カリキュラム運用に向けたカリキュラムワーキング検討会（年1回）を開催する。 ②前年度の改善点の検討ら、授業内容や時間割変更で改善可能な点について、改善状況を情報共有し、前年度同様に年度末の資料を加えて、DPの達成状況を含めた点検評価を行う。 ③卒業生とその就職先を対象とした調査を行い、卒業後のニーズからみたカリキュラムおよび教育方法の評価を行う。 ④FD研修会として、看護学の学士課程のカリキュラムの多様性や私立大学の看護学教育において実現可能なカリキュラムについての研修を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・検討会・評価会議・研修会の開催各1回、卒業生を対象とした調査結果、教員を対象としたFD研修による学びのレポート内容、成果物としての新カリキュラムに向けた改善内容の提言</p> <p><b>【年度計画15-4】</b> 1. LMSを用いた学修ポートフォリオの実施について記載フォームを検討し、令和5年度より試行することとして準備した。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学修活動の記録と目標についての自己評価を、各学年のほぼすべての学生が実施する（1回/年）</p>	III	<p>1. ①～④令和4年度のカリキュラム評価プロジェクトをカリキュラムプロジェクトとして発展継続し、実習前OSCE、実習前CBTの導入を視野に入れた改正カリキュラムの実現に向けた検討を開始し、8月および3月に全学部教員対象のFD企画を行い、文部科学省の看護学教育・モデル・コア・カリキュラム改正ならびに実習提携関係にあるJCHO船橋中央病院の移転を視野にいれたカリキュラム改正の準備に着手した。 ・年度末資料を加えたDP達成状況の評価から、教務委員会主導で、看護管理に焦点をあてた統合実習を2025年度より看護学全体の学びを統合する実習へと変更することとし、準備を開始した。 ・卒業生とその就職先を対象とした調査は未実施である。 ・3月の全教員対象のFD企画において新カリキュラムに向けての課題を整理した報告文書を提示した。</p> <p>1. ポートフォリオに関する学年別ガイダンスを2024年2月および3月に計2回行い、1～3年生の各学年複数名の学生が入力した（正確な人数は、システム上教員が把握できず）。 ・次年度は、より、多くの学生が入力するよう推進するとともに、評価指標を再検討する。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>2. 千葉看護学部のビジョンに共鳴する受験生を確保する。学生がビジョンに照らして自己評価できるプログラムを作成し、本学部からの継続した教育・学生支援を実施する。</p> <p>【評価指標】 ・オープンキャンパス実施回数（5回/年） ・参加人数（定員8割以上） ・参加者アンケート内容、入学前準備プログラムの参加人数（対象者の7割以上） ・参加者アンケート内容（肯定的評価が7割以上） ・学年別ガイダンスの実施状況（4回/年） ・ビジョンについてのポートフォリオの記録回数（1回/年） ・実施人数（ほぼ全ての学生） ・学生ボランティアの割合（5人/回）、情報提供の頻度（3回/年）</p>	IV	<p>2. 地域交流イベントで企画した2つの公開講座に関して、3名の学生が運営を手伝った。船橋市が5月に募集する1年間のボランティア情報を年間通じて学生に掲示した。</p> <p>・オープンキャンパス・学部説明会計7回実施、参加人数計518組（R3年度410組）、参加者のアンケート内容は「学部の特色が良く理解できた」「是非入学したい」など肯定的なものが多いと好評であった。</p> <p>・入学前準備プログラムのうち「大学での学修を知ろうpart2」はオンラインから対面とし継続実施した。参加者アンケートは入学後に実施する計画を立案し準備している。また、学校進級型入試、および総合型選抜での入学予定者の高校（校長）すべての入学前準備プログラムの資料を送付し、その周知を図った。</p> <p>・各学年、各セメスター開始時、終了時に履修ガイダンス・履修指導を行ったほか、1年生には定期試験に向けたガイダンスを追加で行った。</p>	III	<p>2. a. 受験生対象の学部説明において本学部のビジョンをわかりやすく説明し、参加者の反応を把握し、必要に合わせて改善する。</p> <p>b. これまでの入学前準備プログラムを継続しつつ、参加者アンケートにてよりニーズに合うプログラムにする。また、学校選抜型入試での入学予定者及び、その高校（校長）に入学前準備プログラムを周知する。</p> <p>c. 学生に対して定期的にガイダンスを実施し、具体的な履修につながるようにする。</p> <p>d. 講演会やイベント、ボランティア募集に関して定期的に情報提供を行う。</p> <p>【評価指標】 ・オープンキャンパス実施回数（5回/年） ・参加人数（定員8割以上） ・参加者アンケート内容、入学前準備プログラムの参加人数（対象者の7割以上） ・参加者アンケート内容（肯定的評価が7割以上） ・学年別ガイダンスの実施状況（4回/年） ・ビジョンについてのポートフォリオの記録回数（1回/年） ・実施人数（ほぼ全ての学生） ・学生ボランティアの割合（5人/回）、情報提供の頻度（3回/年）</p>	III	<p>2. a. オープンキャンパスや学部見学会等を計7回実施し、参加者は515名であった（同伴者含まず）。参加者のアンケートからは、本学部のことがよく理解できた、志望校選択に役立ったなどの感想が多数あった。</p> <p>b. 学校推薦型の入学予定者の所属高校の校長にも入学前準備プログラムの資料を郵送し、周知を行った。</p> <p>また、2023年度入学生で学校推薦型での入学予定者に、入学前準備プログラムの参加可否とその理由についてアンケートを行い、47人より回答を得た。学習計画は35人が作成したがそのうち15人は途中でやめていた。入学前準備プログラムに参加して34人が聞きたいことが聞けたと回答した。さらに、大学からの情報は郵送資料の次に、LINEオープンチャットから得ていたことが分かり、2023年度も高校生が情報にアクセスしやすいLINEを利用し、プログラムに関する情報の提供を行った。</p> <p>c. 学修支援委員会にて、各学年ごとにセメスター開始と終了時にガイダンスを行った。</p> <p>入学後全学共通のポートフォリオを関連づけられるか再検討し、評価指標を検討する。</p> <p>d. 大学に届く講演会等のお知らせは事務部より掲示してもらったが、各教員のもとに届く講演会やイベント情報を学生に周知するまでには至っていなかった。また、ボランティア募集に関しては、科目の事前学習にしたことで、参加が促進した。</p>		
<p>3. 早期から看護職としての意識を高めるため、1年前期から看護の現場での演習を実施すると共に、授業内外で、看護職や人々の健康に関する講演会・イベント等の参加機会を提供するなど、アーリー・エクスポージャーのプログラムを行う。</p> <p>【評価指標】 ・学外の看護・医療保健福祉関係者等による授業回数（5回/年）、看護学概論の授業評価（総合評価が4以上）、授業外での看護・医療保健福祉関係者等による講演会・イベント等の案内回数（1回/年）、参加人数（5人/回）</p>	III	<p>3. 学部の保健医療福祉関係者の授業は1年生14回、2年生8回、3年生4回、4年生1回の計27回、加えてJCHO船橋中央病院の医師らによる疾病や治療に関する講義が上記分を除き67回実施されており、十分に行われている。1年次前期の看護学概論における見学演習を継続した。将来構想委員会のカリキュラム評価プロジェクトにより、4年次学生へのアンケートならびに専任教員全員に対するヒヤリングを行った。</p> <p>地域交流イベントにおいて、船橋中央病院の院長・栄養士・看護師による食事と曝下に関する公開講座1、および白梅学園大学子ども学部教授によるヤングケアラーに関する公開講座2を開催した。それぞれ34名、35名の参加者があった。</p> <p>教員からの学外の講演会やイベントの案内は8回であり、その他学会やイベント等のチラシの掲示が行われており、十分に行われたと考える。参加者数については、大学で取りまとめた災害訓練は32名であったが、それ以外は任意参加としており数の把握はできていない。</p>	III	<p>3. a. 外部の保健医療福祉関係者の授業の実施状況（第一回目）アンケートを実施中（集計はこれから）。第二回目のアンケートでは保健医療関係者についてデータ収集を実施する。</p> <p>c. イベント（ふなばし健康まつり、地域交流イベント、マナフェスの情報提供を行った。また、認知症ケアサポーター養成講座を開催し、12名の学生、2名の教職員の参加があった。</p> <p>・次年度は、より体系的に実態を把握できるようなしくみを検討する。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分				
<p><b>【計画15-5】</b> 生涯学習支援を継続する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学部における生涯学習支援を継続し、これが大学ビジョンに向かうものとなっているかを評価し、改善するためのICTを活用した基盤を整備する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための仕組み作成状況と実施状況</p> <p>2. 卒業生を継続してサポートできる仕組みを整備し、学びの機会を提供する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況（100%）、年2回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数（年2回）と参加人数（各回50%）</p> <p>3. 実習指導者講習会およびフォローアップ研修会、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を開催し、千葉県内の実習指導者育成と質の向上に貢献する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・実習指導者講習会参加人数（募集定員の120%）、修了時の満足度（70%以上）、フォローアップ研修の参加人数（50%以上）、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換の参加人数、自施設の実習指導の質向上についての評価</p>	I	1. 当該目標に関する検討会は開催しなかった。評価のための仕組み作成にも着手することができなかったため、次年度の将来構想委員会の課題とする。	<p><b>【年度計画15-5】</b> 1. 前年度には検討を行うことができなかったため、将来構想委員会内に担当を設け、前年度予定であった活動を開始する。これにより、千葉看護学部における、卒業生と大学、大学と社会をつなぐありようをイメージ化し、千葉看護学部が生涯学習支援の場となるために必要な要素や仕組み（インフラ、ソフトシステム、広報、他機関との連携、等）と、そのために強化すべき機能（教材・資源の共同利用のためのアーカイブ整備、等も含め）に関する検討会を開催する。（1回）</p> <p>・実践経過と成果の蓄積と分析による評価・改善が可能となるよう、各種活動時にデータ収集したい共通項目を洗い出し、アンケート項目を作成し、ICTを活用した仕組みを検討する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・当該目標に関する検討会開催回数と参加人数、評価のための仕組み作成状況と実施状況</p> <p>2. 前年度末にとりまとめた改善策を反映した卒業生の連絡先管理および継続教育支援の方法を実践し、年度末に現状と改善策をとりまとめる。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・卒業生の連絡先を管理する仕組みの作成と登録状況（100%）、年2回のメールマガジンの発行、講演会等の案内回数（年2回）と参加人数（各回50%）</p> <p>3. 事務部と連携し、実習指導者講習会、フォローアップ研修、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換を企画・周知・実施し、実績と改善策を取りまとめる。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・実習指導者講習会参加人数（募集定員の120%）、修了時の満足度（70%以上）、フォローアップ研修の参加人数（50%以上）、受講施設管理者を対象とした研修・情報交換の参加人数、自施設の実習指導の質向上についての評価</p>	III	1. 当該目標に関する検討会は開催できていないが、将来構想委員会において、卒業生担当を置き、学生生活支援委員会主催で、地域交流イベントと同時開催で、「ホームカミングデイ」を実施した。生涯学習支援の仕組みを検討するために、プロジェクトメンバーの選出し、シミュレーションを用いた生涯学習支援を検討しており、シミュレーション実施教室の環境を整備した。次年度は、「卒業生チャレンジ」（卒業生に声をかけて、DXについての研修を行う企画）を開始する予定である。	III	2. 卒業生の連絡先登録は12月から呼びかけて91.7%であり、さらに早い時期から呼びかける必要がある。メールマガジンは年2回発行し、発行後にメールアドレス変更を連絡してきた卒業生が数名確認できた。2023年度は初の試みとして、3月の地域交流イベントにてホームカミングデーを開催し、9名が参加した。また、ホームカミングデーにて、アンケートを実施した（9名回収）。参加者を増やすために、卒業生が関心を持つ企画を検討する必要がある。	IV	3. 実習指導者講習会参加人数は30日間コースは定員40名のところ49名の受講（募集定員の123%）となり、目標を達成することができた。ただし、7日間コースについては40名定員のところ受講者は24名（募集定員の60%）と、目標を大幅に下回っている。ただ、昨年度よりは増えているため、今後さらなる受講者の増加のための取り組みを行っていく。フォローアップ研修については対面で実施したものの、34名が参加（69.4%）し、目標は達成できたと考えられる。なお、上記3研修ともに終了時の受講生アンケートでは、満足度したとの回答がおおむね90%を超え、100%を達成する項目も多数存在しており研修内容の担保については今年度も目標を達成したものと考えられる。



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>4. 主として千葉県西北部及びJCHOの看護・介護職等に向けた生涯学習機会を提供する。</p> <p>【評価指標】 ・千葉県内及びJCHOからの講師依頼内容・件数、本学部主催または共催（有志含む）による研修会等の開催回数・参加者、満足度</p> <p>【計画15-6】 教員の研究力の向上を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 教員の研究活動の情報交換会を定期的に継続する。 【評価指標】 ・情報交換会の開催回数（1回／年以上）</p>	IV	<p>4. 千葉県看護協会からの講演依頼は下記合計5件である。 「看護管理ビギナー研修」「タイムマネジメント研修」 「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」2件 「認定看護管理者教育課程サードレベル」 ・JCHO本部からの講演依頼は下記5件である。 「認定看護管理者研修セカンドレベル（人材育成）」 「同（医療安全）」他、3件 「JCHO保健師助産師看護師実習指導者講習会（実習指導方法）」 ・JCHO船橋中央病院からの講演依頼は下記合計3件である。 「令和4年度新卒看護職員研修」 「ラダーⅢ研修（看護研究の講義と研究指導）」 「看護研究支援」 ・JCHO東京山手メディカルセンターからの講演依頼は下記1件である。 「看護研究の講義と研究指導」 ・JCHO埼玉メディカルセンターからの講演依頼は下記1件である。 「看護研究指導」 ・本学部主催または共催の研修はなかった。</p>	<p>4. 実習指導者講習会やJCHO本部・各病院に対して、教員の研究内容、講演できる内容などを周知する。研修会や講師依頼などの実績を年度末に取りまとめる。</p> <p>【評価指標】 ・千葉県内及びJCHOからの講師依頼内容・件数、本学部主催または共催（有志含む）による研修会等の開催回数・参加者、満足度</p> <p>【年度計画15-6】 1. 定期FD研修やイブニングセミナーで教員の研究活動について情報共有を行う。 【評価指標】 ・情報交換会の開催回数（1回／年以上）</p>	IV	<p>4. 実習指導者講習会やJCHO病院との会議等の機会に、教員の研究内容、講演できる内容等の周知を行った。学習機会の提供に関する今年度の実績は次のようである。 ◎周辺地域機関からの依頼 ○千葉県看護協会：「千葉県看護研究学会研究相談員」「看護管理ビギナー研修」「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」 「認定看護管理者教育課程セカンドレベル」3件 ○千葉県がんのリハビリテーション研修会実行委員会：「がんリハビリテーション研修会」 ○海神在宅看護支援センター：「都疎浜地区自治会生き生きくらぶ：体力測定・講師」 ○板倉病院：「こども食堂」 ○船橋市：「ふなばし健康まつり」 ○市川市：「マナフェス」 ○東京都訪問看護ステーション協会：「訪問看護実習指導者研修」 ○特別区男女共同参画センター：「地域連携研修、困難事例スーパーヴァイズ」 ◎JCHOからの依頼 ○JCHO本部：「認定看護管理者研修サードレベル」「認定看護管理者研修セカンドレベル」4件「JCHO保健師助産師看護師実習指導者講習会」6件 ○JCHO船橋中央病院からの講演等依頼 「新卒看護職員研修」「ラダーⅢ研修」「看護研究支援」 ○JCHO東京山手メディカルセンター：「看護研究の講義と研究指導」 ○JCHO埼玉メディカルセンター：「看護研究指導」 ○JCHO東京山手メディカルセンター：「看護研究指導」「看護研究発表会講評」 ◎大学が企画した地域住民・専門職者を対象とした勉強会等 ○令和5年度東京医療保健大学千葉看護学研究所・和歌山看護学研究所共催公開講座</p>				
		IV	<p>1. 活動報告会において、「からだフシギプロジェクト」の情報共有を行った。</p>		IV	<p>1. 3月13日に実施した学部活動報告会において、教員の研究活動・社会活動に関するポスター展示及び情報交換会を実施した。</p>			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>2.学会（国際・国内）で、研究成果を発表を促進し、発表する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際学会参加人数（1人/年以上）、国際学会発表者人数（1人/年以上）、国内学会発表者割合（年間7割）</li> </ul> <p>3.研究成果を査読のあるジャーナルへの投稿を促進し、採択される（共同執筆含）。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択者人数、採択者割合（国際・国内、年間で全教員数のうち4割以上）</li> </ul> <p>○和歌山看護学部</p> <p>【計画16-1】⑦</p> <p>「大学での主体的な学び方の体得」及び「地域を理解する科目の充実」、「地域への愛着形成の支援」を図る。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.主体的な学習に取り組めるために必要なカリキュラムと機会を充実する。</li> <li>2.入学初期に主体的な学び方に関する科目と地域への関心を高めるための科目を設定する。</li> <li>3.卒業後も学び続けるための支援体制を構築する。</li> </ol> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム実施状況</li> <li>愛着の程度を把握</li> </ul>	Ⅲ	<p>2.国際学会参加人数：9人、国際学会発表人数：3人 国内学会参加人数：24人 国内学会発表人数：12人 学部活動報告会での情報共有は実施されなかった。</p>	Ⅳ	<p>2.年度末の学部活動報告会で国際学会及び学内学会で発表した教員について情報共有を行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際学会参加人数（1人/年以上）、国際学会発表者人数（1人/年以上）、国内学会発表者割合（年間7割）</li> </ul>	Ⅳ	<p>2.国際学会参加人数：8人 国際学会発表人数：6人 国内学会参加人数：34人 国内学会発表人数：22人/36人（61.1%） 学部活動報告会で情報共有を実施した。</p>		
	Ⅲ	<p>3.論文（国内）採択人数：11人15件 論文（海外）採択人数：2人2件 学部活動報告会での情報共有は実施されなかった。</p>	Ⅳ	<p>3.年度末の学部活動報告会で論文採択された教員について情報共有を行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採択者人数、採択者割合（国際・国内、年間で全教員数のうち4割以上）</li> </ul>	Ⅳ	<p>3.論文（国内）採択人数：17人28件 論文（海外）採択人数：6人11件 国内・海外のいずれかに採択された人数：17人/36人（47.2%） 学部活動報告会で情報共有を実施した。</p>		
Ⅳ	<p>1.初年次教育において、「アカデミック・スキル」「わかやま学」を設定し、さらに複数科目で高校から大学教育への円滑な意識の転換と能動的な学習方法を身につけ、専門教育における自主的・主体的な学習への移行を目指した取り組みを行った。主体的に学べるよう、シラバスにアクティブラーニングを明示し、全科目で学びの質を保つためにシラバスチェックをシステム化した。国試対策は1～3年生には、模試後の振り返り、学習の促進（国試Webの活用、各種業者の講座やサイト紹介、アプリの情報提供など）など主体的に国試に向かう取り組みを推進している。4年生には年間計画を立て目標シートを各自が作成し、国試委員・アドバイザーと学生の情報共有ツールとしてwebclassを活用して学生の主体的な取り組みを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤講師（日赤和歌山医療センター医師）担当科目である「体の仕組みと働き」、「治療学総論」、「疾病治療論」の講義内容、試験問題内容等について、成果に応じて学生の主体的な学びの促進のために学部教員が支援を行い、教育目標の共有のために日赤和歌山医療センターとの合同教育会議を2回実施した。国試対策は1年次から系統的に主体的に取り組めるシステムとして実働している。</li> <li>・先輩学生の取り組みの成果を受けて、学生に「予習シート」、「目標設定シート」を配布し、主体的な学びが行えるように支援を実施した。国家試験への取り組みについて、医愛祭の企画として1期生を招き、具体的な内容や進め方の話を聞く機会を持った。低学年も含め参加学生が熱心に聞き質問をしていた。</li> <li>・学習支援した多くの科目の平均点が一定水準に到達するなど取り組みの成果が見られた。学生自身が目標を設定し、アドバイザーと共有して学習を進めることができている。国試対策では取り組みのイメージがついたと学生の反応であり、学習が進み、看護師および保健師国試とも不合格者は1名であった。</li> </ul> <p>わかやま学の授業評価で「和歌山のすばらしさを知った」「和歌山に住んでいたが知らないことが知れた」など自由記述が多く、愛着形成に効果があった。アクションプランチームは今年度は科目内容を把握し、次年度からの活動を検討した。</p>	Ⅳ	<p>【年度計画16-1】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「大学での主体的な学びの体得」、「地域を理解する科目の充実」に関する科目の実施・評価する。</li> <li>2.先輩学生からの学習経験をもとに、学習計画を立て実行する。</li> <li>3.主体的な国家試験への取り組みへの支援を行う。</li> <li>4.実習指導者との相互理解により学生の主体的な学びをサポートする。</li> <li>5.学生の学びにタイムリーな図書を紹介をし、利用を促進する。</li> <li>6.卒業生の自己研鑽のための支援を実行する。</li> </ol> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム実施状況</li> <li>愛着の程度を把握</li> <li>国家試験に向けての学習計画立案実施評価、模試受験、補講受講の状況</li> <li>実習指導者連絡会の開催と指導側及び学生からの評価</li> <li>和歌山図書館入館者数、貸出数の利用状況</li> <li>卒業生の自己研鑽としての環境整備と活用状況</li> </ul>	Ⅳ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.大学での学び方を内容としたアカデミックスキル、これからのキャリアを考えていくためにキャリア教育Ⅰ～Ⅲ、それを支える情報に関する科目や論理的表現法も設置している。</li> <li>2.地域への関心を高める科目としてわかやま学（講義）とわかやま生活健康探索実習（実習）を設定している。内容・実施状況、参加状況を以下の方法で得た。</li> <li>・わかやま学では、受講学生がレスポンスカードを作成。</li> <li>・わかやま生活健康探索実習では、最終日のまとめの機会に、実習での学びを記載。</li> <li>・欠席者以外、9割以上が提出し、内容を質的に分析を行った。</li> <li>・わかやま学での発表会、和歌山生活健康探索実習での実習報告会にて、学生が得たことを表現できる機会となっていた。</li> </ol>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画16-2】</b></p> <p>「ボランティア活動の体系化」、 「地域の看護教育ボランティアからの学びの推進」及び「関連団体と連携した社会的要請への対応」を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. 地域へのボランティア活動の推進と、地域住民の看護教育へのボランティア参加を進める。</p> <p>2. 赤十字活動を中心とした活動を活性化させる。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・ボランティア活動状況、教育ボランティア参加状況</p> <p><b>【計画16-3】</b></p> <p>異文化理解や語学力、コミュニケーション能力を習得させ、豊かな教養のもとに多様な価値観に対応できる医療人の育成を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. 海外研修及び海外からの研修生の受け入れ、近隣地域で生活する多国籍の方との交流の機会をつくる。</p> <p>2. 海外研修への参加案内と学生の参加しやすい環境を整える。ベトナムの大学との学生交流を進める。</p> <p>3. 近隣地域で生活する、または保健医療福祉施設で働く多国籍の人々との交流の場をつくる。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数</p>	Ⅲ	<p>1. ボランティア依頼は玄関ホールに掲示し、さらに学生に声をかけて募集を行った。活動届はWeb上で提出できるようにした。ボランティア活動のサポート体制として学生全員が和歌山市ボランティア保険に加入している。学生のボランティア活動に加え、地域住民の看護教育への協力を得る看護教育ボランティアの説明会にも学生ボランティアが参加した。</p>	Ⅳ	<p><b>【年度計画16-2】</b></p> <p>1. ボランティア活動を体系化し試行的に運用する。</p>	Ⅳ	<p>1. 2023年度ボランティア活動の報告件数は、延べ人数252名、活動団体数は54種類であった（2024. 2月末地点）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア論履修生は92名、ボランティア活動履修生は85名であり、選択科目となっているものの、9割の学生が履修出来ていることから、学生の関心が高いことも伺える。</li> <li>・ボランティア活動届については、デスクネット回覧レポートを通して記載提出できる体制を作り、ほとんどの学生がweb上で提出できているため継続していく。</li> <li>・和歌山市ボランティア保険は大学として学生全員加入出来ており、WILLへの加入に加え、安全なボランティア活動のためのサポート体制は取れている。</li> <li>・地域の看護教育ボランティアからの教育支援については、4つの看護学領域が必要な内容とボランティアの参加を得て、教育を実施している。年2回の教育ボランティア集いの会を催し、成果の発表や意見交換を行っている。</li> </ul>		
	Ⅲ	<p>2. 学生赤十字奉仕団を団員12名で発足し、活動を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア報告件数は延べ人数118名、活動団体数54種類であった。選択科目「ボランティア論」74名、「ボランティア活動」82名の学生で履修した。奉仕団発足と教育ボランティアの集いについては大学ホームページに掲載している。本学学生が参加している学生団体の活動もSNSで発信し、学会発表がなされた。奉仕団は和歌山県支部の活動への参加、主体的な活動として子ども食堂イベント企画を実施した。その他、日赤和歌山医療センター大規模地震時医療活動訓練に12名が参加、社協祭りへの参加など日赤関連、市関連団体への要請に応じている。</li> </ul>	Ⅳ	<p>2. 赤十字活動参加学生と活動数を増加させる。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・ボランティア活動状況、教育ボランティア参加状況</p>	Ⅳ	<p>2. 学生赤十字奉仕団は、現在1年生19名、2年生7名、3年生5名、4年生5名の計36名となっている。現在日本赤十字社和歌山県支部主催の活動に参加したり、自分達で企画した学内演習、市民図書館でのイベント企画と運営等、教員のサポートのもと活動できている。医愛祭で献血バスでの学生の献血活動を実施した。</p> <p>和歌山県学生献血推進協議会（以後、学推）には、これまで、都合のあう人が随時活動に参加している状況であったが、今年、本学は、学推の副委員長校となった。活動があれば、ボランティアサークルメンバーと赤十字奉仕団メンバーに情報がいきわたる仕組みを作っている。</p>		
	Ⅲ	<p>1. サイネージやポスターだけでなく個別的に声掛けをし、積極的に学生の研修参加へのアプローチを行った。</p> <p>2. MOU締結後、COVID-19の影響により交流の機会を持つことができなかった。</p> <p>3. 外国人医療従事者との交流会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア研修1名、ハワイ研修1名の参加があった。2023年度にベトナムのナムティン大学との交流会の開催を行えるように準備を進める。外国人医療従事者3名と学部学生14名の対面での交流ができた。</li> </ul> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数</p>	Ⅲ	<p><b>【年度計画16-3】</b></p> <p>1. 海外研修参加数2名以上を維持する。</p> <p>2. ベトナムの大学との交流の機会を1回以上つくる。</p> <p>3. 地域で生活する多国籍の人々との交流の機会を1回以上つくる。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <p>・海外研修参加学生数、ベトナムの大学との学生交流の有無、多国籍の人々との交流回数</p>	Ⅲ	<p>1. 9月の本学主催の海外研修はリモート研修、3月の現地研修が開催された。9月の研修には学生の参加はなかったが、3月のオーストラリア現地研修には学生4名の参加があった。</p> <p>2. ベトナム ナムティン大学とのMOU締結後、交流会を持つための交渉が進まず、交流会が開催できなかった。</p> <p>3. 交流会には、和歌山市内の外国人医療従事者2名、本学部学生5名と大学院生1名が参加し、対面で開催した。国際交流委員会と連携を取りながら、参加者募集の広報を行い、会場の感染対策や交流会の進行をサポートした。学生が直接、外国人との交流ができる機会となるため、今後も継続していく。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画16-4】 ICTを駆使する能力を備え、保健医療福祉に貢献できる医療人を育成する。</p> <p>「計画達成のための方策」 ICTを活用した授業の実施と充実を図り、ICTによる主体的学習システムを構築し、学修成果の可視化を図る。</p> <p>【評価指標】 ・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視化の程度</p>	III	<p>1. WebClass, ZOOM, Vsim, Medi-EYE, スマートグラス, Tobii3Pro, 電子黒板を導入し、学内で使用できるよう初期設定した。Medi-EYE やスマートグラスを用いた授業・演習設計についても報告し、ICT ツールや、Nursing-skill, Nursing Channelについてマニュアルを作成して公開している。HSP受講について学部内で周知し募集を行った。</p> <p>2. ICTツールの使用状況とニーズ調査を行い、研修計画を立てた。WebClass, ZOOM の研修2回実施し、それぞれ35名が参加、90%以上が理解できたと回答した。レールダル社によるナースングアンの勉強会を2回実施し、参加者延べ10名が参加した。Web class で修学カルテを用いた実習記録の運用についての研修は参加者36名、90%以上が理解できたと回答し、今後の導入はしたいと思うが20%、検討したい80%であった。可視化を進めるために、ICEルブリックの学部内の勉強会を2回開催した。入門編20名、実践編10名程度の参加であった。</p> <p>3. 成人看護学領域がWebClassの修学カルテ機能を用いて実習記録の作成と管理を開始し、2月に実践報告会を行なった。</p> <p>・研修参加者は理解度が向上し、ZOOMについてはほとんどの領域で有効活用している。電子黒板は授業・演習での使用実績がなく今後有効活用を見出していく必要がある。複数科目でICEルブリックが活用され始めたが12%にとどまっている。次年度には各領域で担当者を決めて推進していく。</p> <p>HSPについては4年生8名が修了し、ディプロマサブプリメントを発行、1年生85名、2年生38名、3年生52名がコースを選択している。</p>	<p>【年度計画16-4】</p> <p>1. これまでに導入したシステムの有効活用と評価を行う。</p> <p>2. 新システム増設時の活用可能にするための研修を行う。</p> <p>3. 学習過程・成果の可視化を試行的に開始する。</p> <p>4. 各領域に1名のICT推進委員を置き、各種システムの活用を拡大する。</p> <p>5. 学生のHSP取得を維持継続する。</p> <p>【評価指標】</p> <p>・システムの利活用状況、新システムの利活用状況、学習過程・成果の可視化の程度</p> <p>・学生のHSP取得状況</p>	IV	<p>1. 年間スケジュールを作成し、授業運営において必要性の高いICT ツールや教材の使用方法についての実践例を紹介できるよう、学習会を開催した。またICTツールや教材の使用に関するマニュアルを配信した。</p> <p>・WebClassによる体調管理の入力・管理方法、実習記録の使用法について勉強会を行なった。</p> <p>・学生への情報モラル教育について『情報倫理ガイドライン』動画を作成し、周知した。</p> <p>2. Web Class 修学カルテ（卒業時技術到達度、体調管理表、実習記録）</p> <p>・Web Class ICEルブリック</p> <p>・Microsoft 365 Teams、F. CESSnurseを用いた演習および実習記録の活用</p> <p>3. 修学カルテを全領域で活用できるように整え、卒業時技術到達度を全学年で統一して使用できるよう教員と学生に周知した。学生に対しては卒業時技術到達度を入力する意義などについても説明し、有効に活用できるよう指導した。演習記録、実習記録などを必要に応じて全領域が活用できるように設計した。</p> <p>4. ICT推進委員のスキルアップを目指して委員会内での学習会を実施した。</p> <p>・シミュレーションセンター設置に向けた取り組みについて、令和4年度に導入された映像機器を活用し、シミュレーション演習がスムーズに行えるよう、M101教室に配置した。実際に配置した機材を用いてオープンキャンパスで試験的に活用し実際の演習で使用できる状態であることを確認した。</p> <p>・さらに、「看護基礎教育におけるデジタル教育ツール活用の効果検証」のテーマで学長裁量費に採択され、備品の拡充を行った。</p> <p>5. 2020年度生57名、2021年度生50名にオープンバッチを付与した。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>○大学院医療保健学研究科</b>  <b>【計画17-1】</b>            教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築するとともに、人材を育成するため、本研究科のカリキュラムについての見直しを行う。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b>            1. 大学の教育理念に則った教育プログラムの確立。            2. 明確な教育目標の設定。            3. 教育目標に応じたカリキュラムの再構築。            4. 新しい教育制度の導入。            5. 主体的な学修を促す教育方法の導入。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・新しい教育制度の導入状況            ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況            ・大学院医療保健学研究科カリキュラム評価班会議：5回</p> <p><b>【計画17-2】</b>            教育の質保証が実証できるマネジメントシステムを構築する。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b>            研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。            1. FD活動による教育システムなどの開発。            2. 教育プログラムの実効性の確認。            3. 教員相互協力による教育能力向上。            4. マネジメントシステムの第三者評価。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・FD活動による教育システムなどの開発状況</p>	III	<p>1-3. 各領域で3Pを設定し、それに基づいたカリキュラムを構築した。</p> <p>4. 教育制度の導入までに至らないが、教育方法としては、オンライン教育を充実させていった。</p> <p>5. 図書館データベースに自宅からアクセスが可能となり、自己学習の機会が充実し、主体的な学修の支援システムが整備された。また、大学院教務委員会が発足し、定例会議が開催され、教務関連について、大学院での検討が開始された。</p>	III	<p><b>【年度計画17-1】</b>            1. 大学の教育理念に則った教育プログラムの確立。            2. 明確な教育目標の設定。            3. 教育目標に応じたカリキュラムの再構築。            4. 新しい教育制度の導入。            5. 主体的な学修を促す教育方法の導入。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・新しい教育制度の導入状況            ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況            ・大学院医療保健学研究科カリキュラム評価班会議：5回</p> <p><b>【年度計画17-2】</b>            研究指導の質を保証するためのマネジメントシステムを構築する。            1. FD活動による教育システムなどの開発。            2. 教育プログラムの実効性の確認。            3. 教員相互協力による教育能力向上。            4. マネジメントシステムの第三者評価。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・FD活動による教育システムなどの開発状況</p>	III	<p>1-3. 各領域で3Pを設定し、それに基づいたカリキュラムを構築しそれに基づいた教育実践が実施されてきている。</p> <p>4. 教育制度の導入までに至らないが、教育方法は、オンライン教育でも対面と支障なく双方向での討議等を充実させている。</p> <p>5. 図書館データベースに自宅からアクセスが可能となり、自己学習の機会が充実し、主体的な学修の支援システムが整備された。また、大学院教務委員会が発足し、定例会議が開催され、教務関連について、大学院での検討が開始され、規定などの改定がなされている。</p> <p>1-3. 大学院独自に研究倫理、科研費獲得へのプロセスなどに関する講義・講演を実施し、またFD活動を通して教員の教育・研究指導の能力を向上させるための支援を実施し、質の保証に努めた。</p> <p>4. 定期的に、大学及び大学院の教育に関する質保証のための外部評価委員会が開催され、評価を受けて改善に繋がっている。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画17-3】</b> 学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成システムを整備する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> グローバル化に対応した人材を育成する。 1.学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2.学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3.実践的英語教育の導入。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・実践的英語教育の導入状況 ・修士・博士課程論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数 年間3名以上</p> <p><b>【計画17-4】</b> 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域令和5年度に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域令和5年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況(令和7・8年度) ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況</p>	<p>II グローバル化に対応した人材を育成することとして、3.に関して立案した。学生自身が自分の専門性を認識し、2.学生のグローバル・リレーションシップ育成するために、まず、3.の実践的英語教育の導入を図った。 そこで、実践的英語教育の導入状況として、「学術コミュニケーション特論」を開設し、抄録を英文で作成する能力の獲得までを目指した。授業は実施できたが、全員が抄録作成できるまでには至らなかった。 修士・博士課程論文の学会発表状況は、各領域の関連学会における学術集会で発表は実践できているが、論文投稿に至ったものは少数であった。 全体論文報告会では、修了生は全員発表を実践できた。 海外発表に至ったのは1名であった。引き続き、海外発表および論文投稿に繋がられるよう指導を行っていく。</p> <p>III ・①から⑬について、計画通り全て完了した。 ・入学試験結果11名が合格した。準備状況においては、非常勤講師77名、実習施設の確保を完了し、現在は委嘱状の発行、教材作成を進めている。 ・⑦演習教室の確保、⑧シミュレータの検討については、令和5年前期に改修工事を行いシミュレータの設置など教育環境の整備を継続する。 ・また、講師情報の変更に伴って、厚生労働省の変更申請を随時行っていく。</p>	<p><b>【年度計画17-3】</b> グローバル化に対応した人材を育成する。 1.学際的・国際的な視点から自分の専門性の認識。 2.学生のグローバル・リレーションシップ育成。 3.実践的英語教育の導入。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・実践的英語教育の導入状況 ・修士・博士課程論文の学会発表状況 ・海外論文発表経験者数 年間3名以上</p> <p><b>【年度計画17-4】</b> 1.大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講する。 ①4月開講 ②カリキュラムの進捗管理 ③科目試験の管理 ④入学合格者の実習病院決定と厚生局修正申請 ⑤放送大学(特定行為共通科目)学習の進捗および評価管理 ⑥オンライン科目の授業資料の作成(令和6年度分)管理 ⑦演習(OSCE)物品・シミュレータの搬入と管理 ⑧実習施設、実習指導医、実習指導NP(病院・施設・在宅)との打ち合わせ ⑨特定行為管理委員会開催 ⑩令和6年度学生募集と入試</p> <p><b>「評価指標」</b> ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況</p>	<p>III ・グローバル化に対応した人材を育成することとして、3.に関して立案した。学生自身が自分の専門性を認識し、2.学生のグローバル・リレーションシップ育成するために、まず、3.の実践的英語教育の導入を図り、abstractを英語で書けるとした。 ・実践的英語教育の導入状況は、「学術コミュニケーション特論」を開設し、抄録を英文で作成する能力の獲得までを目指し、授業は実施できたが、全員が抄録作成できるまでには至らなかった。 ・修士・博士課程論文の学会発表状況は、各領域の関連学会における学術集会で発表は実践できているが、論文投稿に至ったものは少数であるものの増加傾向にある。 ・全体論文報告会では、修了生は全員発表を実践できた。 海外発表に至ったのは1名であった。引き続き、海外発表および論文投稿に繋がられるよう指導を行っていく。</p> <p>IV ・①から⑭について、計画通り全て完了した。 ・講義・演習では、学外講師77名(内訳:医師58名、看護師16名、その他専門家3名)学内講師8名の協力を得ることができ、計画通り、2023年4月に開講できた。 ・開講後は、カリキュラムの進捗管理、放送大学(特定行為共通科目)学習の進捗および評価管理、科目試験の管理により、設定期間内にすべての院生が履修合格ができた。 ・実習施設、実習指導医、実習指導NP(病院・施設・在宅)との打ち合わせを実施し、実習施設4施設、NP9名の協力を得ることができ、全員履修合格となった。また、令和6年に向けて実習病院14施設の確保ができ、厚生局修正申請を提出予定である。 ・演習室の確保と修繕を完了し、令和6年の授業に向けて演習(OSCE)物品・シミュレータの搬入を行う予定である。 ・特定行為管理委員会は2023年10月に第1回の会議を実施した。 ・令和6年度学生募集と入試により、計16名が入学した。 ・予定8名を超える入学生にともない、令和6年度に教員(診療看護師)1名を学部兼任担当として採用できた。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画17-5】</b> 独自の公開講座の開催など、学生の研究発表や研鑽の場を企画して提供していくとともに、科学的研究費などへの申請数及び採択率の向上を目指す。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 公開講座の開催。 2. 競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3. 複数の領域が協力して、研究計画と応募書類を作成する。 4. 審査結果の開示以降に、不採択理由の検証を行う。また、不備の認められる点について検討し、次年度申請の採択率の向上を目指す。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ 公開講座の開催年1回 ・ 科研費獲得に向けた取組状況</p> <p><b>【計画17-6】</b> コンセプトに基づく計画の立案と具体化を図り、国際感覚にあふれたキャンパスを実現する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。知的創造のための拠点となるグローバル化に対応する施設環境を実現する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ キャンパス教育環境向上プロジェクトの推進状況</p> <p><b>【計画17-7】</b> 学生が誇りを持てる学修環境を実現する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 時代に見合った学部学科構築のための検討・実施。 2. 充実した学生生活支援。 3. 一般入試方式重視による入学生の質的向上</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ 学修環境の整備状況</p>	III	<p>1. 各領域から代表が集まり、その年のテーマを決めて公開講座を開催した。また公開講座のプログラムの中で、修了生の研究発表が実施できた。 2-4. 教員及び大学院生による科研費の申請は試みているが、採択には至らなかった。査読結果に関しては、指導教員が共に指摘内容を確認し、計画修正に繋げている。</p>	III	<p><b>【年度計画17-5】</b> 1. 公開講座の開催。 2. 競争的資金の獲得に向けて研究テーマを抽出する。 3. 複数の領域が協力して、研究計画と応募書類を作成する。 4. 審査結果の開示以降に、不採択理由の検証を行う。また、不備の認められる点について検討し、次年度申請の採択率の向上を目指す。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ 公開講座の開催年1回 ・ 科研費獲得に向けた取組状況</p>	III	<p>1. 各領域から代表が集まり、その年のテーマを決めて公開講座を開催した。また公開講座のプログラムの中で、修了生の研究発表が実施できた。 2-4. 教員及び大学院生による科研費の申請は試みているが、採択には至らなかった。査読結果に関しては、指導教員が共に指摘内容を確認し、計画修正に繋げている。</p>		
	II	<p>・ キャンパス教育環境向上プロジェクトについては、施設環境の充実が図れていない。次年度は、新設領域が開設されることから、使用教室の調整や、キャンパス内の清掃・衛生管理を徹底し、システムを整備していくこととする。</p>	II	<p><b>【年度計画17-6】</b> キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。知的創造のための拠点となるグローバル化に対応する施設環境を実現する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ キャンパス教育環境向上プロジェクトの推進状況</p>	II	<p>・ キャンパス教育環境向上プロジェクトについては、施設環境の充実が図れていない。次年度は、新設領域が開設されることから、使用教室の調整や、キャンパス内の清掃・衛生管理を徹底し、システムを整備していくこととする。</p>		
	III	<p>1. オンライン上でのICT教育を整備し充実させた。 2. 入学生全員へのPC貸与により、学生の学習環境の確保ができた。 3. 大学院会議において、特に博士課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が必要であることが確認された。また、本審査の前段階として予備審査を設けるなど、段階的に審査を実施することの検討も行っていく。</p>	III	<p><b>【年度計画17-7】</b> 1. 時代に見合った学部学科構築のための検討・実施。 2. 充実した学生生活支援。 3. 一般入試方式重視による入学生の質的向上</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ 学修環境の整備状況</p>	IV	<p>1. オンライン上でのICT教育を整備し充実させた。 2. 入学生全員へのPC貸与により、学生の学習環境の確保ができた。 3. 大学院会議において、特に博士課程の入学者に関しては、研究遂行の能力の査定が必要であることが確認された。また、本審査の前段階として予備審査を設けるなど、段階的に審査を実施することの検討も行っていく。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>【計画17-8】 産学協同体制の構築によるブランド力向上プロジェクトの推進を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。</p> <p>1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。 2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進。 3. 地域社会との連携によるPR促進。 4. 特別教授制度による先端研究導入。</p> <p>「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況</p> <p>○大学院看護学研究科 【計画18】 大学院修士課程における課題研究及び特別研究の成果について、修了後1年以内に口頭発表を行うとともに、誌上発表を行い、発表数を増加させる。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。</p> <p>「評価指標」 ・小委員会委員全員の倫理審査委員向けの研修の受講状況 ・審査日後2日以内の申請者への結果伝達。</p>	III	産学協同体制の構築によるブランド力向上を図るために、計画1-4を立案した。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進では、大学院公開講座を開催し、学びの交流を図った。 2と4では、産学協同研究成果の対外的なPR促進では、企業との産学連携のもと、特別教授制度による先端研究を実施している講師を招聘しての研究会などを開催した。 3. 地域社会との連携によるPR促進では、市区町村や企業との連携をすることによって産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。学内の総合研究所や産後ケア研究センターなど、産官学連携による事業も展開、開始され、PR促進に繋がっている。	III	産学協同体制の構築によるブランド力向上を図るために、計画1-4を立案した。 1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進では、大学院公開講座を開催し、学びの交流を図った。 2と4では、産学協同研究成果の対外的なPR促進では、企業との産学連携のもと、特別教授制度による先端研究を実施している講師を招聘しての研究会などを開催した。 3. 地域社会との連携によるPR促進では、市区町村や企業との連携をすることによって産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。学内の総合研究所や産後ケア研究センターなど、産官学連携による事業も展開、開始され、PR促進に繋がっている。				
	IV	1.2. 研究発表会並びに大学院教授会を通して大学院生と指導教員への啓発を行い令和3年度修士課程修了者30名中14名（47%）が1年以内に学会発表を行ない、4編の誌上発表が行われた。 ・倫理審査委員向けの受講者は2名増加し、受講終了者は委員7名中4名となった。 ・審査日後の結果伝達は平均0.7日（0～2日）であり、迅速に結果をまとめた上で報告できた。	IV	1. 研究倫理審査レベルの向上。 2. 迅速な審査と結果の伝達。 「評価指標」 ・小委員会委員全員の倫理審査委員向けの研修の受講2名 ・審査日後2日以内の申請者への結果伝達。	IV	1. 研究発表会・大学院教授会により大学院学生と教員への啓発を行い、令和5年度には修士課程修了生35名中3名（9%）が学会発表を行い、3編の誌上発表が行われた。（2/28集計中） ・倫理審査委員向け研修の受講者2名。委員の交替もあったが、受講修了者は委員7名中5名となった。 ・審査後の結果伝達は平均0.2日であり、迅速に結果を報告できた。 2. NPフォーラム2023を2023年12月2～3日で開催した。のべ参加者数は在学生含め136名であった。修了生によって実践報告で1題、シンポジウムで6題の活動報告があった。また修了生実態調査報告では、対象となった修了生のうち、課題研究の学会への発表は約6割（54人）、学会誌等への掲載が約2割（21人）が実施していたことが明らかになった旨報告された。		



第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況				
	評価区分		評価区分		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議			
<p><b>○大学院千葉看護学研究科</b> 【計画19-1】 研究科修士課程においては、各指導教員の役割分担と連携体制を明確にして指導教員間の綿密な協議に基づき、DPを実現する体系的な大学院教育を行うこととし、院生の質を保证する組織的な教育・研究指導体制の充実に努める。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 千葉看護学部の地域交流イベントにおいて、院生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p>【評価指標】 ・地域交流イベントでの企画数、参加住民等からのアンケート結果、参加学生からのアンケート結果</p> <p>2. 修士生の研究発表支援の実施。 修士生の研究成果の公開を支援し、実証的研究実施支援の在り方を検討する。</p> <p>【評価指標】 ・修士論文の学会等での発表及び学会誌等へのアクセプト数、及び内容、自己/第三者評価結果</p> <p>3. 教育活動と成果の点検評価及び改善活動の推進。 学生からの授業評価並びにそれに対する教員の自己評価、各会議での検討等に基づき、大学院DPに照らした点検評価を行い、CP、AP及びDPの改定に向けた準備を行う。</p> <p>【評価指標】 ・検討会の開催回数、成果物としての新カリキュラムの有無と内容</p>	III	<p>1. 交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った：1回 ・本発表を実践報告として次年度（令和5年度）紀要ならびにJCHO学会に発表予定である。</p> <p>IIII</p>	<p>2. 毎月行う研究指導教員で行う研究科運営会議において、特別研究の進捗状況について共有し、外部審査担当を置いた特別研究の審査体制を明文化し、初の修士課程修士5名を輩出することができた。合わせて、終了後の学会発表・論文公表への支援を継続するための研究生制度も導入し、修士生5名のうち4名がエントリーした。また、学内外の関係者に公開する発表会を開催した。研究科教員、学部教員ほか、病院の看護部長の参加も得ることができた。 ・研究科学生により、地域交流イベントで、研究科の学修成果を発表した。DPに照らした評価は研究科運営会議では行ったが、研究科教授会では未実施である。</p> <p>IIII</p>	<p>3. 令和3年度の学生からの授業評価アンケート結果を、8月に各科目で検討し、後期の教育活動ならびに令和5年度授業改善に活用した。令和4年度前期・後期開講科目については、今年度の履修者や修士生の状況を資料として、各科目ならびに研究科運営会議で改善点の検討を行った。特に、1年次後期必修科目の「看護機能推進演習」については、点検評価会議を開催し、1年次前期必修科目の「看護機能推進特論」や「特別研究」その他の科目との関連を含め、入学者のレディネスを考慮し、DPの達成に向けて効果的に運営する方策について意見交換し、議事録として改善計画報告書を作成した。また、和歌山看護学研究科と合同で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」という合同学習会を行い、入学者のレディネスに合わせた指導について検討した。</p>	III	<p>1. 地域交流イベントにおける活動の実施。 ①前年の情報をもとにテーマをしばって情報収集を行う。 ②成果を活動報告として紀要等に一つ以上発表する。</p> <p>【評価指標】 地域交流イベントでの企画数（1つ以上）、参加住民等からの肯定的な意見、参加学生からの肯定的な意見、活動報告公開数（1つ以上）</p> <p>IIII</p>	<p>2. 修士生の研究発表支援の実施。 修士生を支援し学会・誌上发表を行う。 地域交流イベント等において発表の企画を設ける。 前年度計画記載の修士生の状況を加えた検討会を開催する。</p> <p>【評価指標】 ・研究科学生による地域交流イベント等での研究報告の有無、修士研究内容に関する審査及び研究科教授会でのDPに照らした評価結果 ・修士論文の学会等での発表及び学会誌等へのアクセプト数</p> <p>IIII</p>	<p>3. 令和4年度修士生5名中4名が学会発表し、1名は令和6年度5月の学会発表が確定している。 ・令和5年度地域交流イベントでは、「地域看護機能推進演習（必修）」履修者により、演習での成果物をもとに発表をおこない、参加者との意見交換を行った。当日は、上智大学地域看護学教授を招聘し、意見交換及び助言を得ることで、今後の課題についてフィードバックがなされた。 ・令和4年度修士生の授業評価アンケート結果に基づき、令和5年度の授業改善につなげた。定期研究科運営会議にて、特別研究の進捗、令和5年度学位（修士）申請者の論文審査の評価基準をもとに各学生の取り組み状況を共有し検討した。</p> <p>IIII</p>	<p>3. 令和4年度の学生からの授業評価アンケート結果に基づき、令和5年度の授業改善につなげた。各科目の検討会議および研究科運営会議において、到達目標の達成状況や他科目との関連性からの学習効果を検討した。科目と各DPとの関係については、次年度以降さらに整理を行う必要性を教務委員会で確認した。以上の記録は、各議事録に残した。 ・令和5年度は特別研究担当教員1名を加えるとともに、各学生の研究テーマに応じて、大学院担当教員のなかから副指導教員を選出し、指導体制の充実に努めた。</p>

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画19-2】</b>  修了生の研究成果の公開を支援し、実装的な研究実施支援の在り方を検討する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  研究科DPにのっとり、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化をめざした修了生の研究成果の公開を支援し、実装的な研究実施支援の在り方を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・学生の授業評価アンケートによる授業の質評価、修了生の研究成果の公開数、地域連携の推進や看護機能の明確化に関する情報交換会等の開催数</p> <p><b>【計画19-3】</b>  優秀な学生を確保する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  基盤となる人材の獲得をめざし、入試・広報活動等を通して、保健医療組織及び個人に本学及び本研究科のビジョンを伝え、これに共鳴する受験生の獲得を図る。また、保健医療の現場に直接貢献しようとする人材を育成するため、修了後の臨床現場での活躍イメージをもって学修・研究が実施できるよう学生支援を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・学生の授業評価アンケートによる大学・研究科ビジョンへのコミットメント状況、科目選択や研究テーマ設定における修了後の就業イメージとの一致状況、修了後に保健医療現場へ就職・復帰する修了生数、修了生の現場での活動状況</p>	IV	<p>・「特別研究」は、初開講であるため、授業評価アンケート結果はまだ届いていないが、研究指導教員で毎月開催する研究科運営会議の場を中心に、特別研究の進捗状況を共有し、学会発表や学会誌投稿を視野にいたした支援の在り方を検討した。</p>	IV	<p><b>【年度計画19-2】</b>  修了生を支援し学会・誌上発表を行う。地域交流イベント等において発表の企画を設ける。前年を継続するとともに、修了生の状況を加えた検討会を開催する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・学生の授業評価アンケートによる授業の質評価、修了生の研究成果の公開数、地域連携の推進や看護機能の明確化に関する情報交換会等の開催数</p>	IV	<p>・令和4年度修了生5名のうち4名が研究生となり、担当教員の指導のもと学会発表、論文の投稿準備を進めた。研究生ではない者も含め、5名中4名が学会発表を終え、1名は令和6年5月学会発表が確定している。</p> <p>・令和5年度地域交流イベントでは、「地域看護機能推進演習（必修）」履修者により、演習での成果物をもとに発表をおこない、参加者との意見交換を行った。当日は、上智大学地域看護学教授を招聘し、意見交換及び助言を得ることで、今後の課題についてフィードバックがなされた</p> <p>・令和4年度修了生の授業評価アンケート結果に基づき、令和5年度の授業改善につなげた。定期研究科運営会議にて、特別研究の進捗、令和5年度学位（修士）申請者の論文審査の評価基準をもとに各学生の取り組み状況を共有し検討した。</p>		
	III	<p>・千葉県内の施設470箇所ならびに、JCHO病院・看護学校60箇所に募集ポスター配布を2回行った上で、入試説明会は2回開催し、個別相談は15名に実施した。学生へのアンケートとの照合は未着手であるが、本学研究科志願理由や、入学後の科目選択、研究テーマ設定から、本学研究科で目指す地域医療の場で看護機能を推進する人材像と一致していることを確認できている。</p>	IV	<p><b>【年度計画19-3】</b>  前年に準じた活動を行う。加えて、授業評価アンケートを分析し、評価改善を行う。修了生の現場での活動状況を把握するための手段（アンケート、修了後に参集できる機会の設定、等）を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・学生の授業評価アンケートによる大学・研究科ビジョンへのコミットメント状況、科目選択や研究テーマ設定における修了後の就業イメージとの一致状況、修了後に保健医療現場へ就職・復帰する修了生数、修了生の現場での活動状況</p>	IV	<p>・千葉県内の施設470箇所ならびに、JCHO病院・看護学校60箇所に募集ポスター配布を2回行った上で、入試説明会を2回開催した。また、学部の実習施設となっているJCHO病院に訪問し、パンフレットの配架依頼等の広報活動を実施した。</p> <p>・学生へ授業評価アンケートの分析は科目担当者間のみの実施であり、全体での把握はしていないが、DPと照合しての自己評価や、研究テーマ設定から、本学研究科で目指す地域医療の場で看護機能を推進する人材像と一致している。</p> <p>・就学中に離職していた学生も修了後は就職し、全員保健医療現場（教育含む）で活動していく。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分			
<p><b>【計画19-4】</b> 仕事を待つ学生への修学支援等を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生が仕事を継続しながら学修できるように時間割を工夫するとともに遠隔授業とそのサポートの仕組みを整備する。</p> <p>2. 科目等履修制度の整備・活用を推進する。</p> <p>3. 地域交流イベントやWEB掲載等により研究科主催の公開授業を実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数</p> <p><b>【計画19-5】</b> 地域連携に関する共同研究を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する独自の講義・演習を開発・展開し、これを基盤とした修士研究の指導、及び共同研究を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学内外の評価、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する共同研究の数</p>	IV	1. 令和3年度および4年度の授業実施・出席状況ならびに、学修成果について、研究科運営会議にて検討した。その結果を受け、選択必修科目の時間割上表裏を最小にしたり、履修希望者の多い隔年開講科目を毎年開講としたり、複数科目について、研究デザイン検討と連動するような開講時期に変更するなどの改善を行って、令和5年度時間割を作成した。令和4年度の入学者は11名全員が社会人であり、令和5年度の入学予定者10名もすべて社会人となっている。	<p><b>【年度計画19-4】</b> 前年度に準ずる。研究科授業の教材をWEB公開する（1コマ分）</p> <p><b>【評価指標】</b> ・学生の授業評価アンケートによる出席のしやすさ・サポート評価、仕事を継続しながらの入学学生数、欠席・休学状況、科目等履修制度利用者数、研究科主催の公開授業実施数</p> <p><b>【年度計画19-5】</b> 地域連携に関する共同研究を開始する（1つ）。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研究科内での教員によるピアレビュー数と評価、修士論文に対する学内外の評価、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する共同研究の数</p>	IV	1. 令和5年度入学生10名が仕事を継続しながら学業を継続できるよう、業務で欠席せざるを得ない授業については終了後にオンデマンド配信を行った。特別研究のゼミに関しても、学生の勤務に応じて柔軟にスケジュール調整を行い、研究計画を進められるよう支援した。		
	III	2. 科目等履修制度について、入試説明会だけでなく、個別相談でも周知し、ホームページ上でも募集案内を行い、令和4年度2名、令和5年度1名の科目等履修生の利用があった。		IV	2. 科目等履修制度について、入試説明会、個別相談、ホームページ上で募集案内を行い、令和5年度1名の利用者は、令和6年度入学予定となった。令和6年度も1名の科目等履修生の利用予定であり、該当者には、大学院出願に向けた準備とあわせて、効果的な履修計画となるよう個別相談を行った。科目等履修生選考の実施要項を作成し、本制度の運用を円滑にする体制を整えた。		
	III	3. 地域交流イベントで、研究科主催の公開授業は行わなかったが、大学院学生による学修成果報告を行った。		III	3. 学生の授業評価アンケートから、出席のしやすさ、履修支援に関して否定的な意見は認められなかった。令和5年度は入学生10名中9名が前から従事する仕事を継続していた。残り1名も学内で非常勤助手として働きながら学修に取り組んだ。前年度休学していた学生1名は後期から復学したが、研究より非常勤業務の優先を希望し、退学した。科目等履修生は1名であった。研究科主催の公開授業は行わなかったが、地域交流イベントで大学院生10名が看護機能推進演習における学習成果を発表した。 ・次年度は、公開授業について、募集につながる模擬授業をWeb公開することを検討する。		
	IV	・令和3年度入学者9名から、初の修士課程修了生5名を輩出し、修士論文に対する学外審査も得ることができ、発表会では病院看護管理者の参加も得た。個人の事情で1名が退学したものの、1名は働きながらの研究の継続として卒業を延期しており、2名は休学を活用し、修了に向けている。修了生5名からは、カリキュラム全体を通じて、DPを達成する力を獲得したとの高評価を得ている。教員のピアレビューを通して、入学後に科目を履修しながら、研究テーマを焦点化するカリキュラムであり、働きながら履修する状況に合わせていく上では、修士研究としての質向上に向けた1年次からの指導上の工夫と履修年限に関する学修支援を行う必要性を確認している。修士論文のテーマはいずれも地域連携を推進する研究であり、令和5年度に各看護系学会等で共同研究として、学会発表、学会誌投稿を予定している。		III	・開設初年度（令和3年度）より、保健医療福祉における地域連携の推進と看護機能の明確化に関する講義・演習として、看護機能推進特論および演習を実施し、3回目となる本年度に学生の授業評価や卒業時点での達成状況に基づいた評価を科目担当教員全員で行い、内容と方法に改善を加えた。次年度についてはこれまでCOVID-19感染のため実施できなかったフィールドワークを取り入れ、これにより周辺地域への貢献につなげることを検討する。加えて、修了生の研究公開状況を確認する。 ・共同研究は実施しておらず、次年度には実践報告として本学紀要に投稿すること、および修了生との研究の可能性を探索する。		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>○大学院和歌山看護学研究科</b>  <b>【計画20-1】</b>            教職員体制の充実のもと、DPを実現するための教育方法を開発し学生の学びの質を保証する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 社会人学生の学びを推進する教育方法を開発する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数            ・遠隔地でも学べる学習環境の整備状況</p> <p>2. 修了生の研究成果の公表を支援する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・学会等での発表および学会誌等への投稿数及び内容の状況</p> <p><b>【計画20-2】</b>            学生の社会生活と学習を両立できる環境整備を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行うとともに、学生の学べる時間に応じた学習方法の検討を行い、科目履修での学びを勧める。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・各種奨学金・補助金の獲得状況            ・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況（eラーニングなど）            ・科目履修生制度の利用状況</p>	III	<p>1. 准教授、講師を特論、演習科目に配置し、修士論文審査では新たに准教授を中心に副査として配置し、充実を図った。社会人学生であるため、学びの準備のために入学前教育を実施した。また学びを推進する教育方法を検討するため、修了生、在学学生、教員を対象に「教学調査」を実施した。学習環境については8割が満足という結果であった。自由記載から、ICTスキルの向上とそれらが学修成果に繋がるように、Desknet'sやWebClassといった学修支援アプリケーションを説明する機会を設けた。対面、オンライン、ハイブリッドに対応できる受講環境の整備し、遠隔地からも学べる環境が整った。大学院生室の環境整備を行った。            ・大学院担当教員数は、開設当初の教授7名、准教授2名、講師3名から、今年度は教授8名、准教授9名、講師5名となった。新規教員の多い体制であったために教育方法検討については、次年度の課題として引き続き検討したい。</p> <p>2. 修了生に学会発表と学会誌への投稿について継続して指導することとを伝え、指導教授は支援した。学生の連絡先の登録ができたため、支援体制の構築に向けては次年度に検討する。            ・令和3年度修了生10名中、学会発表は今年の発表予定を含め6名、投稿は紀要に1名、学会誌に2名行い、1名は学会誌に原著で受理された。</p>	IV	<p><b>【年度計画20-1】</b>            1. 大学院担当教員の充実            ①社会人学生の学びを推進する教育方法を検討する。            ②遠隔地でも学びを可能にする教育方法、教育体制を検討する。            ③入学前教育により大学院での学びへの適応を図る。  <b>「評価指標」</b>            ・教育方法と教育体制の検討・開発状況、大学院担当教員数</p> <p>2. 修了生の研究成果の学会への発表とその後の投稿を支援する。  <b>「評価指標」</b>            ・学会等での発表および学会誌等への投稿数及び内容の状況</p>	IV	<p>1. 令和4年度に引き続き、充実した担当教員により、修士論文審査を実施することができた。            ・ハイブリッドによる受講環境の下、学生は仕事の状況に応じてタイムリーにオンラインか対面を選択して講義や演習への出席が可能になった。学生の学修ニーズの確認し、必要な文献検索、分析方法など個別に対応した。研究室の整備により、研究室がよく活用され、学生同士のディスカッションが活発に行われるようになった。今年度は7名中6名が2年で終了、1名が休学を含め3年で修了した。入学前教育はプレセミナーとして、大学院で学ぶことについて説明し、在学生から学び方や生活について具体的に聞く機会を設けている。            ・大学院担当教員数は、教授8名、准教授9名、講師4名の体制であった。</p> <p>2. 修了生への学会発表および論文投稿に向けた指導を継続して行っている。次年度からは個別指導を継続するとともに研究生制度をスタートし、キャンパスの学習環境も整えた。            ・修了生の成果として、学会誌への原著：2、紀要への研究報告：1、学会発表が9（内1名優秀演題賞）、院内報告が2であり、今後に向けて学会誌への投稿中、次年度学会発表にエントリーしている。</p>		
	IV	<p>1. 各種奨学金、補助金等について、入試説明会、大学院教務ガイダンスで行っている。学生募集に大きく関わるために具体的な説明を実施した。特に教育訓練給付制度については、入学1か月前までに申請が必要のため間に合うように説明を行った。            2. 学生の学べる時間に応じた学習方法の検討（eラーニングなど）は、検討を継続する。            3. 科目履修は入学につながる可能性があるために、入学説明と同時に科目履修についての説明も行い、広報活動を行っている。            ・教育訓練給付金制度は令和5年度から開始のために説明を受けた入学予定の3名が手続きを行っている。対面、オンライン、オンデマンド、ハイブリッドの環境が整ったため、科目レベルでそれらを有効に活用するための検討を継続する。学習方法の開発は次年度継続して検討する。            今年度の科目履修制度の利用はなかったが、令和5年度は3名の予定である。</p>	III	<p><b>【年度計画20-2】</b>            1. 各種奨学金、補助金等に関する情報収集と獲得及び学生への周知を行う。            2. 学生の学べる時間に応じた学習方法の検討を行う（eラーニングなど）            3. 科目履修での学びを勧める。  <b>「評価指標」</b>            ・各種奨学金・補助金の獲得状況            ・学生の学べる時間に応じた学習方法の開発状況（eラーニングなど）            ・科目履修生制度の利用状況</p>	III	<p>1. 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練給付）の指定を受けているため、申請手続きについて説明し、6名の学生が活用し学費の負担軽減がされている。            2. ハイブリッド型の授業を行っているが、自分の都合の良い時間に学べるeラーニング等の検討をしていく。            3. 科目履修生は2名。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【計画20-3】 修了生の学修継続支援を行う。</p> <p>「計画達成のための方策」 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援を行う。</p> <p>「評価指標」 ・修了生の学習支援機会の確保数 ・研究成果の発表と投稿数</p> <p>○助産学専攻科</p> <p>【計画21-1】 教育理念・教育目標に沿った教育プログラムを構築する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 教育理念に則った教育プログラムの確立。 2) 教育目標に応じたカリキュラムの再構築 3) CBT・OSCEが今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込まれるため、全国助産師教育協議会での取り組みにも参加し、次年度以降実施していくための準備を行った。ただし、OSCEの実施にあたっては、学生1名あたりに多大な時間を要するため、実施方法に関して検討が必要である。 4) 裂傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図られた。次年度以降演習内に取り入れていく。</p> <p>「評価指標」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況</p> <p>【計画21-2】 産後ケアセンターでの実習を通し、地域の母子を支援する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. アーリー・エクスポージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2. 地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3. NCP、受胎調節実地指導員講習会の開催。 4. 1人あたり10例程度確実に分娩助産習を行い、臨床経験の確保。 5. 新カリキュラムの検討。 6. 地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 7. 生活の場における地域での母子支援の在り方について考えていく。</p> <p>「評価指標」 ・実習の受入れ状況</p>	II	<p>・修了生の研究成果発表の機会の確保については、修士論文指導教員が主として個別に行っている現状である。</p> <p>・修了生の動向を把握し、学習支援機会について検討を始めたところである。教務委員会が推進するシステムを構築する予定である。研究成果としては、修了生1名が日本看護協会認定看護管理者に合格した。研究成果の発表と投稿数は【年度計画20-1】の評価で示した。</p>	<p>【年度計画20-3】 修了生の研究成果発表の機会を確保するなどにより、修了生の学修継続支援を行う。</p> <p>「評価指標」 ・修了生の学習支援機会の開催数 ・研究成果の発表と投稿数</p>	III	<p>・本研究科修了生に対して研究生制度を次年度から開始する予定で2名が応募した。研究生の学習環境として文献検索できるパソコンの設置も行った。</p>				
	III	<p>1. 母子保健法の改正により、助産師は生後1年までの母子の支援が求められるため、カリキュラム変更を行い「乳幼児の発育・発達とケア」を新規科目として立ち上げた。本科目では、新生児科医師の講義も多く配置し、健診時の診断能力の向上も目指している。</p> <p>2. CBTやOSCEが今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込まれるため、全国助産師教育協議会での取り組みにも参加し、次年度以降実施していくための準備を行った。ただし、OSCEの実施にあたっては、学生1名あたりに多大な時間を要するため、実施方法に関して検討が必要である。</p> <p>裂傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図られた。次年度以降演習内に取り入れていく。</p>	<p>【年度計画21-1】 1. 教育理念に則った教育プログラムの確立。 2) 明確な教育目標の設定。 3) 教育目標に応じたカリキュラムの再構築 4) 裂傷縫合・経腹エコーの技術の獲得</p> <p>「評価指標」 ・新しい教育制度の導入状況 ・主体的な学修を促す教育方法の導入状況</p>	III	<p>1. 母子保健法の改正により、助産師は生後1年までの母子の支援が求められるため、カリキュラム変更を行い「乳幼児の発育・発達とケア」を新規科目として立ち上げた。本科目では、新生児科医師の講義も多く配置し、健診時の診断能力の向上も目指している。</p> <p>2. CBTやOSCEが今後、国家試験での新規取り組みとして導入が見込まれるため、全国助産師教育協議会での取り組みにも参加し、プログラム作成に携わった。今後、1年課程への導入方法に関して検討していく。</p> <p>裂傷縫合演習は今年度も実施した。経腹エコーは機器の購入が図られた。次年度以降演習内に取り入れていく。</p>				
	III	<p>1、6、7. 産後ケア研究センターが、地域で生活している母子の支援に触れることができ、助産学専攻科の実習施設として成立してきている。</p> <p>また、オンライン育児クラスの開催によって、コロナ禍における地域の母子の実際や支援ニーズを学ぶ機会となった。</p> <p>2. 地域母子保健学の講義内で、地域や海外で活躍する医療職の話聞き、異なる文化圏における学習の機会を設けた。</p> <p>3. 各講習会を受講し実践演習を行った後、試験に合格して資格認定を受けた。</p> <p>4. コロナ禍により、実習受け入れ人数や受け入れ期間の減少などあるが、学内実習での補充も含め、10例程度の分娩助産を確保できた。</p> <p>5. 母子保健法の改正により、産後ケアの対象は産後1年までの母子となったことから、「助産診断・技術学」や新設した「乳幼児の発育・発達とケア」において、1年までの母子を診る力の向上に努めている。</p>	<p>【年度計画21-2】 COVID-19禍でオンライン育児クラスの開始。</p> <p>「評価指標」 ・実習の受入れ状況</p>	III	<p>・産後ケア研究センターにおいて、地域で生活している母子の現状と実際の支援に触れることができ、助産学専攻科生全員の实習施設として成立している。</p> <p>・母子支援クラスの開催によって、地域の母子の実際や支援ニーズを学ぶ機会となった。</p> <p>・地域母子保健学の講義内で、地域や海外で活躍する医療職の話聞き、異なる文化圏における学習の機会を設けた。</p> <p>・各講習会を受講し実践演習を行った後、試験に合格して資格認定を受けた。</p> <p>・実習受け入れ人数や受け入れ期間の減少などあるが、学内実習での補充も含め、10例程度の分娩助産を確保できた。</p> <p>・母子保健法の改正により、産後ケアの対象は産後1年までの母子となったことから、「助産診断・技術学」や新設した「乳幼児の発育・発達とケア」において、1年までの母子を診る力の向上に努めている。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画21-3】</b> ⑦</p> <p>大学と臨床施設との連携を図り、大学大学院までのキャリアを見据えた教育を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. NCP R講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。</p> <p>2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。</p> <p>3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。</p> <p>4. チーム医療推進助産師研修会への参加。</p> <p>5. 実習協議会の開催。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設への就職率</li> </ul> <p><b>【計画21-4】</b> ⑦</p> <p>研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。</p> <p>1. 体系的なカリキュラムの構築。</p> <p>2. 学部・大学院の一貫教育の導入。</p> <p>3. 国際会議発表の推進。</p> <p>4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況</li> </ul> <p><b>【計画21-5】</b> ⑦</p> <p>研究レベル向上の為の教育プログラムの確立を図るとともに、学際的・国際的な視点から自分の専門性を認識できる人材育成のシステムを整備する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を図る。</p> <p>1. 体系的なカリキュラムの構築。</p> <p>2. 学部・大学院の一貫教育の導入。</p> <p>3. 国際会議発表の推進。</p> <p>4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回以上の学会・研修会への参加</li> <li>・勉強会・抄読会の実施状況</li> <li>・実践的英語教育の導入状況</li> <li>・英語抄録作成クラス開催状況</li> <li>・学生の海外学習状況</li> <li>・論文の学会発表状況</li> <li>・海外論文発表経験者数の状況</li> </ul>	III	<p>1. 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会やNCP R講習会など、実習施設にも公開し、臨床スタッフの参加も促している。</p> <p>3. 本学で開催した東京母性衛生学会学術セミナーに、実習施設の助産師の参加が多数あった。</p> <p>4. オンラインで実習協議会を開催し、今年度の実習指導の振り返りや次年度に向けての検討を行った。今年の卒業生の実習施設への就職率は40%程度に増加した。</p>	III	<p><b>【年度計画21-3】</b></p> <p>1. NCP R講習会や受胎調節実地指導員講習会の開催。</p> <p>2. 産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。</p> <p>3. 東京母性衛生学会学術セミナーの参加。</p> <p>4. チーム医療推進助産師研修会への参加。</p> <p>5. 実習協議会の開催。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設への就職率</li> </ul> <p><b>【年度計画21-4】</b></p> <p>研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る。</p> <p>1. 体系的なカリキュラムの構築。</p> <p>2. 学部・大学院の一貫教育の導入。</p> <p>3. 国際会議発表の推進。</p> <p>4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成状況</li> </ul> <p><b>【年度計画21-5】</b></p> <p>研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画1-4を立案した。</p> <p>1. 体系的なカリキュラムの構築として、共通科目から個別の専門科目、そして修士・博士論文作成の研究に至るまでを段階的に学べるように、研究特論など基礎的科目も充実させた。</p> <p>2. に関しては、進行はできなかった。</p> <p>3. 4の産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画3の国際会議発表の推進に導けるよう取り組んでいる。</p> <p>取り組みの中で、研究レベル向上の為の大学教育プログラムの作成を図るために、研究のスケジューリングを指導している状況である。</p> <p><b>「評価指標」</b></p>	III	<p>1. 2. 産後ケア研究センターの従事者研修会やNCP R講習会など、実習施設にも公開し、臨床スタッフの参加も促している。</p> <p>4. 5. オンラインで実習協議会を開催し、今年度の実習指導の振り返りや次年度に向けての検討を行った。今年の卒業生の実習施設への就職率は40%程度であった。</p> <p>・研究レベル向上の為の大学教育プログラムを確立するために、研究レベルに裏付けられた大学での人材育成を図る計画1-4を立案した。</p> <p>1. 体系的なカリキュラムの構築として、基礎科目から助産の専門科目、論文作成に至るまでを段階的に学べるように、カリキュラムを構築している。</p> <p>2. 首都圏の内部進学者が増加し、学部から助産学専攻科への一貫教育が図られつつある。</p> <p>3. 4. 産学連携・地域連携による共同研究の推進を図ることで、計画国際会議発表の推進に導けるよう取り組んでいる。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画21-6】</b> 助産学専攻科のアメニティ空間の改善を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設のアメニティ空間の改善。</li> <li>2. グローバル化に対応する施設環境整備。</li> <li>3. 良質な学修環境整備。</li> </ol> <p><b>「評価指標」</b> ・キャンパス空間の整備状況</p>	II	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、2. 講義教室が大学院と共有であるため、常時使用できるわけではなく、使用教室が日によって変わってしまい、学生の学習環境の確保が求められる。</li> <li>3. 学生の分娩助産習のために、分娩助産モデルを新規購入したが、学生数に対し不十分であるので、充足させていく。</li> </ol>	<p><b>【年度計画21-6】</b> キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設のアメニティ空間の改善。</li> <li>2. グローバル化に対応する施設環境整備。</li> <li>3. 良質な学修環境整備。</li> </ol> <p><b>「評価指標」</b> ・キャンパス空間の整備状況</p>	II	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-3. 講義教室が大学院と共有であるが、日程調整し、学生の学習環境の確保に努めている。第3別館の教室や階段に関して、学生より整備を求めるオピニオンが出ており、対応が必要である。</li> </ol>			
<p><b>【計画21-7】</b> 大学ブランドを学生が認めて受験したいと思える大学及び助産学専攻科をつくる。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。</li> <li>2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進。</li> <li>3. 地域社会との連携によるPR促進。</li> <li>4. 特別教授制度による先端研究導入。</li> <li>5. 国際交流グローバル化推進。</li> </ol> <p><b>「評価指標」</b> ・一般入試志願倍率 5倍以上</p>	III	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-3. 産後ケア研究センターでの取り組みや、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのPR促進効果により、オンラインでの助産学専攻科のオープンキャンパスでは、参加者100名程度と大変盛況であり、本学に進学したいと思ったなどの感想が多かった。</li> <li>一般入試の受験者は70名程度であり、志願者倍率は、5倍以上となった。</li> <li>5. 【年度計画21-2】を参照。授業の一環で、海外で活躍する医療職の話聞く機会を設け、将来のキャリア選択の一助としている。</li> </ol>	<p><b>【年度計画21-7】</b> 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。</li> <li>2. 産学協同研究成果の対外的なPR促進。</li> <li>3. 地域社会との連携によるPR促進。</li> <li>4. 特別教授制度による先端研究導入。</li> <li>5. 国際交流グローバル化推進。</li> </ol> <p><b>「評価指標」</b> ・一般入試志願倍率 5倍以上</p>	III	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-3. 産後ケア研究センターでの取り組みや、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのPR促進効果により、オンラインでの助産学専攻科のオープンキャンパスでは、参加者100名程度と大変盛況であり、本学に進学したいと思ったなどの感想が多かった。内部進学希望者も増加している。</li> <li>4. 5. 授業の一環で、海外で活躍する医療職の話聞く機会を設け、将来のキャリア選択の一助としている。</li> </ol>			
<p><b>○和歌山助産学専攻科</b></p> <p><b>【計画22-1】</b> 「災害と助産」の必修科目を踏まえ、平時から備える能力を養うことで一歩先を見据えた教育を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 全国でリスクが高まっている大地震を中心とした災害における周産期医療について専門的に学ぶ「災害と助産」を必修科目に設定したところであり、周産期の母子が多様化するセクシュアリティーにも着目し、平時から備える能力を養う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施状況</p>	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震をはじめとした災害時の助産や母子保健について、備えから発生直後、中長期にわたる避難所生活に至るまで、専門家を招聘してオムニバス方式で多面的に授業を行った。</li> <li>・アンケートによると「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」「総合的に満足できた」の問いに全員が「思う」と回答した。和歌山県の実情に沿った現実的な授業を展開できた。</li> </ul>	<p><b>【年度計画22-1】</b> 「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「災害と助産」履修によって、母子保健における災害時への関心が高まる授業アンケートの実施状況</p>	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の助産や母子保健について、備えから発生直後、中長期にわたる避難所生活に至るまで、専門家を招聘してオムニバス方式で授業を行った。</li> <li>・アンケートによると「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」「総合的に満足できた」の問いに全員が「思う」と回答した。和歌山県の実情に沿った現実的な授業を展開できた。</li> </ul>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画22-2】</b> 必修科目の「カウンセリング論」を踏まえ、喪失体験者への接し方について演習を通して学び、寛容、愛、心温かい医療人としての態度を修得する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 必修科目に「カウンセリング論」を編成し、非常勤講師に公認心理師兼臨床心理士兼大学院でのカウンセラーの授業を通して、ペリネイタルロスなど喪失体験者への接し方について演習を通して学び、寛容、愛、心温かい医療人としての態度を修得する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する授業アンケート実施</p> <p><b>【計画22-3】</b> 一歩先を見据えながら助産を創造し、地域周産期医療向上に寄与できる助産師の育成を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 和歌山看護学部から進学を希望する者及び地域周産期医療への貢献を希望する受験生を、西日本を中心に広くリクルートし、優秀な人材を確保する。また、修了後は助産師国家試験に合格し、希望する就職ができるよう支援する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・定員充足率の状況 ・助産師国家試験合格率、就職率の状況</p> <p><b>【計画22-4】</b> 国際的視野と研究力を備え、国際母子保健分野で将来リーダーとなる資質を養成する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> グローバル化の問題を解決するための「国際母子保健活動論」及びリアルタイムで世界の母子保健情勢を英語で学ぶ「英語文献講読（必修科目）」の履修、加えて大規模な専門分野の学会参加も含めて、国際的視野と研究力を備え、国際母子保健分野で将来リーダーとなる資質を養成する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ガイダンスで「国際母子保健活動論」の履修または聴講状況 ・学会への参加状況</p>	IV	<p>・臨床カウンセラーである講師の演習を行った。</p> <p>・アンケートでは、「基本的な専門知識が得られた」「新しい考え方や発想が得られた」「発展的な学びにつながる」「総合的に満足できた」の問いについて全員が「思う」と回答した。このような実践的な演習は初めてで、実習前に有意義だったという声が多かった。</p>	IV	<p><b>【年度計画22-2】</b> 「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する、授業アンケートを実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「カウンセリング論」履修によって、心温かい医療人としての接し方について理解する授業アンケート実施</p>	IV	<p>・昨年同様、大学病院で周産期のペリネイタルロスなどを支援している専門のカウンセラー（公認心理師）を非常勤講師に招いて、臨床の実践的な演習も踏まえた授業科目を開講できた。アンケートを閲覧できなかったが、学生の声を聴くと授業は好評で、有意義な時間だったと述べていた。</p>		
	IV	<p>・実習施設の確保の問題から定員には満たないが、8名の合格者全員が入学した。</p> <p>・実習施設の現状から80%の定員充足率であった。就職率は100%で、助産師国家試験は全員が受験し100%の合格率であった。</p>	IV	<p><b>【年度計画22-3】</b> 和歌山県立高等看護学院助産学科が閉科したため、以降の定員充足率を100%とする。助産師国家試験合格率100%、就職率100%とする。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・定員充足率の状況 ・助産師国家試験合格率、就職率の状況</p>	III	<p>・令和5年度までは実習施設の確保の問題から定員は8名としたが、入学辞退者が1名出て7名の入学者で開講した。入学者7名全員が単位を取得し、修了することができた。</p> <p>・令和6年度からは定員10名の入学者を予定していたが、学部内受験者数が3名、学外受験者数も7名とどちらも昨年よりも少なく、合格辞退者1名が出た結果9名の入学予定者で開講することとなった。学部内進学希望は多かったものの最終的に受験につながらず、奨学金返済の課題が再度浮上した。また学外からの受験者も減少し、リクルート方法も検討していく必要がある。</p> <p>・就職率は令和5年度も100%で、助産師国家試験は全員が受験した。</p>		
	IV	<p>・ガイダンスで当該科目の意義を説明した。</p> <p>・全員が選択した。授業アンケートでは、「専門知識が得られた」や「新しい考え方や発想が得られた」「この授業は総合的に満足できた」に全員が「思う」と回答するなど関心は高かった。令和4年9月の日本母性衛生学会学術集会上に全員が参加し、履修状況と授業評価も踏まえ、国際母子保健について視野を広め、将来のリーダーとなる資質を養成できた。</p>	IV	<p><b>【年度計画22-4】</b> ガイダンスで「国際母子保健活動論」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修または聴講する。学会に1回参加する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・同左</p>	IV	<p>・ガイダンスで昨年同様に意義を説明し、全員が選択した。授業アンケートを閲覧できなかったが、担当教員からは学生が熱心に受講していたと聞くことができた。</p> <p>・令和5年度も日本母性衛生学会学術集会上に学生全員が参加し、国際母子保健について視野を広め、リーダーの資質の基盤ができたと考えている。</p>		



第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		
	評価区分		評価区分		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
<p><b>〇感染制御学教育研究センター</b> 【計画23-1】⑦</p> <p>「感染制御実践看護学講座」を継続するとともに、COVID-19パンデミックを経験し、感染制御に関わる人材育成について、本学がどのように貢献できるのか、引き続き検討していく。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <p>1. 「感染制御実践看護学講座」の継続。 2. COVID-19パンデミックを経験し、感染制御に関わる人材育成についての検討。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合格者数20名～25名を維持</li> </ul> <p>【計画23-2】⑦</p> <p>JHA誌発刊を継続するとともに、高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及のためのセンターで可能な「研修」の在り方など情報収集を行う。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <p>1. JHA誌発刊の継続。 2. 高齢者施設医療従事者に対する感染制御の知識普及は喫緊の課題となっていることから、センターで可能な「研修」の在り方などの情報収集。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JHA誌発刊年2回の発行維持</li> <li>・高齢者施設従事者への研修体制の構築状況</li> </ul> <p><b>〇産後ケア研究センター</b> 【計画24-1】⑦</p> <p>産後ケア研究センターでの実習を通して、地域の母子を支援する。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <p>1. アーリー・エクスプロージャーの一環として、産後ケア研究センターなど、現場で働く助産師活動に触れる。 2. 地域や海外で助産師活動に従事する講師の招致。 3. 地域に貢献できるように、妊産婦・乳幼児健診の実習の機会を増やす。 4. 生活の場における地域での母子支援の在り方について検討する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の受け入れ状況</li> </ul>	III	<p>1. 23名の合格者のうち、個人的理由で1名離脱し22名が修了し「感染制御実践看護師」を付与した。 2. 予定通り「修了試験」を実施した。客観評価は、研修生自身のウイークポイントを明確にできること、さらに「資格認定」のレベルの維持にも重要である。 3. 現在検討中。 4. 平成5年の研修生の応募数は定員の2倍に及び、関心の高さをうかがえた。本研修会は診療報酬上の施設基準「適切な研修」と認められており、わが国の医療施設の感染対策を担う人材育成機関として大きく貢献しており、今後も本体制を維持しつつ継続していく。</p>	III	<p>【年度計画23-1】</p> <p>1. 合格者数を20名～25名程度を維持する。 2. 「感染制御実践看護師」資格付与のために従来からの考査に加え「修了試験」を新設し、研修生と講座全体の評価を実施する。 3. 修了生の動向調査を行う。以後、定期的に実施し、結果を公開していく方向で検討する。 4. 今後の感染制御に関わる人材育成について「特定看護師」育成プログラムを含め情報収集していく。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合格者数20名～25名を維持</li> </ul>	III	<p>1. 24名の入学生全員が修了し「感染制御実践看護師」を授与した。 2. 「修了試験」に合格することが卒業認定の重要ポイントとして位置付けているが、それ以外に前期修了時点で実施する「科目試験」、自施設実習修了時点で「成果発表」、そして外部委員により審査を経て総合的に評価している。 3. アンケートは終了し、集計中。 4. 平成5年の研修生の応募数は定員の2倍に及び、関心の高さをうかがえた。本研修会は診療報酬上の施設基準「適切な研修」と認められており、わが国の医療施設の感染対策を担う人材育成機関として大きく貢献しており、今後も本体制を維持しつつ継続していく。</p>	
	IV	<p>1. 予定通り年2刊発刊。 2. 「高齢者施設従事者」対象の感染制御に関する研修については、現状のセンターの運営体制では企画自体難しく、当面高齢者施設従事者をサポートする「感染制御実践看護師」の育成に注力していく。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JHA誌発刊年2回の発行維持</li> <li>・高齢者施設従事者への研修体制の構築状況</li> </ul>	IV	<p>【年度計画23-2】</p> <p>1. 年2回の発刊を維持していく。 2. センターで可能な高齢者施設従事者への研修体制を構築する。又は高齢者施設の感染制御の底上げのためにセンターで貢献できることを検討する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JHA誌発刊年2回の発行維持</li> <li>・高齢者施設従事者への研修体制の構築状況</li> </ul>	IV	<p>1. 予定通り年2刊発刊。 2. 計画「2」に関しては昨年同様、「高齢者施設従事者」対象の感染制御に関する研修は、現状のセンターの運営体制では企画自体難しく、高齢者施設従事者をサポートする「感染制御実践看護師」の育成に注力していく。</p>	
	IV	<p>・オンラインでの集団教育を計3回実施し、延べ20名の母親が参加した。 ・助産師学生21名を、地域母子保健学の演習や助産学実習Ⅴの実習内で、地区調査や家庭訪問の実際、助産管理実習を実施した。電話相談や訪問型ケアの実際を学ぶことができたとして学生より評価を受けた。 ・母性看護学実習で12名、統合実習で10名、実習の受け入れを行った。</p>	IV	<p>【年度計画24-1】</p> <p>COVID-19禍でオンライン育児クラス開始。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の受け入れ状況</li> </ul>	IV	<p>・地域の母子を対象とした集団教育を計3回実施し、合計21組の母子が参加した。 ・助産師学生20名が、地域母子保健学の演習や助産学実習Ⅴの実習内で、地区調査や家庭訪問の実際、助産管理実習を実施した。 ・母性看護学実習で8名、統合実習で10名、実習の受け入れを行った。</p>	

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議																				
<p>【計画24-2】 大学と品川区との連携を図り、大学院までのキャリアを見据えた教育を行う。</p> <p>「計画達成のための方策」 1.産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 2.東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3.チーム医療推進助産師研修会への参加。</p> <p>「評価指標」 ・研修会の参加者数、参加回数</p> <p>【計画24-3】 産後ケア研究センターのアメニティ空間の改善を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設の長寿命化及び更新（アメニティ空間の改善）。 2.グローバル化に対応する施設環境整備。 3.良質な学修環境整備。</p> <p>「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況</p> <p>【計画24-4】 産学協同体制の構築によるブランド力向上プロジェクトの推進を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1.卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。 2.産学協同研究成果の対外的なPR促進。 3.地域社会との連携によるPR促進。 4.特別教授制度による先端研究導入。 5.国際交流グローバル化推進。</p> <p>「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況</p>	III	<p>1.産後ケア研究センターの従事者研修会は年度当初、3日間に渡り実施し、年度途中にブラッシュアップ研修も実施しており、参加者数は約20名であった。 2.東京母性衛生学会学術セミナーは約50名が参加した。 3.チーム医療推進助産師研修会は、今年度はコロナ禍により中止した。</p>	<p>【年度計画24-2】 1.産後ケア研究センターの従事者研修会への参加。 2.東京母性衛生学会学術セミナーの参加。 3.チーム医療推進助産師研修会への参加。</p> <p>「評価指標」 ・研修会の参加者数、参加回数</p>	IV	<p>1.産後ケア研究センターの従事者研修会は年度当初、3日間に渡り実施し、年度途中にブラッシュアップ研修も実施しており、参加者数は約15名であった。 3.チーム医療推進助産師研修会は、4名が参加した。</p>																								
	II	<p>1-3.事務職員や従事者が働きやすい環境となるよう、配置転換を行った。また看護学科学生や助産学専攻科生の実習受け入れに関して、学生が学修しやすい環境整備を図っているが、産後ケア研究センター内のみでは狭小のため、他教室を利用して実施している。</p>	<p>【年度計画24-3】 キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 1.施設の長寿命化及び更新（アメニティ空間の改善）。 2.グローバル化に対応する施設環境整備。 3.良質な学修環境整備。</p> <p>「評価指標」 ・キャンパス空間の整備状況</p>	IV	<p>1-3.事務職員や従事者が働きやすい環境となるよう、配置転換を行った。看護学科学生や助産学専攻科生の実習受け入れに関して、保健センター内の産後ケア室の開設により、学生が学修しやすい環境整備を図った。</p>																								
	IV	<p>1-3.産後ケア研究センターでの取り組み内容について、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのPR促進効果により、利用者数が維持されている。地域社会との連携により、日帰り型産後ケアについて、新たな形態として保健センター内で実施できるよう、場所や物品、人員の検討準備を行った。 5.外国籍の利用者は前年度3名であったが、今年度は10名と増加しているが、外国語の対応が可能なスタッフが従事していることにより、さらに保健センターからも外国籍の対象者の紹介があり、区との協力体制も調整できてきている。 ・産後ケアの利用者数は以下のように推移している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日 帰</td> <td>325</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>訪 問</td> <td>344</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>電話相談</td> <td>639</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>348</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年度は、1月までの数値となっている。</p>		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	日 帰	325	162	228	223	訪 問	344	127	194	202	電話相談	639	925	367	348	<p>【年度計画24-4】 産学協同体制の構築によるブランド力向上を図る。 1.卒業生との交流活性化によるPR効果の促進。 2.産学協同研究成果の対外的なPR促進。 3.地域社会との連携によるPR促進。 4.特別教授制度による先端研究導入。 5.国際交流グローバル化推進。</p> <p>「評価指標」 ・ブランド力向上プロジェクトの推進状況</p>	IV	<p>1-3.産後ケア研究センターでの取り組み内容について、助産雑誌や育児雑誌、インターネットへの寄稿、ホームページでの紹介などのPR促進効果により、利用者数が維持されている。卒業生も従事者として勤務し、交流が図られている。 4.5.外国籍の利用者は今年度は5名おり、外国語の問診票を使用するなどして対応し、保健センターからも外国籍の対象者の紹介があり、区との協力体制も調整できてきている。</p>				
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																								
日 帰	325	162	228	223																									
訪 問	344	127	194	202																									
電話相談	639	925	367	348																									

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>○学長戦略本部等</b>  <b>【計画25-1】⑦(総合研究所)</b>  健康情報基盤研究ユニット(TIS)、ヘルスシステムデザイン研究ユニット(ビーンズ)、教育DX研究ユニット(文科省補助)の三本柱となる研究ユニットを立ち上げる。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  すべての学部・学科の教員が関与する形で、3つの各研究ユニットによる研究成果(論文・書籍・知的財産等)が生まれ、その成果を授業に還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・3つの各研究ユニットの設置状況、研究成果の状況</p> <p><b>【計画25-2】⑦(総合研究所)</b>  ヘルスシステムデザイン研究ユニットの主管により、学生を巻き込んだ研究共創行事として「ジャックと豆の木ワークショップ」を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>  学生有志と教職員の研究共創行事である「ジャックと豆の木ワークショップ」で生まれたアイデアに基づく研究から研究成果(論文・書籍・知的財産等)が生まれ、その成果を授業に還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・「ジャックと豆の木ワークショップ」の開催状況、研究成果の状況</p>	III	<p>・3つの研究ユニットを立ち上げ、学内外に向けての各ユニットの活動を模索した。令和4年度は、健康情報基盤研究ユニット、教育DX研究ユニット、ヘルスシステムデザイン研究ユニットそれぞれのユニットで具体的な活動を実施した。</p>	III	<p><b>【年度計画25-1】</b>  3つの研究ユニットで、研究計画に基づき研究活動を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・3つの各研究ユニットの設置状況、研究成果の状況</p>	III	<p>・新たに提携を行った京急サービス社との連携を深め、同社主催へ各種イベントへの本学の参加や連携しての新規事業への参画を図るなどにより、研究ユニットの活動推進を図った。</p> <p>・ヘルスシステムデザイン研究ユニットでは、台湾の提携先がカナダで展開しているホームケア支援システムを日本にローカライズするための研究に着手した。</p>		
	IV	<p>・ビーンズとの連携のもと「医療と生活を繋ぐヘルスデータ基盤のこれから」と題したヘルスケアDXシンポジウムを、台湾から医療界のゲスト講師を招き、令和5年2月17日に実施した。対面・オンラインを合わせ52名の参加申込があった。</p> <p>・学内学部生や若手教員を対象に、12月に懸賞論文「アジアとともに進む一歩先の医療保健」を実施。応募論文の中から、学生の部で2組3名が最優秀賞、若手教員の部で、1名が最優秀賞、2名が優秀賞を受賞した。最優秀賞、優秀賞の受賞者は、受賞賞品として3月20日から23日の日程で台湾の医療施設を巡る研修に参加した。</p>	IV	<p><b>【年度計画25-2】</b>  「ジャックと豆の木ワークショップ」を継続し、そこで生まれたアイデアを還元し、研究プロジェクトなどの立ち上げを検討する。また、成果の一部を授業に還元する方法を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>  ・「ジャックと豆の木ワークショップ」の開催状況、研究成果の状況</p>	IV	<p>・京急サービス社が主催する横須賀市のイベントに、ゴールドウィークとスポーツの日の2回参加した。医療栄養学科、医療情報学科の教員が中心となり、学科学生も参加して「子ども向け野菜クイズ」「よこすか野菜を使った試食提供」「骨密度測定」「頸動脈エコー体験」など種々の『健康チェック』のイベントを企画して、参加者に提供した。</p> <p>・京急サービス社、本学を含む三者による共同事業体を結成し、京急沿線の自治体が募集した体育施設の指定管理の競争入札に参加した。本学としては同施設を利用しての公開講座や健康イベントの開催、及び五反田キャンパスの地元である品川区との連携・深耕を意図して、全学体制でチャレンジしたが、残念ながら落札には至らなかった。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画25-3】⑦(総合研究所)</b> 教育DX研究ユニットの主管により、高校教員、大学教員がともに教育DXを学ぶ場としてオンラインシンポジウムを開催する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> DX演習科目における授業満足度及びICEモデルによる自己評価が、DX以前よりも20%以上向上する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・DX演習科目における授業満足度及びICEモデルによる自己評価の状況</p> <p><b>【計画25-4】⑦(総合研究所)</b> 健康情報基盤研究ユニットの主管により、萌芽的研究に対する学内助成活動を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 学内助成活動による研究成果や社会活動から、研究成果(論文・書籍・知的財産等)が生まれ、その成果を授業に還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況</p> <p><b>【計画25-5】⑦(IR推進室)</b> IR推進室として、中期目標・計画やアクションプランに基づく諸活動について点検評価を行う際、定量データに基づく評価・分析、情報の共有を行い、引き続き「全学的な見える化」を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 授業や学生生活など教学の根幹に関わる事項について横断的な情報収集・分析を行うことにより、「全学的な見える化」を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率(継続)90% ・授業評価アンケートの回答率(継続)90% ・分析結果に対する感想や意見の件数年10件</p>	IV	<p>・教育DXユニットのイベントとして、令和4年12月10日に高校教員や大学教員を主たる対象として、「持続可能な社会を支える大学教育のこれから」と題したシンポジウムを、対面・オンラインのハイブリッド形式で実施し、計25名参加申込みがあった。「アクティブ・ラーニングと指導者コンピテンシー」の特別講演、「Society5.0における大学の役割」のパネルディスカッションを行った。</p> <p>・令和5年3月13日に、教育支援コンテンツの開発支援を念頭に、教員経験が3年未満の教員や大学院生を対象とした「授業設計ワークショップ」を対面・オンラインのハイブリッド型で実施、25名が参加した。</p>	III	<p><b>【年度計画25-3】</b> ICEモデル適用科目の授業満足度と自己評価が向上していることを確認し、評価する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・DX演習科目における授業満足度及びICEモデルによる自己評価の状況</p>	III	<p>・前年度の授業設計を受けて、複数の学部全体および一部の科目において、ICEモデルの本格運用を行った。授業満足度については、引き続き評価について分析を行っている。</p> <p>・株式会社ケアコムとの連携により、同社のケア環境研究所(群馬県)でのコメの栽培を通じて、デジタル教材を活用した食育の展開を、医療栄養学科及び青葉学園野沢こども園とともに図り、左記分野の中で「産業DXユニット」での活動を推進した。</p>		
	II	<p>・TIS株式会社との連携での資金導入により、学内での研究活動の助成を実施。前年度2月～3月に実施した学内募集に7件の応募があり、4月に厳正な審査を行い、最優秀賞1名(40万円)、優秀賞2名(5万円)を選定した。</p>	II	<p><b>【年度計画25-4】</b> 助成対象活動の成果を、さらに発展させるためのフォローアップを行う。また、成果の一部を授業に還元する方法を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学内助成活動による研究成果や社会活動からの研究成果の状況</p>	II	<p>・ユニットにおいて昨年度の助成対象者や外部資金の獲得テーマについてレビューを行い、事業化可能性について検討をした。</p> <p>・合わせて、オンラインセミナーの次年度実施について計画した。</p>		
	III	<p>1. 学生の学修に関する実態調査アンケート、授業評価アンケートには重要な定常調査であるところ、令和4年度は、分析結果を学生に還元する「IRNews学生版」の刊行ができなかったため、このデータに対する意見収集を行えていない。令和5年5月までに「学生版」を公表予定なので、早めに意見収集を行うようにしたい。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率(継続)59.2% ・授業評価アンケートの回答率(継続)62.7%</p>	III	<p><b>【年度計画25-5】</b> 1. 授業や学生生活など教学の根幹に関わる事項について横断的な情報収集・分析を行うことにより、「全学的な見える化」を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率(継続)90% ・授業評価アンケートの回答率(継続)90% ・分析結果に対する感想や意見の件数年10件</p>	II	<p>1. 学生の学修に関する実態調査アンケートの回答率は69.9%、授業評価アンケートの回答率は70.3%と、いずれも目標を下回った。回収率向上のための取り組みを次年度検討したい。</p> <p>・2023年度は、分析結果について他大学IR推進室と意見交換会を行うことを優先したため、「感想や意見の件数」は算定不能である。意見公開会の結果、LMS利用時間という指標を有効活用することをはじめ、その結果を学内公開し始めたので、2024年度はその公表を行っていききたい。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>2. 高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏まえ、学修成果の可視化を図る基盤を整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）年2回</li> <li>・学修成果を可視化するためのデータ基盤整備&lt;キャンパス・プラン整備&gt;（継続）</li> <li>・高等教育関係団体や他大学からの情報収集（継続）</li> <li>・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年2回</li> </ul>	III	<p>2. ディプロマ・ポリシーの運用状況等について、IR推進室運営会議等の関係会議で報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。令和5年度から段階的に運用予定である。</li> <li>・九州大学で開催されたIR担当者会議に室員2名が出席し、情報交換を行った。その後、近隣大学と連携し、IR推進室同士の情報交換会を実施した。</li> </ul> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）年1回</li> <li>・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年1回</li> </ul>	<p>2. 高等教育に求められる役割が変化している情勢を十分に踏まえ、学修成果の可視化を図る基盤を整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・プランに基づく学修成果の定量的評価指標（ディプロマ・サプリメント）分析結果の報告件数（新規）年2回</li> <li>・学修成果を可視化するためのデータ基盤整備&lt;キャンパス・プラン整備&gt;（継続）</li> <li>・高等教育関係団体や他大学からの情報収集（継続）</li> <li>・他大学研修会や高等教育に関する学会・研究会における活動報告件数 年2回</li> </ul>	III	<p>2. 他大学IR推進室との交流は活性化し、2つの医療系大学と意見交換を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディプロマサプリメントの分析結果は、IR年報を通じて学内にフィードバックできた。</li> </ul>			
	<p>3. 活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報媒体の発行件数（IR News・IR年報の刊行）年2回</li> <li>・学生向け広報媒体の発行件数 年2回</li> <li>・研究業績に関する分析の検討（新規）</li> </ul>	II	<p>3. 令和4年度は、COVID-19対策本部が学校する「遠隔授業だより」に掲載するためのLMSの利用状況データの提供等を行ったが、その反面、IR推進室としての媒体発行には至らなかった。令和5年度は独自媒体での広報活動を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は医学中央雑誌ベースで185件の研究業績があったが、令和3年度は209件、令和2年度は202件であり、1割程度の減少がみられている。また、原著に限れば令和4年度は19件と、令和3年度の41件、令和2年度の38件と比べても大幅な減少といえる。この状況が続くことは望ましくないので、まずは現状を共有した上で投稿を促すとともに、引き続きモニタリングにつとめていきたいと考えている。</li> </ul> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報媒体の発行件数（IR News・IR年報の刊行）年0回</li> <li>・学生向け広報媒体の発行件数 年0回</li> </ul>	<p>3. 活力あふれる大学づくりを推進するため、情報分析の結果を積極的に還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報媒体の発行件数（IR News・IR年報の刊行）年2回</li> <li>・学生向け広報媒体の発行件数 年2回</li> <li>・研究業績に関する分析の検討（新規）</li> </ul>	II	<p>3. 広報媒体については、2022年度まではCOVID-19対策本部が発行する「遠隔授業だより」にIRデータを提供する形をとることが多かったが、2023年度の途中で同本部が解散となったため、どの媒体を用いるのが効果的かはまだ検討段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究業績については、2023年度中に研究力強化会議が設置されたことから、同会議とも連携して研究パフォーマンス指標の策定を検討していく。</li> </ul>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画26】 【計画2の再掲】</b>  <b>(学長戦略本部・企画部)</b>            教育の質保証の観点から、毎年度定期的に自己点検・評価及び検証を行い、その結果について外部評価を実施し公表する。また、学長直轄の学長戦略本部を中心に、より適切なものとなるよう外部評価結果等を踏まえ、教育課程及び教育方法等の改善・充実を図る。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b>            学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を運用し、「大学全体レベル」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に自己点検・評価及び検証等を行いながら、内部質保証システムのPDCAサイクルを構築する。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況</p>	IV	<p>・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、政府の「教学マネジメント指針」等を踏まえ、「学修者本位の教育の実現」のため、「教学マネジメント」が適切に機能しているかを各階層ごとに、恒常的・総合的に点検・評価を実施し、適切に教育改善が図られるよう、「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」を検討・準備した結果、令和5年1月11日開催の内部質保証推進会議にて正式に策定した。</p> <p>・同年2月27日には、各部署代表者等に対する説明会を開催し、趣旨や内容等の説明を行ったほか、同説明会資料等は学内デスクネットワーク内に収納し、いつでも資料や動画、Q&amp;Aを確認できるよう情報共有に努めるとともに、本年度内の試行的な運用についても依頼したところであり、全て年度計画通り実施した。</p>	IV	<p><b>【年度計画26】</b>            学長直轄の学長戦略本部を中心に、全学的な教学マネジメントシステムを構築するとともに、「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」、「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」毎に活用し、自己点検・評価及び検証を開始する。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」の作成及び活用した自己点検・評価及び検証等の実施状況</p>	IV	<p>・入学者受入れの方針に基づく大学入学者選抜の実施に関する「教学マネジメント指針(追補)(令和5年2月24日)」が文部科学省から発出されたことを踏まえ、学長戦略本部の担当プロジェクトチームにおいて、「教学マネジメントチェックリスト【Ver.2】」の改正案を策定し、令和5年7月12日開催の内部質保証推進会議において審議・承認されたので、改正版を7月13日付で学内関係者に周知した。</p> <p>・また、「アセスメントプラン」についても、日本私立学校振興・共済事業団からの指導等も踏まえ、評価指標を追加する等のため担当プロジェクトチームにおいて改正案を策定し、令和5年10月18日開催の内部質保証推進会議において審議・承認されたので、改正版を10月23日付で学内関係者に周知した。</p> <p>・令和5年度から「教学マネジメントチェックリスト」に基づく点検・評価を本格実施することから、教員のFD・SD活動及び事務職員等のSD活動の一環として、全教職員が参加する「東京医療保健大学を語る会」を令和5年10月25日に開催し、「教学マネジメントチェックリストに基づく点検・評価の実施に向けて～具体的な取組の視点について～」をテーマとし、医療保健学部看護学科 西村礼子准教授及び東が丘看護学部看護学科竹内朋子教授より発表をいただき、「教学マネジメントチェックリスト」の取組について活発な意見交換を行い、教職員の理解を深めることができた。</p> <p>・「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価報告書作成要領」及び「令和5年度教学マネジメントチェックリスト作成要領」について、担当プロジェクトチームにおいて要領案を策定し、令和5年12月6日開催の内部質保証推進会議において審議・承認されたため、同要領及び報告書様式等を12月19日付で学内関係者に周知した。</p> <p>・「令和5年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価」については、部局内で3月末までに実施し報告書を作成し、また「令和5年度教学マネジメントチェックリストに基づく自己点検・評価」については、部局内で「学位プログラムレベル」、「授業科目レベル」ごとに令和6年5月末までに実施し、「学位プログラムレベル」について報告書を作成した上で、それぞれ企画部宛提出することとした。</p> <p>・これらの取組は、全て計画通り実施することができた。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
<p><b>5. 学生の受け入れ</b>  <b>【計画27】（入試事務部）</b>            本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」を、様々な方法を通じて社会に周知するとともに、社会状況や時勢に基づく検証を行い、必要に応じ改善を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 大学の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公表する。さらに、各種の学生募集イベントやオープンキャンパスで受験生・保護者等への周知を図る。            2. 入学者選抜の方法の変更にもない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。            3. 高大接続システム改革に基づき、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた「入学者受け入れの方針」において、学力の3要素①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持ち多様な人々と協議しつつ学習する態度に関し、入学希望者に求める能力の適切な判定ができる入学者選抜の改善を図る。            4. 高校での新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜に向け、入学者選抜方法・実施方法等についての検討を行う。あわせて、共通テストでは実施せず、各大学での検討事項となった①記述式問題 ②英語の民間資格・検定等の利用についての方向性を定める。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・学力の3要素に基づく入学者選抜の実施状況            ・令和7年度入試に向けた準備・実施状況及び検証            ・記述式問題の実施、英語の外部資格・検定等の利用についての検討状況、実施状況</p>	Ⅲ	<p>1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス等各種イベントで説明し周知を図った。            2. 令和5年度総合型選抜では、医療保健学部医療栄養学科の入学者受け入れの方針を、学生募集に係る入学者選抜を踏まえ、各選抜入試で定めていた選抜方法から自己推薦書、課題探求型の事前提出レポート及び面接に統一し、総合的・多面的な評価とした。また、医療保健学部医療情報学科の選抜方法を、これまでの自己推薦書及び面接から、自己推薦書、課題探求型レポート及び面接に変更した。            ・学校推薦型選抜では、受験生にわかりやすい選抜方法とするため、立川看護学部の選抜方法を、総合問題、面接及び調査書から小論文、面接及び調査書に変更した。            3. 令和4年度の入学者選抜については、総合型選抜では、これまでの医療保健学部に加え、東が丘看護学部、和歌山看護学部の両学部も令和4年度入学者選抜から総合型選抜を導入し、多様な入学者選抜をより推進し、両学部の志願者増につながった。また、医療保健学部医療栄養学科では、3月にも総合型選抜を実施したが、残念ながら学生募集の増加にはつながらなかった。            ・一般選抜においては、C日程入試の内容を、英語＋選択1科目の学力試験に調査書の評価とする見直しを行い、志願者を増加させた。            ・和歌山看護学部では、さらに3月に特別日程の入試を行い、記述式を含めた英語と小論文によって本学への進学希望の強い受験生の選択肢を広げた。            令和5年度は、千葉県内での学生募集の強化と入学者選抜の多様性を図るため、千葉県内在住・在学の高校生・既卒生を対象とした総合型選抜を実施した。            また、医療保健学部医療栄養学科及び医療情報学科の総合型選抜についても、10月、12月、3月に加え、9月及び11月にも実施した。            4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については、その方法・内容の検討を継続的に行った。</p>	<p><b>【年度計画27】</b>            1. 学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公開する。各種のイベント、オープンキャンパスでの周知と浸透を図る。            2. 入学者選抜の方法の変更にもない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。            3. 前年度に引き続き、前年度計画記載の高大接続システム改革に伴う記述式問題の実施等の継続検討を行う。            4. 令和7年度入学者選抜での変更点を検討し、明確な変更点についての公表・周知を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・令和7年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直し検討の状況            ・記述式問題の全学ベースでの検討と取組状況            ・令和7年度入試に向けた変更点の取りまとめと実施検討            ・英語の外部資格・検定利用に関する検討状況</p>	Ⅲ	<p>1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス、高校教員対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。            2. 令和5年度実施の総合型選抜では、医療保健学部医療情報学科の選抜方法について、これまでの探究型、資格保有型に加え、面接員との対話と本人の気づきを重視する面接重視型を追加した。            また、立川看護学部について、入学者選抜の多様性の観点から、自己推薦書、事前課題レポート、面接で評価を行う総合型選抜を導入した。このことにより、全学部で総合型選抜を実施することとした。            ・令和5年度実施の一般選抜では、A日程について、競合校との重複を避けること、受験の幅を広げること、何より志願者の一層の獲得を目的として、首都圏で2日間を通して実施することとした。また、医療栄養学科の選択科目に国語、数学、化学基礎・生物基礎を追加した。医療保健学部医療情報学科においては、英語の必須を廃止し、6科目からの選択受験で高得点科目重視方式に変更した。            ・令和5年度実施の大学入学共通テスト利用入試では、受験生が受験しやすい科目とするため、医療保健学部医療情報学科の受験科目を英語を含めた全科目選択科目とし、高得点科目重視方式に変更した。            ・これら入学者選抜方法の変更にもない、入学者受け入れの方針についても併せて見直しを行った。            3. 令和5年度実施の入学者選抜においては、昨年に引き続き和歌山看護学部の一般選抜特別日程にて記述式問題を実施した。令和7年度入学者選抜の変更において記述式問題を全学的に導入するための検討を継続的に行う。            4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については、アドミッション委員会において、説明会を開催するなど、その方法・内容の検討を継続的に行った。</p>	評価区分	内部質保証推進会議

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会 内部質保証推進会議
<p><b>【計画28】（入試事務部）</b>            入学者選抜試験の実施内容について、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえた改善・充実を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 入学者選抜試験問題について、「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようチェック体制を徹底する。            2. 入学者選抜試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図るとともに、試験監督を厳正に行う等入学者選抜試験を公正かつ適切に実施する。            3. 入学者選抜における合否判定を公正に行い、入学者選抜試験関係業務を適切に実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学者選抜における作問ミスの発生防止の取組状況            ・入試実施にともなうトラブル等の発生防止の取組状況</p> <p><b>【計画29】（入試事務部）</b>            学部・研究科等の入学定員に基づき、適切な入学者数を受け入れるとともに収容定員の適正な管理に努める。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            1. 学部入試における全学部・全学科の入学定員達成をめざす。そのための各入試区分での学生募集、出願者増に向けた活動に注力する。            2. 収容定員割れとなっている医療栄養学科、医療情報学科の収容定員充足を図る。            3. 収容定員の充足のため、入学定員の達成とともに退学者動向も視野に入れた取組を行う。            4. 和歌山看護学部の定員増を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・毎年度の入学者実績の検証            ・上記にともなう収容定員の検証            ・退学者動向の把握            ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率(1.15)の状況の確認</p>	IV	<p>1. 入学者選抜試験問題のミス防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。            2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。            3. 大学院研究科においては、学位授与の方針に合致した学びを修め得る知識と人間性を有する人材の養成を図るため、学力試験と面接、書類審査、論文（医療保健学研究科博士課程のみ）による入学試験を実施した。</p>	<p><b>【年度計画28】</b>            1. 一般選抜においては、作問者の作成した試験問題を、外部の第三者機関による査読及び問題チェックを実施し、作問ミス、解答ミスの撲滅に努める。さらに入試担当委員が最終確認を行い、ミスの発生を防ぐ。また総合型選抜、学校推薦型選抜の入試においても、各学科の入試担当委員が水際でのチェックを行い、ミスが生じないように努める。            2. 入試実施にあたっては、実施要項の熟読、教職員向けの説明会等により、入試実施上の注意事項を徹底する。            3. 研究科の入試については、研究科ごとに実施しており、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・入学者選抜における作問ミス等の発生防止の取組状況            ・入試実施上のトラブル等の発生防止の取組状況</p> <p><b>【年度計画29】</b>            1. 入学定員を全学部・全学科及び各研究科で充足させる。そのため、各入試区分での受験者ニーズに合った学生募集イベントを実施し、それぞれの入試区分に適用した受験生増をめざす。            2. 収容定員を念頭にいた入学者確保を意識する。            3. 退学者減少に向けての取組や対策を検討する。            4. 和歌山看護学部の定員増を検討する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・令和4年度の入学者実績と各学科（特に医療栄養学科、医療情報学科）の収容定員の検証            ・前年度の退学者実績の把握            ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率(1.15)の確保と申請年度検討</p>	IV	II	<p>1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。            2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。            3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。</p> <p>1.2. 新型コロナウイルスによる制限が概ね解除となり、入試広報部を中心に高校訪問や講演・ガイダンスを積極的に行った。また、入試広報部と各キャンパス連携のもと、在校生との交流や学びを体験できる企画を取り入れた来校型イベントを実施し、看護学科においては収容定員を踏まえた入学者を確保することができた。            ・令和4年度は入学者65名と大幅に募集定員を下回った医療栄養学科では、令和6年より管理栄養学専攻と臨床検査学専攻を新設し定員を管理栄養学専攻68名、臨床検査学専攻32名と分けて募集を行った。管理栄養学専攻では毎月のイベントにおける企画内容の精査と参加者のフォローアップを徹底し入学者66名と定員充足までもう少しのところまで健闘したが、臨床検査学専攻においては認可申請による広報活動開始の遅れも影響し、入学者14名と募集定員を下回る結果となった。また、医療情報学科においては受験しやすい入試とするべく総合型選抜における面接重視型の追加や一般選抜選択科目の変更などの入試改革を行ったが、入学者33名と定員を大きく下回る結果となった。            ・今後の改善としては、医療情報学科の改組を皮切りに、医療栄養学科と併せ、令和7年度入試の内容の見直し、イベントの精査、広報ツールの検討など募集定員充足に向けての取り組みを強化していく。また、特に医療栄養学科臨床検査学専攻においては認知拡大からイベント集客、出願にまでつなげることができるよう、広報活動を強化していく。</p>



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		<p>3. 学修成果の可視化の一環としてキャンパスプランの改修に取り組み、とくに出席状況を学生及び保証人が把握しやすくする機能を実装した。これにより退学する前に様々な視点で学生支援が行えることとなり退学者を減少させることが可能となる。令和5年度から段階的に運用予定である。</p> <p>4. 和歌山看護学部の入学生定員は、平成30年度開設当初から90名としていたが、地域のニーズ等を踏まえ、他の学部と同様に入学定員を100名に増員することとし、令和5年3月8日開催の理事会・評議員会において審議・決定した。令和6年度定員増が行えるよう、令和5年度において必要な申請手続き等を進めていく予定である。</p>	<p>【年度計画30】</p> <p>1. 新学習指導要領の「総合的な探究の時間」と連携・運動した内容の出張講義を実施する。</p> <p>2. コロナ禍で培った経験に基づき、来校型イベントに限定せず、オンライン型と併用したハイブリッド型イベント等を実施する。また、新たな方法についても試行的に実施する。</p> <p>3. 大学案内及び大学紹介パンフレットについての刷新に取り組む。</p> <p>4. 高等学校や塾への訪問活動を強化し、出張講義の獲得を目指す。特に私学との連携を強化する。</p>		<p>3. 出席が思わしくない学生を、教務システム（CampusPlan）のカスタマイズ機能で監視して教職員や保護者にアラームを発するシステムを構築した。令和6年度にはテスト運用を行い、令和7年度から本運用に移行できるか検討する。退学準備書を早期に洗い出してフォローアップする仕組みを進化させたい。</p> <p>4. 和歌山看護学部の入学生定員は、平成30年度開設当初から90名としていたが、地域のニーズ等を踏まえ、他の学部と同様に入学定員を100名に増員することとし、令和6年3月19日開催の理事会・評議員会において審議・決定した。令和5年度実施した入学者選抜において、収容定員超過率を見据えた入学者とすることにより、令和7年度定員増が行えるよう、令和6年度において必要な申請手続き等を進めていく予定である。</p>				
<p>【計画30】（入試広報部） 全学部・全学科の入学定員確保に向けて、募集活動の強化と高大連携・高大接続の構築を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係の強化を図る。</p> <p>2. オープンキャンパスや入試説明会などイベント内容の充実を図るとともに、様々な方法での情報発信の強化を図る。</p> <p>3. 大学案内及び大学紹介パンフレットの刷新とSNS等情報発信の強化を図る。</p> <p>4. 地域性を重視した高校訪問活動（塾等含む）の強化を図る。</p>	III	<p>1. 高校訪問において進路探究・分野探究を目的とした出張講義の提案とその実施に注力した。結果、出張講義の依頼数も大幅に増加し、高校との連携関係は質量ともに強化された。</p> <p>2. 各キャンパスにて来校型とWEB型でのオープンキャンパスを実施した。特に対面での実施に注力し、体験授業や入試個別相談、在校生・卒業生との対話の機会を増やすなど内容の充実を図った。さらに医療保健学部看護学科では、地域貢献を目的とした公開講座に看護体験の機会を設けたところ、新たな高校層の開拓につながった。</p> <p>3. 令和5年度大学案内については、業者継続にて制作を進めた。また、医療情報学科と医療栄養学科では、新たな動画の作成と配信、特設サイトやランディングページの運用、そしてSNSでの情報発信を強化し、募集活動に力を入れた。</p> <p>4. 私立、公立共に出張講義の依頼数は増えたが既存校からの学年毎の依頼であったため、新規校の開拓は、十分ではなかった。</p> <p>・しかしながら、上記計画の達成にもかかわらず、医療情報学科と医療栄養学科については、定員確保に至らない結果となった。</p>	【年度計画30】	II	<p>1. 高校訪問活動を通じて「医療系教養講座」「看護医療系進学対策講座」と題した出張講義を提案し、その実施に注力した。結果、新規校も開拓され、実施校数も前年を上回り、学生募集活動における高大連携は確実に強化された。</p> <p>2. オープンキャンパス等イベントについては、各キャンパス主体で、各教育活動、学生支援、入試対策などについて、各教員、各事務職員、在校生や卒業生など一丸となって取り組み、イベント内容の充実を努めた。特に、在校生や卒業生との交流については、高校生に大変好評であった。</p> <p>3. 大学案内については、大幅な刷新に向けて、業者の選定からコンセプト設定などに取り組んだ。（令和6年6月完成予定）また、医療情報学科と医療栄養学科については、各卒業生のキャリア形成に焦点をあてたリーフレットを作成し、学生募集活動に活用した。</p> <p>4. 今年度はまだコロナ禍の影響もあり、高校訪問の活動範囲も1都6県にほぼ限定した。18歳人口の減少（2024年問題）もあり、高大連携接続のさらなる強化を目標に、特に医療看護分野への進学に力を入れている私学公立などを中心に新規開拓に努めた。</p> <p>しかしながら、全学部・全学科の定員の確保・充足は達成されなかった。医療栄養学科については、臨床検査学専攻を新設したこと、前年を上回る改善は図られたが、医療情報学科については前年を上回る減数となった。この点については、令和8年4月開設に向けて新たな学科改組を構想計画し、改善を図りたい。</p>				
		<p>「評価指標」</p> <p>・全学部・全学科の定員確保状況及び受験競争率の確保状況</p>	<p>「評価指標」</p> <p>・全学部・全学科の定員確保状況及び受験競争率の確保状況</p>						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		IV	III		III				
<p><b>【計画31】(和歌山看護学部)</b> 入学の意思の高い優秀な学生を確保するために、多様な入試選抜の下、受験者数を維持する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 選抜区分ごとの受験生数を維持し、受験延べ人数400名を維持する。そのために、広報活動と共に大学説明会、出前授業、1日体験入学を実施する。 2. 受験者の多い県内高校との連携協定を推進し、現在の連携高校4か所を8か所まで増やす。そのために、連携高校への大学説明会、出張講義と連携校出身学生の母校訪問での交流を1回以上行うとともに、本学部教員と高校教諭との教育指導に関する意見交換会を1回開催する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数</p> <p><b>【計画32】(国際交流センター、研究協力部、各事務部)</b> 国際交流センターを中核として、学生・教職員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受け入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受け入れを積極的に進めるため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を表現できるように両大学に積極的に働きかける。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受け入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	<p>IV</p> <p>1. 大学説明会関連行事を6回実施した。 2. 令和4年度に新宮高校と連携協定を結び、合計8校となった。高校教諭との意見交換会として「東京医療保健大学連携校連絡協議会」を開催し、8校17名の参加、学部からは10名が参加した。出前講義10回、高校に訪問しての説明会を25回実施した。高校生の本学部での大学体験では学生も参加して実施した。 ・連携高校は8校。 ・受験延べ人数365名 ・連携校の受験人数と入学者数154名中48名 ・大学説明会・オープンキャンパス等参加人数512名 ・高校との交流回数38回（出前授業、説明会、学生懇談会、大学訪問他） ・大学説明会関連行事6回実施</p>	<p>III</p> <p><b>「年度計画31」</b> 1. 広報活動と各高校を対象とする大学説明会関連行事を高校の希望に沿って実施する。 2. 連携協定を結んだ高校との4回以上のプログラムを実施するとともに、高校教諭と本学部教員、高校生と本学部学生との交流を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・受験延べ人数、大学説明会関連行事への参加数、高校との交流回数、連携高校数、連携校との交流回数、連携校の受験者数と入学者数</p> <p><b>【年度計画32】</b> 1. 大学間連携を行っているグリフィス大学との提携を更新する。さらにハワイ大学、シャミナード大学との大学間提携を進めるとともに両大学との研修内容の充実を図る。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受け入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況</p>	<p>III</p> <p>・広く学生を募った大学説明会、入試説明会、オープンキャンパスの実施した。また各高校に向いての出前講義・大学説明会、大学訪問を実施した。高校教諭対象の懇談会も実施した。 1. 高校教諭との意見交換会として「東京医療保健大学連携校連絡協議会」を開催し、8校17名の参加、学部からは10名が参加した。 ・高校に訪問しての説明会を23回実施した。教員の同行は内7回、高校生の参加は396名であった。 2. 連携校関係行事及び出前授業は17回実施した。高校訪問したのは9回、大学訪問は5回、連携校協議会の連携校教員授業見学が1回、学生との懇談会が2回であった。 ・受験延べ人数268名で昨年より減少した。これは18歳人口減少及び看護師希望者減少に加え、複数受験する受験生数が減少したことの影響もある。連携校の出願者97名、入学者49名で連携校との交流により確実に入学生を確保できている。 ・オープンキャンパス（学生企画含む）を3回実施し、合計参加人数高校生275名、保護者159名であった。 ・1日体験入学参加者は64名であった。</p>	<p>III</p> <p>(国際交流センター、研究協力部) 1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中に更新は完了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施し16名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加者に対する実施後アンケート調査（回答者38名、回答率82.6%）では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。 ・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との研修プログラムは一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施できるか、両大学と模索中である。 ・中国の燕山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。</p>					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	III	<p>2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和5年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスの医療に関する講演会を3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム86名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム61名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。</p> <p>(世田谷事務部)</p> <p>・9月にオーストラリアのグリフィス大学（学生6名/教員3名）、3月にハワイのシャミナード大学（学生4名/教員2名）とオンライン交流を実施。</p> <p>(立川事務部)</p> <p>・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名（3年11名、1年2名）であった。</p> <p>(千葉事務部)</p> <p>・東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデザインユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究における、海外事例の収集と日本への適用方策を検討するために、千葉看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察した。</p> <p>・9月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生1名/教員2名支援教員）、3月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生2名・大学院生1名・教員1名/教員2名支援教員）とオンライン交流を実施。「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3回）を支援した。</p> <p>(和歌山事務部)</p> <p>・学術交流協定を締結しているベトナムナムディン大学の卒業生（介護士）他との交流会を開催、学生13名が参加し国際的な看護や文化、海外の医療等を学び、有意義な異文化交流を行った。</p>		IV	<p>2. (国際交流センター、研究協力部)</p> <p>令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にバングラディシュの医師S. A. ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「バングラディシュの医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。（申込者数173名）10月：「アメリカの医療事情」（講師：安西耕氏）、11月：「国際比較からみる女性特有の健康課題」（小川真里子氏）12月：「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」（講師：森山潤氏、勝山なおみ氏）申込者数173名。</p> <p>III (五反田事務部)</p> <p>国際交流センター主催のオーストラリア現地研修に医療保健学部看護学科より学部生9名、教員2名が参加した。</p> <p>IV (世田谷事務部)</p> <p>・9月に台湾秀傳医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問（医療情報学科、学生5名/教員2名）</p> <p>・3月にオーストラリアのグリフィス大学研修（医療情報学科、学生6名/教員1名）</p> <p>III (千葉事務部)</p> <p>「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。</p> <p>「バングラディシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。</p> <p>中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。</p> <p>年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。</p> <p>III (和歌山事務部)</p> <p>・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名（ベトナム人介護士）と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。</p> <p>・オーストラリア海外研修には、学生4名、引率教員1名が参加した。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>6. 教員・教員組織</b></p> <p><b>【計画33】（総務人事部）</b> 「教員組織の編成方針」に基づき、教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教員の配置状況及び教員選考状況</p> <p><b>【計画34】（企画部・教務部）</b> 「教員組織の編成方針」に基づき、教員に求める能力の明確化を図った上で、FD活動を積極的に推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部署毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p> <p>2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。</p>	IV	<p>・教員の補充は科学技術振興機構(JREC-IN)ポータルにて公募を行い、書類選考、面接選考を通じて採用者を選抜した。そして、採用に加え昇格についても、教員選考規程及び教員選考基準に基づき教員選考委員会、人事委員会を開催し、公正かつ適切に行った。</p> <p>・令和3年度 教員配置数 244名(R4.3現在) ・令和4年度 教員配置数 247名(R5.3現在) ・令和4年度の教員選考(採用)は、34名であった。</p>	<p><b>【年度計画33】</b> 教育研究を円滑に実施するため、有効かつ適切な教員配置を図るとともに、教員に欠員等が生じた場合 には、原則公募により募集を行うこととし採用・昇任等に当たっては 教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教員の配置状況及び教員選考状況</p>	IV	<p>令和5年度の教員配置数は、250名(R6.3現在)、うち年度内の教員選考(採用)は、31名であった。欠員の補充は、内部昇格と外部採用を適切に組み合わせ、教員選考規程及び教員選考基準に基づき公正かつ適切に行った。</p>				
	III	<p>・授業評価については、令和3年度のアンケート結果を集計し、令和4年11月に学内及び大学ホームページにおいて公表した。学修及び生活に関する実態調査については、令和3年度実施分の集計結果を、一般向けに5月にホームページで公表した。また、令和4年度の実施は、12月に実施し、昨年度より16.9ポイント低い59.2%の回収率となった。</p>	<p><b>【年度計画34】</b> 1. FD活動の一環として、毎年度「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」を実施し、授業内容・方法の改善・充実及び教員の教育力の向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部署毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p>	III	<p>・授業評価については、昨年度より令和4年度アンケートの回収率は0.2ポイント上昇(69.9%)した。学部別の集計結果を令和4年9月に学内及び大学ホームページにおいて公表し、科目別の集計結果は、授業開講キャンパス事務部経由で科目担当教員に渡し、担当教員からは、次年度の授業計画の改善等を学科長等への提出を求めた。</p> <p>・学修及び学生生活に関する実態調査については、令和4年度実施分の集計結果を、一般向けに5月に大学ホームページで公開した。また、令和5年度調査は、12月に実施し、昨年度より10.7ポイント高い69.9%の回収率となった。</p>				
	IV	<p>2. 令和4年度においては、10月26日(水)に理事長及び学長による講話の形で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信での開催とし、各参加者の合計は100%であった。アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が98.8%となっており、内容について好評であった。</p>	<p>2. 全教職員が一堂に会して、教員の事例発表及び意見交換を行う「東京医療保健大学を語る会」を毎年度開催し、学部・研究科におけるFD活動の推進を図る。</p>	<p><b>「評価指標」</b> ・「学生による授業評価、学修及び生活に関する実態調査」の実施結果状況 ・各部署毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</p>	IV	<p>2. 令和5年度においては、10月25日(水)に理事長講話及び学科発表(医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科)の内容で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信で実施し、各参加者の合計は100%であった。アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答は合計98.0%で、好評の結果であった。</p>			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部署毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</li> </ul> <p>○各学部・学科・研究科等</p> <p>【計画35-1】㊦(医療保健学部看護学科)</p> <p>世界をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方を検討する。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <p>年2回のFD研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況</li> </ul> <p>年1回以上実施</p> <p>【計画35-2】㊦(医療保健学部看護学科)</p> <p>教員が国際学会での発表や英文誌に論文投稿できるよう、教員に英語学習機会を提供する。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. FD委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し(年2回)、英語論文執筆を支えていく。</li> <li>2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。</li> </ol> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員が5年のうち1回は英語研修に参加</li> <li>・教員全員が5年の間に1回は、国際学会(学術集会)に参加</li> </ul>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春季FD研修会・活動報告会(3月22日)に合わせ、教員研究交流会を企画した。教員研究交流会の目的は、学科内の他領域の教員との研究活動の共有を図ること、研究内容・手法について意見交換し、研究活動の発展の一助とすることである。</li> </ul> <p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD委員会主催英語研修会(年2回)を継続している。</li> <li>英語研修会実施回数: 2回</li> <li>英語自主勉強会実施回数: 15回</li> <li>・令和4年度の英語研修への参加者の割合は約30%(16名)であった。国際学会参加については、調査していない。次年度は、目標の適切性を含め、教員対象に調査を行い、目標を共有しながら取り組んでいきたい。</li> </ul>	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京医療保健大学を語る会」の開催状況及び各部署毎の教員参加者数、アンケートの実施状況</li> </ul> <p>【年度計画35-1】</p> <p>年2回のFD研修会又は毎月の学科会議において、成果をリードする先進的研究の推進及び教育活用の在り方について、対話・討議を行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的研究推進及び教育活用の在り方検討会の実施状況</li> </ul> <p>年1回以上実施</p> <p>【年度計画35-2】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. FD委員会主催英語研修会を実施することとし、受講者の希望に合わせて継続的に開催し(年2回)、英語論文執筆を支えていく。</li> <li>2. 英語自主勉強会を実施することとして、年間20回ほど、1時間程度の英語の自主勉強会を継続する。</li> </ol> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員が5年のうち1回は英語研修に参加</li> <li>・教員全員が5年の間に1回は、国際学会(学術集会)に参加</li> </ul>	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月の学科会議(2月21日)において、研究活動継続に向けた意見交換会を実施し39名(参加率78%)が参加した。開催目的は、教員間の研究活動や研究内容の共有、研究活動と教育の両立での工夫、学科または学内で必要となる支援について対話を行い研究活動を推進するための示唆を得ることである。先進的研究に焦点を当てたものではないが、現状を踏まえて研究推進に向けた対話・討議を実施しており概ね達成している。意見交換内容の集約、アンケート結果を含む実施報告書を作成し全教員が共有できるようにしている。</li> </ul> <p>III</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. FD委員会主催の英語研修会を継続している。令和5年度は教員のニーズに合わせて1回の開催(11月22日)に変更し、31名が参加した(参加率77%)。研修会実施報告書を作成し全教員が共有できるようにしている。</li> <li>2. 英語自主学習会を継続して実施し、令和5年度は2回/月程度実施した。計画通り実施しており達成できている。参加状況は(R5年度末時点)、過去5年間で英語研修会に1回参加した教員は23人(45%)、国際学会に過去5年間で参加した教員は22人(43%)であった。今後も継続して参加状況を評価していく。</li> </ol>						

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-3】 ㊦(東が丘看護学部・看護学研究所)</b> 全学的FD委員会との調整の上、FD、SD活動を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. FDマップに則した職員にFD研修の実施。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・FDマップに則した職員にFD研修の実施状況 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進状況 ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動状況 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催状況</p>	IV	<p>1～7. 全学企画部主催する「東京医療保健大学を語る会」や研修等について積極的な参加を呼び掛け、東が丘看護学部FD研修としては、新着任教員研修および5回のFD研修を企画運営した(100%達成)。特に教育・研究・社会貢献に関する関心の高い内容については、外部講師を招き研修を実施した。 ・FDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケート結果より、FDマップの活用頻度も向上しており研修参加への効果があった。研修目標へのカバー率はそれぞれ、教育は80%、社会貢献は66%、研究は33%となっており、次年度以降、研究に関連した研修内容の充実が必要である。研修方法の変更について次年度以降は研修内容を配慮しつつ講義に加えて、学びの定着に向けたディスカッションの場を設定することを前向きに検討する。全学的SDについては、全学委員会と調整後検討を進める。</p>	<p><b>【年度計画35-3】</b> 1. FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施。 2. SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進。 3. 全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動。 4. 社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催。 5. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施。 6. FD・SDマップの周知および利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出および課題に対応したFDマップの運営方法検討。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・FD・SDマップに則した職員にFD研修の実施 4～6回/年 ・SDの理解を深め全職員向けの全学的SDの推進(全学との連携研修開催 2回程度/年) ・全学的SDとして外部大学や地域との共催による活動 4～6回/年 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する研修会の開催1～2回/年 ・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施状況 ・FD・SDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートに基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したFDマップの運営方法検討状況</p>	IV	<p>1～6・FDマップに則した教職員に、社会的関心の高まりやホットイシューに関して外部講師を招いたFD研修会を3回、新着任教員研修2回、合計5回/年の研修会を企画・運営した。また、全学や各委員会企画された研修(7回)について、FD委員会からも参加案内およびFDマップ利活用の案内、学外で行われた新任教員向けの研修会への参加案内とFDマップの利活用の案内も行った。これらの活動により、参加率や教職員のFDマップへの周知や利活用も高まってきたといえる。 ・2023度FDマップ対応表の達成率は、教育63%、研究54%、研究77%と、学内FD委員会企画以外の研修も推進し、FDマップを利活用することで、研修の充実性が高まったといえる。 ・FDマップに則した職員にFD研修を5回/年企画し、対面およびzoom開催としたことで、出席率も100%に近い状況であった。 ・全学との連携研修や他委員会で開催された研修との連携、学外で行われた新任教員向けの研修への参加案内、及びFDマップの利活用を促した。 ・社会的関心の高まりやホットイシューに関する外部講師による研修会の開催を3回/年企画・運営し、参加者からは研修内容や目標達成となり高評であった。内1回は全学FD委員会にも紹介し、他学部27名の参加者となった。 ・FDマップの周知及び利活用に関する東が丘教職員へのアンケートの実施については、最終の研修会が3月12日となっており、今年度のFDマップ利活用に関する東が丘教職員へのアンケートは現段階では実施できていない。この研修会後にアンケートを実施し、アンケート結果に基づく次年度課題の抽出及び課題に対応したFDマップの運営方法検討する予定である。 ・FD活動参加については、当日参加できなかった教員はオンデマンドで動画視聴し、全員がアンケートに回答した。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-4】㊦(立川看護学部)</b> 立川看護学部として、教員のFD企画、競争的研究費獲得に向けた支援の実施等及び立川市への公開講座の実施等により地域連携を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 他学部のFD企画にも積極的に参加できるように調整し、情報提供を行う。 2. 学外講師に依頼ができるように、FDに関する予算(5万/年)を捻出する。 3. 東が丘看護学部 FDマップを参考に、FDの企画・運営を行う。 4. 公開講座の時期と内容等について立川市と検討する。 5. リサーチマップ登録・更新方法のガイドを紹介する。 6. リサーチマップの登録のメリットと方法に関するFDを開催する。 7. 毎年度競争的研究費の受託件数を把握する。 8. 科研究費申請に向けたFDを企画し、毎年度内容を改善していく。 9. 毎年2月ごろ次年度の「住民を対象とした活動」について各領域や委員会に活動を促すとともに、次年度の予定を確認する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学部単独・他学部と共同のFD企画状況 ・立川市民への公開講座実施状況 ・立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開状況 ・自己点検・評価報告書(立川)の作成状況 ・立川看護学部教員の研究活動の支援状況 ・地域との連携状況 ・教員の学術集会発表及び論文投稿状況</p>	III I IV IV IV III II IV	<p>1. 対面2回、動画配信5回を実施。 2. 今年度は共同開催ができなかった。今後は東が丘看護学部だけでなく、別の学部との共同開催も検討する。 3. 8月25日に「アロマでせっけんづくり」という公開講座を、12月10日には「やってみよう! 自分でできるストレスマネジメント」という公開講座を実施した。 4. 5月上旬に大学HP上に「2021年度年報」をアップした。 5. 6月に大学HP上に「令和3年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 6. researchmapの登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画で提供した。学外助成金は昨年度(17件)と同程度(15件)であった。 7. 立川警察署などが来校(10月11日)し、広報活動などを実施したが、住民の健康増進に貢献する「町の保健室」のプロジェクトはコロナの関係で進んでいない。今後は、ボランティア活動だけでなく、災害看護の講義・演習なども立川市と協力して行っていく予定である。 8. 今年度の発表状況(学会発表 75回、論文 22編)は、昨年度(学会発表 60回、論文 19編)と比較して15~25%の増加が見られた。</p>	<p><b>【年度計画35-4】</b> 1. 学部単独のFD企画。年間3回(Zoom 2回、対面 1回) 2. 他学部と共同のFD企画。年間3回(Zoom 3回) 3. 学外講師によるFD企画。年間1回(対面 1回) 4. 立川市民への公開講座。年間2回(対面 2回) 5. 立川看護学部年報の作成と大学HP上への公開。 6. 自己点検・評価報告書(立川)の作成。 7. 立川看護学部教員の研究活動を支援し、競争的研究費の獲得をサポートする。 8. 地域と連携し、住民の健康増進に貢献する。 9. 教員の学会発表または論文投稿(いずれも共著含む)を推進する。</p>	IV III III IV IV IV III III	<p>1. 対面3回、動画配信5回を実施した。また、ICT関係で、VR講習会1回、F. CESSの説明会4回、電子教科書の説明会2回を実施した。 2. 今年度は共同開催ができなかったが、他学部等で行われるFDIに関する広報を実施した。今後は共同開催に拘らず、Zoomによる遠隔参加も広報することにした。他学部とはできなかったが、隣接する災害医療センターで開催される派遣報告会と勉強会に参加するよう広報した。報告会は、「トルコ大地震派遣報告会(4/26)」「能登半島地震派遣報告会(3/11)」の2回、勉強会は「災害医療指南塾(6/8)(7/20)(10/16)(12/13)」の4回の計6回開催され、時間的に都合が付く教員は参加した。 3. 学外講師を招いた講習会はできなかったが、災害医療センターの派遣報告会などは実際に派遣されたDMAT隊員からの報告などであり、外部講師と同等の教育効果があったと考えられる。 4. 8月24日に「アロマでせっけんづくり」という公開講座を、12月16日には「悩んでどう聞くの?」という公開講座を実施した。 5. 5月上旬に大学HP上に「2022年度年報」をアップした。 6. 8月に大学HP上に「令和4年度自己点検・評価報告書」がアップされた。 7. researchmapの登録方法や統計ソフトの使い方などの情報を動画で提供した。学外助成金は昨年度(15件)と同程度(13件)、学内助成金は3件であった。 8. 自衛隊などが来校(7月)し、広報活動や災害実習の講義などを実施したが、住民の健康増進に貢献する「町の保健室」のプロジェクトはコロナの関係で進んでいない。今後は、ボランティア活動だけでなく、災害看護の講義・演習なども立川市や自衛隊、消防庁等と協力して行っていく予定である。 9. 今年度の発表状況(学会発表 62回、論文 22編)は、昨年度(学会発表 75回、論文 22編)と比較して、学会発表が少し減少しているようであった。教員構成の違いによる影響が考えられる。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-5】(千葉看護学部)</b> DPを可能とする質の保証された教育を、継続的・発展的に行うため、社会のニーズにも対応した教員のFD活動を積極的に推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実施。 教育経験の浅い教員を対象とした大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況</p> <p>2. 学部全体での情報共有の会の開催。 学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をすることを意図したFD研修を行い、教育・研究能力向上に向けた相互の学びを深めるとともに、大学・学部のDP達成に向けての課題検討の基盤を構築する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学部全体での情報共有の会開催状況</p> <p>3. テーマに基づくFD研修会開催。 過去のFD研修の評価や、時々々のトピックスを反映させた講演・グループディスカッションによるFD研修を行い、社会のニーズに応じた教育・研究能力の向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・テーマに基づくFD研修会開催状況</p>	III	<p>1. 基礎的FDに参加している8名の教員の進捗管理・支援を行い、2名が授業参観を終えた。基礎的FDの研修会を1回実施した(3月10日)。2023年度は、9月と3月に2回開催できるよう計画的に取り組んでいく。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況</p>	<p><b>【年度計画35-5】</b> 1. 若手教員を対象とした基礎的FDの実施。 若手教員を対象とした基礎的FD研修会を開催する。(年2回)</p> <p><b>「評価指標」</b> ・若手教員を対象とした基礎的FDの実施状況</p>	III	<p>1. 基礎的FDに参加している14名の教員の進捗管理・支援を行い、基礎的FDの研修会(教員交流会)を1回実施した(3月11日)。2024年度は、3月に1回開催できるよう計画的に取り組んでいく。</p>				
	IV	<p>2. 活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をした。</p>	<p>2. 学部全体での情報共有の会の開催。 年度末に主として情報交換を目的とした全体FD研修会を開催する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学部全体での情報共有の会開催状況</p>	IV	<p>2. 3月13日に学部活動報告会を実施し、学部全体の教育・研究・学内外活動について総合的に情報共有をした。</p>				
	IV	<p>3. 夏季集中FD研修会において、「学生の個別ニーズに応じた相談支援研修(学生生活支援委員会)」「THCUCIによる地域貢献活動について考える(地域関連活動ワーキング)」「学生の体調不良、こんなときどうする?(実習委員会)」の3つのテーマでのFD研修を行った。(当日参加34人、動画視聴3人、参加率100%) ・そのほかに、委員会・プロジェクト等との共企画として、「看護系大学を目指す受験生の動向を踏まえた広報戦略について(学修支援委員会:6月21日)」「2022年度の国家試験対策指導に活用できる情報の共有(学修支援委員会:9月5日)」「入試の面接スキルについて(入試実施委員会:9月29日)」「シミュレーション教育事例体験会(DXプロジェクト:3月17日)」「カリキュラム評価プロジェクトFD報告会(カリキュラム評価プロジェクト:3月20日)」を行った。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・テーマに基づくFD研修会開催状況</p>	<p>3. テーマに基づくFD研修会開催。 夏季及び春季に当該年度ごとの課題解決に関連したテーマに基づく全体FD研修会を開催する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・テーマに基づくFD研修会開催状況</p>	IV	<p>3. 8月17日の夏季集中FD研修会において、カリキュラムプロジェクトとの共催で、「実習前CBT・実習前OSCEを取り入れたカリキュラムの実現の検討」というテーマでFD研修を行った。 ・また、3月14日に、カリキュラムプロジェクトとの共催で、春季FD研修を行った。 ・そのほかに、DXプロジェクトとの共催で、「516(多目的DXルーム)教室の利活用促進のための学習会を11月、12月、1月、2月の計4回実施した。</p>				



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-6】(和歌山看護学部)</b> 教員の資質及びDP実現に向けた教育力向上を目指して教員のFD活動を積極的に推進する。</p> <p><b>「水準達成のための方策」</b> 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。 ①教育経験の浅い教員に対して大学教員としての基礎的な教育観とスキルを養う研修を行う。 ②新採用教員に対して学部の特徴とDPの理解を図る研修及び教育観の共有を図る研修を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況</p> <p>2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・意見交換会・情報共有会の実施状況</p> <p>3. 教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・FDの実施状況</p>	III	<p>1. 新採用教員及び大学教員としての活動が浅い若手教員が多いことから、本学部開学の経緯、社会から求められる大学像、更には将来像を共有する。内容と目的で「東京医療保健大学和歌山看護学部は何を目指すべきか」を実施した。 ・アンケートの結果、100%近くが、満足度が高く実務で役立つと回答した。本研修会は今後を見据え、新採用の教員にオンデマンドにて配信し、FD活動の推進を兼ねて活用する。</p> <p>2. 内部質保証を高めるために「アクションプラン研修会」を実施し、中期計画の内容を網羅した和歌山独自の活動について共有した。さらに、前年度より要望が高かったハラスメントに関する内容を計画し、「人権研修」を実施した。自身や他人をどのように捉え、コミュニケーションをはかるのか「人間関係に焦点を当てたハラスメント予防」がテーマであった。学生教育に関するテーマでの意見交換会は実施できなかった。 ・「人権研修」は対面による開催であり、教職員が短時間であったが小グループで活発に意見交換した。満足度、実務で役に立つと8割以上の教職員が回答した。これらは学生に対する指導、教育活動にも応用できる内容であり、満足度が高かった。</p> <p>3. 研究活動については、研究協力部主催：「令和4年度科学研究費助成事業(科研費)説明会」を学部のFD活動として実施し、科研費獲得に向けて活動した。 ・26名参加、アンケート結果回答した全員が参考になったと回答した。</p>	<p><b>【年度計画35-6】</b> 1. 新採用教員と教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施。(対象に応じて開催回数を調整) ①教育経験の浅い教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年2回) ②新採用教員を対象としたFD研修プログラムを作成し研修会を開催する。(年1回)</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教育経験の浅い教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員を対象としたFDの実施状況 ・新採用教員の研修及び、教育観や教育方法についての共有FDの実施状況</p> <p>2. 教育・研究・社会活動を教職員が共有するFDの実施。テーマを決めて実施。 ①学生教育に関する意見交換会の実施。 ②研究活動、社会活動に関する情報共有の実施。(上記合わせて年1回)</p> <p><b>「評価指標」</b> ・意見交換会・情報共有会の実施状況</p> <p>3. 教育・研究能力の向上を図るFDを実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・FDの実施状況</p>	II	<p>1. 新任教員に対しては、採用時のガイダンスにおいて大学教員としての心構えや本学部の3pをもとに教育について、時間をかけて説明した。 ・教育経験の浅い教員、新任教員を対象としたFD研修は「組織的な研究(科研費等の外部資金研究)を目指し、研究経験の浅い教員の研究力向上を図るために必要な研究計画の立案につながる先行研究のリサーチ」として実施した。教員35名/43名、職員2名/17名、院生11名/18名(3名教員と重複)の参加があり、一部、二部とも好評を得た。後日、数名の教員は個別の研究相談を受けた。 ・研究費獲得のためのFDを1回、新任教員への説明会1回</p> <p>2. FDとして実施できなかったが、領域長の会合において実習指導について、学生の受講態度について、教育への学年上の学生の参加(SA)についての意見交換を行い、教育に反映した。 ・教学マネジメントについての研修を専門家を招いて実施し、38名が参加し、理解を深めた。 ・「ハラスメント研修」を昨年度からシリーズとして継続し、本年度最終ということで具体的な事例をもとに教員間のディスカッションも含めて実施した。対面で開催 35名(教員 330、職員 5名)で参加があり、好評を得た。 ・意見交換会を4回、教学マネジメント研修を1回実施した。</p> <p>3. 研究協力部主催「令和5年度科学研究費助成事業説明会」への参加した。科研費獲得経験者に個別相談できることを教員に伝え、2名が相談を受けた。 ・他学部FD「医療系カリキュラムにおける知識教授を目的としたアクティブ・ラーニング」への参加、「教学マネジメント入門」を学部で実施した。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-7】㊦(大学院医療保健学研究科)</b>            教員自らの専門性を究めていくことができるよう、必要な学会・研修会に参加できる調整を行う。職位に関わらず、一人年2回の学術集会参加ができるよう、各領域内で調整を行う。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b>            研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。            1.体系的なカリキュラムの構築。            2.学部・大学院の一貫教育の導入。            3.国際会議発表の推進。            4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。  <b>【評価指標】</b>            ・学術集会参加 一人年2回</p> <p><b>【計画35-8】㊦(大学院千葉看護学研究科)</b>            大学院における教職員の教育力の開発推進。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b>            日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・大学院における教職員の教育力の開発状況</p>	III	<p>1.各領域における3Pを作成し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院として検討した。            2.学部・大学院の一貫教育の導入に関しては、現状の中では導入に至る取り組みはできていない。            3.国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表に至ったものが1名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年2回程度はできてきているが、今後は国際学会への参加や発表まで至ることを推進していきたい。            4.産学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進していきたい。これらを通して、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。</p>	<p><b>【年度計画35-7】</b>            研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進する。            1.体系的なカリキュラムの構築。            2.学部・大学院の一貫教育の導入。            3.国際会議発表の推進。            4.産学連携・地域連携による共同研究の推進。  <b>【評価指標】</b>            ・学術集会参加 一人年2回</p>	III	<p>1.各領域における3Pを作成し、体系的なカリキュラムの構築につなげるように大学院として検討後、運営している。            2.学部・大学院の一貫教育の導入は、現状の中では導入に至る取り組みはしていない。            3.国際会議発表に関しては、大学院生の中から発表に至ったものが1名いた。国内発表は各領域でほとんどの院生が年2回程度はできてきているが、今後は国際学会への参加や発表まで至るよう推進していきたい。            4.産学連携・地域連携による共同研究は、各領域から一演題程度は進めてきているがさらに、推進し、研究レベルに裏付けられた大学院での人材育成を推進していきたい。</p>				
	III	<p>・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。            ・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。2023年度は、学部夏季集中FD研修会における実施など計画的に取り組んでいくこととする。</p>	<p><b>【年度計画35-8】</b>            大学院担当教員/職員を対象とした情報交換/研修会を、年2回開催する。うち1回は他研究科との合同研修とする。            主たるテーマを、実証的な研究とその支援とする。</p> <p><b>【評価指標】</b>            ・大学院における教職員の教育力の開発状況</p>	III	<p>・和歌山看護学研究科と共同し、大学院担当教員/職員および大学院学生等を対象とした講演とグループディスカッションからなる公開講座「Afterコロナ時代の新しい実習に向けて～参加型臨地実習の意義と課題～」を、11月23日(祝・木)に実施した。千葉看護学研究科からの参加者は教員23名、事務職員3名であり、事後アンケートからは、新たな時代に求められる臨地実習の在り方や運営課題についての学びが得られたことが示された。            ・学部と合同で、定期集中FD研修会・報告会を、3月14日(木)に実施した。全教員が出席し、ポスター発表として研究科における活動が報告された。(事後アンケート集約中)            ・いずれについてもテーマは実証的な研究とその支援ではなく、将来を見据えた方向性を検討する根拠となる知見や実態の共有であり、研究支援に関してのFD実施が今後の課題である。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-9】⑦(大学院和歌山看護学研究科)</b> 研究科を担当する教員の教育・研究指導能力の向上を図り、学生の学びの質を保証する教育方法の開発と教職員体制の充実を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 大学院における教育・研究能力開発のためのFD研修を実施し、その向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況</p> <p>2. DPを実現するための学部専門領域を横断的にした研究領域の編成を継続する。</p> <p><b>「評価指標」</b> 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況</p> <p>3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> 研究発表・投稿状況</p> <p><b>【計画35-10】⑧(助産学専攻科)</b> 教員としての自己研鑽を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自己研鑽のための研修等の参加状況</p>	IV	<p>1. 新しく大学院担当となる教員が加わるために「大学院和歌山看護学研究科の特色と発展に向けて」というテーマで設置の趣旨及び特色について共有することを目的に行った。今後の課題として学生の確保、教員組織の充実等への取り組みを確認した。千葉看護学研究科との合同研修を、大学院生及び教員を対象に「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」というテーマでそれぞれの研究科から学生と指導教員から報告があり、ディスカッションを行った。 ・2回の開催ができた。1回目オンライン参加47名、9割が満足で、実務の参考になったと回答した。千葉看護学研究科との合同研修の参加は合計87名、和歌山からは40名で85%が満足で今後の指導に役立つと回答した。</p> <p>2. 新採用教授2名に加え、教授2名、准教授3名、講師3名を大学院担当としてに加え、3つの領域に学部の専門領域が多様になるよう配置した。 ・3つの領域に学部の専門領域3～5領域の教員を配置し、できるだけ広い視野で研究に取り組める体制を整えた。</p> <p>3. 教員は学部との兼任であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼任教員の研究成果は、自己申告の概算であるが、研究発表10件、論文掲載は13件であった。</p>	<p><b>【年度計画35-9】</b> 1. 大学院担当教員を対象とした研修会を、年2回開催する。うち1回は他研究科との合同研修とする。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修会開催回数、授業評価、研究発表・投稿状況</p> <p>2. 教員の異動時に、研究領域の担当教員が学部の多様な専門領域で編成できるよう配慮する。</p> <p><b>「評価指標」</b> 研究領域担当教員が複数の学部での専門性を持つ教員の編成状況</p> <p>3. 研究継続により研究能力の維持向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> 研究発表・投稿状況</p>	III	<p>1. 学部との合同FD/SDを実施した。 ・千葉看護学研究科との合同公開講座「Afterコロナ時代の新しい実習に向けて～参加型臨地実習の意義と課題～」を実施した。和歌山看護学部からは教員2名が参加した。</p> <p>2. 令和4年度の教員構成を引き継いだ。</p> <p>3. 教員は学部との兼務であるため、学部での研究支援と同様である。 ・大学院兼任教員の研究成果は、自己申告の概算であるが、論文掲載26件、著書4件であった。</p>	IV	<p>1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自己研鑽のための研修等の参加状況</p>		
		IV	<p>1. 助産学専攻科（母性看護学含む）の教員に対して、臨床推論に関する学習会を開催し、FD研修会として学びの場を設けた。 2. 全国助産師教育協議会などの教育団体での研修に、全国及び地区研修会に参加して学びの場を設けた。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自己研鑽のための研修等の参加状況</p>	<p><b>【年度計画35-10】</b> 1. FD研修会の開催。 2. 全助教などの教育団体での研修参加。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEの実施のための勉強会の開催。 5. 裂傷縫合・経腹エコーの技術の教育のための自己研鑽の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自己研鑽のための研修等の参加状況</p>	IV	<p>1. 助産学専攻科（母性看護学含む）の教員に対して、臨床推論に関する学習会を開催し、FD研修会として学びの場を設けた。 2. 全国助産師教育協議会などの教育団体での研修に、全国及び地区研修会に参加して学びの場を設けた。 3. 領域内の研修会・勉強会の企画・開催。 4. CBT・OSCEに関しては、全国助産師教育協議会の研究に参加して、作問やシミュレーションの検討に参加し、プログラム作成に携わった。</p>			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画35-11】⑦(和歌山助産学専攻科)</b> 助産学を教授する教員の能力向上に務める。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 全国助産師教育協議会への参加、地方部会での役割遂行を通して、助産学を教授する教員の能力向上に務める。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況</p> <p><b>【計画35-12】⑦(産後ケア研究センター)</b> 産後ケアの実際に触れ、地域における母子支援の在り方を探求し、実際のケアを提供するとともに研究的な取組を行うため、教員としての自己研鑽を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1.品川区への報告書の作成。 2.電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3.地域での育児クラス開催(対面、オンラインなど)。 4.産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5.学生実習の受け入れとその運営・評価。 6.実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・FD研修及び自己研鑽状況</p>	IV	<p>・学会、他大学の助産に関する研修会等にも積極的に参加し、情報の共有、意見交換し教員の能力向上に努めた。</p> <p>・全国助産師教育協議会主催の総会・研修会に3名が参加した。母性看護専門看護師として実践研修、NCPRIンストラクターとしての研修など実践的な研修にも参加した。</p>	<p><b>【年度計画35-11】</b> 全国助産師教育協議会主催総会・研修会等に1名が1回以上の参加と専攻科内の情報共有を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・全国助産師教育協議会主催総会・研修会等への参加状況</p>	IV	<p>・教員全員が日本母性衛生学会に参加し、演題発表を行った。他学会や助産に関する研修会にも積極的に参加し、情報の共有、意見交換を行い教員の能力向上に努めた。</p> <p>・全国助産師教育協議会主催の総会・研修会にも参加した。助教がNCPRIンストラクターの資格を取得し、周産期の救命救急演習の授業がさらに充実した。</p>				
		<p>IV</p> <p>1.品川区への報告書の作成は、年2回実施し、報告に至っている。 2.電話相談・訪問、訪問型、日帰り型へ、研究室の教員および大学院の院生の参画を図り、学修に繋がられた。 3.地域での育児クラス開催(対面、オンラインなど)は、11月から12月に助産学専攻科生の健康教育の一環として、産後1~2か月、産後3~4か月に分けて実施した。3回に分け、各5~6名の参加者を得られ、オンラインで実施できた。 4.産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価 5月から6月にかけて3日間で研修課を実施、ブラッシュアップは12月に実施した。 5.学生実習の受け入れは、2~3年生の母性看護学実習の一部と4年生の看護の統合実習、助産学専攻科生に対して実施し、学修につながる事ができたと効果も得られたと運営・評価ができた。 6.産後ケア研究センターにおいて、フィールドとなる実践の場を得て、5でも述べているが、学生・院生、教員共に、ケアの質および技術の教育の向上を図ることにつながっている。</p>	<p><b>【年度計画35-12】</b> 1.品川区への報告書の作成。 2.電話相談・訪問、訪問型、日帰り型への参画。 3.地域での育児クラス開催(対面、オンラインなど)。 4.産後ケア研究センターにおける研修会・ブラッシュアップ研修の企画・運営・評価。 5.学生実習の受け入れとその運営・評価。 6.実践するケアの質および技術の教育の向上を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・FD研修及び自己研鑽状況</p>						

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分				
<p><b>【計画36】（研究協力部）</b> 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的にを行うよう奨励する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的にを行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数</p> <p><b>【計画37】（総務人事部）</b> 教員の教育研究活動等の実績・成果について、教員個々の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目について、学長及び各学科長等による全学的な評価システムにおいて評価を実施し処遇等に反映させる。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体等が開催するFD関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況</p> <p>2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況</p>	II	<p>・東京医療保健大学紀要第17巻の作成にあたり、それまでの投稿申請、論文受付の2度に渡る手続きを簡素化する観点から、投稿申請と論文投稿を同時手続きとしたが、投稿件数が13件と前年度に比べ大幅な減少となった。さらに、体調不良等があり投稿論文が2件辞退という結果となり、最終的には11件での公開となった。</p>	<p><b>【年度計画36】</b> 学術論文、研究論文等を積極的にジャーナル等に投稿するとともに、「東京医療保健大学紀要」への投稿についても積極的にを行うよう奨励する。また紀要に対する社会からの信頼に応えるため、紀要の投稿論文について学内の教員による査読に加え、学外の有識者に査読を依頼し、その評価等を踏まえて投稿原稿の採否・修正の指示決定を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ジャーナル等への投稿及び「東京医療保健大学紀要」への論文の投稿数</p> <p><b>【年度計画37】</b> 1. 教員の授業参観を行って評価を行う等ピアレビュー（同僚評価）の取組を推進する。また、最先端の医療技術に関する講習会、他の機関・団体等が開催するFD関係の研修会・セミナー及び学会等への積極的な参加（研究発表等を含む）を奨励するとともに、学内運営の各種委員会委員、本学主催の公開講座等の講師の委嘱等の活動について評価を実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教員のピアレビュー（同僚評価）等の評価及び処遇への反映状況</p> <p>2. 評価結果の処遇等への反映方策として「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」の各項目の業績が特に顕著であると認められる教員に対し教員表彰を行うとともに、表彰を受賞した教員のうち業績が特に顕著な教員に対してインセンティブを付与するため特別教育研究経費を配分する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教員表彰の実施状況及び特別教育研究経費の配分状況</p>	IV	<p>・紀要第18巻の作成にあたり、前年度の反省を踏まえて、小西紀要委員会委員長からの学部長等会議で啓励を行い、投稿申請と論文投稿の締切日を分離した結果、投稿申請が29件と大幅に増加した。残念ながら、原稿投稿は21件にとどまり、査読を経て最終的な論文掲載は18件となったが、前年に比べると1.5倍、プラス7件の掲載となった。</p>	III	<p>・教員の授業参観実績の同僚評価（ピアレビュー）については、一部の学科で実施され、全学FD委員会を通じて、横展開も行われている。また、毎年の人事面談の中で、ピアレビューに限らず、公開講座の講師などを委嘱された場合など、教員の実績として、教員教育表彰へのエントリー受付時の実績報告の中で記載を促している。なお、8月に開催された全学FD委員会では、各学科の行うFD関係の講演会、研修会などは、全員が最低一回以上は参加していることが報告されている。</p>	IV	<p>2. 助教以上の全教員から、5月に令和3年度の「教育活動」、「研究活動」、「学内外活動」、「アクションプランの進捗状況」の各項目について、成果を報告させ、各学科長による教員評価申告書に実績評価を行い、評価結果を学長に申請する。申請を受けた学長は各活動毎に教育表彰を選定し学長がその結果を理事長に上申し表彰と学長裁量経費から特別個人研究費を受賞者に各100,000円を配分し処遇に反映させた。令和5年度は10名が選出され、12月5日に表彰式を行った。</p>

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>7. 学生支援</b></p> <p>学生支援の実施においては、「学生支援に関する基本方針」に基づき、全学が連携し総合的に実施するとともに、その適切性について定期的に点検・評価及び検証を行い、その結果を踏まえて学生支援センターの機能の充実を図る。</p> <p><b>【計画38】（学生支援センター）</b> 修学支援を適切に実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対するガイダンス機能のさらなる充実を図るとともに、学生が修学する上で必要な情報を提供し、適切な支援を行えるよう、各学科教員、事務局が緊密に連携を図る。</li> <li>2. 成績優秀な学生については、本学独自のスカラシップ制度に基づき、授業料の減免措置による経済支援を行う。</li> <li>3. 経済的な理由で学生が修学をあきらめることがないよう、日本学生支援機構の奨学金をはじめとした各種奨学金の情報を広く収集して確実に周知するとともに、個別事情の相談をしやすい体制を作り、適切に支援をしていく。</li> <li>4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。</li> </ol> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況</li> </ul> <p><b>【計画39】（学生支援センター）</b> 生活支援を適切に実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身の健康維持・増進及び安全・衛生に関する最新情報の適切な周知徹底を図るとともに、保健室においては日常的な病気・ケガの応急措置、健康相談等に適切に対処する。</li> <li>2. メンタルケアの必要な学生が「学生相談室」に気軽に相談し、適切に支援できるよう、学生及び教員へのさらなる周知を図る。</li> <li>3. 「ハラスメントに関する取扱細則」に基づきハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対して、人権倫理委員会及び相談窓口、相談員を設置して適切に対処する。合わせて学生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布する。</li> </ol>	<p>IV</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生がいつでもどこでも必要な学内情報を自分のスマートフォンやPCで検索できるよう令和3年度より従来の紙冊子からWebページに変更した「キャンパスガイド」の初の年度更新を行い、提供情報の充実を図った。</li> <li>2. 本学独自のスカラシップ制度に基づき合計93名（授業料全学免除36名、半額免除57名）に減免措置を行った。</li> <li>3. 各事務部と緊密に連携して日本学生支援機構の奨学金利用を確実に支援した他、大学への寄附金を活用した新たな学内の奨学金制度（熊沢幸子奨学金、医療保健学部看護学科が対象）を開始した。</li> <li>4. 日本学生支援機構が実施している「障がい学生実務者研修」に職員を派遣し、障がいを持つ学生の理解および支援についての知見を深めた。また9月の学内職員研修会で障がい学生支援の状況について報告し学内での情報共有を行った。</li> </ol> <p>・なお、アンケートの実施については、12月に文部科学省の「全国学生調査」が実施されることになり、そちらを実施したため学内独自のアンケートは実施せず。</p> <p>IV</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間を通してCOVID-19の陽性者、濃厚接触者が多数発生したが、各キャンパスの保健室が一次窓口となり学生からの状況聴き取りおよび出席停止指示などを的確に行った。</li> <li>2. キャンパスガイド、周知カードなどで「学生相談室」の周知を図り、相当数の学生が利用した。（大学全体で延べ420件）</li> <li>3. 全新生入生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布した。</li> </ol> <p>（人権倫理委員会、相談窓口は総務人事部）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 学生寮においては管理委託先と緊密に連携し、設備の不具合対応を迅速に行った他、三宿寮において衛星放送視聴設備を設置するなど学生の生活環境向上に努めた。</li> </ol> <p>・なお、アンケートの実施については、12月に文部科学省の「全国学生調査」が実施されることになり、そちらを実施したため学内独自のアンケートは実施せず。</p> <p>・寮舎は2022年5月に三宿寮でアンケートを実施。 （食事、食堂、インターネット環境は満足度高く、風呂、共用部の満足度が低い結果となった）</p>	<p><b>【年度計画38】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対するガイダンス機能のさらなる充実を図るとともに、学生が修学する上で必要な情報を提供し、適切な支援を行えるよう、各学科教員、事務局が緊密に連携を図る。</li> <li>2. 成績優秀な学生については、本学独自のスカラシップ制度に基づき、授業料の減免措置による経済支援を行う。</li> <li>3. 経済的な理由で学生が修学をあきらめることがないよう、日本学生支援機構の奨学金をはじめとした各種奨学金の情報を広く収集して確実に周知するとともに、個別事情の相談をしやすい体制を作り、適切に支援をしていく。</li> <li>4. 障がいのある学生の修学等の支援は「障がい学生修学支援規程」に基づき、関係部署・教職員が連携して適切に支援する。更に「障がい学生支援」をより適切に行うために「障がい学生支援」の専任担当者を育成する。</li> </ol> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度及びアンケート回収率の前年比向上の状況</li> </ul> <p><b>【年度計画39】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身の健康維持・増進及び安全・衛生に関する最新情報の適切な周知徹底を図るとともに、保健室においては日常的な病気・ケガの応急措置、健康相談等に適切に対処する。</li> <li>2. メンタルケアの必要な学生が「学生相談室」に気軽に相談し、適切に支援できるよう、学生及び教員へのさらなる周知を図る。</li> <li>3. 「ハラスメントに関する取扱細則」に基づきハラスメントに関する苦情の申し出及び相談に対して、人権倫理委員会及び相談窓口、相談員を設置して適切に対処する。合わせて学生に「ハラスメント防止のためのガイドブック」を配布する。</li> </ol>	<p>III</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対するガイダンス機能の柱の1つである「キャンパスガイド・2023年度版」の更新により内容充実を図るとともに、災害発生時の緊急支援策をはじめ修学継続を支援するために必要な情報のタイムリーな提供を継続した。</li> <li>2. 本学独自のスカラシップ制度に基づき、令和5年度は成績優秀な学生合計93名（全額免除37名、半額免除56名）に対して授業料の減免措置を行った。</li> <li>3. 日本学生支援機構の奨学金の確実な周知に加えて、各種財団の奨学金募集情報の収集と学内イントラネットを活用した学生への周知を強化した。</li> <li>4. 「障がい学生修学支援に関する基本方針」を学生の情報ツールである「キャンパスガイド」に掲載して、支援の相談をしやすいよう努めた。また「障がい学生支援」の知見を深めるためにJAASSOの障害学生支援実務者研修（応用実習）に職員を派遣した。</li> </ol> <p>・「在学生アンケート」については授業関係アンケート、文科省実施アンケートなど学生アンケートが多く、学生の負担が大きくなること、有効な回答率が見込めないことから実施は見送り。</p> <p>III</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健センターと連携して新型コロナウイルス感染症対策など最新情報の適切な周知徹底を行うとともに、保健室において発熱・体調不良時の出席停止判断などを適切に対応した。</li> <li>2. 「学生相談室」の案内をソフトなものに刷新し、デスクトップページにリンクを貼る等、学生及び教員への周知強化を行った。</li> <li>3. 「ハラスメント防止のためのガイドブック」を最新の内容に更新し、新入生全員に配布した。（ハラスメントに関する苦情の申し出及び相談対応は人権倫理委員会が行っており、総務人事所管）</li> </ol>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>4. 女子学生寮（3寮、定員198名）において学生が社会性や協調性を身につけ健康で自立した学生生活を送ることができる安全、安心な環境を維持し、寮生の生活支援を適切に行う。</p> <p>「評価指標」 ・在学生アンケートの実施と満足度向上の状況</p> <p>【計画40】（学生支援センター） 進路支援を適切に実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的として、社会の第一線で活躍する企業人を講師に招くなどのキャリア教育の充実と企業体験などの就職活動支援とのさらなる連携を図る。 2. 進路、就職活動に関する支援のため、個人面接、進路・就職総合ガイダンス、各種就職支援講座、先輩との交流イベント（先輩の話を聞く会、卒業生との交流会など）、病院説明会、企業研究キャリア講座の実施のほか、求人情報をはじめとする就職活動に関する各種情報提供を適切に実施し、進路選択及び就職の支援を推進する。 3. 就職先が多岐にわたる医療栄養学科、医療情報学科の学生の能力・適性を活かせる就職先採用情報を継続的に収集し学生に提供する。 4. 卒業生の就職先に対して、新入職者に対して期待する能力や入職している本学卒業生に対する評価を確認する「就職先アンケート」を継続的に実施することで、採用側が望む能力・適性等を正確に把握し、教育改善とより適切な就職支援に役立てていく。 5. 就職活動に関する情報共有や個別学生の課題対応を目的に各学部・学科の特性に応じて保護者対象の就職説明会を開催する。</p> <p>「評価指標」 ・就職希望者の就職率について、過年度生を含めて全学での就職率100%を目指す。</p>	III	<p>1. ～3. 概ね計画通り実施した。 4. 就職先アンケートは至近で21年9月に実施したため、22年度は実施せず。 5. コロナ禍もあり対面での説明会ではなく、説明資料の郵送とした。 ・22年度生（過年度生を除く）就職率：99.8%</p>	<p>「評価指標」 ・満足度及びアンケート回収率の前年比向上の状況</p> <p>【年度計画40】 1. 学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図り、幅広い職業意識の形成を図ることを目的として、社会の第一線で活躍する企業人を講師に招くなどのキャリア教育の充実と企業体験などの就職活動支援とのさらなる連携を図る。 2. 進路、就職活動に関する支援のため、個人面接、進路・就職総合ガイダンス、各種就職支援講座、先輩との交流イベント（先輩の話を聞く会、卒業生との交流会など）、病院説明会、企業研究キャリア講座の実施のほか、求人情報をはじめとする就職活動に関する各種情報提供を適切に実施し、進路選択及び就職の支援を推進する。 3. 就職先が多岐にわたる医療栄養学科、医療情報学科の学生の能力・適性を活かせる就職先採用情報を継続的に収集し学生に提供する。 4. 卒業生の就職先に対して、新入職者に対して期待する能力や入職している本学卒業生に対する評価を確認する「就職先アンケート」を継続的に実施することで、採用側が望む能力・適性等を正確に把握し、教育改善とより適切な就職支援に役立てていく。 5. 就職活動に関する情報共有や個別学生の課題対応を目的に各学部・学科の特性に応じて保護者対象の就職説明会を開催する。</p> <p>「評価指標」 ①当年度生（過年度生を除く）の就職率：100% ②全卒業生（過年度生を含む）の就職率：99.5%</p>	IV	<p>4. 女子学生寮（3寮、定員198名）の運営管理（管理業務は委託）および必要な設備更新などを適切に行い快適な寮生活の提供に努めた。 ・「在学生アンケート」については授業関係アンケート、文科省実施アンケートなど学生アンケートが多く、学生の負担が大きくなること、有効な回答率が見込めないことから実施は見送り。</p> <p>1. ～3. 概ね計画通り実施した。 4. 3年前から卒業生を輩出している千葉看護学部、和歌山看護学部卒業生の過去3年の就職先アンケートを8月に実施。回収率47%。 アンケートの分析結果を学部長等会議に報告して学内で共有するとともに大学ホームページでも公開した。 5. コロナ前以来4年ぶりに対面での保護者対象説明会を開催した（世田谷キャンパス）。 ・23年度卒業生は、当年度生（過年度生を除く）の就職率、及び全卒業生（過年度生を含む）の就職率はともに就職率100%</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画41】(学生支援センター)</b> 学部卒業生への支援を適切に実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1.学部卒業生を対象とした本学ホームページ内の「卒業生相談窓口」、「住所変更・改姓届」をはじめとした卒業生サイトの拡充により、卒業生への情報発信、支援体制の整備・拡充を図ることで閲覧率の向上を図るとともに、卒業生に対しても継続して適切な支援を行っていく。 2.学部卒業生の卒業後の状況を把握するとともに、教育課程の改善、在学生の就職支援にも役立てるべく「卒業生アンケート」を継続的に実施する。 3.同窓会の組織運営及び会員拡充のための活動を適切に支援する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・卒業生アンケートの実施と回収率の向上の状況 (注)令和2年度：22.1%</p> <p><b>【計画42】(学生支援センター)</b> 保護者との連携強化を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、理事長・学長等との意見交換を行う機会を設けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教育懇談会の実施と出席者の状況</p> <p><b>【計画43】㊦(学生支援センター)</b> 学生支援センターが担う業務や主管行事の取り組み内容等を点検・評価しつつ、継続的に改善を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。 <b>「評価指標」</b> ・改善提案、提案の実行及び次年度以降の改善の取組状況</p>	III	<p>1.～3. 概ね計画通り実施した。 ・卒業生アンケート回収率：17.7% (教員にも協力を呼び掛けて回収を図るも前年比ダウン)</p>	III	<p><b>【年度計画41】</b> 1.学部卒業生を対象とした本学ホームページ内の「卒業生相談窓口」、「住所変更・改姓届」をはじめとした卒業生サイトの拡充により、卒業生への情報発信、支援体制の整備・拡充を図ることで閲覧率の向上を図るとともに、卒業生に対しても継続して適切な支援を行っていく。 2.学部卒業生の卒業後の状況を把握するとともに、教育課程の改善、在学生の就職支援にも役立てるべく「卒業生アンケート」を継続的に実施する。 3.同窓会の組織運営及び会員拡充のための活動を適切に支援する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・卒業生アンケート回収率の前年度比向上の状況 (注)令和2年度：22.1%</p>	III	<p>1.～3. 概ね計画通り実施した。 3.同窓会ではコロナ禍前以来4年ぶりに対面での総会を大学祭に合わせて開催し、卒業生との関係強化を図った。 ・卒業生アンケート回収率14.6% (前年比3.1ポイントダウン)</p>		
	IV	<p>・計画通り開催 ・3年ぶりに対面で開催した。 出席保護者数：170名 (第2会場も使用)</p>	IV	<p><b>【年度計画42】</b> 本学後援会総会に合わせて教育懇談会を開催する。教育懇談会では、学部等における教育状況等を保護者に報告するとともに、理事長・学長等との意見交換を行う機会を設けることにより、本学の教育活動の現状を理解し協力していただくとともに、保護者との連携強化に役立てる。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・教育懇談会の実施と出席者数の状況</p>	IV	<p>・保護者の教育状況への理解を深めていただくために当年度より教育懇談会を「教育状況報告会」に変更するとともに、従来の全学部一括での説明から各学部・学科毎に別個に説明する形式に変更した。 ・出席保護者からは「丁寧な説明を聞ける」「質問がしやすい」、説明する教員からは「十分時間がとれ、保護者と近い距離で話ができる」と双方から好評で、保護者との連携強化を図ることができた。 ・教育懇談会の出席者数：127名(出席者は前年比ダウン)</p>		
	III	<p>・年度前半に組織変更があり「改善提言」、「改善計画シート」は作成できなかったが、いくつかの業務改善を実現し、経費削減、事務部の業務効率化を図った。 ・効果の大きい主な業務改善は以下の通り。 ・学位記授与式の保護者出席申込を電子化(郵送コストの削減、保護者への利便性向上) ・卒業アルバム購入申込のWeb化、クレジットカード決済の導入(購入希望学生の利便性向上、事務職員の業務効率化) ・新入生学生カードの電子化 (郵送コスト削減、新入生の利便性向上、事務職員の業務効率化)</p>	III	<p><b>【年度計画43】</b> 学生支援センター全職員が各自「改善提言」を検討し、改善計画シートを作成した上で、センターとして実行可能な提案を検討し、実行する。また、実行した取組は、次年度「評価レポート」を作成し、次年度以降の改善等に活用する。 <b>「評価指標」</b> ・改善提案、提案の実行及び次年度以降の改善の取組状況</p>	IV	<p>・学生支援センター所属職員3名中2名が退職・異動で交代し、業務のキャッチアップと維持に努めるのに精一杯で「改善を提言」できるレベルには至らず。 ・その状況下においても、新たに以下の取り組みを行った。 ①新入生学生証写真の電子データによる入学前取得の仕組みを導入し、各事務部の負担軽減、費用削減、発行早期化(学生サービスの向上)を図ることができた。 ②開学以来見直しされず他大学より大幅に低い水準だった各種証明書発行手数料の改定に取組み、他大学並みの料金水準への引き上げを行い今後の大学収支改善に貢献した。</p>		



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<b>8. 教育研究等環境</b> <b>【計画44-1】（総務人事部）</b> ポストコロナに向け、各学部・研究科等における教育研究組織の整備・充実に配慮した適切な施設・設備について、計画的な整備を図るとともに、教育研究等の環境整備について、その適切性について点検・評価、検証を行い、その結果を改善に反映させる。 <b>【計画達成のための方策】</b> 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 <b>【評価指標】</b> ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況 <b>【計画44-2】（総務人事部）</b> ポストコロナに向け、「環境整備に関する実施計画」に基づき、教育研究等を支援する環境等の整備・充実を図る。 <b>【計画達成のための方策】</b> 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ commons）の整備に努める。 <b>【評価指標】</b> ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況	III ・令和4年度整備計画を作成し、計画的整備を推進し、計画10件中7件を完了した。2件は予算獲得や設計変更等の状況から次年度に繰越し、1件は今後のDX事業と整合を図るため再検討することとした。適正な計画作成と適宜の計画見直しが出来た。	<b>【年度計画44-1】</b> 「環境整備に関する実施計画」に基づき計画的な整備を図るとともに、「学生の学修・研究及び生活実態調査」結果などを踏まえて、その適切性について点検・評価、検証を行う。 <b>【評価指標】</b> ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備の整備状況及び点検・評価、検証の状況 <b>【年度計画44-2】</b> 1. 各キャンパス校舎においてはバリアフリーに配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行うとともに施設・設備の老朽化対策に対応した適切な整備を図る。 3. 各学部・研究科等の実験・実習に当たっては、安全面での注意を徹底するとともに、実験・実習室及び設備の管理・責任体制の徹底を図る。 4. 学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ commons）の整備に努める。 <b>【評価指標】</b> ・「環境整備に関する実施計画」に基づく施設・設備等の整備状況	IV R5年度は文科省補助金活用のバリアフリー化を含むR4年度繰越2件を完了した。また、視聴覚設備や受電設備・エレベーター等、学修・研究及び生活環境の改善を図った。 IV 1. 五反田本館バリアフリー化は文科省補助金を活用し完了した。R6年度は雄湊キャンパス体育館1階のバリアフリー化を計画する。各キャンパスのバリアフリー化に配慮した施設・設備の改修を推進する。 2. 法令対応の五反田受電設備の更新、東が丘研究棟エレベーターリニューアルを完了した。東が丘消防設備及び船橋エレベーターリニューアルは契約完了し工事はR6年度に継続実施です。引き続き、施設・設備の維持管理は、法令に基づき適切に行う。 3. 雄湊キャンパス事務室拡張工事や世田谷外壁・防水工事は計画とおり完了した。 4. 実験室・実習室の管理・責任体制の徹底は継続実施中である。世田谷キャンパス実習室・実験設備の更新・整備はキャンパスに適合させて計画的に整備していく予定。 5. 五反田体育館視聴覚設備を更新し開放的空間の活用に努めている。各キャンパスの視聴覚設備のライト化やキャンパス間の遠隔画像・音声配信は、DX事業と継続的な整合のため継続検討する。						
	III 1. 校舎のバリアフリー化を推進し、R4年度五反田本館バリアフリー化工事の増築確認申請は完了、予算確保の観点からR5年度へ繰越しした。 2. 各キャンパスの施設・設備の維持管理は調査・検査結果に基づき適正に計画・実施できた。世田谷本館アリーナのガラスブロック壁面工事、国立病院機構キャンパス本館研究棟外壁防水工事及び世田谷本館アリーナの屋根防水補修工事は完了し、立川体育館用音響設備老朽化による更新と照明交換も完了し老朽化対策を適切実施した。なお、雄湊キャンパス本館事務室拡張工事（要増築申請）は、学生対応の向上を図るため設計変更が必要となり増築申請を次年度に繰越したため工事もR5年度へ繰越した。 3. 世田谷キャンパス調理実習設備老朽化による視聴覚設備更新、船橋キャンパス本館の設備用中央監視装置の更新により設備の管理・責任体制の徹底を図り安全面の管理が向上した。 4. 全キャンパス間遠隔画像・音声配信設備は、DX事業との整合を図り、学生の主体的な学習支援のための体制や開放的な空間（ラーニング・ commons）の効率的な整備のため見直し検討することとした。								

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画45】(学長戦略本部)</b> 「多様な価値観を尊重し、一歩先を歩み続ける医療」を支える「一歩先の教育」を実現するため、DXによる基盤強化により「学修者本位の多様な教育の提供」、「学びの質の向上」を図る。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 1.教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサブリメント(DS)やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティ対策 ・シングルサインオン導入</p> <p>・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備</p>	IV	<p>1.教育DXの推進 ・令和3年度文科省補助金「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」と「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」1.7億円を獲得し、ヘルスケア産業のイノベーションの加速とデジタル医療人材育成を実現するための設備・ICTツールの導入(全キャンパス)や教務システム(CampusPlan)やLMS(WebClass)の改良を行い、学修成果の可視化による教育の質保証、教職員の業務改善を進めている。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・仮設5G環境を全キャンパスに導入済み。 ・情報セキュリティに関し学内規定の整備を実施 ・CampusPlanポータル機能を導入済、CampusPlanとWebClassをシングルサインオンできる環境を整備した。全学的運用には学内の調整が必要。 ・貸与継続中 ・CampusPlanに機能追加済み、全学導入を要検討。</p>	<p><b>【年度計画45】</b> 1.教育DXの推進 ポストコロナにおいてもDXを大胆に取り入れ、学修成果の可視化や新しい教育手法の開発を加速する。更に、令和3年度に整備したディプロマサブリメント(DS)やルーブリックを更に進化させて、多元的に学修成果や教育成果を把握、可視化を行い教育の質保証を確保する。また、それらの整備を図るため、文科省等の外部資金を積極的に取り込む。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・ネットワークの強化(5G対応) ・セキュリティ対策 ・シングルサインオン導入</p> <p>・学生PCの継続貸与 ・学生ポータルによる情報発信整備</p>	IV	<p>1.教育DXの推進 ・大学ビジョンにDXに積極的に取り組む旨を追加した。 ・文科省学術支援事業「大学・高専機能強化支援事業」に7月21日選定された。本事業は基金を創設し「デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革を行う」という新しい試みである。本学は、令和3年度に採択された文科省のPlus-DXや産業DXの活動を発展させて、医療情報学科を令和8年度4月改組し健康デジタル科(仮)として開設する申請を行った。IT・データサイエンスによる課題解決、スポーツテクノロジーの活用を柱に人材育成を行い、本学の教育DXのモデル学部として育てていく。本件では、約9億7千万円の助成金交付(外部資金)を獲得することができた。 ・学修成果の可視化に関しては、学修ポートフォリオの充実に力点を置いている。</p> <p>◇IT基盤の強化 ・五反田キャンパス、立川キャンパスでは、ICTツール活用が加速する中、WiFiの遅延等が散見されたが、ネットワークインフラの拡張を行い、ネットワーク障害が解消した。 ・情報セキュリティに関しては、令和元年5月24日付元文科高59号の趣旨に基づき、本学における情報セキュリティ水準を適切に維持し、リスクを総合的に低減させることを目的に、新たに「情報セキュリティポリシー」として「情報セキュリティ対策基本方針」及び「情報セキュリティ対策基本規程」を制定するとともに、併せて情報セキュリティ対策の適正な運営を行うため、「情報セキュリティ委員会規程」を制定し、令和5年4月1日より施行、運用を開始した。 ・シングルサインオンについては、継続検討中。 ・学生PCに関しては、全学生への貸与実施。 ・学生ポータルに関しては和歌山キャンパス大学院、五反田キャンパスでテスト運用を実施した。ポータル稼働に関しては、時間割が変動することに上手く対応できないため、本運用には時間がかかると思われる。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室設備のハイフレックス化(対面・オンライン選択授業)</li> <li>・授業コンテンツ収録スタジオ整備</li> <li>・代替実習環境の充実</li> <li>・ICTツールの計画的配備</li> <li>・ICT利用支援体制の構築</li> </ul> <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LMS(学修管理システム)と教務システム連携強化</li> <li>・ディプロマサブプリメント機能拡充</li> <li>・ICEルーブリック全学導入</li> <li>・学修ポートフォリオの整備</li> </ul> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育DXの推進状況</li> </ul> <p>2. 研究DXの推進</p> <p>研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。</p> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究を支えるICT基盤強化</li> </ul> <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費獲得に向けICT基盤強化</li> </ul>	II	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業DX補助金による世田谷キャンパス改修において、6教室(A202、A203、A207、A301、A302、A402)に収録用HDカメラと拡声システムを追加し、ZOOM</li> <li>・次年度以降検討を開始する</li> <li>・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達視点で次年度アイテムを決定(12月)。</li> <li>・ICT利用支援体制は産業DX予算を活用し、業務委託者を世田谷と五反田キャンパスにテスト的に配備、検証中。</li> </ul> <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX補助金を活用して、学修者の出席状況からリタイヤしそうな学生を検知し、教職員や保証人に周知する仕組みを構築中。来年度より医療情報学科で次年度4月より試行予定。</li> <li>・和歌山キャンパス大学院において、ディプロマサブプリメント機能を追加。</li> <li>・勉強会を2回実施(9月)、約50名の教員が参加</li> <li>・LMS(WebClass)のポートフォリオ機能の学修ビュー勉強会を開催(8月)。また、隣地実習に最適化されたF.CESSを12月に全学デモ、次年度のICTツールとして立川・和歌山看護の導入を決定</li> </ul> <p>2. 研究DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は、教育DXの基盤整備に注力した。次年度より研究DXに関して検討開始予定。</li> </ul> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は教育DX整備を先行したが、来年度から研究用ICT基盤強化について検討予定</li> </ul> <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エクセルによる実績管理から、ICT管理ツール「科研費Pro」を導入し、業務のDX化を進めている。</li> </ul>	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室設備のハイフレックス化</li> </ul> <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LMSと教務システム連携強化</li> <li>・ディプロマサブプリメント機能拡充</li> <li>・ICEルーブリック全学導入</li> <li>・学修ポートフォリオの整備</li> </ul> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育DXの推進状況</li> </ul> <p>2. 研究DXの推進</p> <p>研究活動を支えるICT基盤環境を図り、オープンサイエンス時代を先導する研究を創出する。</p> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究を支えるICT基盤強化</li> </ul> <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費獲得に向けICT基盤強化</li> </ul>	III	<p>◇教育設備面の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までに導入してきたICT環境(教育DX)の運用支援を行う業務委託体制を構築し、主に五反田、世田谷、立川キャンパスの利用支援を継続して行った。その結果、設備のフル活用や保守運用面に貢献できた。</li> <li>・本年度4月にスタートした五反田大学院プライマリーケア看護学領域では、オンデマンドを中心とした講義を展開、多忙な社会人学生の多様な学びに対応することができている。全学の共通科目化を検討するワーキンググループも講義のオンデマンド化による対応を提言しており、今後コンテンツの拡充とともに専用スタジオ環境の整備も検討中する必要がある。</li> <li>・代替実習を含むICTツールに関して、各学部の要望調査を行い、全学共通かつ計画的な調達視点で次年度アイテムを決定(12月)し、導入を行った。</li> <li>・教育DXを大学の基本方針と位置付けデジタル技術の更なる活用を図ることを目指している。本年度8月31日～9月1日、DXマネジャーを対象としたシミュレーション事例見学及び意見交換会を京都で開催した。この意見交換会では、教育職員(常勤・非常勤対象)のICTレベルの向上を目的としたICTスキルチェックリストの策定を行い、次年度より本格運用を行う。</li> </ul> <p>◇学修成果の可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護演習のポートフォリオ化を実現するため、千葉、東が丘、和歌山LMS(WebClass)の学修カルテ機能の活用を推進した。</li> <li>・和歌山キャンパス、立川キャンパスでは、看護演習ポートフォリオシステムを本格導入して、演習状況の可視化、IRデータ収集、学生の形成的評価に効果が出ている。2キャンパスの導入効果を見ながら全学展開を検討中。</li> </ul> <p>2. 研究DXの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は急務であった事務作業の効率化に目途が立った。事務部門のDX化による創出された人的リソースを研究活動の支援、外部資金獲得に振り向けていく予定。</li> </ul> <p>◇研究データ基盤の整備</p> <p>研究を支えるICT基盤強化に関して、具体策を検討中。</p> <p>◇科研費の管理、運用の効率化</p> <p>これまで、手作業で行ってきた科研費の処理に関して、日々の支出処理、各種報告書出力まで管理業務の効率化と研究費の適正管理を目指して、科研費管理システム『科研費プロ』を昨年度導入した。昨年度の試行を経て本年度より本格導入したが、事務作業の低減、科研費の収支状況をタイムリーな可視化、公的機関へのレポート作成の迅速化に貢献している。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【評価指標】</b> ・研究DXの推進状況</p> <p>3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。</p> <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・AIとチャットボット(自動会話プログラム)の活用</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行</p> <p>・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務)</p>	IV	<p>3. 事務DXの推進 ・学習基盤推進室が中心となって、教育DX・事務DXに関する調査及び導入を行っている。ツール導入だけでなく、運用の視点で、分散した事務職員のリソースを、外注化や集中化によって効率的にできないか模索中。</p> <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・人事情報システムを追加、任用から辞令までの人事管理を電子化した。 ・経理部門へのCampusPlan導入の可否を調査した。 ・半期に一度、成績表を印刷して郵送を行っているが、今年度CampusPlanアンシサイトを導入し、保証人がWebで閲覧できる環境を整備中、来年度から運用開始を目指す。</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・S1ベンダーもチャットボットシステムを紹介いただくなど、調査中。</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書のコンビニ(学外)発行システム構築中、次年度5月以降にカットオーバーを予定。 ・次年度より検討を開始する。 ・補助金の一部を活用し、新設の大学院プライマリケア看護領域のCampusPlan設定作業やデータ入力業務を外注化、バーチャルバックオフィスの実証実験中。</p>	<p><b>【評価指標】</b> ・研究DXの推進状況</p> <p>3. 事務DXの推進 教育研究を支える業務運営全般のDX化も加速させる。事務的処理に投入されてきた職員のリソースを大学価値創出にシフトさせ大学の競争力を高める。</p> <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・学生募集から卒業まで一元管理</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・AIとチャットボットの活用</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書コンビニ発行</p> <p>・電子マネー決済導入 ・業務の標準化と統合及びバックオフィス強化(共通業務)</p>	IV	<p>3. 事務DXの推進 ・事務DXを全学的に推進するため、全学横断組織である「事務DX推進プロジェクトチーム」を設置(7月1日)した。メンバーには次世代を担う若手・中堅職員が参加し、学生サービスの充実、サービス向上。業務の効率化に向けた議論を活性化させている。</p> <p>◇キャンパスプラン拡張と業務一元化 ・本学の課題である事務部の分散による業務の非効率化を解消するため、教務システム(Campusplan)のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラム設定など)を、納入ベンダーであるシステムディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあるものの、各事務部で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。</p> <p>◇問合せ業務の効率化 ・チャットボットは、問い合わせ業務の効率化として期待されるが、データベース構築に手間暇・コストがかかるため当面現実的ではない。</p> <p>◇事務カウンター業務の効率化 ・証明書に関しては、「学外(コンビニ)証明書発行システム」が学内サーバークラウド化の影響で導入が遅れたが、準備が整い、来年度4月1日より運用スタートする。これによる年間7000件の証明書発行業務の自動化が実現する。 ・学外証明書発行システム導入に伴いWebによる決済代行システムも併せて導入する。カウンターで現金決済を行ってきた追試や寮費の決済などキャッシュレス化の道筋が見えてきた。次年度以降、電子マネーも導入も合わせて検討する。 ・事務部の分散による業務の非効率化を解消するため、教務システム(Campusplan)のバックオフィス業務(データ入力、カリキュラム設定など)を、納入ベンダーであるシステムディ社にリモートで委託する新サービスの実験を行った。課題はあるものの、各事務部で共通する事務作業を仮想バックオフィスで集中的に行う可能性が見えて来た。今後人事部と具体化に向けた協議を行っていく。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	
<p>◇業務のオンライン化 ・各種決済</p> <p>・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション</p> <p>◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p><b>【評価指標】</b> ・事務DXの推進状況</p> <p><b>【計画46】（研究協力部）</b> 教育研究活動に必要な教員の研修の機会を確保するため、学会・研究会に参加する等、就業規則に基づき適切な配慮を行う。また、外部資金への積極的な申請を奨励し獲得を図る。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）</p>	IV	<p>◇業務のオンライン化 ・証明書コンビニ（学外）発行システムの決済機能を活用して、追試験などの金銭の授受を伴う申込などをコンビニ決済に移行する。次年度5月以降に対応予定。 ・次年度対応予定 ・次年度対応予定 ・補助金等を活用して、4キャンパスにオンライン会議（ZOOM）可能な電子黒板を導入。特に、学部長等会議やCOVID-19対策本部会議など、本部での会議をハイブリッドで先行実施。</p> <p>◇ペーパーレス化 ・S1ベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・S1ベンダーに事務のペーパーレス化を相談中。 ・全学的なペーパーレス化を実現するため、従来印刷物を配布していた学部長等会議をペーパーレスにて試行し、課題抽出する。</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・学内のビッグデータ解析ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス（dotData Lite）をS1ベンダーにヒアリング。</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・学内のビッグデータ解析ツールとして、データサイエンティストが不要なAI分析サービス（dotData Lite）をS1ベンダーにヒアリング。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・事務DXの推進状況</p> <p><b>【年度計画46】</b> 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）</p> <p>・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招いて説明会を開催しており、今年度は独立行政法人日本学術振興会 研究事業部研究助成第二課 課長代理の荒田 孔明氏を招聘し令和4年8月8日（月）16:30から90分間オンライン開催で実施した。 参加者数は教職員等166名、参加率は教員58.3%と参加者数及び教員参加率とも過去最高となった。 ・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。 ・令和3年度については、学外からの研究費が、前年度比66,179千円減（180%）となった。特に総合研究所が積極的に行った共同研究や厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚労科研）の受け入れ額の増が外部助成費増となった主な要因である。 また、科学研究費助成事業（科研費）新規申請件数及び採択件数はコロナ禍が続く中で申請件数及び採択件数とも前年度を上回った。</p>	III	<p>◇業務のオンライン化 ・各種決済 ・勤怠管理 ・雇用委託契約 ・会議、コラボレーション</p> <p>◇ペーパーレス化 ・事務局ペーパーレス化 ・保管資料のペーパーレス化 ・ペーパーレス会議の検討</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p>◇データによる教学IR、経営IRの推進 ・データ資産の集約基盤整備</p> <p><b>【評価指標】</b> ・事務DXの推進状況</p> <p><b>【年度計画46】</b> 教育受託研究費・奨学寄附金等の外部資金への積極的な獲得を奨励する。また科学研究費等補助金については外部講師を招いて定期的に説明会を開催し申請・獲得を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・受託研究費・奨学寄附金等外部資金の獲得状況、科学研究費等補助金の説明会等の開催状況（開催回数、参加者数、参加率）</p> <p>・科学研究費等補助金の積極的な申請を奨励するため、毎年度外部講師を招いて説明会を開催しており、今年度は奈良県立医科大学公衆衛生学講座 教授の今村 知明先生を招聘し令和5年8月17日（木）16:30から90分間オンライン開催で実施した。 ・参加者数は教職員等174名、参加率は教員64.6%と参加者数及び教員参加率とも昨年の過去最高を更新した。 ・科研費等外部資金の獲得状況は次表の「研究費総額に占める学外からの研究費の割合」及び「科学研究費助成事業新規申請件数及び採択件数」の通りである。 ・令和4年度については、学外からの研究費が、前年度比80,986千円減（46%）となった。要因として考えられることは、コロナ禍への対応のため準備作業等で研究に費やす時間減少が大きい。また、科学研究費助成事業（科研費）新規申請件数は依然とコロナ禍が続く中で前年度を上回り、採択件数は前年度と同数となった。 なお、令和6年度採択件数は令和6年3月末現在（最終的には令和6年9月決定）13件となっており、昨年度に比べて大幅に改善される見込みである。</p>	<p>今年度は未確定であるが、採択件数が改善される見込みであるのでその旨記載することが望ましい。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画47】(図書館)</b> ポストコロナに向け、図書館機能の整備・充実を図るとともに、図書館利用者のサービスの向上を図る。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 1. 教育研究遂行上必要な図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・ 図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備状況</p> <p>2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・ 図書館管理システムによる利用サービスの改善状況</p> <p>3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・ 図書館ガイダンスの実施状況</p> <p>4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンスの整備に努める。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・ 利用者からの相談状況、文献複写サービスの活用状況、ラーニング・コモンスの整備状況</p> <p>5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・ 利用サービスの改善状況</p> <p>6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・ 地域住民等による利活用状況</p>	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の受入を実施した。	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・学術雑誌・視聴覚資料・電子媒体等の整備・充実に努める。	IV	1. 例年と概ね同程度の数の図書・視聴覚資料・電子書籍の受入を実施した。学術雑誌は休刊と電子版移行により購読数が減少し、その分電子雑誌の購読数が増加した。		
	IV	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。	IV	2. 図書館管理システムにより、利用サービスの維持・向上を図る。	IV	2. 図書館システムを通して受入資料の目録を公開し、所在情報やアクセス情報を提供した。		
	IV	3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。	IV	3. 新入生に対する図書館利用に関するオリエンテーションを実施するとともに、利用者のニーズに対応した図書館ガイダンスを適切に実施する。	IV	3. 全学部・専攻科・研究科の新入生に対してそれぞれ対面での図書館ガイダンスを実施したほか、学部生・大学院生に対して文献検索・データベースガイダンスを実施した。文献検索・データベースガイダンスは希望に応じて録画映像の配布も実施している。		
	II	4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ ラーニング・コモンスの整備について進捗はない。	II	4. 図書館利用に関する学生及び教職員からの相談を適切に行うとともに、文献複写サービスの提供に努める。また、ラーニング・コモンスの整備に努める。	II	4. 例年と同程度学生及び教職員からの相談に対して回答を行い、文献複写サービスを実施した。 ・ ラーニング・コモンスの整備について進捗はない。		
	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。	IV	5. 図書館の書架を体系的・目的別に整備し、書架の案内掲示を見易くする等利用サービスに努める。	IV	5. 各館において書架の整備、案内掲示を行っている。		
	II	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館において目黒区地域内図書館の共同企画展示を実施し、地域連携会議を行った。	II	6. 地域に開かれた大学として地域開放に努めるとともに、図書館利用の拡充に努める。	II	6. 附属世田谷図書館で地域利用者への図書館利用を展開しているが利用申込はなかった。附属東が丘図書館が参加する目黒区の医療系図書館地域連携の名称を「めぐりぶ健康ネット：めぐる図書館健康情報連携」と決定し、共同企画展示「病氣と仕事の両立」を開催した。		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分				
<p><b>9. 社会連携・社会貢献</b></p> <p><b>【計画48】（企画部）</b> 医療・健康・保健面において地域を指向して教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティーの中核的存在としての機能強化を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p> <p><b>【計画49】（企画部・各事務部）</b> 大学が所在する地方自治体との連携を強化し、共催・後援による公開講座等や各種事業を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数</p>	II	<p>・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、DXの推進のほか、関連して社会連携・社会貢献の取組について検討を行っているが、全学的な体制整備の構想案の策定まで検討できなかったため、引き続き令和5年度において、各部署の取組状況をj確認することも含め、検討を継続することとした。</p>	III	<p><b>【年度計画48】</b> 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	IV	<p>・公開講座の実施については、令和4年6月15日に開催した「全学公開講座委員会」において、コロナ禍ではあるが参加者数を増やすことを意識し、大学のPRとして学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和4年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。</p> <p>・「産後ケア事業」の推進については、【計画66】を参照のこと。</p> <p>・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。</p>	III	<p>・全学的な社会連携・社会貢献の取組の実態が不明なことから、学長戦略本部において、「地方公共団体・企業・関連病院等との連携・協力による地域の課題解決に向けた各種取組状況」について各部署に対し調査を行った結果、企業、行政機関、消防団、医師会、病院、看護協会、学校、財団、自治会、社会福祉協議会、地域実行委員会、防災協議会、プロスポーツチームなどとの多岐にわたる連携事業を各部署単位あるいは教員個人単位で連携していること、また特定の教員グループ・教員個人単位で多数の連携事業を行っており負担が増大していること、事業経費については連携先からの事業支援は少なく、大学や教員の持ち出しが多い等の課題も見えてきた。</p> <p>・これらの課題解決のため、総合研究所の組織強化及び学長戦略本部に「研究力強化会議」を設置し学内の体制強化を図るため、「東京医療保健大学の研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する体制の整備に関する要綱」を策定し、令和6年2月21日開催の学部長等会議において審議・承認されたことから、今後具体的な取組を進めていくこととした。</p>	

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		<p>(五反田事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保健学部看護学科と品川消防署が連携を行い、地域・社会貢献を目的に学生消防団員の募集を行い、8名の学生が入団を希望した。令和4年12月13日には品川消防署長等が来校し、辞令式を実施した。</li> <li>・五反田キャンパスの近隣に位置する品川区立第三日野小学校より8名が生活学習の一環で来校し、地域看護学領域の教員が施設見学やインタビューに協力した。</li> <li>・医療保健学部看護学科の渡會教授が中心となり、東京都の一般社団法人「住民とともに活動する保健師の会」からの委託事業を実施してきた。本学との連絡がより可能となり、地域貢献・関連研究等が促進されることを期待し、医療保健学部看護学科の付属組織として「地域健康づくり研究・教育センター」を設置することの検討を行った。（センターの設置は令和5年4月より）</li> </ul> <p>本センターは、品川区をはじめ、全国及び各自治体や地域と連携協同して、保健・健康づくりの発展に関する業務等を行う予定である。</p> <p>(世田谷事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世田谷区教育委員会と連携して「手の消毒効果について」の体験学習を2月13・18日に三宿小学校で実施。児童参加32名/各日、教員1名、学生7名参加。</li> </ul> <p>(東が丘事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【計画59-1】～【計画59-3】を参照のこと。</li> </ul> <p>(立川事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立川市と連携して、8月25日に「アロマでせっけんづくり」という公開講座（定員 親子20組×2回）、12月10日に「やってみよう！自分のできるストレスマネジメント」（定員50名）という公開講座を実施した。どちらも好評であり、定員以上の申し込みをいただいた。</li> </ul> <p>(千葉事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【計画61-1】を参照のこと。</li> </ul> <p>(和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【計画62-1】を参照のこと。</li> </ul>			<p>(五反田事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保健学部看護学科と品川消防署消防団は昨年に引き続き、令和5年10月25日に入団辞令交付式を本学にて実施した。辞令交付式には学生団員11名、品川消防団長等、亀山学長が参加した。</li> <li>・品川区立第三日野小学校で発展学習として学んでいる「防災」の一部として、臨床看護学急性期領域の教員が防災講習を実施した。</li> <li>・令和4年度に医療保健学部看護学科の付属施設として設置された「地域健康づくり研究・教育センター」の活動として令和5年度も地域と連携した様々な活動を実施し、報告書をまとめ第5回大学経営会議の資料として周知した。</li> </ul> <p>(世田谷事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に、世田谷区教育委員会と連携して体験学習「食品から色を取りだして調べよう！」（食品に含まれる合成着色料の種類を調査）を三宿小学校で実施。児童40名、教員1名、学生5名参加。</li> </ul> <p>(千葉看護学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実掲示した。各活動の参加実績は把握していない</li> <li>・11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。</li> <li>・地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。</li> </ul> <p>(和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山市と共催し、9月16日（土）雄湊キャンパスにおいて「がまんしていませんか？その痛み！一ヶ月経緯についてみんなで知ってやわらげよう」と題し公開講座を実施した。本学部福山教授の講演や和歌山市保健所の保健師など2名による和歌山市の現状説明を行い。市民43名（オンライン12名）の参加いただき月経痛を緩和する体操方法を紹介、一緒に行った。</li> <li>・和歌山市が主催する学生支援プロジェクトに参加、学生4名、教員2名、事務職員1名が参加し、ブースにおいて看護演習体験等を行い、参加中学生（会場参加440名）に将来の進路の情報提供を行った。</li> </ul>				



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画50】（企画部・各事務部）</b> 保健医療関係機関等との連携協力により、医療現場の今日的な課題解決等を図るため、各種連携事業等を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況</p>	IV	<p>（東が丘事務部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年1月31日に国立研究開発法人国立成育医療研究センターと連携・協力協定を締結した。</li> <li>・人事交流では臨床教授4名、非常勤講師11名が就任すると共に立川看護学部教授として入職している。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延74名が利用するなど協働事業は進展中である。</li> </ul> <p>（千葉事務部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入れ、人事交流を継続した。</li> <li>・JCHO船橋中央病院において、①令和4年度新卒看護職員研修への参加、②ラダーⅢ看護研究計画立案指導、③看護研究支援を行った。また、JCHO東京山手メディカルセンターにおいて看護研究支援、JCHO埼玉メディカルセンターにおいて看護研究支援を行った。</li> </ul> <p>（和歌山事務部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センター主催にて地域の課題である精神医療について「精神疾患と治療・精神看護に関する学習会」を全5回実施し、地域の医療機関の方々延べ201名に参加いただいた。</li> <li>・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会、キャリア開発研修、看護実践報告会に講師として教員を派遣し、支援を行った。</li> </ul>	<p><b>【年度計画50】</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各種協働事業等を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況</p>	III	<p>（東が丘事務部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人事交流では臨床教授5名が就任、非常勤講師21名に授業を担当いただいている。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延346名が利用するなど協働事業は進展・拡大中である。</li> <li>国立病院機構とも定期的な会合を持ち、密な連携を継続している。</li> <li>・NH0本部の副理事長の人事交代により、昨年11月末の「NPフォーラム」への本部職員参加者数が増え、フォーラム終了後、全国のNH0施設に本部から診療看護師の業務基準に係る調査がなされ、NPに対する関心が高まり、地域に勤務している修了生からの反応があり、従来に比し密な関係が推進された。</li> </ul> <p>（千葉事務部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人地域医療機能推進機構より、1名の講師を受け入れ、人事交流を継続した。</li> <li>・JCHO船橋中央病院において、①令和5年度新卒看護職員研修への参加、②ラダーレベルⅢ看護研究計画立案指導、③看護研究支援を行った。</li> <li>・JCHO主催の実習指導者講習会への講師派遣を行った。</li> </ul> <p>（和歌山事務部）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤和歌山医療センターとの連携事業として、和歌山看護実践研究センター主催にて「臨床実践を科学的に意味づける」一文献検索の意義と方法を知らうー（全4回）をテーマに地域の中堅看護師8名に参加いただき、キャリア開発の支援、モチベーションアップと生涯教育につながる研修会を開催した。</li> <li>・日赤和歌山医療センターにおいて開催された看護研究研修会などに講師として教員を派遣し、支援を行った。</li> <li>・日赤和歌山医療センターに就職する看護学生対象に看護技術の基礎トレーニングを実施、就職予定者40名が参加し日赤と協力して指導を行った。</li> </ul>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画51】（五反田事務部・感染制御学教育研究センター）</b>            大学院研究科における研究の取組を紹介するための公開講座の実施や保健医療機関等からの要請に基づく感染制御実践看護学講座及び感染制御学企業人支援実践講座等を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数</p>	IV	<p>（五反田事務部）            医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を実施しており、令和4年度は第7回となり、以下のとおり実施した。            日時：令和4年7月3日（日）            テーマ：先をみる医療—新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化—            昨年度から引き続きZoomでの開催とし、H29年度の実施から最多となる207名が参加し、アンケート結果も好評であった。            （感染制御学教育研究センター）            感染制御学教育研究センターにおいては保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、「感染制御実践看護学講座」を実施している。</p> <p>1. 令和4年度感染制御実践看護学講座            保健医療機関等において5年以上感染管理に従事した経験を有する看護師を対象に平成22年度から実施しており、令和4年度で第13回となり、以下のとおり実施した。            期間：令和4年4月23日（土）～10月29日（土）            受講者数：23名</p> <p>2. 令和4年度感染制御学企業人支援実践講座            企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関連する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。            期間：令和4年10月1日（土）～12月3日（土）            受講者数：2名</p>	<p><b>【年度計画51】</b>            大学院主催の公開講座や、保健医療機関等の看護師の要請に応じた「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」を実施する。特に、公開講座については、対面及びオンラインでのハイブリッド型の実施により、より参加しやすい環境を整備する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・公開講座の開催数及び参加者数、「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数</p>	IV	<p>（五反田事務部）            医療保健学研究科では平成27年度より研究科公開講座を企画・実施しており、令和5年度は以下のとおり実施した。            日時：令和5年7月8日（土）            テーマ：先をみる医療—地域包括ケア時代の課題と展望            例年、研究発表、教育講演、特別講演のプログラム構成であったが、今回は教育講演及び特別講演の講演者を登壇者としたパネルディスカッションの時間を設けた。            昨年度と同様Zoomでの開催とし、209名の申込者があり、うち180名が当日参加した。アンケート結果も好評であった。</p> <p>III            （感染制御学教育研究センター）            1. 感染制御実践看護学講座            同センターでは保健医療機関等で感染管理に従事する看護師の要請に応じ、平成22年より「感染制御実践看護学講座」を実施しており、令和5年度に第14回を以下のとおり実施した。            ・期間：令和5年4月22日（土）～10月28日（土）            ・受講者数：23名（申請者数は45名であり書類審査及び筆記試験により選抜を行った）</p> <p>2. 感染制御学企業人支援実践講座            同センターでは企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成25年から実施している。令和5年度も募集を行ったが申請者がいなかったため実施しなかった。</p>				


第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画52】（学長戦略本部、各事務部）</b>            本学を卒業した医療人等の生涯学習の場づくりを支援するため、「ポータルサイト」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設し、継続教育の機会を提供する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            「一歩先を歩む医療人のポータルサイト（仮称）」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数</p> <p><b>【計画53】（各事務部、学生支援センター）</b>            医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養及び学習意欲の向上を図るとともに、地域との交流を深め地域社会の発展に寄与するため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備するには至っていない。ボランティア活動は地域性が高く、イベントの発生ベースで募集があるため、学部を跨いだ組織横断的な取り組みが行いにくく、効果もあまり見込めない一方、事務部単位では地域性を踏まえた活動が行われた。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況</p>	II	<p>・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント（仮称）」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p>	II	<p><b>【年度計画52】</b>            「一歩先を歩む医療人のポータルサイト（仮称）」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数</p>	II	<p>・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいて、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するための検討を行い、まずは医療栄養学科の卒業生にそのニーズ調査を実施した。調査の結果、84名の回答があり、            ①大学訪問理由については、教員訪問、医愛祭参加、セミナー参加、証明書発行のところが上位を占めた。            ②大学に求める情報については、転職情報、セミナー情報、大学イベント情報、現在の大学に関する情報が上位を占めた。            ③卒業生専用ページに求めることについては、証明書発行手続き、転職の相談、セミナーの申し込み、資格取得の相談、現在の業務に関する相談、卒業生同士の交流が上位を占めた。            ・令和6年度は、看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な制度設計を進めることとする。</p>				
	III	<p>・組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備するには至っていない。ボランティア活動は地域性が高く、イベントの発生ベースで募集があるため、学部を跨いだ組織横断的な取り組みが行いにくく、効果もあまり見込めない一方、事務部単位では地域性を踏まえた活動が行われた。</p> <p>（五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科では、品川区の在宅介護支援センターとの連携で有志が在学ケアチームの一員としてボランティア活動を実施している。ボランティア活動を通じて連絡ノートの記載や身体の状態に応じた観察など看護学生として貴重な体験ができる。</p>	III	<p>（五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科ではHomecoming Dayを開催しており、令和5年度で7回目となった。在校生等との交流会だけでなく、病院や医療センターで活躍している卒業生数名を招き、トークセッションの時間を設け、生涯学習支援講座としての内容も含んでいる。            ・令和5年度は福祉グループ、病院等から3名の卒業生を招き4年ぶりに対面で実施し、卒業生26名、在学生8名、教職員等28名、計62名が参加した。</p>	III	<p>（五反田事務部）            ・医療保健学部看護学科では、昨年度設置した「地域健康づくり研究・教育センター」が中心となり、学生と行う社会貢献事業、品川区役所と大学教員との連携・社会貢献事業、地域組織とともに行う活動等、様々な活動を積極的に行った。</p> <p>III（世田谷事務部）            ①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
		<p>(世田谷事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ボランティアの支援体制は事務部が世田谷キャンパスの2学科共通の窓口となり、以下の活動を実施した。①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施(1名参加報告有)、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。</li> </ul> <p>(東が丘事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ボランティアの支援体制は学生生活委員会及び事務部が窓口となり以下の活発な活動を実施した。①目黒消防団活動168名、②東京医療センター七夕飾りイベント16名、③目黒区民まつり19名、④東京2020パラリンピック3名、⑤アロマ石鹸づくり3回18名、⑥「東が丘保健室たより」年1回発行、⑦教員2名が各々目黒区の生涯学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に就任し目黒区との交流を強化した。</li> </ul> <p>(立川事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立川看護学部では、包括連携協定を結んでいる立川市関係を中心として、立川市消防団活動(151名)、立川市ハーフマラソン(76名)、立川パートナーシップフェスタ(21名)、パートナーシップ合同訓練&amp;ウェルカム警視庁(27名)、立川市赤十字奉仕団(29名)など、多くの学生がボランティアとして参加した。</li> </ul> <p>(千葉事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉看護学部で2回目の開催となる地域交流イベントに学部生64名が運営ボランティアとして参加した。また、同イベントの企画である「からだのお話し会(未就学児がからだについて学ぶお話し会)」に学部生8名が参画した。</li> </ul> <p>船橋市が実施する「ふなばし夏のボランティア体験事業」の情報を学生に配信し、学生が夏季休暇中にボランティア活動を行えるよう支援した。</p> <p>(和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤和歌山支部との連携、協力のもと「東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団」を結成し、献血活動、地元のごども食堂の運営支援など奉仕団活動を精力的に行った。また、立川看護学部が参画し活動を行っている立川市赤十字奉仕団の学生や担当者との意見交換会を開催するなど、学部を越えた交流を行った。</li> <li>・地元で3年ぶりに開催された和歌山市社会福祉協議会主催の「わかやま社協まつり」に学生、教職員が参加し、高齢者疑似体験等のコーナーを担当し地域住民の健康・福祉に貢献した。</li> </ul>			<p>Ⅲ (千葉看護学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ふなばし健康まつりの情報」「地域交流イベントの情報」を学生に周知して学生がボランティア活動を行えるよう支援した。それぞれのイベントには学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。</li> </ul> <p>参加人数は、ふなばし健康まつり：教職員9名、学生32名、地域交流イベント：教職員37名、学生74名</p> <p>Ⅲ (和歌山事務部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度に日赤和歌山支部との連携・協力のもと結成した「東京医療保健大学和歌山看護学部赤十字奉仕団」は合計36名の学生が所属し、日赤支部の活動に参加するなど、自分たちで企画した市立図書館でのイベントを行い、活発に活動した。</li> <li>・和歌山市主催の紀州おどり「ふんだら節」(46名参加)、和歌山市社会福祉協議会が主催する社協まつり(7名参加)など地域のイベントにも積極的に参加した。</li> <li>・和歌山市消防署との共催による多数傷病者訓練を雄湊キャンパスにて実施、学生49名が傷病者役などを行った。また、令和5年度緊急消防隊近畿ブロック合同訓練(学生31名参加)など地域大規模災害訓練にも多くの学生が参加した。</li> </ul>				
		<p>Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度の共同研究の新規契約件数は5件(令和3年度：7件)、受託研究の新規契約件数は8件(令和3年度：5件)であり、コロナ禍ではあったが、受託研究については昨年度を上回る件数を確保したところである。</li> <li>・また、令和4年度科学研究費等補助金等の申請件数は41件(令和3年度：30件)、採択件数は8件(令和3年度：7件)であり、申請件数・採択件数とも前年度以上の件数を確保したところである。</li> </ul> <p>【計画54】(学長戦略本部・総合研究所、研究協力部)</p> <p>教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究の推進及び科学研究費等補助金の申請等により、外部資金を確保する。</p> <p>【計画達成のための方策】</p> <p>「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数</li> </ul>	<p>【年度計画54】</p> <p>「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数</li> </ul>		<p>Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の共同研究の新規契約件数は4件(令和4年度：5件)、受託研究の新規契約件数は7件(令和4年度：8件)であり、依然としてコロナ禍の影響はあったが、共同研究及び受託研究とも昨年度とほぼ同件数を確保した。</li> <li>・また、令和5年度科学研究費等補助金等の申請件数は43件(令和4年度：41件)、採択件数は8件(令和4年度：8件)であり、申請件数は前年度を2件上回り、採択件数は前年度と同件数を確保したところである。</li> </ul>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分			
<p><b>【計画55】 【計画32の再掲】</b> <b>(国際交流センター、研究協力部、各事務部)</b></p> <p>学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受け入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受け入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるように両大学に積極的に働きかける。</p> <p>2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受け入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度</li> <li>国際的な講演会等の開催状況</li> </ul>	III	<p>(国際交流センター、研究協力部)</p> <p>1. ハワイ大学とシャミナード大学との大学間の正規の提携は、コロナ禍の影響により先方の受け入れ状況等が整わなかったため、提携までには至らなかった。引き続き令和5年度に達成できるように準備をする。オーストラリアのグリフィス大学とは令和2年に公式提携を結んでいる。研修実施状況としては、令和4年9月にグリフィス大学オンライン研修 (OSAPatGU) を、令和5年3月にはオンラインハワイ研修 (OSAPinHI) を実施した。OSAPatGUには17名が参加、OSAPinHIには本学学生及び教員39名が参加した。後者にはシャミナード大学の学生12名も参加して交流を行った。</p> <p>III</p> <p>2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和5年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスの医療に関する講演会を3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム86名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム61名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。</p>	<p><b>【年度計画55】</b></p> <p>1. 大学間連携を行っているグリフィス大学との提携を更新する。さらにハワイ大学、シャミナード大学との大学間提携を進めるとともに両大学との研修内容の充実を図る。</p> <p>2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受け入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度</li> <li>国際的な講演会等の開催状況</li> </ul>	III	<p>(国際交流センター、研究協力部)</p> <p>1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中に更新は完了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施し16名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加学生に対する実施後アンケート調査 (回答者38名、回答率82.6%) では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との研修プログラムは一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施できるか、両大学と模索中である。</li> <li>中国の燕山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。</li> </ul> <p>IV</p> <p>2. (国際交流センター、研究協力部)</p> <p>令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にバン格拉デシュの医師S. A. ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「バン格拉デシュの医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。(申込者数173名) 10月: 「アメリカの医療事情」(講師: 安西耕氏)、11月: 「国際比較からみる女性特有の健康課題」(小川真里子氏) 12月: 「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」(講師: 森山潤氏、勝山なおみ氏) 申込者数173名。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画	令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分			評価区分			
	III	(世田谷事務部) ・9月にオーストラリアのグリフィス大学（学生6名/教員3名）、3月にハワイのシャミナード大学（学生4名/教員2名）とオンライン交流を実施。		III	(五反田事務部) 国際交流センター主催のオーストラリア現地研修に医療保健学部看護学科より学部生9名、教員2名が参加した。		
	IV	(立川事務部) ・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名（3年11名、1年2名）であった。		IV	(世田谷事務部) ・9月に台湾秀傳医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問（医療情報学科、学生5名/教員2名） ・3月にオーストラリアのグリフィス大学研修（医療情報学科、学生6名/教員1名）		
	III	(千葉事務部) ・東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデザインユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究における、海外事例の収集と日本への適用方策を検討するために、千葉看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察した。		III	(千葉事務部) 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 「バングラデシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。		
	III	(和歌山事務部) ・9月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生1名/教員2名支援教員）、3月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生2名・大学院生1名・教員1名/教員2名支援教員）とオンライン交流を実施。「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3回）を支援した。 ・学術交流協定を締結しているベトナムナムディン大学の卒業生（介護士）他との交流会を開催、学生13名が参加し国際的な看護や文化、海外の医療等を学び、有意義な異文化交流を行った。		III	(和歌山事務部) ・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名（ベトナム人介護士）と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。 ・オーストラリア海外研修には、学生4名、引率教員1名が参加した。		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>○医療保健学部看護学科</b> 【計画56-1】⑦</p> <p>地域貢献事業の展開及び地域活動を通して学ぶプログラムを実施する。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <p>1. 令和5年まで年間9回（大学体育館5回、八潮4回）の健康づくり事業を継続実施する。</p> <p>2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する</p> <p>3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年9回（五反田5回、八潮4回））</li> <li>・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年20名の学生実習）</li> </ul>	III	<p>1. 健康づくり事業をコロナ禍でも継続できるよう、開催方法をオンラインへ、実施回数を5回（2会場合同）へ変更し、また実施内容に学生企画（学生によるミニ健康講座）を取り入れるなど、工夫しながら実施した。参加者は50～80歳代の延べ82名（実人数27名）であった。学生はオンラインであっても地域住民と交流する機会が得られ、この関わりを通し実際の健康・生活状況について学ぶことはできた。一方で、オンライン開催のため参加できなかった住民は多く、学生や参加者からも会場開催を望む声が聞かれており、会場開催を実現することが課題である。</p> <p>IV</p> <p>2. 「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生（20名）は2～3名に分かれ「にじっこ」、「しながわこども冒険ひろば」、「そとぼ～よ！」等の子育て支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育て支援の実践を学んだ。</p> <p>IV</p> <p>3. 地域ボランティアについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東五反田地区夏祭りにおいて、学生2名がボランティアとして参加した。</li> <li>・東五反田ファーム・エイド（東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等と連携）に、学生ボランティア19名、教員2名参加</li> <li>・部活動2SK会（青少年の性と健康を考え活動する会）の学生（1-4年生で103名所属）が、東京都認定資格「東京都エイズ・ピア・エデュケーター」の資格を本年度8名が取得し、中学校計3校において講演を行った。</li> <li>・品川区との締結において、健康大学しながわ 運営・評価、震災対策計画 会議における運営計画助言を行った。</li> <li>・品川区大崎第一地域センターにおいて、町会・自治会研修会に地域絆づくりの講演会において講師を務めた。</li> <li>・地域医療機関・医師会からの依頼である性教育推進において、品川区内三浦医院院長を中心とする性教育推進グループに携わり、研修会運営、研修会講師を務めた。2SK会メンバーも参加した。</li> <li>・品川区立第三日野小学校 小学2年生の生活科授業における見学サポートを行った。</li> </ul>	<p>【年度計画56-1】</p> <p>1. 令和5年までは、年間5回（大学体育館5回）の健康づくり事業を継続実施する。</p> <p>2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する</p> <p>3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。</p> <p>4. 地域健康づくり研究・教育センターを設立し活動を開始する。</p> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年5回・五反田体育館）</li> <li>・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年19名の学生実習）</li> </ul>	III	<p>1. 健康づくり事業を前年度のオンラインから対面形式へ、また事業全体（準備、実施内容、終了まで）を学生がグループで分担して計画立案・実施するよう変更して実施した。対面形式での実施は3年ぶりであったため、開催場所を大学体育館のみとして計5回行った。参加者は30～90歳代の延べ116名（実人数39名）であった。学生は参加者と積極的に交流し、地域住民の健康や生活状況について学びを深めるとともに、地域で自分らしく暮らすために学生として、看護職としてできることについて考える機会となった。</p> <p>IV</p> <p>2. 「NPO法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生（19名）は2～3名に分かれ「にじっこ」、「北浜こども冒険ひろば」、「しながわこども冒険ひろば」等の子育て支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育て支援の実践を学んだ。</p> <p>IV</p> <p>3. 地域ボランティアの学生募集については、次のとおり参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東五反田地域 あいおい夏祭り 15名</li> <li>・若年性認知症当事者就労支援ジャムづくりの話し合い 2名</li> <li>・エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン 6名</li> <li>・八潮地区総合防災訓練 7名</li> <li>・第5回わっつ！つながるみんなのみらい ファーム・エイド東五反田 12名</li> <li>・オレンジフェスタ（品川区認知症啓蒙活動）19名</li> </ul> <p>これらのボランティア活動をととして、地域住民からその生活ぶりを知り、看護職として何が必要となってくるかを考える機会となった。</p> <p>4. 地域健康づくり研究・教育センターの活動については、【計画56-3】に記載する。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画56-2】</b> </p> <p>日本 Bangladesh 友好病院 (JBFH) 及び日本 Bangladesh 友好看護師養成学校 (JBFNI) における指導者層を対象とする研修を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 日本 Bangladesh 友好病院 (JBFH) 及び日本 Bangladesh 友好看護師養成学校 (JBFNI) における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況</p> <p><b>【計画56-3】 (令和5年度より新規)</b> 全国・東京都・品川区等の各自治体や地域組織・住民と連携協働し、保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を展開し、また、学内外における保健・健康づくりに関する研究・教育の拠点となることを目指す。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ開始する。</p> <p>1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)</p> <p>2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭り、ジャムづくり</p> <p>3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業 (東京都委託事業) への学生・教員協力 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業</p>	I	<p>1. コロナ禍により Bangladesh との往来が制限され、本プロジェクトはほぼ活動できていない状況である。令和5年3月現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4月から日本語学校が開校する。</p> <p>2. 研修方法に関する検討は実施できなかった。</p> <p>3. 資金に関する情報収集として、「令和5年度医療技術等国際展開推進事業公募説明会」のオンデマンド配信を視聴した。Bangladesh は事業対象国リストに入っておらず、加点されないことが確認できたため、他の資金源を検討する必要があることがわかった。</p> <p>・研修は実施できておらず、達成状況は著しく低いが、渡航制限の緩和による状況の改善に伴い、活動の再開を検討したい。</p>	<p><b>【年度計画56-2】</b> 1. 実施可能な方法の検討。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修計画の立案</p> <p><b>【年度計画56-3】</b> 地域健康づくり研究・教育センターを立ち上げ開始する。</p> <p>1. 品川区との連携 ・健康大学しながわにおける運営・評価・イベントへの学生派遣。 ・品川区大崎第一地域センター 町会・自治会 地域絆づくり運営・協力 ・品川区立第三日野小学校との連携(生活科 ボランティア等)</p> <p>2. 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等、地域との連携業務 ・東五反田ファーム・エイド あいおい夏祭り、ジャムづくり</p> <p>3. 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業 (東京都委託事業) への学生・教員協力 ・青少年施設(中学生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点4T」事業 ・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 ・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 ・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業</p>	<p>I</p> <p>1. ダッカの高齢者介護施設の責任者が9月に来日し、その講演会に参加した。資金および実習受け入れ先の見通した立たず、研修計画の立案は断念した。 本計画は2023年度までとしており、今年度で活動を終了する。</p> <p>IV</p> <p>・品川区や地域と連携を組み活動したり、東京都、エイズ予防財団や日本性感染症学会など広く外部組織とも関係を持ちながら保健・健康づくりに関連する地域貢献活動を行った。</p> <p><b>1. 品川区との連携</b> (1) 健康大学しながわ (品川区事業) ・地域健康づくり活動グループ支援運営委託 運営会議・連絡協議会 4回/年実施 ・地域活動グループ活動事業評価：アンケート調査用紙の作成 1回、評価作成 1回の計 2回/年実施 (2) 品川区図書館からの依頼 東京医療保健大学×荏原図書館連携事業 講演会実施 阿部先生 (3) 品川区総務部総務課 平和・国際担当連携 (4) 品川区大崎地域第一センター 町会自治会連合会事業 講演会実施「コロナ禍でもできる地域の絆づくり～まちで楽しく過ごすためのマナー・防災かるたづくり」渡會 その他会議2回実施 (5) 品川区立第三日野小学校との連携(生活科ボランティア等) 大学見学ツアーの実施 打合せ等2回実施 (6) オレンジフェスタ (品川区認知症啓蒙活動) 学生19名参加</p> <p><b>2. 品川区の地域との連携</b> (1) 東五反田倶楽部・NTT関東病院地域連携室等 ・第5回わっど! つながるみんなのみらいファーム・エイド 事前打ち合わせ6回参加(学生1名・教員1名) 当日の学生12名参加 ・東五反田あいおい夏祭り 学生15名・教員2名参加 ・東五反田倶楽部ジャムづくり 学生2名・教員2名参加 (2) 八潮地区総合防災訓練 学生7名・教員1名参加 (3) 品川で性教育を考える会 研修会5回参加、うち講師1回実施</p>						



第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議	
		<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康大学しながわ評価表の作成 2回/年</li> <li>品川区大崎第一地域センター 連携3回/年以上</li> <li>品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上</li> <li>東五反田ファーム・エイド 会議年6回 実施1回/年以上</li> <li>住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/2ヶ月</li> </ul> <p>○医療保健学部医療栄養学科 【計画57-1】 地域の社会課題を解決するため、積極的に社会貢献活動を推進する。</p> <p>「計画達成のための方策」 教員と学生が共同し、大学近郊でボランティア活動を行う。</p> <p>「評価指標」 ・実施テーマ数：6件/年</p>	<p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康大学しながわ評価表の作成 2回/年</li> <li>品川区大崎第一地域センター 連携3回/年以上</li> <li>品川区立第三日野小学校との連携 3回/年以上</li> <li>東五反田ファーム・エイド 会議年6回 実施1回/年以上</li> <li>住民とともに活動する保健師の会 年間事業への学生・教員協力 青少年施設 30回/年、エイズ知ろう館 30回/年、若者が集う「AIDSフェスティバル」1回/年、サイト・SNS 更新1回/2ヶ月</li> </ul> <p>【年度計画 57-1】 大学近郊でのボランティア活動を継続する。</p> <p>「評価指標」 ・実施テーマ数：6件/年</p>		<p>3.その他活動</p> <p>(1)エイズ予防財団主催 エイズデー渋谷街頭キャンペーン 学生6名・教員1名参加</p> <p>(2)日本性感染症学会 シンポジスト登壇 学会スタッフ 学生26名・教員2名参加3.東京都委託事業への学生・教員協力 外部委員・事務局 住民とともに活動する保健師の会 年間事業・青少年施設(中高生放課後施設)に若者を派遣し教育を行う「HIV啓発拠点ふぉー・ていー」事業 40回/年実施</p> <p>・池袋保健所に開設している「エイズ知ろう館」事業 80回/年実施</p> <p>・若者が集う「AIDSフェスティバル」事業 12/9豊島区中池袋公園にて実施</p> <p>・HIV/AIDS・性感染症対策におけるサイト・SNS運営等の「情報発信」事業の実施 2回/月</p>					
		<p>IV 1. 自主的な料理教室8回に学生が参加し、24名の学生が体験した。高齢期の男性との協働作業とコミュニケーションにより、学生と住民の交流により多くの学びを得ることができた。</p> <p>IV 2. 世田谷区民を対象とした、自主的な男の料理教室の参加者を対象にコロナ禍の食生活に関するアンケートを取った。4グループ(約50人)。</p> <p>アンケート調査結果については検証中である。</p> <p>・医療栄養学科では本計画以外にも同様の社会貢献活動を複数実施している。そこで、次年度から、本計画を「地域への社会貢献活動の推進」に発展させ、本活動も他の社会貢献活動と共に、その中で進めていく。</p>			<p>IV ・今年度は10件の社会貢献活動に2年生から4年生の学生、延べ88名が参加した。引き続き、継続して実施する予定である。</p> <p>①学習支援等学校でのボランティア活動：2023年4月から10月</p> <p>②玉村園場と連携した野沢こども園での米作りと食育：2023年5月から11月実施</p> <p>③スポーツコミュニティよこすか 健康増進イベント：2023年4月29日、5月3日、10月9日実施</p> <p>④せたがや福祉区民学会第15回大会でのボランティア活動：2023年11月11日実施</p> <p>⑤ケアコム農園祭：2023年6月4日、11月12日実施</p> <p>⑥三宿小学校 体験学習：2023年6月10日実施</p> <p>⑦世田谷区きたざわまつり 栄養相談ブース：2023年10月22日実施</p> <p>⑧第3回世田谷教育総合センターメッセ 体験学習：2023年12月16日実施</p> <p>⑨ドナルドマクドナルドハウス せたがやハウス ミールプログラム：2024年3月7日実施</p> <p>⑩世田谷区男の料理教室支援：2024年3月21日予定</p>					

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
							評価区分		評価区分	
<p><b>【計画57-2】</b> ㊦</p> <p>日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 日本バングラデシュ友好病院（JBFH）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（JBFNI）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和5年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況</p> <p>○医療保健学部医療情報学科 <b>【計画58】</b> ㊦</p> <p>令和3年度に締結した本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働でAIoTの医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名</p>	I	<p>・コロナ禍のため2020年以来、バングラデシュとの往来が制限されており、バングラデシュからの介護士の受け入れが激減し、WGの活動はほとんど停止している。 現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4月から日本語学校が開校する。またバングラデシュからの介護士、看護補助者の受け入れも増えるので、WGの活動も再開される予定である。</p>	<p><b>【年度計画57-2】</b> 1.感染状況に応じて本邦研修もしくはオンライン研修の実施。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・研修の実施状況</p>	III	<p>・2023年7月初めにバングラデシュを訪問し、日本とバングラデシュの高齢者介護施設の現状と課題および展望について意見を交換した。また、ダッカの日本語学校での授業を見学し、日本への派遣介護士の養成状況を視察した。さらに、ダッカ郊外の介護施設建築現場を訪問・視察した。 ・2023年9月14日にバングラデシュから日本バングラデシュ友好財団理事長ナイーム先生を当大学に招聘し、バングラデシュの医療事情・介護施設の現況および将来について、当大学で講演していただいた。 ・今後は日本へ受け入れるバングラデシュからの看護補助者、介護士に対する教育・支援を検討していく。</p>					
	IV	<p>・産業DX補助事業の一環として秀傳医療グループの劉副院长（五反田）、台北医学大学の王副看護部長（オンライン）にご講義いただき、医療保健学部3学科から103名の学生が受講した。また、劉副院长のご講義は計画15-1の書籍にも掲載した。 また、3月20～22日の3日間、他学科等を含め4名の学生が台中市の劉傳医療グループの病院・施設を訪問した。今後も交流を継続していきたい。</p>	<p><b>【年度計画58】</b> 協定の1回目更新を行う。また、コロナの状況により、（感染が一段落している場合は）日台のいずれかが訪問して対面勉強会を行い、（感染が続いている場合は）公開形式のオンラインシンポジウムを行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3件、6名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2件、約60名</p>	IV	<p>・アウトバウンドについては、単位科目として「インターシップ（海外型）」を設定し、学生5名が履修した。また「医療情報ゼミⅡ」の一環として、学生7名が訪問し、台湾医療保健AIoT協会から学生奨励賞を受賞した。 ・インバウンドについては研修受け入れはないものの、総合研究所とも連携してホームケア支援システムの共同開発を行い、その打ち合わせのため台湾側技術者2名の受け入れを複数回行った。</p> <p>・その他、本学科教員、他学科教員及び客員教員（NTT東日本関東病院職員）の計3名が、日本医療情報学会内の活動として本学提携先病院を訪問し、合同研究会を開催した。交流機会を大幅に拡大した成果は、2024年度に同学会を通じて書籍として取りまとめる予定である。</p>					

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>○東が丘看護学部</b> 【計画59-1】㊦</p> <p>目黒区との共催で実施しているひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。</p> <p>「計画達成のための方策」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ひがしが丘保健室の開催。</li> <li>ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の発行。</li> <li>出張型ひがしが丘保健室の開催。</li> </ol> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひがしが丘保健室の年1回開催</li> <li>ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の年4回の発行</li> <li>出張型ひがしが丘保健室の年2回開催</li> <li>ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0%</li> </ul>	III	<ol style="list-style-type: none"> <li>令和4年度5月に地域住民に対し、本学院生がひがしが丘保健室便りを200部作成、発送を行った。目黒区民114部、世田谷区民56部、その他30部であった。今回の便りは認知症予防・認知機能の向上がテーマであった。内容について、「良い」または「大変良い」を合わせた回答が約84%であった。今回から動画を取り入れ、90%の人が今後も動画コンテンツを希望するなど、高評価であった一方で、QRコードを読み込めなかった人が40%いたなど課題も見えたため、動画視聴の仕方を詳しく説明するなど引き続き改善していく必要がある。一方で評価のためのアンケートの回収率は13%と低く、切手代が回答者の負担となっていることも理由の一つと考えられ、こちらについても検討の必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>小規模出張型のひがしが丘保健室の開催が実現し、ひがしが丘保健室便りの発行回数が減少した。</li> </ul> </li> <li>院生が主体となって目黒区の地域における自立支援イベント「支え合い・いどばた会議」に参加し、2つ以上のことを同時に行う「マルチタスクトレーニング」による認知症予防の健康教育を企画・実施した。住民からは笑顔も見られ、和やかな雰囲気となり「アンコール」の言葉を頂いた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>人的資源や費用面、依然としてコロナの影響もあり、今後も大規模な保健室の開催は難しい可能性が高いため、【計画59-2】、【計画59-3】を重点的に行っていくことで地域に継続的な貢献を行い、地域住民に認知していただけるように努めたい。小規模出張型の保健室の評価指標が曖昧であったため、今後は可能であればアンケートなどを取って評価していきたい。</li> </ul> </li> </ol>	<p>【年度計画59-1】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ひがしが丘保健室の大学での開催。</li> </ol> <p>「評価指標」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ひがしが丘保健室の大学での開催</li> <li>ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：85.0%</li> </ul>	III	<ol style="list-style-type: none"> <li>令和5年7月、公衆衛生看護コースM2院生がひがしが丘保健室便りを発行し、地域住民に201部送付した。目黒区内の施設や老人会での配布が可能であったため、追加で区内施設に93部配布した。大学HPに掲載され昨年度よりも周知の幅が広がった。また、昨年度、アンケート回収率の低さから返送時の切手代が回答者の負担となっている可能性を考えたため、評価のためのアンケートの返送を、料金後納郵便を使用したものの、回収率は13%（R4）→16%（R5）と微小な変化であった。発行回数としては1回と少なかったが、Covid-19が5類感染症に移行された後で感染症専門家へのインタビューも含んだ貴重な内容であった。回答者からも具体的でわかりやすいなどの意見があった。アンケート回答者は女性の割合が65%と少し高かったが、96.8%がお便りの内容について「よい」、または「大変良い」と回答していた。一方で、アプリのダウンロード方法を紙面に載せるなどしても高齢者には伝わりにくいという限界もあった。いっそう簡単に理解可能な地域高齢者への情報提供方法の工夫が必要である。</li> <li>令和5年9月13日（水）午後には、地域住民が21名参加した「ダレデモ・カフェ」、令和5年10月6日（金）午後には46名参加の「支え合い・いどばた会議」と、2回に及び公衆衛生看護コースの院生が目黒区地域高齢者に向けて健康教育の場を得て、脳トレや手遊び等を実施した。目黒区社会福祉協議会との話し合い、要請により、今年度は計画よりも多い2回の実施となった。今回、参加者はとても意欲的な態度で健康教育に参加して下さっていたが、プログラムに住民の感想を聞くなどの評価となる内容が不足していたため、評価は実施者による主体的なものにとどまった。次回以降は感想を聞く時間を設けるなど参加者の意見を大切に自然な形で評価しPDCAサイクルを意識していきたい。</li> </ol> <p>次回以降の課題はあるものの令和5年度計画はおおむね達成していると考えられた。</p>			

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画59-2】</b></p> <p>地域母子保健活動として、妊娠期からの切れ目のない母子への支援をさらに強化する。また、“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>1.実施している“まちの助産室”を、妊娠期のパパママ教室、その後、産後・子育て期へと継続的に実施できる体制へと整備し、さらに、大学院教育との連携として、大学院生も参加する。</p> <p>2.“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に対する思春期性教育の実施状況</li> <li>・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況</li> <li>・まちの助産室：産後クラスの実施状況</li> <li>・関連学会での活動の公表状況</li> <li>・自治体との連携状況</li> </ul>	IV	<p>1~4. 全国の自治体の母子に対して、1回1時間のオンライン母子支援プログラムとして、ベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数は9回であり参加者数は54組101名（双子3組）であった(2月末までの算出)。今年度も昨年と同様に、対面ではなくオンラインに方法で実施した。ICTを用いて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。また、その実践報告を26th East Asian Forum of Nursing Scholarsで公表した。学部生および大学院生の見学により地域貢献を学ぶ教育機会となった。また、小児看護領域では、親子を対象に『楽しくアロマ石鹸作り』を企画しました。好評のため3回（4/29、8/24、3/4）にもわたり実施し、親子合わせて159名の参加がありとても喜ばれました。</p> <p><b>【年度計画59-2】</b></p> <p>1. 中学生に対する思春期性教育の実施を継続する。</p> <p>2. まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施を継続する。</p> <p>3. まちの助産室：産後クラスの実施を継続する。</p> <p>4. 自治体と連携する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に対する思春期性教育の実施状況</li> <li>・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況</li> <li>・まちの助産室：産後クラスの実施状況</li> <li>・関連学会での活動の公表状況</li> <li>・自治体との連携状況</li> </ul>		IV	<p>1~4・全国の自治体の母子に対して、1回1時間のオンライン母子支援プログラムとして、まちの助産室を企画運営した。内容はベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数は9回であり参加者数は41組84名（うち双子2組）であった。今年度も昨年と同様に、対面ではなくオンラインに方法で実施した。ICTを用いて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。学部生および大学院生が見学し、地域貢献、助産ケアを学ぶ教育機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期のパパママ教室の代わりに、プレコンセプションケアを大学院生が学部生10名に対して実施した。若い世代の女性とパートナーのためのヘルスケアの教育機会となった。</li> <li>・昨年までの実践報告をJapanese Journal of Nursing and Health SciencesおよびThe 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conferenceで公表した。</li> </ul> <p>自治体との連携として碑文谷保健センターの募集協力を得ることができた。総合病院の産科病棟および産科外来での募集のために臨床のスタッフとも連携ができています。産後支援が必要な母親に対して、産後1か月健診で、まちの助産室参加の案内が行われた。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画59-3】</b> 大学の国際化を進め地域の国際化に寄与する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施する。 2. 海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会を積極的に推進する。 3. 海外の看護系大学と学術交流を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況</p>	IV	<p>1～4. 選択科目国際看護学Ⅱの授業展開を初めて実施した。英語TOEICを受けた学生から選択。自調自考の精神を発揮し、全てシラバスにある目標を達成するために2人から3人のグループを作り、日本にある国際機関の調査、施設訪問し、現在の日本に於いてより良く外国人に支援・対応するためにどう関われば良いか。自分達の課題を問い直し目標化する。クラスで発表し討議して纏める。 ・学生は町の中で知らない外国人へ自分達が作成した英語の質問紙に基づき、働きかけをし、調査を実施続けた。 ・海外からの留学生・研究生はコロナ禍で期間的に難しかった。 ・海外の講師活用に付いては大学院NPコースに於いて、ズームによるクラス全体の講義を聞いた。</p>	IV	<p><b>【年度計画59-3】</b> 1. 全学委員会と連携し、学生の海外研修の参加募集・PRを積極的に行う。 2. 現地開催・オンラインの双方に学生が円滑に参加できるよう支援する。 3. 海外からの講師の招聘による講演会はFD委員会等と連携し開催する。 4. オンライン海外研修の評価の学会公表により、多文化共存の研鑽に役立てる。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況</p>	IV	<p>・東が丘看護学部では、3年前から入学生に全員TOEICを受けて頂き、年間2回実施し、2回目以降は自主的に受験している。更に昨年より外国人2人による学生ホールでの「イングリッシュカフェ」を開催し、学部生、大学院生も積極的に参加し学生ホールは英語で賑やかに活気あふれている状況となっている。勿論英語力も向上し、令和5年度全学国際交流委員会主催のオーストラリア研修には学部生は5名と教員1名が参加した。 ・ハワイでNPとして働いている非常勤講師により、学部生はオンライン授業、大学院生は対面で講義を受けた。米国の保健医療制度の特徴などの講義を受け学生達は高い関心を示した。日本と異なる医療制度等に関心が高まった。 ・国際看護学Ⅱを選択した学部学生は、「国境なき医師団」の事務所にコンタクトを取り、自主的に医師の活動状況を直接関係者から聞き、マンマーやカンボシアへの支援の実際を確認できた。他のグループの学生も岡山に住む医師からズームで詳細な支援の話を伺い、一時間以上の質疑応答を行い途上国の看護師に対する考えや価値観の多様性を重視することの必要性を認識した。 ・更に大学院生26名は、国立成育医療研究センターの病院長先生から、肝臓の移植手術の研究開発をし、先端医療の提供をするために、個人の時間を使い、ボランティアの精神で、途上国の肝疾患で病んでいる子供たちを助けるために、年間何度も途上国へ出かけ手術を行い、通常の業務に差し支えないように土日や休みを使用し、病む子供たちを助けている実態を聴き、手術方法の研究プロセスを学ぶと共に、世界中に手術方法を広め、難病の子供たちの命を救っている医師の貴重な話を直接聞き、全員が感動し、看護の役割を改めて考えさせられた。学部学生、大学院生共に国際的に活動している日本人医師の講義から視野が広がり、先進国だけでなく途上国の医療の在り方や医療者に対する関心が大いに高まった。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	
						自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
<p><b>○立川看護学部</b> 【計画60】⑦ 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。</p> <p>【計画達成のための方策】 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保するため、学年担任や全学生に対して積極的にPRを進めていくとともに、参加した学生の研修結果をメール配信するなど、学生が興味関心を引くような情報提供や研修参加者の声を伝えていく。</p> <p>【評価指標】 ・国際交流研修の申し込み状況</p> <p><b>○千葉看護学部・看護学研究科</b> 【計画61-1】⑦ 地域との協働・共生に関する理解を深める。</p> <p>【計画達成のための方策】 1. 千葉看護学部における『地域連携・共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているかを評価する。</p> <p>【評価指標】 ・検討会開催回数（3回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価結果（1回/年）</p> <p>2. 学生が地域との協働・共生を学ぶ環境を支援する。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p> <p>3. 地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。</p>	IV	<p>・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名（3年11名、1年2名）であった。</p> <p>【評価指標】 ・国際交流研修の申し込み状況</p>	IV	<p>9月のオーストラリア研修に1年生2名 12月の中国研修に2年生1名 3月のオーストラリア研修に2年生5名、3年生6名の11名 年間で14名の参加者があり、参加者の満足度は高かったようである。</p>			
	II	<p>1. 『地域連携・共生に関する活動方針』の作成検討委員会で活動方針を検討する。（偶数月に会議を開催する）→ 6月に1回開催（WGメンバー全員4名が参加）したが、それ以降は開催できなかった。</p> <p>【評価指標】 ・検討会開催回数（2回/年）、検討会参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	II	<p>1. 学部FD活動の一環として定期FD報告会において意見交換を行ったが、『地域連携・共生に関する活動方針』作成委員会を設置するには至っていない。地域交流イベントにおいては、参加者を対象とした意見収集を実施した。次年度はワーキンググループを設置し、今年度に収集した意見から焦点化をはかり、中期的な計画を立案する予定とする。</p>			
	III	<p>2. 社会福祉協議会で実施しているボランティア活動の情報収集と情報提供を行った（1回）。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	III	<p>2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業やボランティア案内などの情報提供を行う。</p> <p>【評価指標】 ・ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4回/年）、各活動の参加人数（5人/回）、活動評価（1回/年）</p>	III	<p>2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業について、「ふなばし夏のボランティア」の案内を5月に、「マナフェス」ボランティア案内を10月の計2回実施した。各活動の参加実績は把握していない</p>	
IV	<p>3a. 第2回地域交流イベントを11月29日に実施し164名の来場者及び79名の学生、10名の入学予定者、教職員43名の参加があった。参加者の満足度（みなさんの声を聞かせてください、公開講座1&amp;2）では70%以上の満足と回答していた。 3b. 船橋市都筑浜自治会（社協メンバー含む）の高齢者向け活動への支援を申し入れ、話し合いを行った。（老年・在宅）</p>	IV	<p>3. a. 前年度の振り返りを反映し、船橋市の地域住民・行政・保健福祉機関等と大学がより交流できるイベントを計画・実施・評価する。 b. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会のメンバーと情報交換を行う。</p>	IV	<p>3. a-1) 11月5日 ふなばし健康まつりに学生と教職員が参加し本学の広報活動とボランティア活動を行った。参加人数は教職員9名、学生32名でした。 ・a-2) 地域交流イベント2023を3月24日に開催し254名の参加者があった。 ・b-1) 船橋市まつりへの参加、および地域交流イベントの広報活動により船橋市地域包括ケア推進課、保健福祉課、地域福祉課、船橋市社会福祉協議会、船橋市教育委員会、船橋市自治会、船橋市民生児童委員協議会などと顔の見える関係構築ができた。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【評価指標】</b> ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）</p> <p>4. 学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）</p> <p><b>【計画61-2】</b> 学際的な共同研究や海外研修等を促進し、成果を発表する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 複数領域、学外者及び学際的な共同研究への参加を促進し、成果を発表する。 <b>【評価指標】</b> ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数</p> <p>2. 海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価</p>	IV	<p>4. 8月の定期FD研修において、「THGUICによる地域貢献活動について考える」というテーマで意見交換を行った。その際、教育機関として大学の場の活用だけでなく、教員が活用される仕組みについて今後、検討していくのが良いとの意見交換などがなされた。 ・高校から依頼の模擬授業を9校で実施した。熱心に参加する生徒が多かった。</p>	<p><b>【評価指標】</b> ・地域交流イベント参加人数（100人）、参加学生数（100人）、参加教員数（20人）、参加者の満足度（満足度70%以上）</p> <p>4. a. 令和4年度に検討する仕組みに則り、教員がリソースとして地域で活用されることを促す。 b. 学生募集部・事務部と協働し、高校訪問に模擬授業等のニーズを把握し、適切な教員を派遣する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1件/年）、JCHOや関連施設からの講師依頼件数（1件/年）、勉強会等の実施回数（1回/年）、各参加者の満足度（70%以上）</p> <p><b>【年度計画61-2】</b> 1. 年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数</p> <p>2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨する。国際交流委員会が把握するイベントや単発の研修会等の情報発信を行う。 b. 年度末の学部活動報告会で情報共有を行う。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・研修参加者（教員1名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/FD報告会）、成果共有による評価</p>	III	<p>4. a. 教員がリソースとして活用される仕組みについては、令和4年度、5年度ともに仕組みとしての検討を行うことができなかった。ただし、領域や教員個々の活動として地域のリソースとして多くの活用がされた。次年度はこの実績が大学ビジョンに向かって発展できるよう「仕組み」化について検討することが課題である。 b. 高校からの模擬授業の依頼6件および高校からの依頼による大学見学を2件実施した。いずれも参加者の満足度は高かった。</p> <p>1. 学部活動報告会を実施し、ポスター展示を通じて研究・学内外活動について総合的に情報共有した。 ・複数領域の共同研究：課題件数8件、発表5件 ・学外者との共同研究：課題件数36件、発表20件 ・学際的な共同研究：課題件数10件、発表4件</p> <p>2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨し、9月と3月のオーストラリアグリフィス大学の準備・運営を以下の通り、行った。 ・9月：オンライン研修の募集、事前準備・研修中のサポート、千葉学生2名、教員3名で支援 ・3月：現地研修の募集、事前準備のサポート、教員による現地引率、千葉学生10名、引率教員1名、支援教員2名 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会（3回）の参加推奨を行った。 「バングラデシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 b. 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画61-3】</b> 千葉看護学研究科として住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。</p> <p><b>【評価指標】</b> 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数</p> <p><b>【計画61-4】</b> 千葉看護学研究科の教職員の教育力を開発する。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、多文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。</p> <p><b>【評価指標】</b> 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数</p> <p><b>○和歌山看護学部・看護学研究科</b></p> <p><b>【計画62-1】</b> 臨地実習での多職種連携場面の学びの促進を図るとともに、多職種との交流によりチーム医療を実践できる医療士を育成する。</p> <p><b>【計画達成のための方策】</b> 1. 学内教育においては臨地からの多職種の教育参加により、臨地での意図的な多職種連携の体験する機会をつくる。 2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会を設ける。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況</p>	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った：1回</li> <li>・本発表を実践報告として次年度（令和5年度）紀要ならびにJCHO学会に発表予定である。</li> </ul>	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。</li> <li>・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。</li> <li>・令和5年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。</li> </ul>	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月24日に開催された地域交流イベントにおいて、研究科学生による演習成果発表会を行った。成果の一部をJCHO学会において発表した。令和6年度は、それまでの活動を令和7年度紀要に発表することをめざして成果の整理を行う予定とする。</li> </ul>				
	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。</li> <li>・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。</li> <li>・令和5年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。</li> </ul>	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院FD研修会を行った。千葉看護学研究科教員21人、事務職員1人の参加があった。</li> <li>・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。</li> <li>・令和5年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。</li> </ul>	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。</li> <li>・研究科FDとして、多文化共存についての勉強会は実施しなかった。令和6年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく。特に、必修科目「ヘルス・グローカリゼーション」を生かした研究科FDを検討する。</li> </ul>				
	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム和歌山からの各種フォーラムや合同研修、タウンミーティングなどの情報を得た。講義・演習ではゲストスピーカーとして多職種の参加を得て実施し、実習においても目標として掲げ、臨地において体験している。</li> <li>・公開講座を和歌山市と共催で実施し、学生ボランティアの参加を経て他職種とともに地域貢献している。</li> <li>・コンソーシアムの各種企画に参加者がいなかった。次年度は参加者を増やすための呼びかけを行うほか、他のAP等の活動とコラボでできるよう検討したい。共同プロジェクト事業に1件が採択され活動している。講義・演習・実習において各領域において多職種連携の体験をしているので、情報共有していく必要がある。和歌山市と共催し、公開講座を実施した。</li> </ul>	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム和歌山からの各種フォーラムや合同研修、タウンミーティングなどの情報を得た。講義・演習ではゲストスピーカーとして多職種の参加を得て実施し、実習においても目標として掲げ、臨地において体験している。</li> <li>・公開講座を和歌山市と共催で実施し、学生ボランティアの参加を経て他職種とともに地域貢献している。</li> <li>・コンソーシアムの各種企画に参加者がいなかった。次年度は参加者を増やすための呼びかけを行うほか、他のAP等の活動とコラボでできるよう検討したい。共同プロジェクト事業に1件が採択され活動している。講義・演習・実習において各領域において多職種連携の体験をしているので、情報共有していく必要がある。和歌山市と共催し、公開講座を実施した。</li> </ul>	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 幅広い次週施設で多職種連携を経験しており、実習施設と本学部が共通する多くの研修の機会を持っている。</li> <li>2. 研修の呼びかけは積極的に実施できなかったが研修や発表会への参加はできた。</li> <li>3. 1月に行われた精神看護学シンポジウムについては、一般の参加者を含め140名を越え、大変好評であった。</li> </ul>				



第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画62-2】</b> 地域との教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 本学部の社会貢献の実践・可能性を発信し、異分野の大学との共同研鑽を行うとともに地域のニーズに応じた社会貢献を実践する。 2. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に参画する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況</p> <p><b>○助産学専攻科</b> <b>【計画63】</b> キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2. 連携・共生の在り方を学ぶ。 3. 大学キャンパス内の地域活動の貢献とともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備する。 4. 医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回/年</p>	IV	<p>1. 情報発信するためのニーズ調査を行った。学内の様子など情報発信についてはInstagramやホームページを用いて発信し続けている。</p> <p>2. Zoomのほかにも複数のコミュニケーションツールの紹介をしている。</p> <p>3. 令和4年度の学生の共同研究には応募がなかったが、共同プロジェクト研究に応募した。</p> <p>・情報発信ツールについては、高校生はInstagram、高齢者はFacebookやチラシから情報を得ていることがわかった。さらにネットワークを拡大して本学の魅力を発信していく。共同プロジェクト研究に1件が採択された。</p>	IV	<p><b>【年度計画62-2】</b> 1. 本学部の活動を発信する。 2. ICTを活用した会議の効果的な活用を行う。 3. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に応募し、1件以上採択を得る。 4. 県看護協会の委員会活動、研修会講師等で積極的に支援する。 5. 市と共催の公開講座の定期的開催を継続する。 6. 県・市・地域からのボランティア要請に協力する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・情報発信と社会貢献の実践数、ICTを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 ・委員会数、研修会講師受諾数、公開講座開催有無、ボランティア参加数</p>	IV	<p>1. SNSを用いた情報発信に重点を置き、事務局が中心となり、教職員で連携し活動を展開した。</p> <p>2. ICT活用は各種のツールの活用が進んでいる。</p> <p>3. 教員共同研究に複数応募し1件が採択された。 ・コンソーシアムにおいて採択され教員の近隣大学との共同研究が採択された。学生共同研究は応募できなかった。</p>		
	IV	<p>事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材育成を育成する。</p> <p>1. 訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。</p> <p>2. 日帰り型はホテルで実施しているが、従事する助産師1人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アブネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持を図っている。</p> <p>3. 日帰り型はこれまでホテルでの運営としてきたが、通所型として、外来機能などへの拡大を検討して、ホテル1部屋で1人/日としてきたが、保健センター内での診療スペースを確保して頂き、そちらで2人/日として、診療する対象者数を2人とする予定としている。</p>	IV	<p><b>【年度計画63】</b> 活動の継続と拡大を図る。 1. 活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2. 母子支援に関する論文投稿を行う。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大を検討する。</p> <p><b>【評価指標】</b> ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保 2～3回/年</p>	IV	<p>年度計画1～3を通して下記の学びに繋がった。 活動範囲が拡大し、いろいろな場で活動や体験することにより、 ・20名全学生が、助産学実習Ⅴの一環として、産後ケア研究センターの見学実習を体験でき、地域における母子の現状を理解でき、医療機関にはできない訪問型や日帰り型、電話相談などのきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制に触れ、地域母子保健における課題の明確化に繋がった。 ・また助産学実習Ⅳでは、地域の母子を対象とした1～2か月および3～4か月の母子支援クラスを企画運営、開催し、母親のメンタルヘルスの支援や児の発達評価など実践し、学生は実際の体験から学ぶと共に、参加者の満足度も高く、地域の母子に対するケアへの貢献に繋がった。 ・助産学研究を通して論文作成をし、発表に至れるよう行動している。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	
						自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
<p><b>○和歌山助産学専攻科</b> 【計画64】⑦</p> <p>和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。</p> <p>【計画達成のための方策】 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、医療情報学科の教授を講師に迎え、あらゆるICTを駆使し遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。</p> <p>【評価指標】 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況</p> <p><b>○感染制御学教育研究センター</b> 【計画65】⑦</p> <p>「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を継続する。</p> <p>【計画達成のための方策】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。</p> <p>【評価指標】 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数</p>	IV	<p>・ガイダンスで当該科目の意義を説明したところ全員が選択した。</p> <p>・授業アンケートでは「基本的な専門知識」「新しい考え方や発想」「発展的な学び」「総合的に満足」の問いに全員が「思う」と回答した。助産学実習Ⅲ（両親学級の企画・運営）をハイブリッドで行ったが、方法だけではなく、法律や注意点について理解できたという声を学生から聴けた。</p>	<p>【年度計画64】 ガイダンスで「遠隔診療技術の基礎」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修又は聴講する。</p> <p>【評価指標】 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況</p>	IV	<p>・ガイダンスで意義を説明し、全員が選択した。今年度の授業アンケートは閲覧できなかったが、学生全員が意識して取り組んだものと思われる。</p>		
	IV	<p>・令和4年度は「感染制御実践看護学講座」では23名が所定の課程を修了し同数が「感染制御実践看護師」の資格を取得した。</p> <p>・「感染制御学企業人支援講座」は2名の企業人が参加し、所定の課程を修了した。</p>	<p>【年度計画65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。</p> <p>【評価指標】 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数</p>	III	<p>・「感染制御実践看護学講座」では募集人数20名に対し45名の申請者があり、受講試験の結果23名を合格とした。23名は所定の課程を修了し、「感染制御実践看護師」の資格を取得した。</p> <p>・「感染制御学企業人支援講座」については例年どおり募集を行ったが、応募者がなかった。</p> <p>・「感染制御実践看護学講座」「感染制御学企業人支援講座」の需要数について今後検討していく。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績				令和5年度計画	令和5年度計画達成状況																																
	評価区分					評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議																													
<p><b>〇産後ケア研究センター</b> 【計画66】⑦</p> <p>大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備するとともに、医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1.産前産後ケア事業〔助産師による専門的支援の実施（訪問型）〕の推進。 2.品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化（情報交換など）を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増</p>	III	<p>1.訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2.日帰り型はホテルで実施しているが、従事する助産師1人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アプネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持を図っている。</p> <p><b>「評価指標」実施件数</b> 令和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度(2月時点)</p> <table border="1"> <tr> <td>・日 帰</td> <td>325</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>223</td> </tr> <tr> <td>・訪 問</td> <td>344</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>・電話相談</td> <td>639</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>348</td> </tr> </table>	・日 帰	325	162	228	223	・訪 問	344	127	194	202	・電話相談	639	925	367	348	III	<p><b>【年度計画66】</b> 活動の継続と拡大を図る。 1.活動の広報：学会や市民講座・交流集会などでの広報活動を行う。 2.母子支援に関する論文投稿を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・日帰り型 190件／年→280件／年への増加 ・訪問型 200件／年→280件／年への増</p>	III	<p>1.訪問型は、報酬が6000円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000円の追加を実施している。 2.日帰り型はホテルの閉鎖に伴い、8月からの荏原保健センター内での産後ケア室の開設に至るまでの期間、品川保健センター内での実施となった。仮設での実施のため、一時期利用が減少したが、8月以降の正式な開設後は利用者が増加傾向にある。訪問型は増加している。次年度以降の事業拡大に向けて、区との調整や準備を行った。</p> <p><b>「評価指標」実施件数</b> 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度</p> <table border="1"> <tr> <td>・日 帰</td> <td>162</td> <td>228</td> <td>223</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>・訪 問</td> <td>127</td> <td>194</td> <td>202</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>・電話相談</td> <td>925</td> <td>367</td> <td>348</td> <td>288</td> </tr> </table>	・日 帰	162	228	223	107	・訪 問	127	194	202	240	・電話相談	925	367	348	288		
・日 帰	325	162	228	223																																		
・訪 問	344	127	194	202																																		
・電話相談	639	925	367	348																																		
・日 帰	162	228	223	107																																		
・訪 問	127	194	202	240																																		
・電話相談	925	367	348	288																																		

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>10. 大学運営・財務</b></p> <p><b>(1) 「大学運営」</b></p> <p><b>【計画67】 (企画部)</b></p> <p>令和4年度を初年度とする第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、令和9年度を初年度とする第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」を計画的に策定する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進しつつ、第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」を策定するための体制を整備し、計画的に策定作業を進める。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」の推進状況及び第4期中期目標・計画及び次期「アクションプラン」の策定作業状況</p> <p><b>【計画68】 (企画部)</b></p> <p>本学園のガバナンスの取組について、社会に対し説明責任を果たすため、ガバナンス・コードを明示し、その遵守に取り組むとともに、毎年度適合状況を点検し、その結果をホームページにおいて公表する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b></p> <p>ガバナンス・コードを明示し、その遵守に取り組むとともに、毎年度適合状況を点検し、その結果をホームページにおいて公表する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・ガバナンス・コードの点検及び公表状況</p>	IV	<p>現行「アクションプラン」に基づく取組を含む第3期中期・目標計画の令和4年度計画に係る点検・評価作業を円滑に行うため、令和5年1月11日開催の「内部質保証推進会議」において、「令和4年度計画の達成状況に基づく自己点検・評価報告書作成要領」を決定し、各部局等において令和4年度内に点検・評価の実施を完了するよう要請した。</p>	<p><b>【年度計画67】</b></p> <p>第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」を着実に推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」の推進状況</p>	IV	<p>・第3期中期目標・計画及び現行「アクションプラン」に係る令和4年度自己点検・評価については、「令和4年度点検・評価報告書」として取りまとめた上で、令和5年5月10日開催の内部質保証推進会議・大学経営会議及び5月24日開催の理事会・評議員会において審議・承認された後、令和5年10月20日開催の「外部評価委員会」において、事前に提出いただいた委員からのご意見等に対する回答・対応等を中心に質疑応答を行ったところであり、委員からご指摘いただいた点は次年度の計画等に反映することで、教育研究活動等の継続的な改善等を図ることとした。</p> <p>・特に大きな課題はなく、概ね順調に取組が進んでいることが確認された。</p>				
	IV	<p>・令和4年度ガバナンス・コードについては、令和4年7月15日開催の事務局長会にて更新作業を依頼後、企画部にて内容の点検等を行い全ての区分で遵守している旨確認した。その後「令和4年度私立大学ガバナンス・コード遵守状況報告書」を取りまとめ、10月19日開催の大学経営会議にて承認後、11月9日開催の理事会・評議員会にて承認され、11月10日付けで私立大学連盟へ同報告書を提出するとともに、同日大学ホームページにて公表した。</p>	<p><b>【年度計画68】</b></p> <p>ガバナンス・コードを明示し、その遵守に取り組むとともに、毎年度適合状況を点検し、その結果をホームページにおいて公表する。</p> <p><b>「評価指標」</b></p> <p>・ガバナンス・コードの点検及び公表状況</p>	IV	<p>・令和5年度ガバナンス・コードについては、令和5年6月26日開催の事務局長会にて更新作業を依頼後、企画部にて内容の点検等を行い全ての区分で遵守している旨確認した。その後「令和5年度私立大学ガバナンス・コード遵守状況報告書」を取りまとめ、10月18日開催の大学経営会議にて承認後、11月8日開催の理事会・評議員会にて承認され、11月10日付けで私立大学連盟へ同報告書を提出するとともに、同日大学ホームページにて公表した。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画69】（総務人事部）</b> 大学経営において重要な政策を策定、管理する人材の育成や登用を計画的に推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 理事や学長などの大学経営者は、各種セミナー等に参加し、更なる経営者マインドの醸成を図るとともに、大学の将来を担う幹部候補生に対し、重要な大学経営業務を担わせるなどにより経験値を高めていくなど、人材養成を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・大学経営者の各種セミナー等の参加状況及び学長補佐等の登用状況</p> <p><b>【計画70】（学長戦略本部）</b> 学長を中心とする大学運営組織を基盤として、ガバナンス機能を強化する。特に、理事会・評議員会、大学経営会議、外部評価委員会等の学外委員、有識者の意見やニーズを適切に反映するとともに、組織横断的かつ柔軟な大学運営を行うための体制整備を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画、立案、調整及び推進に関する校務を担う「学長戦略本部」を設置し、学長補佐等として優秀な人材を適切に配置するとともに、大学の重要課題である全学的な教学マネジメントシステムの改善、DXの推進等を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学長補佐等の配置状況及び重要課題等への取組状況</p>	<p>IV</p> <p>・大学経営を担う理事長・各理事、評議員、監事及び学長に対し、学内で毎年度開催するFD、SDとなる「東京医療保健大学を語る会」への参加のほか、文部科学省、私立大学連盟、民間主催の各種セミナー等に積極的に参加いただき、本学を取り巻く各種課題に適切に対応いただくための経営者マインドの醸成に取り組んでいただいた。</p> <p>・また、学長からは、年度当初の各教授会や教員集会等において、今年度の大学運営方針（組織、課題、目標等）について講話を行った。また、そのための資料を作成し、医療保健学部、立川看護学部、東が丘看護学部、千葉看護学部の教員に提供し、大学経営マインドの醸成を図った。</p> <p>IV</p> <p>・学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画、立案、調整及び推進に関する校務を担う「学長戦略本部」を設置するため、大学学則の改正及び学長戦略本部規程を新たに制定した上で、総合研究所、IR推進室及び学修基盤推進室を「学長戦略本部」の常置組織とすることで、より機動力のある組織を整備した。</p> <p>・また、喫緊の課題に対応するため、「学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクト要綱」に基づき4名の教職員によるプロジェクトチームを5月に立ち上げ、「学修者本位の教育の実現」のための、「教学マネジメントチェックリスト」及び「アセスメントプラン」を策定するとともに、教育DXの推進方策等を検討し、学長に進言した。</p> <p>・そのための、学長戦略本部教学マネジメント・DX推進PT会議については、令和4年度は合計10回開催した。</p>	<p><b>【年度計画69】</b> 理事や学長などの大学経営者は、各種セミナー等に参加し、更なる経営者マインドの醸成を図るとともに、大学の将来を担う幹部候補生に対し、重要な大学経営業務を担わせるなどにより経験値を高めていくなど、人材養成を推進する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・大学経営者の各種セミナー等の参加状況及び学長補佐等の登用状況</p> <p><b>【年度計画70】</b> 学長を補佐し、大学の重要課題への対応方策の企画、立案、調整及び推進に関する校務を担う「学長戦略本部」を設置し、学長補佐等として優秀な人材を適切に配置するとともに、大学の重要課題である全学的な教学マネジメントシステムの改善、DXの推進等を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・学長補佐等の配置状況及び重要課題等への取組状況</p>	<p>IV</p> <p>・大学経営を担う理事長・各理事、評議員、監事及び学長に対し、学内で毎年度開催するFD、SDとなる「東京医療保健大学を語る会」への参加のほか、文部科学省、私立大学連盟、大学基準協会、民間主催の各種セミナー等に積極的に参加いただき、本学を取り巻く各種課題に適切に対応いただくための経営者マインドの醸成に取り組んでいただいた。</p> <p>・また、学長からは、春・秋の各教授会や教員集会等において、今年度の大学運営方針（組織、課題、目標等）等について講話を行った。また、そのための資料を作成し、医療保健学部各学科、東が丘看護学部、立川看護学部、千葉看護学部、和歌山看護学部の各教員に提供し、大学経営マインドの醸成を図った。</p> <p>III</p> <p>・「学長戦略本部」の更なる機能強化を図るため、「リベラルアーツ教育推進室」を令和5年11月に設置し、本学のリベラルアーツ教育の推進に必要な共通科目の設計等を担う推進室を設置したほか、令和6年3月から、全学的な研究推進、外部資金獲得及び研究インテグリティを確保する体制の整備を図るため、総合研究所の機能強化及び「研究力強化会議」の設置を行った。</p> <p>・「学長戦略本部教学マネジメント・DX推進PT会議」を令和5年度は10回開催し、DXの推進によるデジタル社会を先導するスマートキャンパスを目指すための「大学ビジョン」の改正、「生成系AIの適切な利用についての学長メッセージ」の発出、「教学マネジメントチェックリスト【Ver.2】」の策定、「教育職員のICTスキル基準」の策定及び研修の支援、非常勤教員に対する全学FDの実施や卒業生専用の特設サイトの作成等について企画立案し、学長に進言した。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p><b>【計画71】（企画部）</b>            大学の各種情報を様々なステークホルダーに広く国内外へ発信し、大学の理解を深めるとともに、大学としての説明責任を果たすため、外国語版を含めたウェブサイトの内容を更に改善・充実させる。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            様々なステークホルダーに大学の情報を発信し、大学の説明責任を果たすため、英語版を含む大学ホームページの内容を更に改善・充実させる。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・ホームページの更新状況</p>	III	<p>・令和5年度新生を対象に、大学入学にあたり必要な各種情報を一元的に確認することができる「新入生のためのスタートアップサイト」を大学HPに開設した。内容は入学前教育に始まり、各部局の情報をわかりやすく分類し掲載することで、入学予定者へのサービス向上に努めたところである。</p> <p>・また、学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進DXプロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを5月に設置し、現在の大学ホームページの改善・充実に向けた検討を行うこととして、現在のホームページの課題等を整理した。令和5年度においては、ホームページ改定のための委員会の設置等具体的なスケジュールの検討を行うこととする。</p>	<p><b>【年度計画71】</b>            教育活動に関する情報や財務に関する情報等について、学生や学費負担者、入学希望者等の直接の関係者に対する説明責任を果たすため、適切に情報の公表を進める。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・ホームページの更新状況</p>	III	<p>・昨年度に引き続き、入学予定者へのサービス向上のため、「新入生のためのスタートアップサイト」を大学HPに開設し、入学予定者への入学前教育の一環として各種情報発信に努めた。今回から、事務DX推進事業とも連携し、学生証の作成に必要な学生の写真データをこのスタートアップサイトから取り組めるよう工夫したことで、入学後速やかに学生証を交付することが可能となり、学生の利便性の向上、職員の負担軽減につなげることができた。</p> <p>・学長戦略本部教学マネジメント・DX推進プロジェクトチームにおいては、現在のホームページ改定の検討と併せ、全学共通の卒業生向けのポータルサイトを開設するための検討を行い、医療栄養学科卒業生に試行的にニーズ調査を実施したが、令和6年度は、看護の分野等においても同様の調査を実施した上で、全学的な卒業生のニーズを踏まえたポータルサイトの具体的な検討を進めていくこととする。【計画52】参照。</p>			
<p><b>【計画72】（企画部・内部監査室）</b>            法令遵守による社会の高い信頼を確保するため、内部統制を機能させ、教育・研究、社会貢献、大学運営等のPDCAサイクルを徹底するとともに、内部統制の取組について業務監査を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b>            監事監査がより円滑に行えるよう監事監査マニュアル等を策定すること等により、監査環境を整備するとともに、監事は毎年度監事監査計画や監査報告書を作成し、その結果を報告する。また、内部監査室体制を強化し、毎年度計画的に内部監査業務を実施し報告する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・監事による監事監査計画や監事報告書の作成・報告状況及び、内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書の作成・報告状況</p>	III	<p>・学校法人における監事の役割と権限を明確にし、監事監査の実効性を担保するため、新たに「学校法人青葉学園 監事監査規程」を制定することとして、令和5年3月8日開催の大学経営会議にて承認後、3月22日開催の理事会・評議員会にて承認・決定した。今後は監事監査マニュアル等の策定に向け、検討を進めていくこととする。</p>	<p><b>【年度計画72】</b>            監事監査マニュアル等に基づき、監事による監事監査計画や監事報告書を作成し、その結果を学内会議に報告する。また、内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書を作成し、その結果を学内会議に報告する。</p> <p><b>「評価指標」</b>            ・監事による監事監査計画や監事報告書の作成・報告状況及び、内部監査室による内部監査計画や内部監査報告書の作成・報告状況</p>	III	<p>・私立学校法の改正に伴い、経営に関する管理体制、リスク管理に関する体制、コンプライアンスに関する管理体制及び監査環境の整備等が求められていることから、寄附行為の変更の検討をはじめ、既存の学内規程の改正や新たな規程の準備作業を行ったところであり、令和6年度中には、寄附行為の変更をはじめ、関係規定等の整備やこれらの体制の整備を図ることとする。</p> <p>・また、内部監査室では、加えて次の活動を実施した。監事と協働して和歌山キャンパスの実地調査(2日間)、監事との情報共有ミーティング4回、公的研究費の内部監査(2日間)、私立大学等改革総合支援事業における申請書の内部監査全32項目を実施した。</p>			

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画73】（研究協力部）</b> 適正な研究活動を実施するため、研究活動の保持・推進に向けた体制の整備・検証を行うとともに、不正行為の未然防止を図るため、研究倫理教育を実施し、研究倫理の意識の向上と浸透を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1. 本部及び各部署において、それぞれ研究者等に対する研究倫理教育を計画的に実施する。 2. 不正根絶に向けた意識の向上と浸透を目的とした啓発活動を継続的に実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・本部及び各部署における研究倫理教育実施時のアンケート調査の分析結果状況</p>	IV	<p>・令和4年9月22日に、前年度に引き続き外部講師（有江文栄氏：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 臨床研究支援部 生命倫理室長）による、全学の教職員、大学院生を対象とした倫理教育研修をオンライン方式で実施した。当日は過去最多となる教職員・大学院生合計261名が参加した。 ・今年度は、「医学系研究に関する倫理指針のポイントと研究不正について」をテーマとして、倫理面での重要ポイントとともに、不正防止に向けた研修内容に重点を置いた。 ・倫理教育説明会終了後アンケート調査を実施した。回収率は37.9%であったが、理解度については、「理解が深まった」、「大理解できた」の合計で99%であり、そのほか各調査項目について大変良好であった。</p>	IV	<p><b>【年度計画73】</b> 1. 本部及び各部署において、それぞれ研究者等に対する研究倫理教育を計画的に実施する。 2. 不正根絶に向けた意識の向上と浸透を目的とした啓発活動を継続的に実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・倫理教育実施時のアンケート調査の分析結果状況</p>	IV	<p>・令和5年9月22日に、前年度に引き続き外部講師（有江文栄氏：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 臨床研究支援部 生命倫理室長）による、全学の教職員、大学院生を対象とした倫理教育研修をオンライン方式で実施した。当日は過去最多となった昨年度を上回る教職員・大学院生合計263名が参加した。終了後の質疑応答でも活発な意見交換があり、有意義な研修会となった。 ・今年度は、「医学系研究における倫理指針のポイントと研究不正を起さないための基礎知識」をテーマとして、倫理面での重要ポイントとともに、不正防止の事前防止・根絶に向けた研修内容に重点を置いた。 ・倫理教育説明会終了後にアンケート調査を実施した。回収率は59.0%であったが、その中で研究に関する倫理並びに当該研究に必要な知識及び技術についての理解度については、「理解が深まった」、「大理解できた」の合計で95%、研修会全体については「大いに参考になった」、「参考になった」で98%あり、そのほか各調査項目について大変良好であった。 ・動物実験の実施について、文科省の研究機関等における基本指針及び環境省の飼養保管基準等により、動物実験が倫理的かつ科学的に遂行されているかなど、外部の機関（公益社団法人 日本実験動物学会）による検証を行った。評価結果としては、全動物実験実施者に対する毎年度の教育訓練や自己点検・評価及びその情報公開、このほか特に優れた取組みとして、独自の「動物実験に関する自己点検票」を整備するなど、すべてにおいて適正な実施状況にあるとの高い評価を得た。</p>				

第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画74】（研究協力部）</b> 公的研究費の不正使用を防止するため、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 不正使用防止対策の実施状況の検証、コンプライアンス教育及び不正使用防止対策のモニタリングを通して、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・不正使用防止対策の実施状況の検証、不正使用防止対策のモニタリングの実施状況、公的研究費等の適正な管理及び運営の実施状況、コンプライアンス教育の実施状況、誓約書の提出状況</p>	<p>IV</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から科研費管理システム（科研費プロ）を導入し、各部署長が常時当該部署の科研費採択者の取支状況を閲覧できることとした。これにより経費執行の時期及び特定の業者への発注の偏り等を部署長が把握・指導できる管理体制が構築された。</li> <li>・上記のとおり、今年度は倫理教育研修において不正防止に関する事項を重点的に取り上げた。なお、倫理教育受講後の誓約書の提出状況は教員、大学院生及び公的研究費の管理・運営に携わる事務職員の該当者は全員提出した。</li> <li>・公的研究費等の使用や運営について、学内内部監査室の監査を受け、書面不備等の修正・改善等に努め、学部長等会議に報告した。</li> </ul>	<p><b>【年度計画74】</b> 不正使用防止対策の実施状況の検証、コンプライアンス教育及び不正使用防止対策のモニタリングを通して、公的研究費等の適正な管理及び運営を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・不正使用防止対策の実施状況の検証、不正使用防止対策のモニタリングの実施状況、公的研究費等の適正な管理及び運営の実施状況、コンプライアンス教育の実施状況、誓約書の提出状況</p>	<p>IV</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年9月22日に、前年度に引き続き外部講師（有江文栄氏：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 臨床研究支援部 生命倫理室長）による、全学の教職員、大学院生を対象とした倫理教育研修をオンライン方式で実施した。当日は過去最多となった昨年度を上回る教職員・大学院生合計263名が参加した。終了後の質疑応答でも活発な意見交換があり、有意義な研修会となった。</li> <li>・今年度は、「医学系研究における倫理指針のポイントと研究不正を起こさないための基礎知識」をテーマとして、倫理面での重要ポイントとともに、不正防止の事前防止・根絶に向けた研修内容に重点を置いた。</li> <li>・倫理教育説明会終了後にアンケート調査を実施した。回収率は59.0%であったが、その中で研究に関する倫理並びに当該研究に必要な知識及び技術についての理解度については、「理解が深まった」、「大体理解できた」の合計で95%、研修会全体については「大いに参考になった」、「参考になった」で98%あり、そのほか各調査項目について大変良好であった。</li> <li>・動物実験の実施について、文科省の研究機関等における基本指針及び環境省の飼養保管基準等により、動物実験が倫理的かつ科学的に遂行されているかなど、外部の機関（公益社団法人 日本実験動物学会）による検証を行った。評価結果としては、全動物実験実施者に対する毎年度の教育訓練や自己点検・評価及びその情報公開、このほか特に優れた取組みとして、独自の「動物実験に関する自己点検票」を整備するなど、すべてにおいて適正な実施状況にあるとの高い評価を得た。</li> </ul>		



第3期中期計画	令和4年度実績	令和5年度計画	令和5年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分	評価区分	評価区分
<p><b>【計画75】（総務人事部）</b> 個人情報を含めた情報資産の適正かつ円滑な運営のため、情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソフトウェアの適正な利用等を含む情報資産の管理状況の検証を行う。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソフトウェアの適正な利用等を含む情報資産の管理状況の検証を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・情報セキュリティに関する学生・教職員の研修会等の実施状況及び情報資産の管理状況</p> <p><b>【計画76】（総務人事部）</b> 年々高度化・複雑化する大学の教育研究活動等に適切に対応するため、教職協働による業務遂行は不可欠となっていることから、教員と事務職員等が協働して業務に当たっていただけるよう、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることが出来る知識や技能を習得させ、更にその能力・資質を向上させるため、SD等の研修内容の充実を図る。また、事務職員等の適正な業績評価と処遇についての基準の設定について検討を行い、新たな人事評価制度を導入する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 1.教職協働のために事務職員等に習得させるべき知識・技能等を明確化した上で、それらを習得させるためのSDを計画的に実施する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・事務職員等に対するSDの実施状況</p>	<p>II</p> <p>・今年度は情報セキュリティに関する学内規程を整備するに留まったため、情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革を含めた対応施策は次年度に繰り越し、推進していく。 ・各種ソフトウェアの適正な利用等を含む情報資産管理については、マイクロソフトoffice、セキュリティ対策ソフト等の学内標準ソフトは一元管理を行い適正な利用を確保しているが、次年度以降クライアントごとにソフトウェア管理ツール等を導入することで、学内で利用されているソフトウェアの可視化を推進し、情報資産の管理の強化を図りたい。</p>	<p><b>【年度計画75】</b> 情報セキュリティに関する学生・教職員の意識改革のための研修会等を実施するとともに、各種ソフトウェアの適正な利用等を含む情報資産の管理状況の検証を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・情報セキュリティに関する学生・教職員の研修会等の実施状況及び情報資産の管理状況</p> <p><b>【年度計画76】</b> 1.教職協働のために事務職員等に習得させるべき知識・技能等を明確化した上で、それらを習得させるためのSDを計画的に実施する。 ・アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答が98.8%となっており、内容について好評であった。 ・また、事務職員を対象としてSDとして、第31回事務職員研修会を令和4年9月9日(金)にZoomにて開催し100%の参加率であった。研修会は、医療情報学科の今泉教授による「学修者本位の学びを実現するDX推進～魅力ある大学・選ばれる学科を目指して」他に副理事長から「事務組織変更の狙いと目的等について」の講話と「学生募集の現状と課題について」を入試広報部長から「学生支援及び就職支援に推進について」研修会を実施し事務職員の認識の共有を図った。</p>	<p>II</p> <p>・常勤教職員（約365名）に対して、11月より毎月2回（3月末時点で計10回）e-learningコンテンツをメール配信し継続的に情報セキュリティに関する啓発教育を行っている。約半年経過して、毎回約80～85%の教職員が閲覧並びに確認テストを実施しているが、24名の教職員が一度も閲覧していない。 なお、学生については費用面を考慮して実施していない。 ・7月にPC情報資産管理アプリを常勤教職員貸与PCを中心にインストールし、ソフトウェア資産管理を行っている。約390台の貸与PCに対し、253ベンダ・1190ソフトウェアが利用されており、定期的に監視を行っている。 なお、学生については費用面を考慮して実施していない。</p> <p>IV</p> <p>1.令和5年度の「東京医療保健大学を語る会」については、10月25日（水）に理事長講話及び学科発表（医療保健学部看護学科、東が丘看護学部看護学科）の内容で開催した。対面、Zoom及び後日オンデマンド配信で実施し、各参加数の合計は100%であった。アンケート結果としては、「大いに参考になった」「参考になった」の回答は合計98.0%で、好評の結果であった。 ・事務職員を対象としてSDとして、第32回事務職員研修会を令和5年9月21日に対面とZOOMのハイブリッドで開催、事務局の理事長講話、副理事長講話に加え、全部長から次年度の目標と課題を発表して大学全体の各部の現状の理解を深めた。これは事後視聴を含め全員参加であった。 ・また、第33回事務職員研修会を令和6年3月25日に実施し、全員ZOOM開催で、今年度から専攻が追加された「臨床検査技師」について広く学んだ。</p>		

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議
	評価区分		評価区分		評価区分			
<p>2. 事務職員等の適正な業績評価と処遇についての基準の設定について検討を行い、新たな人事評価制度を導入する。</p> <p>「評価指標」 ・新たな人事評価制度の導入状況</p> <p>【計画77】（総務人事部） 教職員のワーク・ライフ・バランス支援体制を充実し、職場DXを推進し、効率化を図りながら、教職員の勤務時間管理の適正化を図るとともに、休暇の取得しやすい環境を整備する。</p> <p>「計画達成のための方策」 ・各部署において、教職員のワーク・ライフ・バランス支援体制を充実し、職場でのDXを推進し、業務の効率化を図りながら、教職員の超過勤務時間の縮減を図るとともに、休暇の取得日数の増加を図る。</p> <p>「評価指標」 ・職場でのDXの推進状況、教職員の超過勤務時間の状況及び休暇の取得日数の状況</p> <p>【計画78】（総務人事部・企画部） コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対する、全学的なリスクマネジメントの取組を推進し、学生・教職員にとって安全・安心なキャンパス、職場環境及び教育研究環境を整備する。</p> <p>「計画達成のための方策」 コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対し、危機対策統括本部等において、適切に全学的なリスクマネジメントを行う。</p> <p>「評価指標」 ・危機対策統括本部等における全学的なリスクマネジメントの対応状況</p>	II	<p>2. 新たな人事制度の導入に向けては、令和4年度は現状把握を行うことから着手し、同時に人事評価制度を支えるシステムの情報収集を行った。</p> <p>III</p> <p>・助教以上の教員は、裁量労働制を導入しており、教務システムの導入や講義演習におけるDXの推進、必要に応じて在宅勤務の実施を許容などを通じて、業務の効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスの改善を支援している。 ・教職員休暇取得は、年間最低5日以上の有給休暇の取得を義務付けており、さらに計画的に取得し、年間付与日数をすべて消化する職員もいる。 ・職員の超過勤務の状況は、令和3年度が10,281時間、令和4年度が10,232時間と横ばいに推移。職員の業務効率化をスピードを上げて取り組んでまいりたい。</p>	III	<p>2. 事務職員等の適正な業績評価と処遇についての基準の設定について検討を行い、新たな人事評価制度を導入する。</p> <p>「評価指標」 ・新たな人事評価制度の導入状況</p> <p>【年度計画77】 ・各部署において、教職員のワーク・ライフ・バランス支援体制を充実し、職場でのDXを推進し、業務の効率化を図りながら、教職員の超過勤務時間の縮減を図るとともに、休暇の取得日数の増加を図る。</p> <p>「評価指標」 ・職場でのDXの推進状況、教職員の超過勤務時間の状況及び休暇の取得日数の状況</p> <p>【年度計画78】 コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々なリスクに対し、危機対策統括本部等において、適切に全学的なリスクマネジメントを行う。</p> <p>「評価指標」 ・危機対策統括本部等における全学的なリスクマネジメントの対応状況</p>	III	<p>2. 令和5年度は、導入すべき人事評価制度のスタディを進めるとともに、全事務職員との人事面談を行い現状把握を行った。 ・令和6年度には、人事考課制度の骨格をまとめ、順次導入に向けて準備を進める。</p> <p>III</p> <p>・教員は、引き続き裁量労働制を導入しており、教務システムの導入や講義演習におけるDXの推進、必要に応じて在宅勤務の実施を許容などを通じて、業務の効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスの改善を支援している。 ・教職員休暇取得は、年間最低5日以上の有給休暇の取得を義務付けており、年に何回も情直して取得を後押ししており概ね計画的に取得している。年間付与日数をすべて消化する職員もいる。 ・職員の超過勤務の状況は、令和4年度が10,232時間、令和5年度は12,007時間と、年間1,775時間の増加となった。このうちの83%に相当する1,481時間は、令和5年度から集計を始めた週40時間超の実績、後の年間300時間は、前年度比3%弱の増加となり、様々な理由で一部の職員に負荷がかかっている。</p>		
	IV	<p>IV</p> <p>・コロナウイルス感染症対策に適切に対応するため、「危機管理規程」に基づき設置されたCOVID-19対策本部において、全国、首都圏及び和歌山県の感染状況をデータに基づき分析した上で、「授業運営指針」「学生及び教職員における新型コロナウイルス感染症の対応指針」及び「遠隔授業だより」等に基づく学生・教職員の感染予防対策と情報発信を行ったところであり、本年度も大学内での集団感染の発生を抑えることができた。また、東京都によるコロナウイルス感染症モニタリング検査に協力し、都内各キャンパスにおいて計画的に8回実施するなど、学生・教職員の感染予防意識の醸成に努めたところである。</p>	IV	<p>IV</p> <p>・新型コロナウイルス感染症については、国の方針により、令和5年5月8日から感染症法上の分類がいわゆる「2類相当」から「5類感染症」に分類替えされたことを踏まえ、「危機管理規程」に基づき設置されたCOVID-19対策本部は解散し、今後はポストコロナを見据えた大学運営を行う上で、パンデミックを始めとする健康危機管理に対応できる即応体制を構築するため、「東京医療保健大学学則」の一部改正と併せ「東京医療保健大学保健センター規程」を制定した上で、学校保健担当者を構成員とする全学センターとなる「保健センター」を令和5年5月10日付で新たに設置したところである。</p>				

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p><b>【計画79】（総務人事部）</b> 学生・教職員の健康を維持するため、生活習慣病対策、メンタルヘルスケア意識の向上のための取組を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 生活習慣病対策、ストレスチェック制度を利用したメンタルヘルス予防対策に取り組む。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・生活習慣病対策、メンタルヘルス予防対策の取組状況</p>	IV	<p>・毎年9月の第2週に全教職員を対象にストレスチェックを実施している。分析結果について、全学衛生委員会で問題点の共有を図り各学部及び事務局内においても衛生委員からの情報共有を行っている。その分析結果を受けて特にハラスメントから来るメンタルヘルスの予防対策について、ハラスメント防止研修会を開催した。開催日は参加しやすい様に令和5年3月23、24日の2日間を設け、オンデマンド視聴も整え全員参加できる体制で実施した。また、研修会の内容については、大学で発生している具体的な事例等を基に研修を行い理解を深めて貰うように計画したもので、アンケート結果は、理解できた、実践したい内容があった、がそれぞれ85%程度となった。</p>	<p><b>【年度計画79】</b> 生活習慣病対策、ストレスチェック制度を利用したメンタルヘルス予防対策に取り組む。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・生活習慣病対策、メンタルヘルス予防対策の取組状況</p>	IV	<p>・毎年9月の第2週に全教職員を対象にストレスチェックを実施している。分析結果について、全学衛生委員会で問題点の共有を図り各学部及び事務局内においても衛生委員からの情報共有を行っている。</p> <p>・その分析結果を受けて特にハラスメントから来るメンタルヘルスの予防対策について、ハラスメント防止研修会を開催した。開催日は参加しやすい様に令和6年3月6、11日の2日間を設け、オンデマンド視聴も整え全員参加できる体制で実施した。アンケート結果は、テーマ、講師の満足度が高いが71-75%、よく理解できたは80%、実践したい内容があったは90%程度となった。</p>				
		<p><b>【計画80】（総務人事部）</b> 学生・教職員に対するパワーハラスメント、アカデミックハラスメント、セクシュアルハラスメント、その他ハラスメントのないキャンパスを目指して、研修・講演会等の取組を推進する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> ハラスメントのないキャンパスを目指し、ハラスメントに関する研修・講演会等の実施により、学生・教職員の意識啓発を行う。また、相談しやすい相談窓口の体制整備を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ハラスメントに関する研修・講演会等の実施状況及びハラスメント事例の対応状況</p>	III		<p>・ハラスメント相談窓口は、メール相談、申出ができるようにメールアドレスを公表して相談しやすい体制としている。</p> <p>また、令和5年度からは、外部サービスを利用することで、24時間365日対応の電話相談「からだこころの相談窓口」を学生とその保護者が無料で使えるように手配をした。</p> <p>・ハラスメント防止研修は【年度計画79】に記載済</p> <p>・ハラスメント事例として申し出があったものは、相談員が事情を伺い、必要に応じて調査委員会の設営等を行っている。</p>				<p><b>【年度計画80】</b> ハラスメントのないキャンパスを目指し、ハラスメントに関する研修・講演会等の実施により、学生・教職員の意識啓発を行う。また、相談しやすい相談窓口の体制整備を図る。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・ハラスメントに関する研修・講演会等の実施状況及びハラスメント事例の対応状況</p>

第3期中期計画	評価区分	令和4年度実績	令和5年度計画	評価区分	令和5年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
<p>(2)「財務」 【計画81】(経理財務部、入試広報部) 入学定員を充足し、学納金収入等の安定的な確保を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係強化を図るとともに、イベント運営方法を見直し、紹介パンフレットやHP等の刷新による情報発信強化及び地域性を重視した高校訪問活動の強化を図る。</p> <p>「評価指標」 ・全学部・全学科の定員確保状況</p> <p>【計画82】(経理財務部) 私立大学等改革総合支援事業補助金等の獲得増に向け、大学のシーズを育てる等工夫をする。</p> <p>「計画達成のための方策」 毎年提示される各選定項目の詳細検証と精査を行い、部長会等上部会議体を通じた各部連携により、全学一丸となった取組みを強化する。</p> <p>「評価指標」 ・タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」の申請と支援対象校としての確実な選定状況</p>	III	<p>・高校訪問において進路探究を目的とした出張講義の提案とその実施に注力した。結果、出張講義依頼数も増加し、高大連携関係は質量共に強化された。</p> <p>・イベントについては、各キャンパスで対面型の実施を基本とし、体験型授業や入試個別相談、在校生・卒業生との対話の機会を増やすなど内容の充実を図った。</p> <p>・更に医療情報学科と医療栄養学科では、新たな動画の作成と配信、特設サイトやランディングページの運用SNSでの情報発信を強化し、募集活動に力を入れた。</p> <p>・しかしながら、両学科については、定員の充足に至らず、学納金収入の安定的確保に影響を与える結果となった。</p>	<p>【年度計画81】 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係強化を図るとともに、イベント運営方法を見直し、紹介パンフレットやHP等の刷新による情報発信強化及び地域性を重視した高校訪問活動の強化を図る。</p> <p>「評価指標」 ・全学部・全学科の定員確保状況</p>	II	<p>・高校訪問活動を通じて、各高校の進路指導のニーズに合わせた出張講義の提案とその実施に力を入れた。結果的に、新規での依頼数も増加し、学生募集活動における高大連携関係は、確実に強化維持された。オープンキャンパス等については、各キャンパスを主体として、体験授業や入試個別相談、在校生・卒業生との対話など、具体的な学びからキャンパスライフ、そして卒業後のキャリア形成までをイメージできる内容の充実に努めた。医療情報学科では、特設サイト上に「教員紹介」ページを新設し、その学びを各教員の研究を通じてイメージできるよう工夫した。また、医療栄養学科では、新たな動画の作成と教員主導でSNSによる情報発信を強化した。さらに学科内に臨床検査学専攻を新設し、従来の管理栄養士の養成と共に、臨床検査技師の養成を始めることとした。結果として、医療情報学科と医療栄養学科については、定員の充足に至らず、特に医療情報学科では、昨年を上回る減数となり、学納金収入の安定的確保に大きな影響を与える結果となった。医療情報学科については、定員充足に向けて、令和8年4月に学科の改組を構想・計画している。</p>				
		<p>IV</p> <p>・令和4年度に関しても、文部科学省からの補助金である、タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」へ申請したところ、選定基準ライン69点に対し、本学は75点を獲得した。全体選定率が19%と厳しい環境下、全学一丸となった取組みで無事選定されたところである。</p> <p>「評価指標」 ・1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」の申請と支援対象校としての確実な選定状況</p>	<p>【年度計画82】 毎年提示される各選定項目の詳細検証と精査を行い、部長会等上部会議体を通じた各部連携により、全学一丸となった取組みを強化する。</p> <p>「評価指標」 ・タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色のある教育の展開」の申請と支援対象校としての確実な選定状況</p>		I				

第3期中期計画	令和4年度実績		令和5年度計画		令和5年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
	評価区分		評価区分		評価区分		評価区分		評価区分	
<p><b>【計画83】（経理財務部）</b> 教育研究遂行上必要経費は適切に措置するとともに、管理経費等の内容を精査し節減を図る。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 稟議・経費申請内容の詳細チェックを行い、経費措置・経費利用に関し全体への啓発を実践し、経費の質を追求する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・経費に係る各財務比率の推移検証（目途値達成）</p> <p><b>【計画84】（経理財務部）</b> 財務内容の精緻な検証と厳格な監査実施、それらに基づく対外公表を実施する。</p> <p><b>「計画達成のための方策」</b> 財務比率指標に基づき、毎年度検証を実施するとともに、監査法人及び監事監査の定期実施を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・財務諸表の公開 ・監査報告書の公表</p>	IV	<p>・経費に係る各財務比率（R4年度決算着地見込ベース）については、人件費率上限目途60%に対して51.5%、教育研究比率目途30%超に対して34.5%、管理経費比率上限目途10%に対して7.5%と、何れも目途値をクリアしたところである。</p>	IV	<p><b>【年度計画83】</b> 稟議・経費申請内容の詳細チェックを行い、経費措置・経費利用に関し全体への啓発を実践し、経費の質を追求する。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・経費に係る各財務比率の推移検証（目途値達成） ・人件費率上限60% ・教育研究比率30%超 ・管理経費比率上限10%</p>	IV	<p>・経費に係る各財務比率（R5年度決算着地見込ベース）については、人件費率上限目途60%に対して57.1%、教育研究比率目途30%超に対して38.4%、管理経費比率上限目途10%に対して7.4%と、何れも目途値をクリアしたところである。</p>				
	IV	<p>・定例の監査法人及び監事による監査を実施済である。 ・令和3年度決算については、監査終了後、財務諸表並びに監査報告書をHPにて公表した。また、決算値から財務比率指標に基づいた検証を実施し、大学経営会議（令和4年7月14日開催）及び理事会・評議員会（令和4年11月9日）において審議の上、承認された。</p>	IV	<p><b>【年度計画84】</b> 財務比率指標に基づき、毎年度検証を実施するとともに、監査法人及び監事監査の定期実施を行う。</p> <p><b>「評価指標」</b> ・財務諸表の公開 ・監査報告書の公表</p>	IV	<p>・定例の監査法人及び監事による監査を実施済である。 ・令和4年度決算については、監査終了後、財務諸表並びに監査報告書をHPにて公表した。また、決算値から財務比率指標に基づいた検証を実施し、大学経営会議（令和5年7月12日開催）及び理事会・評議員会（令和5年11月8日）において審議の上、承認された。</p>				